

BEI SAN
米 山 遺 跡

県営農免農道整備事業馬山3期に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

縄文時代集落・弥生時代土坑群の調査

2010

群馬県高崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

米山三葉師として知られる米山寺というお寺が下仁田町にあります。その米山寺に隣接する地点に農免農道が整備されることになりました。この地点は鑄川右岸の段丘上の平坦面で、かねてより縄文時代の遺跡として知られており、関係各機関との調整を行った結果、発掘調査を行って埋蔵文化財の記録を残すこととなりました。

発掘調査は平成19年度に実施され、縄文時代前期から中期にかけての住居や土坑が検出され、土器や石器が多く出土しました。また、弥生時代中期前半の土坑もみつかりました。調査面積はわずかでしたが、段丘上に広がる縄文時代の集落の一端や、弥生時代の人々の生活の跡を明らかにすることができました。

発掘調査を実施するにあたり、多大なご理解とご協力をいただいた高崎土木事務所、下仁田町教育委員会、地元の方々に心より感謝の意を表します。本報告書が、地域の歴史解明のため多くの人々によって利用されることを願い、序といたします。

平成22年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄一

例 言

1. 本書は県営農免農道整備事業馬山3期に伴う米山遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 米山遺跡は、群馬県甘楽郡下仁田町大字馬山竹ノ上3740番地他に所在する。
3. 発掘調査は、群馬県西部県民局高崎土木事務所の委託を受けて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査時の組織体制は次の通りである。

期 間 平成20年2月1日～平成20年3月31日

管理指導 高橋勇夫(理事長)、木村裕紀・津金澤吉茂(常務理事)、飯島義雄(調査研究部長)、原 雅信(調査研究GL)、笠原秀樹(総務GL)、佐嶋芳明(経理GL)

事務担当 須田朋子(係長(総括))、斉藤恵利子(主幹(総括))、柳岡良宏(主幹)、矢島一美(副主幹)、齋藤陽子(主任)

今井もと子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典(補助員)

調査担当 唐澤至朗(主席専門員)、坂口 一(主任専門員(総括))

4. 発掘資料の整理および報告書の作成は、群馬県西部県民局高崎土木事務所の委託を受けて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書作成の期間・体制は次の通りである。

期 間 履行期間 平成21年9月1日～平成22年3月31日

整理期間 平成21年9月1日～平成22年1月31日

管理指導 高橋勇夫・須田栄一(理事長)、木村裕紀(常務理事)、相京建史(事業局長)、笠原秀樹(総務部長)、飯島義雄(調査研究部長)、石坂 茂(資料整理部長)、大木紳一郎(資料整理第2GL)、佐嶋芳明(経理GL)

事務担当 須田朋子(係長(総括))、柳岡良宏(主幹(総括))、田口小百合・矢島一美(主幹)、高橋次代(主任)、今井もと子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・武藤秀典(補助員)

編 集 小島敦子(主席専門員)

本文執筆 小島敦子(第1章～第4章1・4)、山口逸弘(第4章2)、岩崎泰一(第4章3)

遺構写真 唐澤至朗、坂口 一

遺物写真 佐藤元彦(係長(総括))

遺物観察 土器：山口逸弘(主任専門員(総括))、陶磁器：大西雅広(主任専門員(総括))、石器：岩崎泰一(主任専門員(総括))

保存処理 関 邦一(係長総括)、津久井桂一・多田ひさ子・増田政子(補助員)

器械実測 田所順子・木原幸子・岸 弘子・福島瑞穂(補助員)

デジタル編集指導 齊田智彦(主任調査研究員)

デジタル写真図版作成

牧野裕美・市田武子・酒井史恵・安藤美奈子・廣津真希子・須藤絵美・矢端真観・高梨由美子・横塚由香・下川陽子

委託業務 遺構平面測量：技研測量設計株式会社

火山灰分析：株式会社 火山灰考古学研究所

5. 石材同定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
6. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言を得た。記して感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

群馬県教育委員会、下仁田町教育委員会、大河原順次郎、須貝俊彦、東京大学大学院新領域創成科学研究科、米山寺、大木紳一郎、綿貫邦男、神谷佳明

7. 記録資料・出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 米山遺跡の遺構測量は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。
2. 本書における遺構番号は、調査時のものをそのまま使用した。基本的には区ごとの通し番号である。
3. 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を使用している。
4. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。遺物図は基本を1:3とし、縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。



遺構図 1 a・1 b号住居1:40 その他の住居1:60 住居炉1:30 土坑1:40 溝1:80

遺物図 土器1:4 土器拓影1:3 石器・石製品1:3、1:2 大形石器1:6

小形石器1:1

5. 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
6. 図中で使用したマークは以下のことを表す。

遺構図 土器● 石器■ 攪乱 

遺物図 繊維包含縄文土器  石器磨り面 

7. 遺物写真図版の倍率は、土器は原則として1/4、石器のうち礫・剥片石器は大きさに応じて1/3あるいは1/2、石鏃等の小型のものは1/1に近づけるようにした。
8. 遺物の重量の計測にあたっては6000gまでは1g単位、20kgまでは50g単位、20kg以上は100g単位の秤を使用して計測した。
9. 各地図の使用は以下のとおりである。
第1図 国土地理院発行、20万分の1地勢図「長野」「宇都宮」
第2図・第6図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「下仁田」
第3図 下仁田町都市計画図、5千分の1
第7図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「下仁田」「松井田」

10. 各遺構の記述にあたっては以下のような点に留意して記述した。

住居 位置は、その遺構が含まれるグリッドをすべて記載した。形状は方形・円形に分類して記載した。規模は遺構確認面での上場で計測した。方位は長軸方向を計測した。重複は、重複する遺構とその新旧関係を述べた。埋没土は全体的傾向や特徴的な土塊・土粒について記述した。炉はそれぞれの位置と規模を記載し、遺存状態を述べた。周溝・柱穴等の住居施設については、検出された位置・規模・遺存状態を記述した。遺物は、住居全体の遺物の出土状態と特徴的な遺物について記述した。所見では各住居の調査から考えられることがらがあれば記述した。また出土遺物・重複関係等から、遺構の時期を土器型式名で表記した。

その他の遺構 土坑・溝等については、住居に準じて記述した。

11. 参考・引用文献は、第4章末に一括して掲載した。周辺遺跡一覧表(第1表)の文献Noもこれに一致する。

目 次

序

例言

凡例

第1章 調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯・・・・・・・・・・ 1
2. 発掘調査の方法・・・・・・・・・・ 4
 - (1)遺跡・調査区・測量座標の設定・・・・ 4
 - (2)基本土層・・・・・・・・・・ 4
 - (3)遺構確認と遺構調査・・・・・・・・ 6
 - (4)発掘調査の記録・・・・・・・・・・ 7
3. 発掘調査の経過・・・・・・・・・・ 7
4. 整理作業の経過と方法・・・・・・・・ 8

第2章 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置と地形・・・・・・・・・・ 9
2. 周辺の遺跡分布・・・・・・・・・・ 10

第3章 検出された遺構と遺物

1. 概要・・・・・・・・・・ 13
2. A区の遺構と遺物・・・・・・・・・・ 17
 - (1)土坑・・・・・・・・・・ 17
 - (2)ピット・・・・・・・・・・ 23
3. B区の遺構と遺物
 - (1)竪穴住居・・・・・・・・・・ 25
 - (2)土坑・・・・・・・・・・ 25
 - (3)旧石器・・・・・・・・・・ 25
4. C区の遺構と遺物
 - (1)竪穴住居・・・・・・・・・・ 27
 - (2)土坑・・・・・・・・・・ 47
 - (3)ピット・・・・・・・・・・ 47
 - (4)溝・・・・・・・・・・ 47

5. D区の遺構と遺物・・・・・・・・・・ 51
 - (1)竪穴住居・・・・・・・・・・ 51
 - (2)土坑・・・・・・・・・・ 54
6. E区の遺構と遺物
 - (1)竪穴住居・・・・・・・・・・ 65
 - (2)土坑・・・・・・・・・・ 68
 - (3)溝・・・・・・・・・・ 80
7. 遺構外の出土遺物・・・・・・・・・・ 84

第4章 調査の成果

1. 米山遺跡の遺構分布について・・・・・・・・ 87
2. 米山遺跡の縄文土器について・・・・・・・・ 89
3. 米山遺跡の石器について・・・・・・・・ 90
4. 米山遺跡の弥生時代土坑について・・・・ 92

参考文献・・・・・・・・・・ 94

第5章 自然科学的分析報告

1. 米山遺跡の火山灰分析・・・・・・・・・・ 95

遺構一覧・遺物観察表・・・・・・・・・・ 98

報告書抄録・・・・・・・・・・ 120

写真図版

挿図目次

第 1 図	群馬県の地勢と米山遺跡	1
第 2 図	米山遺跡の位置	2
第 3 図	米山遺跡の発掘区	3
第 4 図	米山遺跡の調査区と座標	5
第 5 図	米山遺跡の基本土層	6
第 6 図	米山遺跡周辺の地形面区分	9
第 7 図	米山遺跡周辺の遺跡分布	11
第 8 図	A～C区全体図	14
第 9 図	D区全体図	15
第 10 図	E区全体図	16
第 11 図	A区土坑(1)	18
第 12 図	A区土坑(2)	19
第 13 図	A区土坑出土遺物(1)	20
第 14 図	A区土坑出土遺物(2)	21
第 15 図	A区土坑出土遺物(3)	22
第 16 図	A区ピットと出土遺物	24
第 17 図	B区1号住居と出土遺物	25
第 18 図	B区出土の旧石器	25
第 19 図	B区土坑と出土遺物	26
第 20 図	C区1 a・1 b号住居(1)	28
第 21 図	C区1 a・1 b号住居(2)	29
第 22 図	C区1 a号住居出土遺物(1)	30
第 23 図	C区1 a号住居出土遺物(2)	31
第 24 図	C区1 a号住居出土遺物(3)	32
第 25 図	C区1 a号住居出土遺物(4)	33
第 26 図	C区1 a号住居出土遺物(5)	34
第 27 図	C区1 a号住居出土遺物(6)	35
第 28 図	C区1 a号住居出土遺物(7)	36
第 29 図	C区1 a号住居出土遺物(8) ・1 b号住居出土遺物(1)	37
第 30 図	C区2号住居(1)	39
第 31 図	C区2号住居(2)	40
第 32 図	C区2号住居出土遺物	41
第 33 図	C区3号住居と出土遺物	42
第 34 図	C区4号住居	43
第 35 図	C区4号住居出土遺物	44
第 36 図	C区5号住居	45
第 37 図	C区5号住居出土遺物	46
第 38 図	C区土坑	48
第 39 図	C区土坑出土遺物(1)	49
第 40 図	C区土坑・ピット・1号溝と出土遺物	50
第 41 図	D区1号住居と出土遺物	51
第 42 図	D区2号住居	52
第 43 図	D区2号住居出土遺物	53
第 44 図	D区3号住居と出土遺物	55
第 45 図	D区土坑(1)	56
第 46 図	D区土坑(2)	57
第 47 図	D区土坑(3)	58
第 48 図	D区土坑出土遺物(1)	59
第 49 図	D区土坑出土遺物(2)	60
第 50 図	D区土坑出土遺物(3)	61
第 51 図	D区土坑出土遺物(4)	62
第 52 図	D区土坑出土遺物(5)	63
第 53 図	E区1号・2号住居	66
第 54 図	E区1号・2号住居出土遺物	67
第 55 図	E区土坑(1)	69
第 56 図	E区土坑(2)	71
第 57 図	E区土坑(3)	72
第 58 図	E区土坑(4)と出土遺物(1)	73
第 59 図	E区土坑出土遺物(2)	74
第 60 図	E区土坑出土遺物(3)	75
第 61 図	E区土坑出土遺物(4)	76
第 62 図	E区土坑出土遺物(5)	77
第 63 図	E区土坑出土遺物(6)	78
第 64 図	E区1号溝	80
第 65 図	E区2号溝	81
第 66 図	E区3号溝	82
第 67 図	E区4号溝と出土遺物	83
第 68 図	E区遺構外出土土器	84

第 69 図	A・C・D区遺構外出土土器	85
第 70 図	A～E区遺構外出土土器	86
第 71 図	米山遺跡の時期別遺構分布	88
第 72 図	米山遺跡の弥生時代土坑	93

第 5 章

図 1	深掘りトレンチの土層柱状図	97
-----	---------------	----

表目次

第 1 表	周辺遺跡一覧表	10
第 2 表	米山遺跡の住居出土土器の器種と石材	91
第 3 表	米山遺跡の土坑出土土器の器種と石材	91
第 4 表	米山遺跡遺構一覧表	98
第 5 表	米山遺跡出土遺物一覧表	99
第 6 表	竪穴住居柱穴計測表	102
第 7 表	米山遺跡土器属性表	102
第 8 表	米山遺跡石器類一覧表	111
第 9 表	米山遺跡陶磁器観察表	119
第 10 表	米山遺跡金属製品観察表	119

第 5 章

表 1	テフラ検出分析結果	97
-----	-----------	----

写真図版目次

PL. 1	1 . 米山遺跡のある鑛川右岸段丘(北西から)
	2 . 米山遺跡のある段丘遠景(北西から)
PL. 2	1 . 米山遺跡のある段丘全景(南西から)
	2 . 米山遺跡のある段丘全景(北東から)
	3 . 段丘下から見上げた米山寺(東から)
	4 . 米山遺跡のある段丘西端(北東から)
	5 . A区全景(北東から)
	6 . A区旧石器試掘トレンチ全景(南西から)
PL. 3	1 . A区1号土坑土層断面(南東から)
	2 . A区1号土坑全景(北西から)
	3 . A区2号土坑土層断面(南東から)
	4 . A区2号土坑全景(北西から)
	5 . A区3号土坑土層断面(南東から)
	6 . A区3号土坑全景(南東から)
	7 . A区4号土坑土層断面(南東から)
	8 . A区4号土坑全景(南東から)
	9 . A区5号土坑土層断面(南東から)
	10 . A区5号土坑全景(南東から)
	11 . A区6号土坑土層断面(南東から)
	12 . A区6号土坑全景(南東から)
	13 . A区7号土坑土層断面(南東から)
	14 . A区7号土坑全景(北西から)
	15 . A区11号土坑土層断面(南東から)
PL. 4	1 . A区11号土坑全景(南東から)
	2 . A区12号土坑土層断面(南東から)
	3 . A区12号土坑全景(北西から)
	4 . A区13号土坑土層断面(東から)
	5 . A区13号土坑全景(東から)
	6 . A区14号土坑土層断面(南東から)
	7 . A区14号土坑全景(南東から)
	8 . A区15号土坑土層断面(南東から)
	9 . A区15号土坑全景(南東から)
	10 . A区17号土坑土層断面(南東から)
	11 . A区17号土坑全景(南から)
	12 . A区19号土坑土層断面(南東から)
	13 . A区20号土坑土層断面(南東から)
	14 . A区20号土坑・1号ピット全景(南東から)
	15 . A区21号土坑土層断面(北西から)
PL. 5	1 . A区21号土坑全景(北西から)

- 2. A区22号土坑土層断面(南東から)
- 3. A区22号土坑全景(南から)
- 4. A区25号土坑土層断面(北西から)
- 5. A区25号土坑全景(北西から)
- 6. A区29号土坑土層断面(南東から)
- 7. A区30号土坑土層断面(南東から)
- 8. A区30号土坑全景(南から)
- 9. A区2号ピット土層断面(南東から)
- 10. A区3号ピット土層断面(南東から)
- 11. A区4号ピット土層断面(南東から)
- 12. A区5号ピット土層断面(南東から)
- 13. A区6号ピット土層断面(南東から)
- 14. A区7号ピット土層断面(南東から)
- 15. A区8号ピット土層断面(南東から)
- PL. 6 1. A区9号ピット土層断面(南東から)
- 2. A区10号ピット土層断面(南東から)
- 3. A区11号ピット土層断面(南東から)
- 4. A区11号ピット全景(南東から)
- 5. A区12号ピット土層断面(南東から)
- 6. A区13号ピット土層断面(南東から)
- 7. A区13号ピット全景(南東から)
- 8. A区14号ピット土層断面(南東から)
- 9. A区14号ピット全景(南東から)
- 10. A区ローム層の観察記載
- 11. A区旧石器試掘調査風景(南西から)
- 12. A区旧石器試掘1トレンチ土層断面(南東から)
- 13. A区旧石器試掘2トレンチ土層断面(南東から)
- 14. A区旧石器試掘3トレンチ土層断面(南東から)
- 15. A区旧石器試掘1トレンチ土層断面(南東から)
- PL. 7 1. B-1区全景(北東から)
- 2. B-2区全景(北東から)
- 3. B-1区1号住居土層断面(北西から)
- 4. B-1区1号住居全景(西から)
- 5. B-1区2号土坑土層断面(南東から)
- 6. B-1区2号土坑全景(南東から)
- 7. B-1区3号土坑土層断面(南東から)
- 8. B-1区3号土坑全景(南東から)
- PL. 8 1. B-2区4号土坑土層断面(南東から)
- 2. B-2区4号土坑全景(南東から)
- 3. B-2区5号土坑土層断面(南東から)
- 4. B-1区旧石器試掘トレンチ全景(南西から)
- 5. B-1区旧石器6号トレンチ遺物出土状況(南から)
- 6. B-1区旧石器6号トレンチ遺物出土状況(南から)
- 7. B-1区旧石器6号トレンチ土層断面(南から)
- 8. B-1区旧石器7号トレンチ土層断面(南から)
- PL. 9 1. C区全景(南東から)
- 2. C区全景(北東から)
- 3. C区全景(北東から)
- 4. C区遺構検出作業状況(西から)
- 5. C区遺構掘り下げ作業状況(南西から)
- 6. C区1a・b号住居土層断面(東から)
- 7. C区1a・b号住居全景(北東から)
- PL. 10 1. C区1a号住居床面遺物出土状況(北から)
- 2. C区1a号住居中央部遺物出土状況(北から)
- 3. C区1b号住居床面全景(北東から)
- 4. C区1b号住居遺物出土状況(南から)
- 5. C区1b号住居遺物出土状況(南から)
- 6. C区1a号住居柱穴検出状況(南から)
- 7. C区1b号住居柱穴検出状況(北東から)
- 8. C区1b号住居柱穴検出状況(北東から)
- PL. 11 1. C区2号住居土層断面(北東から)
- 2. C区2号住居床面全景(北東から)
- 3. C区2号住居遺物出土状況(北から)
- 4. C区2号住居遺物出土状況(北から)
- 5. C区2号住居床面遺物出土状況(北東から)
- 6. C区2号住居遺物出土状況(南から)
- 7. C区2号住居炉検出状況(北東から)
- 8. C区2号住居炉土層断面(北東から)
- PL. 12 1. C区2号住居炉全景(北東から)
- 2. C区2号住居炉掘り方全景(北東から)
- 3. C区2号住居全景(北東から)
- 4. C区2号住居全景(南東から)
- 5. C区3号住居土層断面(北東から)
- 6. C区3号住居炉土層断面(北西から)
- 7. C区3号住居炉土層断面(北西から)
- 8. C区3号住居炉全景(南西から)
- PL. 13 1. C区4号住居土層断面(南東から)
- 2. C区4号住居全景(北東から)
- 3. C区4号住居炉検出状況(北東から)
- 4. C区4号住居炉土層断面(北東から)
- 5. C区4号住居炉全景(北東から)
- 6. C区4号住居遺物出土状況(北東から)
- 7. C区5号住居土層断面(南東から)
- 8. C区5号住居全景(北東から)
- PL. 14 1. C区1号土坑土層断面(北東から)
- 2. C区1号土坑全景(北東から)
- 3. C区2号土坑土層断面(南から)
- 4. C区2号土坑全景(西から)
- 5. C区3号土坑土層断面(南から)
- 6. C区3号土坑遺物出土状況(北から)
- 7. C区3号土坑全景(南から)
- 8. C区4号土坑土層断面(東から)
- 9. C区4号土坑全景(東から)
- 10. C区5号土坑土層断面(南東から)
- 11. C区5号土坑全景(南東から)
- 12. C区6号土坑土層断面(南東から)
- 13. C区6号土坑全景(東から)
- 14. C区7号土坑土層断面(南東から)
- 15. C区7号土坑全景(北西から)
- PL. 15 1. C区8号土坑土層断面(東から)
- 2. C区8号土坑全景(東から)
- 3. C区9号土坑土層断面(南東から)
- 4. C区9号土坑全景(南東から)
- 5. C区10号土坑土層断面(南西から)
- 6. C区10号土坑全景(南西から)
- 7. C区11号土坑全景(東から)
- 8. C区12号土坑土層断面(南西から)
- 9. C区12号土坑全景(北から)
- 10. C区13号土坑土層断面(南から)
- 11. C区13号土坑全景(南から)
- 12. C区14号土坑土層断面(北東から)
- 13. C区1号ピット全景(北西から)
- 14. C区旧石器試掘トレンチ全景(北東から)
- 15. C区旧石器試掘1トレンチ全景(北東から)
- PL. 16 1. D-1区全景(北東から)
- 2. D-1-1区全景(南西から)
- 3. D-1-2区全景(南西から)
- 4. D-1-3区全景(南西から)
- 5. D-2区全景(南西から)
- 6. D-2区全景(北東から)
- PL. 17 1. D-1-2区1号住居土層断面(南東から)
- 2. D-1-2区1号住居全景(東から)
- 3. D-1-2区2号住居土層断面(南から)
- 4. D-1-2区2号住居全景(東から)
- 5. D-1-2区2号住居遺物出土状況(東から)
- 6. D-1-2区3号住居土層断面(南東から)
- 7. D-2区3号住居全景(西から)
- 8. D-2区3号住居炉全景(西から)
- PL. 18 1. D区1号土坑土層断面(南東から)
- 2. D区1号土坑全景(南西から)
- 3. D区2号土坑土層断面(南東から)
- 4. D区2号土坑遺物出土状況全景(南東から)
- 5. D区2号土坑全景(南東から)
- 6. D区3号土坑土層断面(南西から)
- 7. D区3号土坑全景(南東から)
- 8. D区4号土坑土層断面(南東から)
- 9. D区4号土坑全景(南東から)
- 10. D区5号土坑土層断面(南東から)
- 11. D区5号土坑全景(南東から)
- 12. D区6号土坑土層断面(南東から)
- 13. D区6号土坑全景(南東から)
- 14. D区7号土坑土層断面(南東から)
- 15. D区7号土坑全景(南東から)

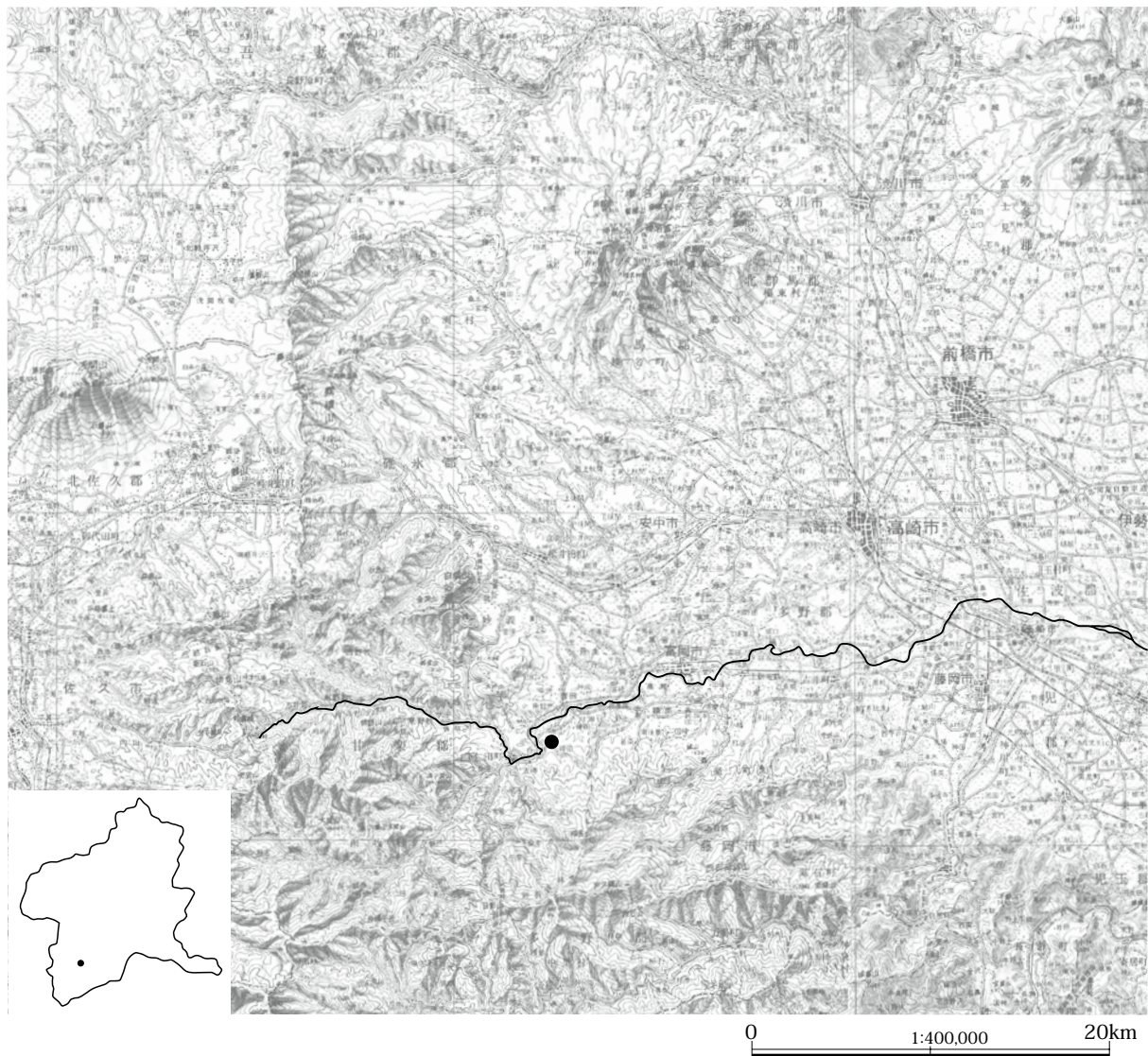
- PL.19 1. D区8号土坑土層断面(南東から)
2. D区9号土坑土層断面(南東から)
3. D区9号土坑全景(南東から)
4. D区10号土坑土層断面(南西から)
5. D区10号土坑全景(南東から)
6. D区11号土坑土層断面(南東から)
7. D区11号土坑全景(南東から)
8. D区12号土坑全景(南東から)
9. D区13号土坑土層断面(南東から)
10. D区13号土坑全景(東から)
11. D区14号土坑土層断面(東から)
12. D区14号土坑全景(東から)
13. D区15号土坑土層断面(南東から)
14. D区15号土坑全景(南東から)
15. D区16号土坑全景(南東から)
- PL.20 1. D区17号土坑土層断面(南東から)
2. D区17号土坑全景(南東から)
3. D区18号土坑土層断面(南西から)
4. D区18号土坑全景(南東から)
5. D区19号土坑土層断面(南東から)
6. D区19号土坑全景(南東から)
7. D区20号土坑土層断面(南東から)
8. D区20号土坑全景(南東から)
9. D区21号土坑全景(南東から)
10. D区22号土坑土層断面(北西から)
11. D区22号土坑全景(北西から)
12. D区23号土坑土層断面(西から)
13. D区23号土坑全景(南東から)
14. D区24号土坑土層断面(南東から)
15. D区24号土坑全景(南西から)
- PL.21 1. E-2-1区全景(南東から)
2. E-2-1区全景(南西から)
3. E-1-1区・2-2区全景(南から)
4. E-2-2区全景(南東から)
5. E-2-3区全景(南西から)
6. E-2-4区全景(南西から)
7. E-2-5区全景(南東から)
- PL.22 1. E-2-1区調査風景(南東から)
2. E-1-1区・2-2区調査風景(南から)
3. E-1-1区1号住居土層断面(南東から)
4. E-1-1区1号住居床面全景(南西から)
5. E-1-1区1号住居全景(南東から)
6. E-1-1区1号住居遺物出土状態(南東から)
7. E-2-1区2号住居全景(南から)
8. E-2-1区2号住居遺物出土状態(南東から)
- PL.23 1. E区1号土坑土層断面(南東から)
2. E区1号土坑全景(南東から)
3. E区2号土坑土層断面(南東から)
4. E区2号土坑全景(南東から)
5. E区3号土坑全景(南東から)
6. E区4号土坑土層断面(南東から)
7. E区4号土坑全景(南東から)
8. E区5号土坑土層断面(南東から)
9. E区5号土坑全景(南東から)
10. E区6号土坑土層断面(南東から)
11. E区6号土坑全景(南東から)
12. E区7号土坑土層断面(南東から)
13. E区7号土坑全景(南東から)
14. E区8号土坑土層断面(南東から)
15. E区8号土坑全景(南東から)
- PL.24 1. E区9号土坑土層断面(南東から)
2. E区9号土坑全景(南東から)
3. E区10号土坑土層断面(南東から)
4. E区10号土坑全景(南東から)
5. E区11号土坑土層断面(東から)
6. E区11号土坑全景(東から)
7. E区12号土坑土層断面(北西から)
8. E区12号土坑全景(南東から)
9. E区13号土坑土層断面(南東から)
10. E区13号土坑全景(南東から)
11. E区14号・15号土坑土層断面(南東から)
12. E区14号土坑全景(南東から)
13. E区15号土坑土層断面(南東から)
14. E区15号土坑全景(南東から)
15. E区16号土坑土層断面(南東から)
- PL.25 1. E区16号土坑全景(南東から)
2. E区16号土坑遺物出土状況(底面)
3. E区17号土坑全景(南東から)
4. E区18号・19号土坑土層断面(南東から)
5. E区20号土坑土層断面(南東から)
6. E区20号土坑全景(南東から)
7. E区22号土坑土層断面(北東から)
8. E区22号土坑全景(南東から)
9. E区23号土坑全景(南東から)
10. E区24号土坑全景(南東から)
11. E区25号土坑土層断面(東から)
12. E区25号土坑全景(東から)
13. E区26号土坑土層断面(南東から)
14. E区26号土坑全景(東から)
15. E区27号土坑土層断面(東から)
- PL.26 1. E区27号土坑全景(東から)
2. E区28号土坑全景(南東から)
3. E区29号土坑土層断面(南東から)
4. E区29号土坑全景(南西から)
5. E区30号土坑土層断面(南東から)
6. E区30号土坑全景(南東から)
7. E区31号土坑土層断面(南西から)
8. E区31号土坑全景(南西から)
9. E区32号土坑土層断面(南東から)
10. E区32号土坑全景(南西から)
11. E区33号土坑土層断面(南西から)
12. E区33号土坑全景(南西から)
13. E区34号土坑土層断面(南西から)
14. E区34号土坑全景(南西から)
15. E区35号土坑土層断面(南東から)
- PL.27 1. E区35号土坑全景(南西から)
2. E区36号土坑土層断面(南東から)
3. E区36号土坑全景(南西から)
4. E区38号土坑土層断面(南東から)
5. E区38号土坑全景(南西から)
6. E区39号土坑土層断面(南東から)
7. E区39号土坑全景(南東から)
8. E区40号土坑土層断面(南東から)
9. E区40号土坑全景(南東から)
10. E区41号土坑土層断面(南東から)
11. E区41号土坑全景(南東から)
12. E区42号土坑土層断面(南東から)
13. E区42号土坑遺物出土状態全景(南東から)
14. E区42号土坑遺物出土状態(南東から)
15. E区42号土坑全景(南東から)
- PL.28 1. E区1号溝土層断面(南東から)
2. E区2号溝土層断面(南東から)
3. E区2号溝全景(南東から)
4. E区3号溝土層断面(南東から)
5. E区4号溝土層断面(南東から)
6. 埋め戻し作業
7. 埋め戻し完了状況
- PL.29 A区の出土遺物
PL.30 A区・B区の出土遺物
PL.31 C区の出土遺物
PL.32 C区の出土遺物
PL.33 C区の出土遺物
PL.34 C区の出土遺物
PL.35 C区の出土遺物
PL.36 C区の出土遺物
PL.37 C区・D区の出土遺物
PL.38 D区の出土遺物
PL.39 D区の出土遺物
PL.40 D区の出土遺物
PL.41 E区の出土遺物
PL.42 E区の出土遺物
PL.43 E区の出土遺物
PL.44 遺構外の出土遺物

第1章 調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯

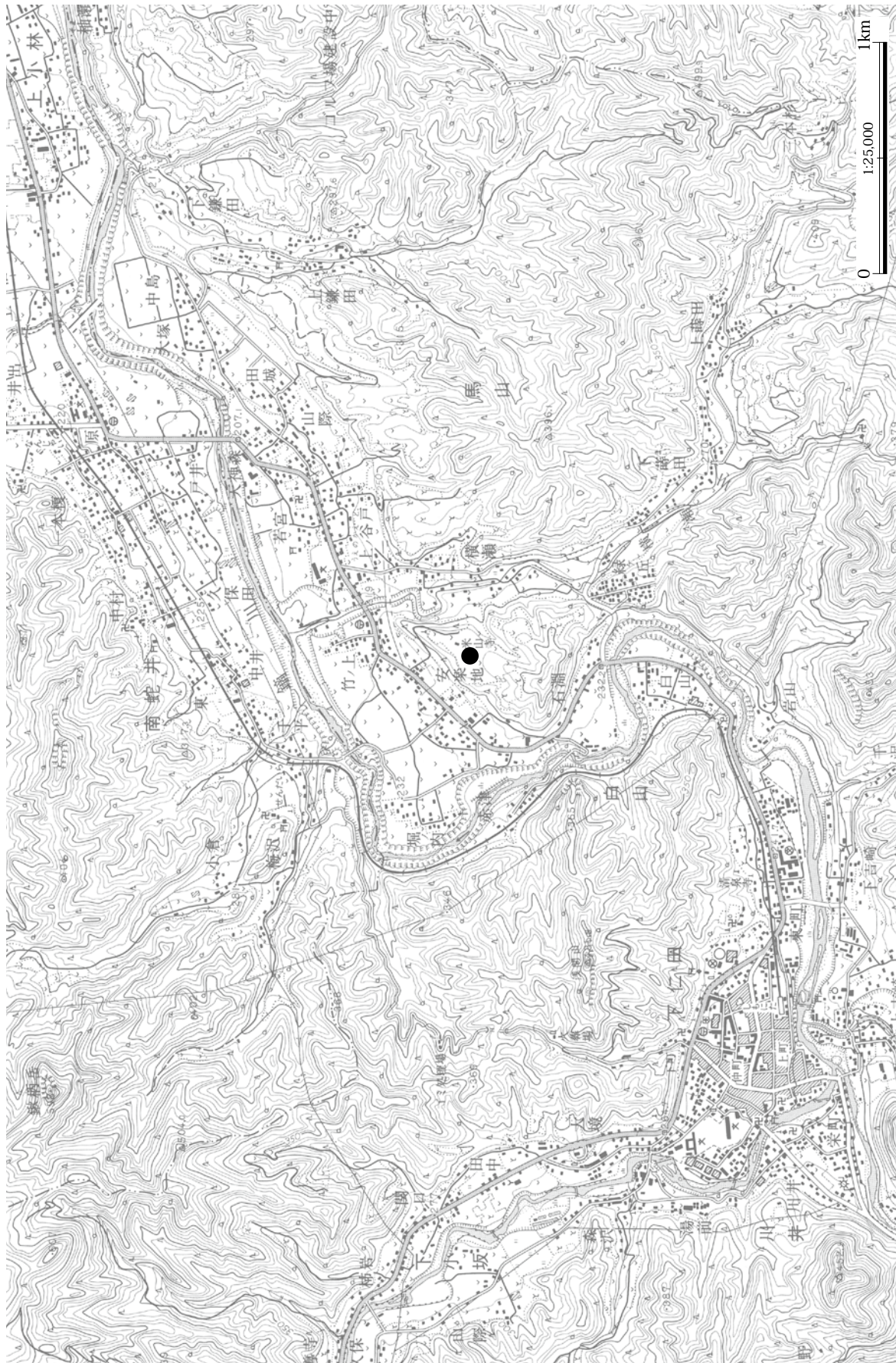
米山遺跡は、甘楽郡下仁田町の北東部、鎚川右岸の上位段丘上に立地する。標高は280mである。本遺跡の南西約2kmには上信電鉄下仁田駅が、北北西約1kmには千平駅が所在する。本遺跡は県営農免農道整備事業馬山3期に伴って平成20年に発掘調査された。

馬山地区では平成16年度から、県営農免農道整備事業3期が行われているが、平成19年度の事業予定地について、平成19年10月30日付けで県西部県民局高崎土木事務所から依頼を受けて、県教育委員会文化課が埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。試掘・確認調査は、平成19年11月14日・15日に、事業対象面積約1000㎡に対して、幅1mの試掘トレンチ10ヶ所が設定されてのべ81㎡にわたって実施され



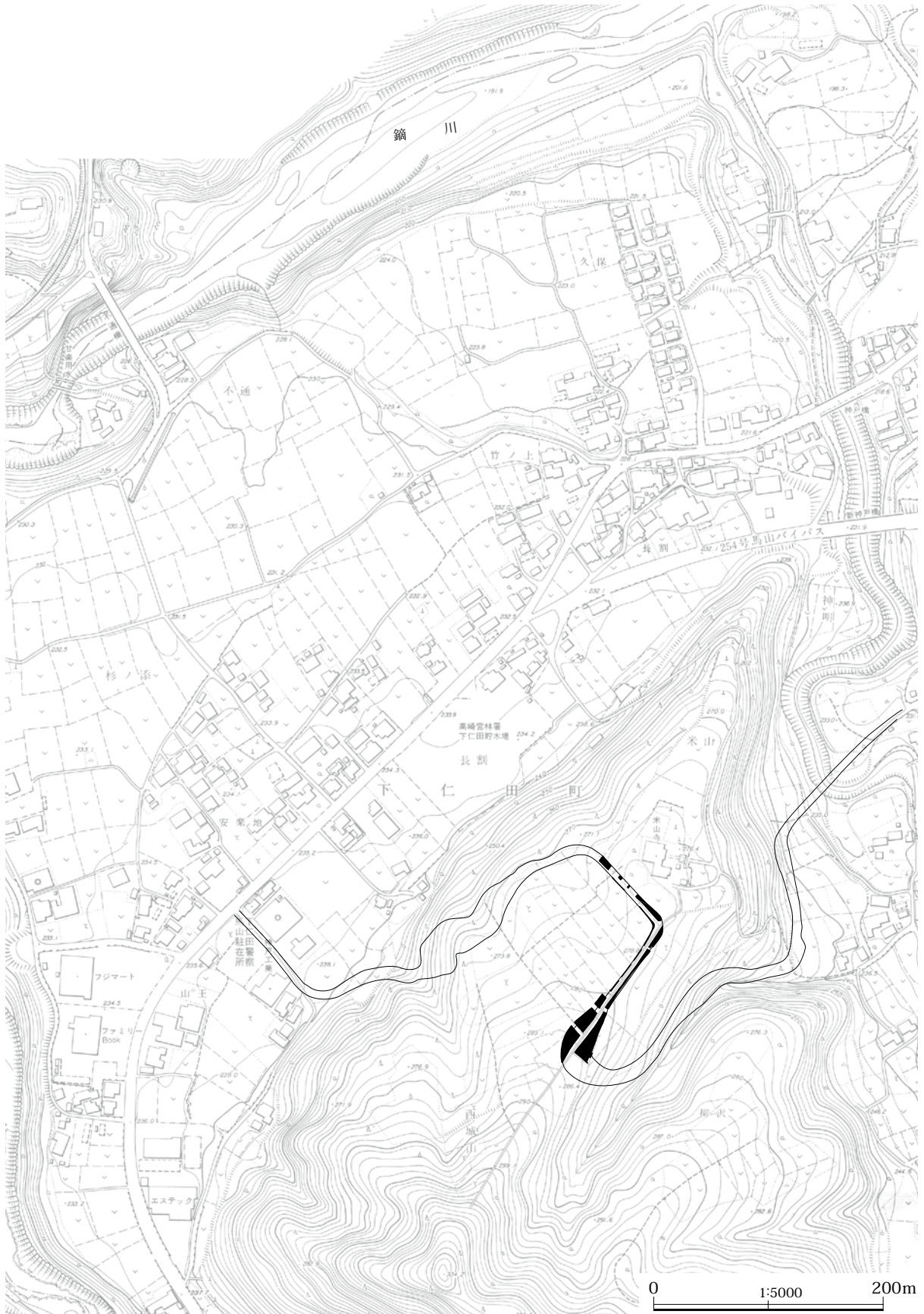
第1図 群馬県の地勢と米山遺跡

第1章 調査の経過



第2図 米山遺跡の位置

1. 発掘調査に至る経緯



第3図 米山遺跡の発掘区

第1章 調査の経過

た。

試掘・確認調査の結果、事業地内では縄文時代の住居跡や土坑、中近世と考えられる溝が確認され、本調査が必要であると判断された。この結果は平成19年12月13日付けで県西部県民局高崎土木事務所に報告され、両者の協議が始まった。この協議の結果、平成19年度内に本調査が実施されることとなり、平成19年12月25日付けで県西部県民局高崎土木事務所から県教育委員会文化課に発掘調査の依頼が出された。

これを受けて、平成20年1月4日付けで県教育委員会から、平成20年1月7日付けで県西部県民局高崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に発掘調査の依頼があった。平成20年1月21日には、県西部県民局高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の間に発掘調査の委託契約が締結され、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が米山遺跡の本調査を実施することとなった。

発掘調査は平成20年2月1日から3月31日にかけて行われ、3月31日付けで業務完了報告書を提出し、業務を完了した。

2. 発掘調査の方法

(1) 遺跡名・調査区・測量座標の設定

遺跡名は、群馬県遺跡台帳に登録されている既知の名称である「米山遺跡^{べいざん}」とした。

整備される農道は、下位段丘にある国道254号線から段丘崖面をのぼり、上位段丘の周縁にある既存道路を拡幅して、馬山地区横瀬に至る。このうち発掘対象地は斜面部を除く段丘上平坦面部分にあたり、L字に屈曲する既存道路に沿って拡張される部分である。また、横断する既存道路は調整の結果調査対象外となったことから、調査区は細かく分断せざるを得なかった。そこで、調査区はA～E区の5つに大きく分け、A区とC区は単独、B区はB-1区とB-2区に分けた。また、既存道路の両側に細長

いD区は、北西側をD-1区、南東側をD-2区とし、D-1区はさらにD-1-1区・D-1-2区・D-1-3区に分けた。同様にE区も西側をE-1区、東側をE-2区に分け、さらにE-1区はE-1-1区とE-1-2区に、E-2区はE-2-1区～E-2-5区の5つの区に分けて調査した。(第4図)

検出された遺構の番号は、A区からE区の5つの区ごとに通し番号とした。発掘区は概ね平坦な段丘面であるが、周縁部に近いために南東部は横瀬川谷部への緩傾斜面となっていた。また地表面近くの削平状況も若干異なっている。基本土層についてはA区とC区の旧石器試掘トレンチで記録したので後述する。

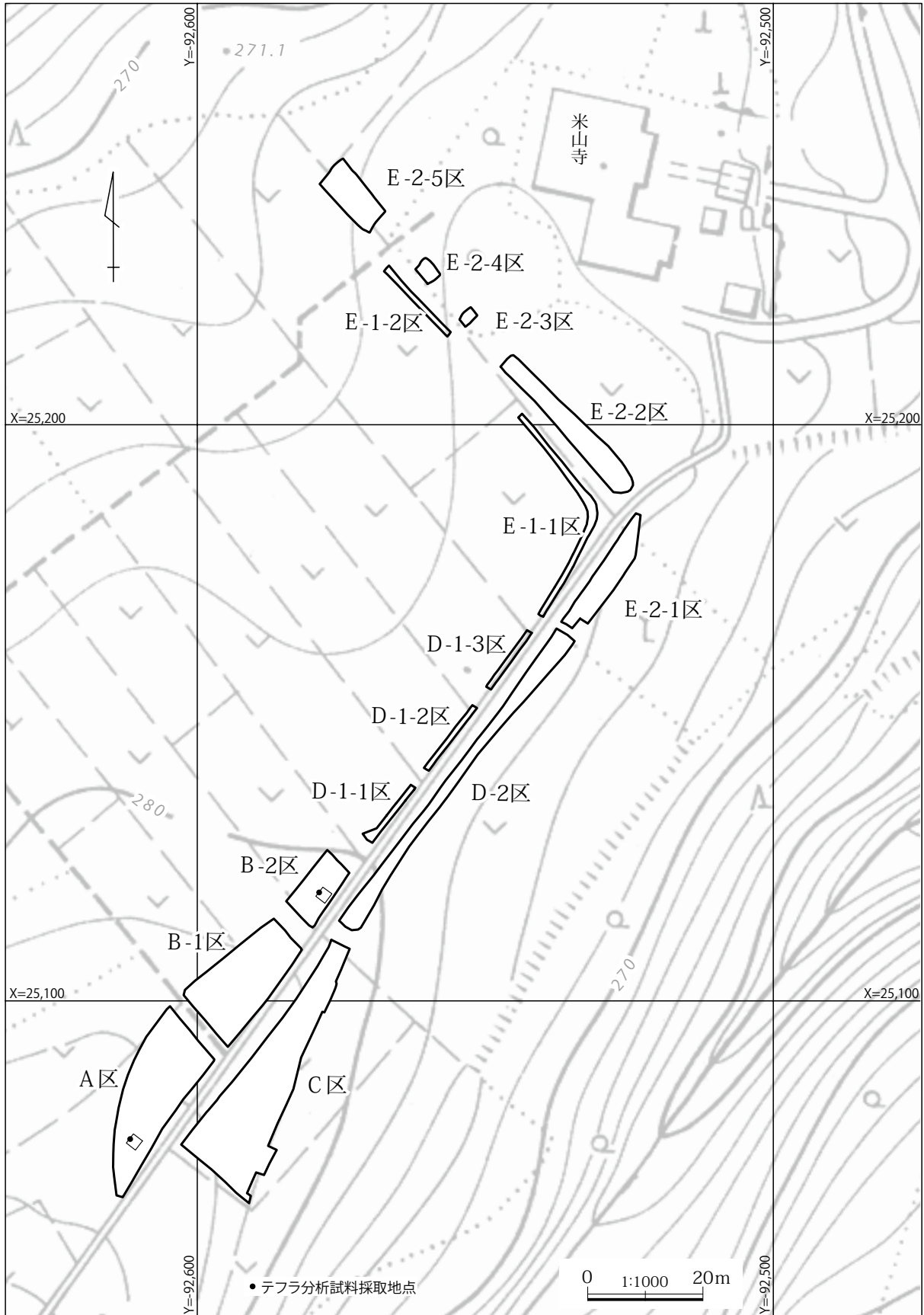
平面図は、世界測地系国家座標第IX系を用いて測量し、各図ともに座標値の交点と北方向を併記した。

(2) 基本土層

米山遺跡の基本土層は、第5図に示した通りである。1号試掘トレンチはA区、7号試掘トレンチはC区で実施した旧石器試掘調査の試掘坑である。基本土層を記録した二地点は50mほど離れている。両地点とも平坦な段丘面の南縁にあたる。7号試掘トレンチのほうはやや谷部に下がったところにあり、地表面の標高は3.7mほど低くなっている(第4図)。この試掘トレンチでは、土層の記載とテフラ分析を株式会社火山灰考古学研究所に委託して実施した。その詳細は第5章で報告した。

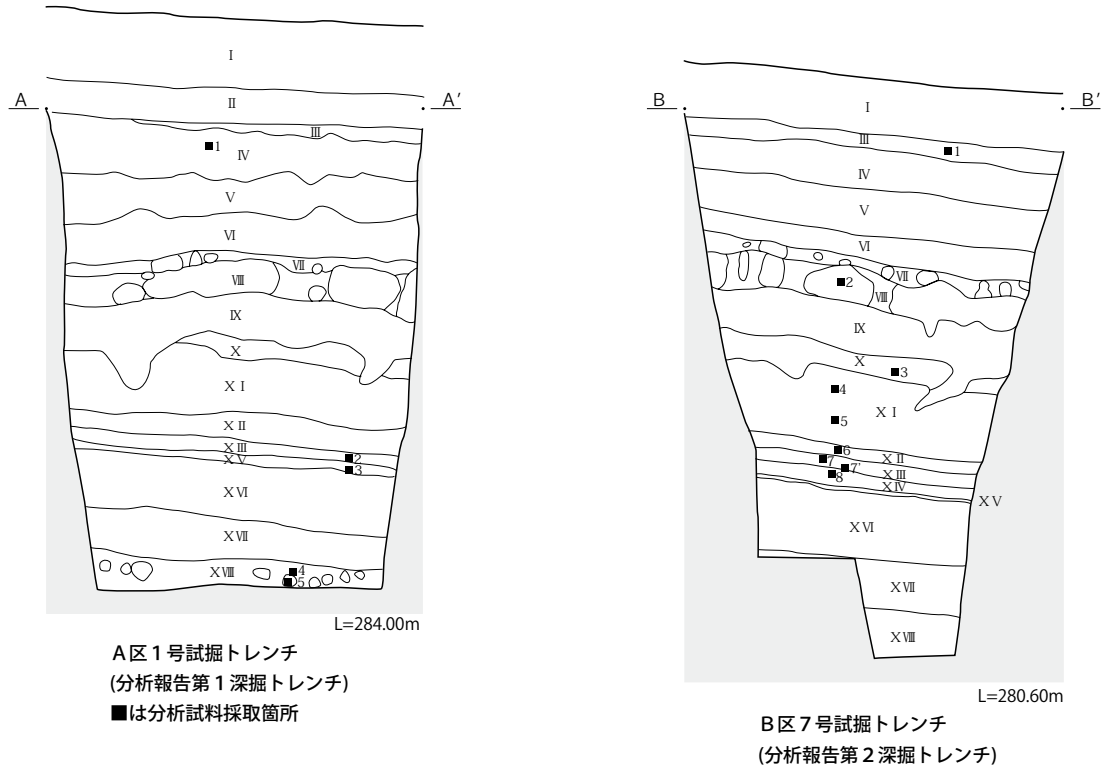
両地点とも厚さ30～40cmほどの現畑耕作土である褐色土(I層)があるが、その下位の白色軽石を含む黒褐色土(II層)の堆積は1号試掘トレンチにのみ確認された。その下位のIII層以下のローム層は両地点に共通して堆積していた。

III層・IV層はいずれも浅間板鼻黄色軽石層(As-YP)を多量に含むローム層で色調の違いで分層した。V層は浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group)を含む黄色ローム層である。VI～IX層は浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)に対比できる軽石粒を含むローム層である。



第4図 米山遺跡の調査区と座標

第1章 調査の経過



- I 褐色土。現畑耕作土。直径1～5mmのAs-A(白色軽石)少量含む。
- II 黒褐色土。直径1～5mmの白色軽石含む。
- III 暗黄色ローム。直径5～20mmのAs-YP(黄色軽石)多量に含む。
- IV 黄色ローム。直径5～20mmのAs-YP(黄色軽石)多量に含む。
- V 黄色ローム。直径5mmのAs-Okp(黄色軽石)含む。
- VI 暗黄色ローム。直径1～5mmのAs-BPG(褐色軽石)含む。
- VII 褐色ローム。直径1～10mmのAs-BPG(褐色軽石)含む。
- VIII 褐色軽石。直径1～20mmのAs-BPG一次堆積。
- IX 暗褐色ローム。直径1～15mmのAs-BPG(褐色・黄褐色軽石)含む。
- X 褐色軽石。直径1～10mmのAs-BPG(As-MP)一次堆積。

- X I 赤褐色軽石。直径2～20mmのAs-BPG(As-MP)一次堆積。
- X II 青灰色軽石。直径1～5mmのAs-BPG(As-MP)一次堆積。
- X III 灰白色軽石。直径1～5mmのAs-BPG(As-MP)一次堆積。やや粘土化。
- X IV 暗灰色粘質土。シルト質。AT含む。
- X V 黒色土。マンガン凝集層。
- X VI 暗灰色粘質土。シルト質。
- X VII 灰褐色粘質土。シルト質。直径5mmの白色礫少量含む。
- X VIII 灰褐色粘質土。シルト質。直径10～50mmの白色礫含む。

第5図 米山遺跡の基本土層

X～X III層は浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)の浅間室田軽石(As-MP)の一次堆積層である。その下位の暗灰色粘質土からは始良Tn火山灰(AT)が検出された。

(3)遺構確認と遺構調査

米山遺跡では、基本土層のIII層上面を遺構検出面として調査を行った。排土置き場は調査区内であったことから、A・B区の調査を先行し、その後A・B区を埋め戻して、C～E区の調査をおこなった。

A区は南端から北へ向かって、基本土層I層を30cm程の厚さで除去していった。続いてB区でも同

様に、南端から北へ向かって大型掘削機による掘削を行った。その後、ジョレンを用いて人力による遺構確認作業を行った。遺構確認作業と並行しながら、移植ゴテを用いた遺構調査を開始した。A・B区の調査終了後、C～E区の基本土層I・II層を除去し、A・B区を排土置き場として各区の調査を実施した。

A・B区およびC区では、遺構の調査が終了した後、2m×2mのトレンチをA区で3箇所、B区で4箇所、C区で3箇所設定し、旧石器時代の試掘調査をおこなった。これはA～C区1160m²の約4%にあたる。試掘調査は約2.4万年前、ローム上面下約1.7mの浅間室田軽石(As-MP)下に位置する粘質土層

(基本土層ⅩⅢ層)まで実施した。調査ではB-1区第6試掘トレンチで、基本土層Ⅲ層から黒曜石剥片1点が出土している。なお、他の試掘トレンチからは遺物出土は無く、土層の堆積も共通であったことから、本報告では、B-1区第6試掘トレンチ以外の試掘トレンチについては写真のみ掲載した。

(4)発掘調査の記録

発掘調査にあたっては、図面・写真および調査所見メモを記録した。

図面は各遺構の平面図と断面図、遺構全体図を作成した。遺構平面図・全体図はデジタル測量を委託し、EPSデータで作成した。断面図は遺構図に対応する縮尺で発掘作業員が手描きで実測した。

各遺構の埋没状況については、土層観察用のアゼを十字に設定し、すべての遺構で土層断面図を作成した。断面図の土層の注記は、全体の土層の色調や硬度を記載し、特徴的な夾雑物とその相対的な量を記載した。基本土層を実測した土層断面では遺構・遺物を理解するにあたって必要不可欠であるので、土壌のテフラ分析を実施し、記載した。

遺構写真は、ブローニーモノクロフィルムを用いた6×7カメラおよび35mmデジタルカメラで、撮影対象・撮影日・撮影方向を記したカードを添付し、地上撮影した。発掘区的全景写真は高所作業車から撮影した。撮影した銀塩写真はベタ焼きを遺構ごとに整理し、撮影対象・撮影日・撮影方向を記入したネガ検索台紙を作成した。デジタル写真は遺構名でリネームした保存用のRAW形式と、報告書掲載写真のみJPEG形式に保存してある。

また、遺跡の立地を記録するために航空写真撮影を実施した。

3. 発掘調査の経過

米山遺跡の発掘調査は平成20年2月1日～3月31日に実施した。調査経過の概略は次の通りである。

- 2月1日 柵設置等の環境整備。調査区設定。
- 2月4日 調査区整備。
- 2月5日 調査区整備(伐木撤去)
A区表土掘削開始。
- 2月6日 A区遺構確認作業開始。土坑調査。
B区表土掘削開始。
- 2月7日 A区土坑調査。B・C区遺構確認。
- 2月8日 A・B区土坑調査。
A区1～20号土坑全景写真撮影。
- 2月12日 雨天のため図面整理作業。
- 2月13日 A・B区土坑調査。
- 2月14日 A区土坑調査。
- 2月15日 A・B区全景写真撮影。全体測量。
B区旧石器試掘調査開始。
- 2月16日 A区旧石器試掘調査開始。
- 2月20日 A・B区旧石器試掘トレンチ写真撮影・
土層測量。
- 2月21日 C区表土掘削開始。
B区埋め戻し作業。
- 2月22日 A区旧石器試掘トレンチ内土層テフラ分
析試料採取。C区1号・2号住居、1～
3号土坑調査開始。
- 3月3日 C区全景写真撮影。
- 3月4日 C区旧石器試掘調査開始。
- 3月5日 D・E区調査区設定。
- 3月6日 C区旧石器試掘トレンチ全景写真撮影。
E区表土掘削。遺構確認。
- 3月11日 D・E区遺構調査開始。
3号住居炉体土器全景写真撮影。
- 3月21日 D区・E区全景写真撮影。
- 3月25日 埋め戻し作業。安全対策。
- 3月26日 埋め戻し完了。調査終了。
- 3月27日 調査資料整理。引渡。
- 3月31日 撤収。

第1章 調査の経過

4. 整理作業の経過と方法

(1)整理作業の経過

米山遺跡の発掘調査成果・出土資料の整理作業および報告書刊行業務は、平成21年7月21付けで群馬県教育委員会文化課から、平成21年8月11日付けで群馬県西部県民局高崎土木事務所から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に依頼があり、調整が重ねられた結果、平成21年8月25日付けで、高崎土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で委託契約を締結した。業務の作業期間は平成21年9月1日～平成22年1月31日、履行期間は3月31日までである。

整理作業は、概ね9月～11月に①遺物の分類・掲載遺物の選択・実測図作成・遺物観察・トレース、②遺物写真撮影、③遺構図面の修正編集トレース作業をおこない、11月～12月に④遺構・遺物写真の補正および写真図版のデジタル編集作業、⑤観察記録や所見等の本文原稿執筆、1月に⑥全体のデジタル組版をおこなった。2・3月には印刷を委託した。

また遺物管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業をおこなった。

(2)遺物の整理

遺物の整理は、遺物収納箱14箱分の土器と石器を対象とした。土器は遺構ごとに接合を行った。接合作業は遺構内の遺物出土状況を平面図および写真と確認しながら実施した。遺構外で出土した同時期同型式の遺物とも接合を試みた。次に遺物出土状態や個体数・形態差・構成比等を勘案し、報告書に掲載する遺物を選択した。今回選択した土器は全体で2930点のうち535点である。選択できなかった土器は遺構ごとに型式を分類し、計数して収納した。報告書掲載土器は復元し、写真撮影をおこなった。遺物写真は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて撮影した。土器実測図は等倍で作成した。完形に近い土器は三次元測量システムで測点し、その印刷出力図を補測・製図した。破片の土器は断面実測をお

こない、縄文原体や文様が読み取れるよう留意して採拓した。土器のトレースは墨入れでおこなった。拓本とトレースは台紙に貼付し、スキャニングし縮小してデジタルデータとした。土器の観察は表形式にまとめた。色調は『標準土色帖』の色名を用いて記載し、器形実測できた土器の口径・底径・高さは実測図から計測した。胎土は特徴的な夾雑物を中心に記載した。文様および整形技法を属性表に記載した。

石器類は全点を石器、剥片、礫・礫片に形態分類した。石器は208点が分類されたが、器種を網羅するように選択し、133点を報告書掲載とした。剥片、礫・礫片は出土位置ごとに計数し収納した。石器の実測図は大型品1/2、その他は等倍で作成した。石器を長焦点カメラで撮影し、その印刷出力図を補測・製図した。トレースは墨入れでおこない、一部の拓本とともにスキャニングして縮小しデジタルデータ化した。石器の属性—長さ・幅・厚さ・重さ・石材等は表形式にまとめた。石材の同定は群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。形状・調整加工の特徴は属性表に記載した。

(3)遺構図面・写真の整理

遺構図面については、現場で地上測量したデジタルデータの修正編集作業と、手実測した土層断面図のデジタルトレース図を作成した。

遺構写真については、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、サイズ調整・レベル補正を実施して、写真図版の原稿データを作成した。全体図や遺跡位置図・遺跡分布図等はアドビ社のイラストレーターで作成しEPSデータとした。

(4)報告書の編集

本文・遺物観察表等の原稿は上記作業と平行して執筆した。上記で作成した各種デジタルデータをアドビ社インデザインにより組版し報告書のフルデジタル印刷原稿を作成した。印刷原稿データの推敲・校正・編集修正を実施し、報告書を刊行した。

第2章 遺跡の立地と環境

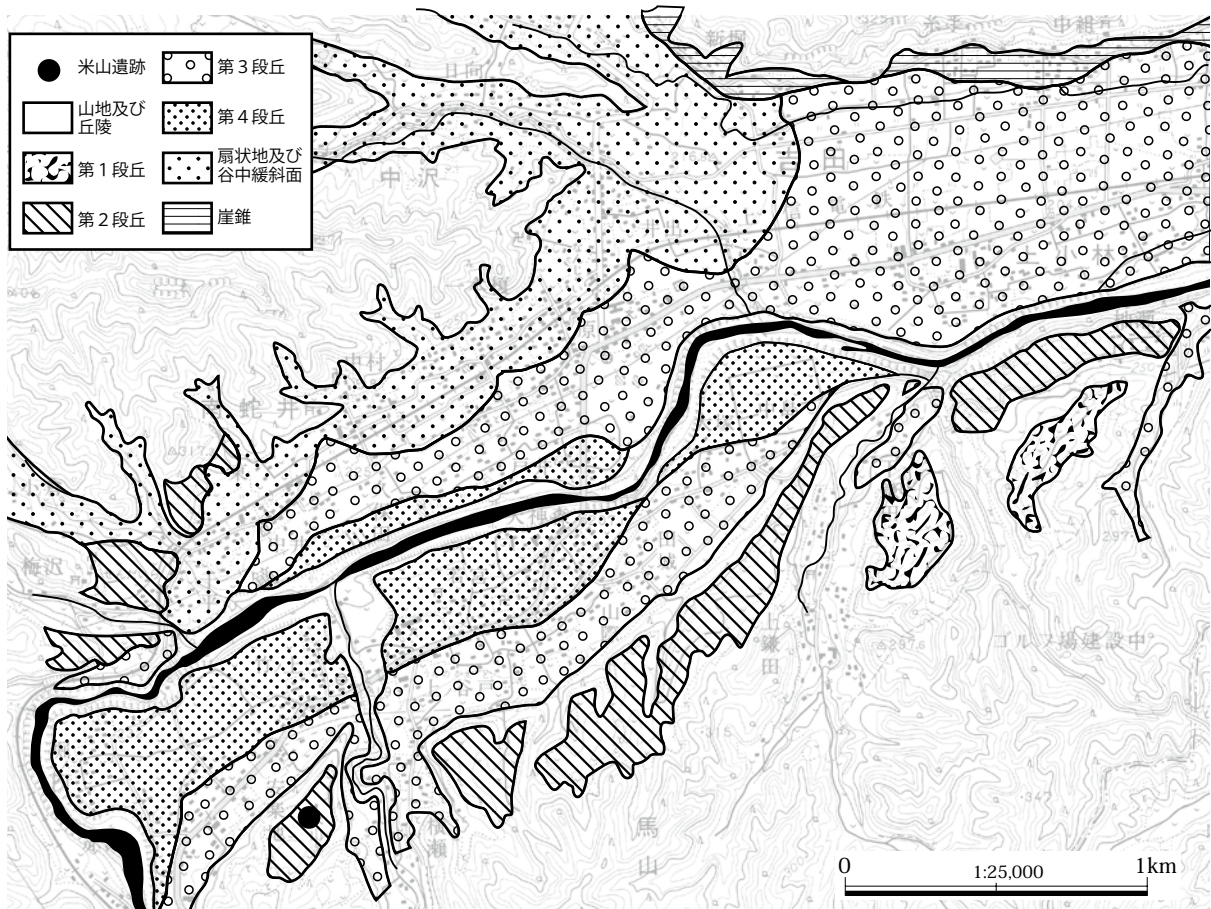
1. 遺跡の位置と地形

米山遺跡のある下仁田町は、群馬県南西部にあり、町の中央を鎭川が流れている。町のほとんどは山地と丘陵である。町の北西端にある矢川峠を源とする西牧川が、下仁田町下仁田青岩で南牧川と合わさり、鎭川となる。山地内を南東に流れていた鎭川は、米山遺跡のある馬山地区で大きく蛇行している。ここから下流はやや開けた地形となり、ほぼ東西方向の流路となる。富岡市から藤岡市にかけての鎭川中・下流域には、段丘地形が発達している。馬山地区はこの段丘地形の最奥部にあたる。

鎭川の段丘は大きく2面に分類されることが多い(町田1948、新井1962)。上位段丘はほとんど鎭川の

南側に分布し、粘土層や関東ローム層の堆積があって、下位にある礫層の風化が進んでいる。縄文時代の遺跡は上位段丘上に分布し、下位段丘には古墳の分布が見られる。これらのことから、上位段丘は縄文時代には離水しており、下位段丘の離水は古墳時代ころと考えられている。

近年の研究では、鎭川の段丘は上位・下位ともに二つに細分され、4面に分類されている(須貝1992・1996、群埋文1993)。米山遺跡は、このうち鎭川右岸の、上から2面目の「第2段丘」(群埋文1993)あるいは「Q2面」(須貝1996)にあたると思われる。本遺跡の基本土層XIV層では、始良Tn火山灰(AT)が検出されている(詳細は第5章)。段丘面の離水年代は不明な点が多いが、隣接する碓氷川の対応関係を



第6図 米山遺跡周辺の地形面区分

第2章 遺跡の立地と環境

想定して、最終間氷期直前と推定されている(須貝1992、群埋文1993)。

この上位段丘上の縄文時代における遺跡立地は、段丘上での居住、周辺の山林・河川での狩猟・漁労活動に適した立地であったと推定される。また、山間を流れてきた鎚川が、眺望の開けた段丘地形地域に流れ出てくる米山遺跡周辺は、内山峠を介した信濃地域との交通路の地理的な目印になるような場所であったと推定される。

さらに、本遺跡では弥生時代中期前半の土坑が検出されていることから、第3・第4の下位段丘面や、鎚川支流の横瀬川や野上川の沖積地も視野に入れた立地論が必要となるが、今後の課題としたい。

2. 周辺の遺跡分布

下仁田町の遺跡台帳には、53遺跡が登載されている(群馬県文化財情報システム)。このうち馬山地区の遺跡は12遺跡である。

下仁田町域にあたる鎚川右岸では、上位段丘縁辺のなだらかな平坦地にはほとんどといっていい密度で縄文時代の遺跡(第7図5・6・7・8・9)が立地している。今回報告する米山遺跡(1)も同様の遺跡立地傾向を示している。このうち富士塚遺跡(5)、下鎌田遺跡(8)、杣瀬遺跡(9)では弥生時代の遺物・遺構が検出されている。また、上鎌田や杣瀬地区では後期古墳が分布している。古墳時代の遺物が散布している観音寺原遺跡(6)の他は段丘上の古墳時代遺跡の分布は不明であるが、段丘面を開析する支流沿いに遺跡が存在する可能性があろう。また米山遺跡のある尾根は中世の馬山東城跡(2)・西城跡(3)

とされている。

下位段丘では馬山古墳群(10)や竹ノ上古墳群(12)が分布する。また、鎚川右岸下位段丘の段丘崖に河蝕洞穴が利用された只川橋岩陰遺跡(11)がある。6体の埋葬人骨とともに弥生時代末の土器が出土している。この地形面での集落遺跡は不明であるが、古墳群や弥生墓地の存在や開析谷のある地形環境等からは、弥生時代以降の集落遺跡の存在は充分考えられる。

富岡市域にあたる鎚川左岸でも、段丘地形が発達している。遺跡分布も右岸と同様に上位段丘縁辺に縄文時代から古墳時代の遺物散布地が並ぶように分布している(第7図15～24)。下位段丘面には右岸と同様に、古墳群や古墳時代の遺物散布地が散在している(13・14)。また、左岸丘陵山頂近くには弥生時代後期の三笠山岩陰遺跡(30)がある。焼人骨や抜歯資料もあり、右岸の只川橋下岩陰遺跡(11)ともに注目される遺跡である。

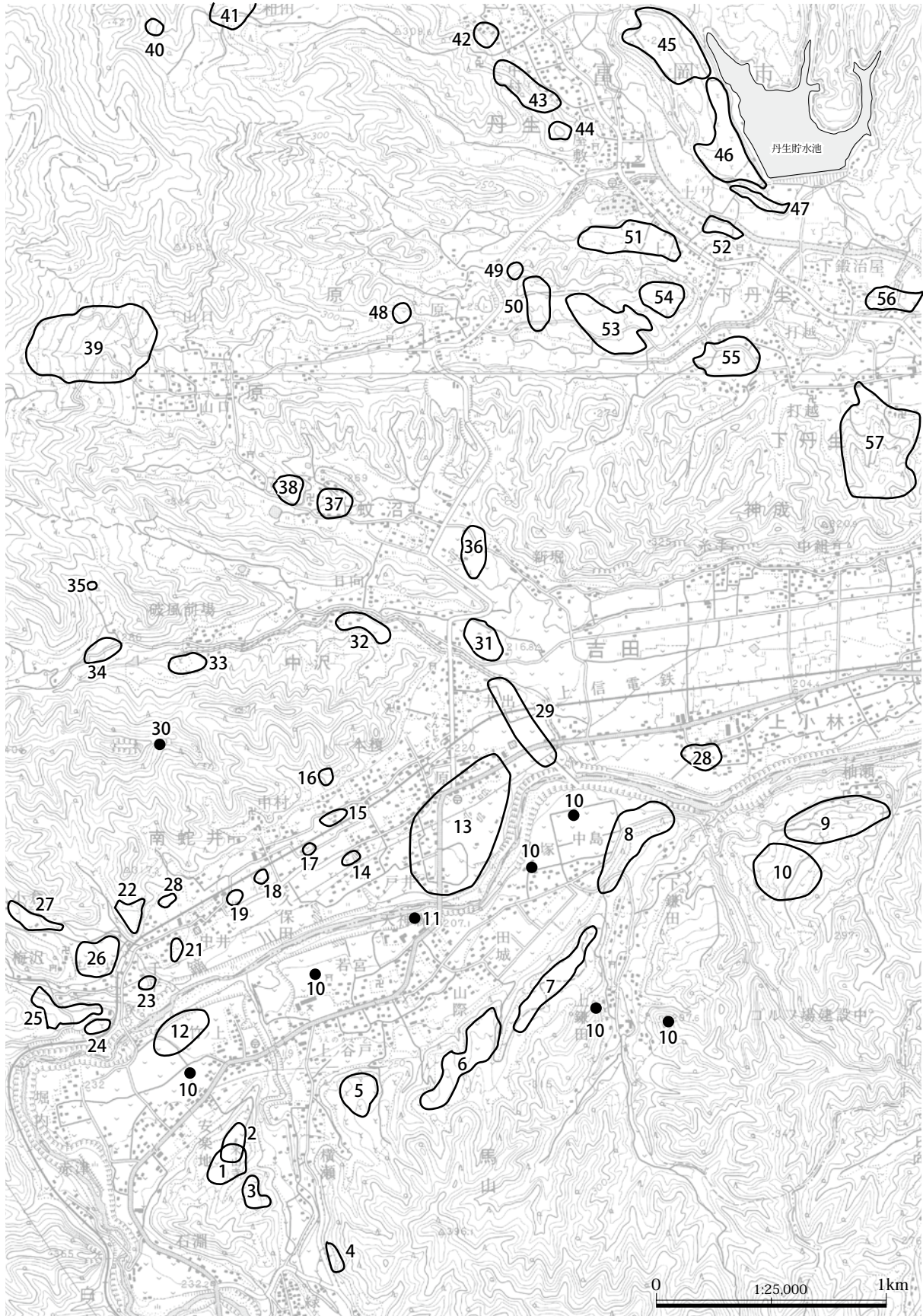
左岸の丘陵は右岸に比べて緩傾斜で、鎚川や北方の碓氷川の各支流による開析が進んでおり、その谷沿いに遺跡が多く分布している。上信越自動車道に伴って、南蛇井増光寺遺跡(29)や中沢平賀貝戸遺跡(31)等の縄文時代から古墳時代、平安時代まで連続する大集落遺跡が発掘調査されている。小規模な谷沿いには、小さな弥生～平安時代の集落遺跡が点在し、谷奥には古墳群が分布している。

富岡市丹生地区では近年大規模な圃場整備事業が実施され、広範囲に発掘調査がおこなわれて、遺跡の様相が具体的にわかってきた(第7図43～56)。遺跡群としての分析が期待される。

第1表 周辺遺跡一覧表

凡例 ●集落 ○包蔵地 ▲墓・古墳 □岩・城跡

図No	市町村No	遺跡名	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	中世	近世	概要	文献
1	0010	米山遺跡	○	●	▲				□		縄文時代前期・中期の集落と、弥生時代前期末から中期膳の土坑を検出した。	1
2	0014	馬山東城							□		下仁田町馬山にある館城。本郭と推定される米山寺から東北に嘴状に突出した細長い城域を持つ。梯郭式の縄張りである。	13
3	0015	馬山西城							□		馬山城の要害城で、館城である東城から400mほど離れている。物見郭を合わせると全長350mの城域をもつ。頂上西端に本丸があるので梯郭式の山城である。	13
4	0039	上蒔田遺跡		○							縄文時代の遺物散布地	6



第7図 米山遺跡周辺の遺跡分布

第2章 遺跡の立地と環境

図No	市町村No	遺跡名	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	中世	近世	概要	文献
5	0033	富士塚遺跡		○	○						縄文時代・弥生時代の遺物散布地	6
6	0034	観音寺原遺跡		○		○					縄文時代・古墳時代・平安時代他の遺物散布地	6
7	0035	長尾根遺跡		○					□		縄文時代の遺物散布地。中世の城館。	6
8	0036	下鎌田遺跡	○	●	●	▲		●	□	□	縄文時代早期から後期・弥生時代後期・平安時代の集落他が検出されている。縄文時代の磨製石斧の製作遺構が目目される。古墳時代は前期の方形周溝墓、後期の古墳群が調査されている。	4
9	0037	杉瀬遺跡		●	▲				□		縄文時代早期から中期、弥生時代、中世の遺構が検出されている。弥生時代の遺構は前期壺棺再葬墓に加え、前期の礫床墓、中期の方形周溝墓が検出されている。	7
10	0038	馬山古墳群				▲					上毛古墳総覧馬山町第18号墳。馬山地区には20基の古墳の記録がある。分布は杉瀬地内に11基、下鎌田に2基、上鎌田に2基、中島に1基、大塚に2基、天神森に1基、安楽地に1基であり、下位段丘に点在している。	2・3
11	0011	只川橋下弥生岩陰墓地			▲						鍋川右岸の河蝕洞窟遺跡。埋葬人骨と土器・石器が副葬された弥生時代後期末の遺跡。	5
12		竹ノ上古墳群				▲						3
13	T02	南蛇井古墳群				▲					30基程の円墳からなる後期群集墳	5
14	T076	遺跡名なし				○					古墳時代の遺物散布地と古墳	6
15	T073	遺跡名なし				▲					古墳時代の遺物散布地	6
16	T072	遺跡名なし		○	○						縄文時代・古墳時代の遺物散布地	6
17	T070	南蛇井中村遺跡				●					古墳時代の集落	6
18	T069	遺跡名なし		○							縄文時代の遺物散布地	6
19	T068	遺跡名なし			○						古墳時代の遺物散布地	6
20	T067	遺跡名なし		○							縄文時代の遺物散布地	6
21	T093	遺跡名なし			○						古墳時代の遺物散布地	6
22	T091	遺跡名なし		○	○						縄文時代・古墳時代の遺物散布地	6
23	T092	遺跡名なし			○						古墳時代の遺物散布地	6
24	T090	遺跡名なし		○							縄文時代の遺物散布地	6
25	T087	遺跡名なし		○	○						縄文時代・古墳時代の遺物散布地	6
26	T085	遺跡名なし			○						古墳時代の遺物散布地	6
27	T086	遺跡名なし			○						古墳時代の遺物散布地	6
27	T083	遺跡名なし		○	○						縄文時代・古墳時代の遺物散布地	6
28		上小林古墳群				▲					円墳5基からなる古墳群。上毛古墳総覧吉田村第43号～47号墳にあたる。	5
29	T118	南蛇井増光寺遺跡		●	●	●	●	●	○		縄文前期黒浜式期～後期堀之内式期にかけての住居72棟、敷石住居もある。弥生時代中期の住居4棟。いずれも段丘崖に近いところに立地。弥生時代後期の住居181棟、石廂土土。古墳時代後期の住居から平安時代の住居535棟。中近世L字形の溝。中世墓等検出。	8
30		三笠山岩壁遺跡			▲						三笠山南東麓で検出された岩陰遺跡。弥生時代後期土器と石鏃・剥片、焼人骨・抜歯資料が出土している。墓地と考えられている。	5
31	T051	中沢平賀貝戸遺跡		●	●	▲					縄文時代前期の集落、弥生時代終末から古墳時代前期の集落と方形周溝墓、古墳時代終末期の古墳と竪穴住居が検出されている。	9
32	T283	中沢大谷遺跡			○						古墳時代の遺物散布地	6
33	T284	中沢破風下遺跡			○						弥生時代の遺物散布地	6
34	T285	中沢破風下II遺跡			○						弥生時代の遺物散布地	6
35	T286	中沢神沢遺跡		○							縄文時代の遺物散布地	6
36		前畑遺跡				●	●	●			古墳時代中期～奈良平安時代の集落が調査されている。	12
37		蚊沼の砦跡							□		室町、安土桃山時代の城館跡	5
38	T054	上ノ原遺跡		○							縄文時代の遺物散布地	5
39	T038	山口古墳群				▲					円墳4基からなる古墳群。上毛古墳総覧丹生村第6号～9号墳にあたる。	5
40	T043	和田古墳群				▲					現在10基ほどの古墳が確認できる小規模な古墳群。	11
41	T274	和田遺跡		●		▲		●			縄文時代早期～前期の土器・石器、古墳時代前期の住居、古墳時代終末期の古墳1基、平安時代の住居1軒が調査されている。	11
42		五分一遺跡		○				○	○	○	縄文時代前期・中期の土器、平安時代、中近世の遺物が出土した。	12
43	T046	丹生城跡							□		富岡市上丹生字新井にある。本丸を中心に「ひとで」形に派出した七つの尾根に築かれている。	13
44		丹生城西遺跡		○	○						時期不明の溝5条が検出されている。縄文土器・土師器等が出土した。	12
45	T045	丹生東城跡		●					□	▲	縄文時代中期の土坑、中世の城館、近世の墓壇が検出されている。中世城館の祭祀遺構から輪宝墨書土器が出土している。	10
46	T276	下丹生中山I遺跡		●		▲					縄文時代前期前半の集落、古墳時代の集落・古墳が検出されている。	10
47	T277	下丹生中山II遺跡				●	●	●	□		古墳時代～平安時代の集落、中世の屋敷跡が検出されている。「用」の字の銅印が出土した。	10
48		丹生5号墳				▲						
49		丹生3号・4号墳				▲						
50	T039	内出I遺跡		●		●	●	●			縄文時代前期の住居、弥生時代終末～古墳時代前期の住居、方形周溝墓、古墳時代後期～平安時代の住居、終末期円墳が調査されている。	12
51	T037	下丹生籾ノ上遺跡			●	●	●	●			弥生時代後期・古墳時代後期・奈良平安時代の集落が検出されている。	10
52	T275	下丹生久保前遺跡							*		As-B下面の調査。足跡が検出されている。	10
53	T040	下丹生赤子II遺跡		▲	●	●	●	●			縄文時代中期集落、後期配石墓、弥生時代後期から平安時代の集落。後期古墳群も調査されている。	10
54	T040	下丹生赤子I遺跡			●	▲	●	●			弥生時代後期の集落・方形周溝墓を検出。古墳1基、奈良平安時代の住居も調査されている。	10
55	T280	下丹生前畑遺跡		●	●	●	●	●			縄文時代前期、弥生時代後期、古墳時代後期～平安時代に継続する集落が検出されている。	10
56	T257	下丹生小川遺跡		●		●	●	▲			縄文時代・古代・中近世の土坑、As-B下水田、中近世墓壇が検出されている。	10
57	T049	神成城跡							□		鐘ヶ谷の北から神成の北方に渉る峰にある城	13

第3章 検出された遺構と遺物

1. 概要

米山遺跡では、縄文時代前期から中期の竪穴住居12棟、土坑99棟、ピット19基が検出された。また弥生時代中期前半の土坑5基、近世と推定される溝4条が検出された。出土土器は遺物収納箱14箱で、上記の遺構出土の土器がその多くを占める。発掘区A～E区で検出された遺構と遺物の概要は次のとおりである。

A区(第8図 PL.2)

A区は今回の発掘区域の南西隅にあたり、比較的広く調査できた調査区である。A区で検出された土坑は20基、ピットは14基である。遺構は発掘区西端を除くほぼ全域に散在していたが、発掘区の北半部に遺構の分布がやや偏っていた。

20基の土坑には円形・筒状の土坑と不整楕円形の土坑があったが、円形・筒状の土坑は南半部に、不整楕円形の土坑は北半部に分布していた。

土坑の時期は、出土土器の大半が諸磯b式・諸磯c式土器であることから、ほぼこの時期に限定できよう。ただし5基の土坑に黒浜式が、2基の土坑にそれぞれ阿玉台式、五領ヶ台式が出土している。南東側のC区竪穴住居群との関係が注目されるが、C区の竪穴住居の時期は関山Ⅱ式と黒浜式期であることから、若干の時期差があるといえよう。

ピットは14基が検出された。いずれも楕円形で北半部に偏在していた。弧状あるいは方形に並ぶ位置にあり、竪穴住居等の構造物の柱穴の可能性もある。出土土器はほとんど無いが、一部で諸磯c式・前期末の土器が出土している。

またA区では、遺構確認面で黒曜石製のナイフ形石器1点が出土している。これは遺構外の出土遺物として第70図で報告した。さらに2m×2mの旧石器試掘トレンチを3ヶ所設置して、始良丹沢パミス(AT)の下位20～60cmの深さまでローム層の試掘調

査を実施したが、いずれの試掘トレンチでも旧石器は検出されなかった。

B区(第8図 PL.7)

B区はA区の北東部に隣接する調査区である。既存道路で南側のB-1区、北側のB-2区に分けて調査した。B-1区では、隣接するA区北半の土坑密集は連続せず、遺構は北半部で時期不明の竪穴住居1軒、土坑2基が検出されたのみである。竪穴住居の分布は東側のC区に連続するものと理解できる。B-2区でも遺構の密度は低く、北半部で土坑2基が検出されたにとどまった。遺構の時期はいずれも縄文時代である。

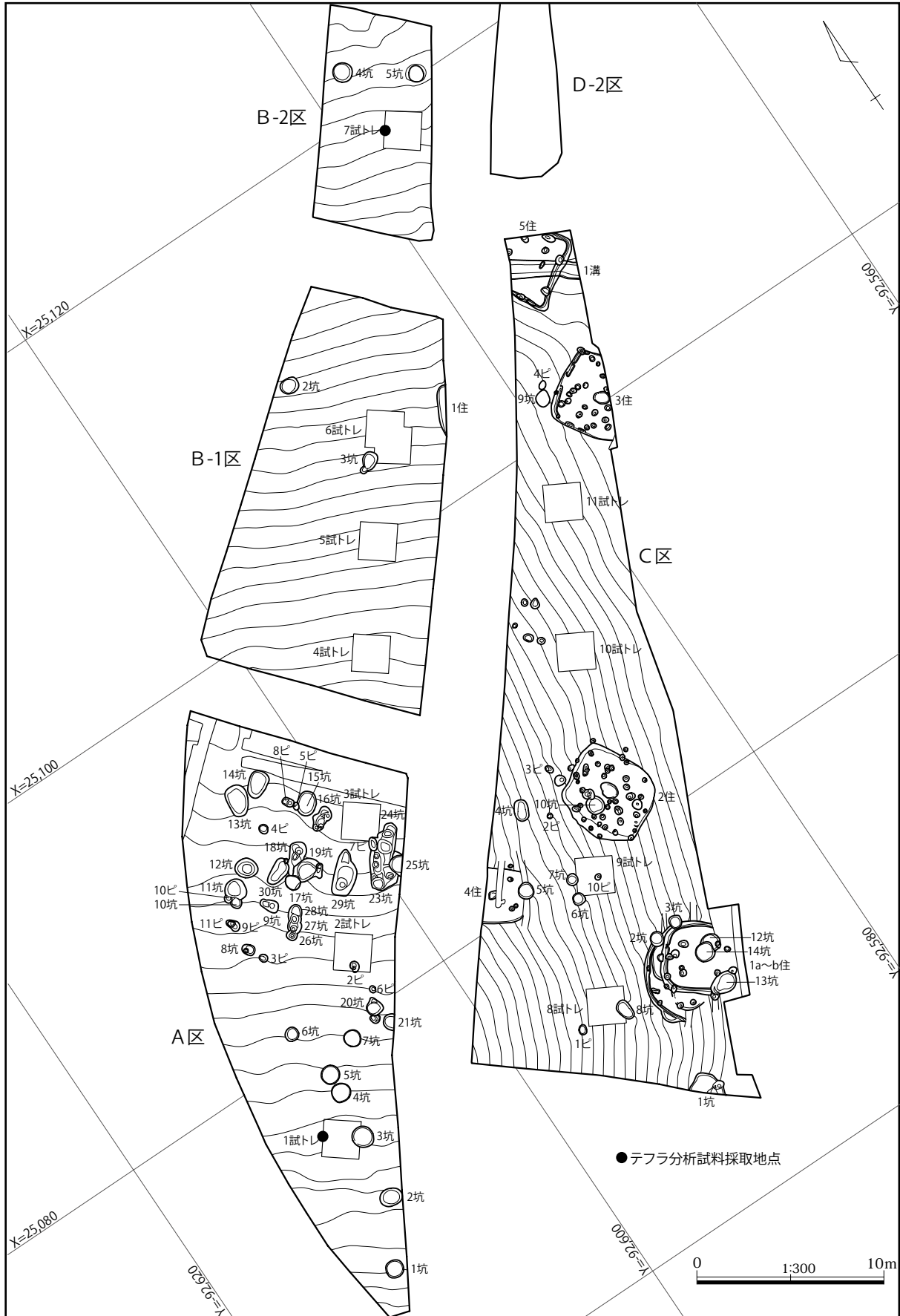
A区に連続してB区でも2m×2mの旧石器試掘トレンチを4ヶ所設置して、始良丹沢パミス(AT)の下位20～60cmの深さまでローム層の試掘調査を実施した。第6トレンチで、浅間板鼻軽石粒を含む関東ローム層の層位でチャート剥片を検出したので、周囲を拡張して調査したが、それ以上の旧石器は検出されなかった。

C区(第8図 PL.9)

C区は、A・B区の南東側に隣接する発掘区である。5ヶ所6軒の竪穴住居、14基の土坑、14基のピットと、1条の溝を検出した。竪穴住居は発掘区全体に散在し、1号住居は1a号住居と1b号住居が重複していた。6軒の住居のうち、1a号住居のみ楕円形で、他の5軒は隅丸方形である。住居の時期は出土遺物から、1a・b号住居が諸磯b式期、2号・3号・5号住居は黒浜式期と推定される。土坑はそのほとんどが南半部に散在していた。出土土器は竪穴住居と同様な時期で、住居群との重複も見られた。

C区でも2m×2mの旧石器試掘トレンチを4ヶ所設置して、始良丹沢パミス(AT)の下位20～60cmの深さまでローム層の試掘調査を実施したが、いずれの試掘トレンチでも旧石器は検出されなかった。

D区(第9図 PL.16)



第8図 A～C区全体図

D区は、B区およびC区の北東側に隣接する発掘区である。全部で3軒の竪穴住居と、25基の土坑が検出された。竪穴住居は発掘区北半に散在しており、時期もそれぞれ不明、諸磯a式期、中期前葉で3軒とも異なっていた。

土坑はD-2区の中央部に集中し、周辺部に散在していた。縄文時代の土坑の形態は楕円形で浅い箱形の土坑と、円形で断面袋状の土坑がある。これらの土坑の時期は諸磯a、b式期のものが多かった。これはC区の竪穴住居群の後半期の時期にあたり、関連性が考えられる。

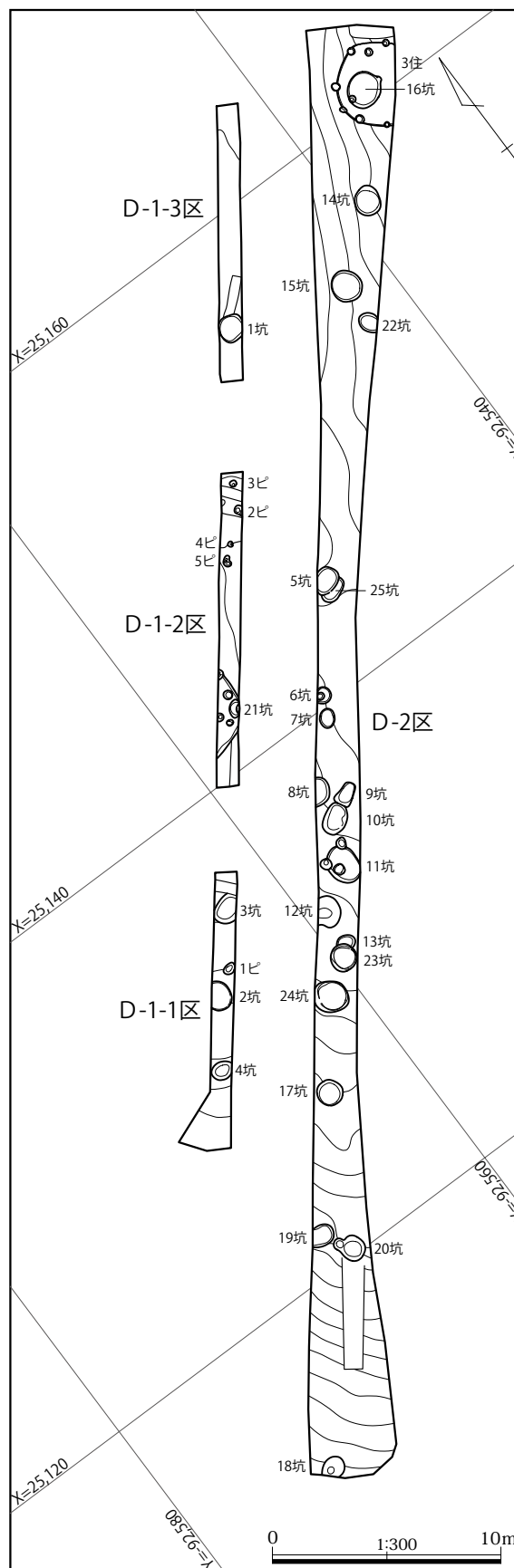
また、D区では弥生時代中期前半の土坑が4基検出された。その分布は縄文時代の土坑集中部の両端に分かれていた。本遺跡周辺には弥生時代中期の遺跡が点在しており、また新しい資料の追加として注目される。

E区(第10図 PL.21)

E区は、D区の北東部に隣接する発掘区である。既存道路に沿って、北西方向に屈曲する。全部で2軒の竪穴住居と、41基の土坑、4条の溝が検出された。竪穴住居は発掘区南端に偏在しており、D区の竪穴住居群に連続する遺構群ととらえられる。時期はいずれも関山II式期で今回の調査で検出された竪穴住居の中では最も古い。

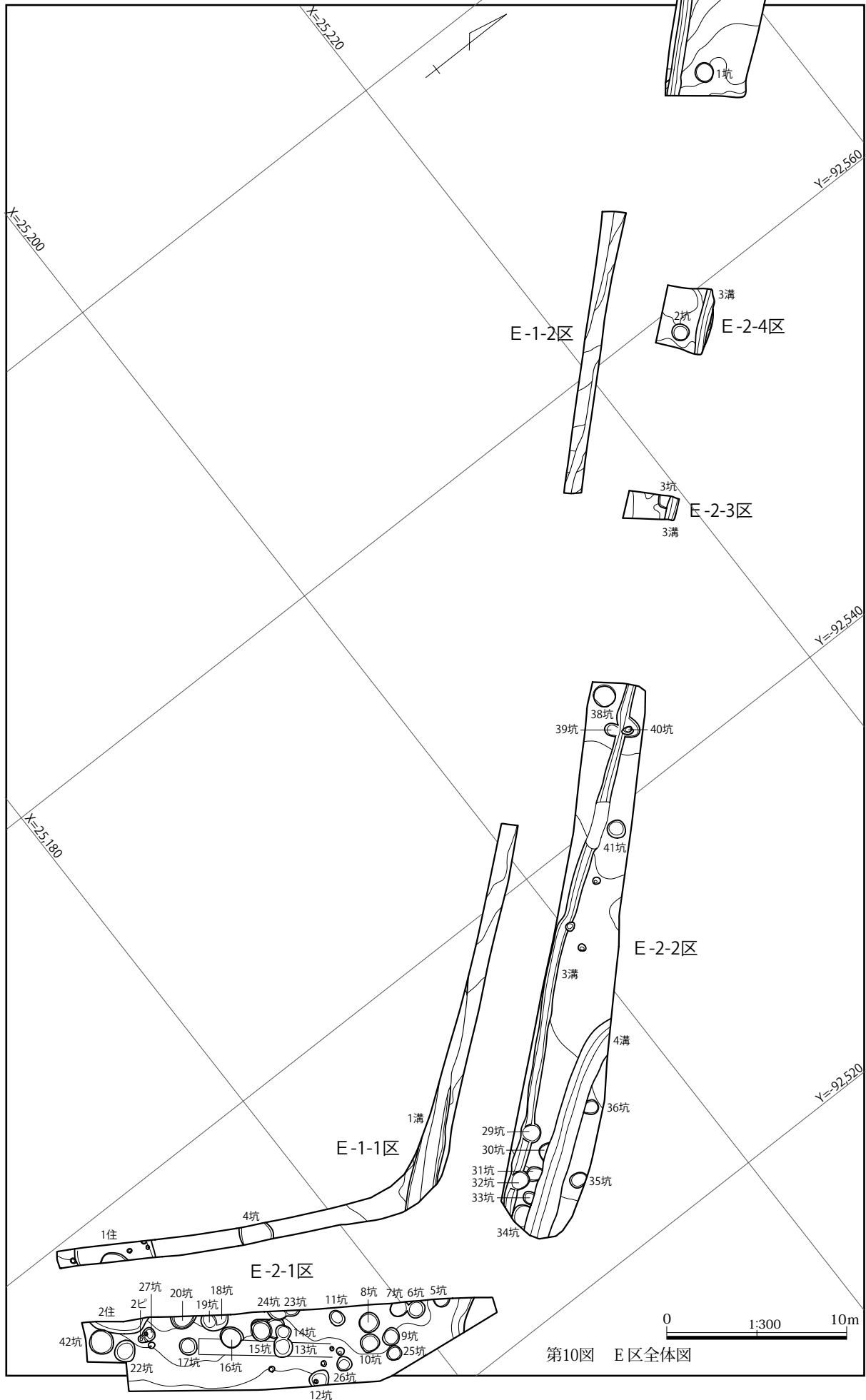
土坑はE-2-1区に集中していた。縄文時代の土坑の形態は楕円形で浅い箱形の土坑と、円形で断面袋状の土坑がある。これらの土坑の時期は黒浜式期から中期前葉にわたり、諸磯a、b式期のものと、阿玉台式・勝坂式期のものが多かった。また、E区では南端部に弥生時代前期末と考えられる土器が出土した42号土坑が検出された。D区の弥生時代中期前半の土坑群より古い様相の土器を出土しており、本遺跡の弥生時代遺構の先駆けとなる遺構として注目される。

E区北半部で検出された4条の溝は近世以降と推定される時期の遺構である。特にE区4号溝は馬山東城や米山寺域に関連する溝の可能性もあったが、その度合いは低いことが判明した。



第9図 D区全体図

第3章 検出された遺構と遺物



第10図 E区全体図

2. A区の遺構と遺物

(1)土坑

(第11～15図 PL.3-5・29・30 遺物観察表P.102・103・111・112)

概要でも述べたように、A区では調査時に30基の土坑状の遺構を検出した。しかし、これらのうち、A区16号・18号・23号・24号・26～28号土坑は、①形状が不定型で小ピットが列状になっていること、②埋没土が暗色土で、黒色土で埋まっていた定型的な縄文時代の土坑とは異なっていたことから、遺構としての位置付けが困難と判断し、報告からは除外した。

これらを除外したA区の土坑は20基である。それぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4・5表にまとめた。これらの土坑は、定型的な円形または楕円形、断面筒状で、黒色土で埋まっていた土坑11基と、楕円形あるいは不定型で暗色土あるいは暗褐色土で埋まっていた土坑9基に分けられる。円形・筒状の土坑は南半部に、不整楕円形の土坑は北半部に集中して分布する傾向があった。

前者の土坑は、1～7号、11号、21・22・25号土坑の11基である。A区中央部から南部にかけて重複無く散在していた。定型的な形態、黒色で締まった埋没土、比較的多くの縄文土器が埋没土中から出土したこと等を考慮し、縄文時代の遺構と判断した。出土した土器型式は概ね諸磯b式・c式で、6号・10号・19号土坑では黒浜式、11号土坑では五領ヶ台式土器も出土している。

後者の土坑は、12～15号、17・19号、22・29・30号土坑の9基である。分布はA区北部に限定される。縄文土器や石器が出土しているが、埋没土が暗色土あるいは暗褐色土で、底面が不定型なものがある。1号・2号土坑のように埋没土下半部に暗色土が堆積していることからすれば、楕円形を呈する12～15号、30号土坑は下半部のみの残存と推定することも可能である。30号土坑には、東関東地域に分布する興津式土器破片が出土しており、諸磯b式期

の交流を示す遺物としても注目されるが、後者の土坑の出土遺物は概ね少量であることから縄文時代の遺構と判断するのは困難である。

いずれの土坑も、その性格を特定できる遺物は出土しなかった。以下、各土坑の特徴や出土遺物について概略をまとめる。

A区1号土坑はA区南端部で検出された円形土坑である。出土土器は諸磯b式が主体で出土している。2点を資料化した(第13図)。

A区2号土坑はA区南部で検出された円形土坑である。諸磯b式土器が主体的に出土しているが細片である。珪質頁岩の削器(3/第13図)、黒曜石の加工痕ある剥片が埋没土中から出土した。

A区3号土坑はA区南部で検出された円形の土坑である。遺物が最も多く出土した。埋没土中位から大波状口縁波頂部の破片(1a～d/第13図)等が出土した。また、石匙1点(15/第13図)、加工痕ある剥片4点(16他)、打製石斧1点(17)、凹石1点(18)、硬質泥岩の剥片2点、黒曜石剥片20点、チャート剥片1点、変玄武岩の礫片1点、珪質頁岩の礫1点が出土している。

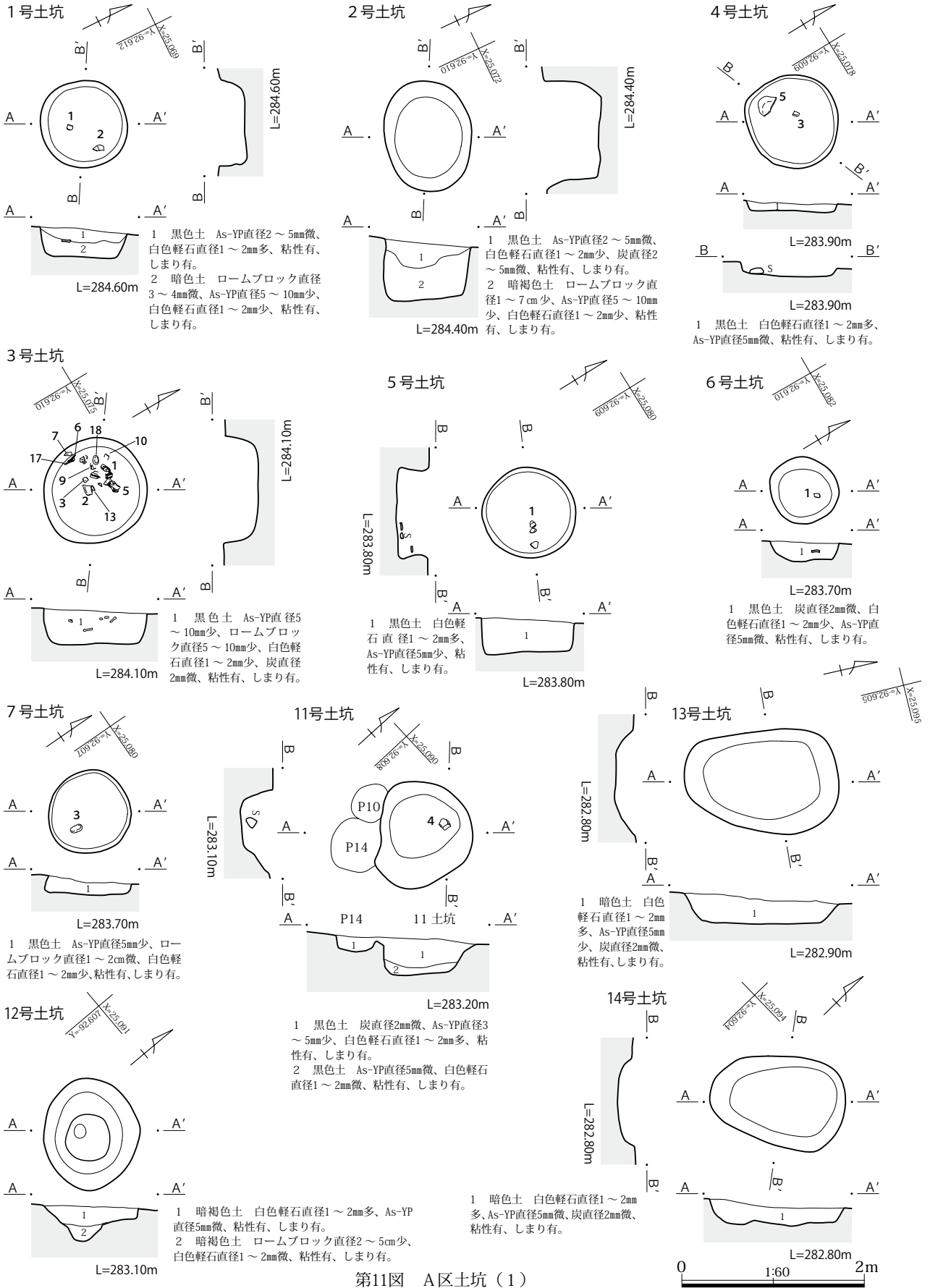
A区4号土坑はA区南半部で検出された円形の土坑である。出土した土器は諸磯b式とc式であるが、やや量の多い諸磯c式3点を図示した(1～3/第14図)。砂岩の加工痕ある剥片(4)が埋没土中から、粗粒輝石安山岩の台石(5)が底面上3cmで出土している。

A区5号土坑はA区南半部で検出された円形土坑で断面はやや袋状を呈する。中央部やや東寄り底面上3cmで諸磯c式土器体部破片1点(1/第14図)が出土した。黒曜石製の石鏃(2/第14図)も埋没土中から出土した。

A区6号土坑はA区中央部で検出された小型の円形土坑である。黒浜式土器と諸磯b式土器が出土した。土坑の時期は諸磯b式段階と推定される。

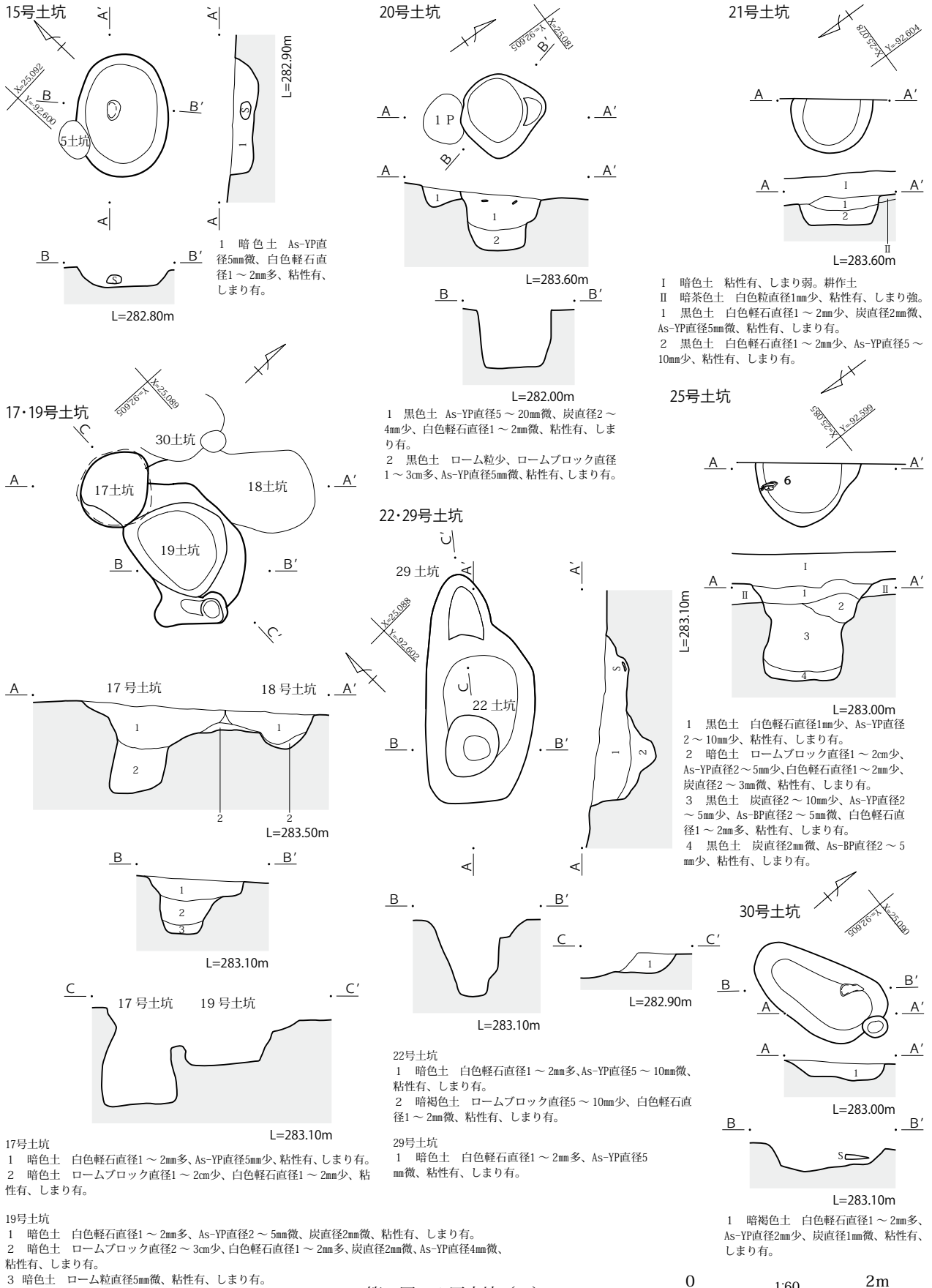
A区7号土坑はA区中央部で検出された円形土坑である。細片ながら諸磯c式主体の土器が出土した。埋没土中から黒曜石の石核が、底面から16cm浮いた

第3章 検出された遺構と遺物



第11図 A区土坑(1)

2. A区の遺構と遺物



第12図 A区土坑(2)

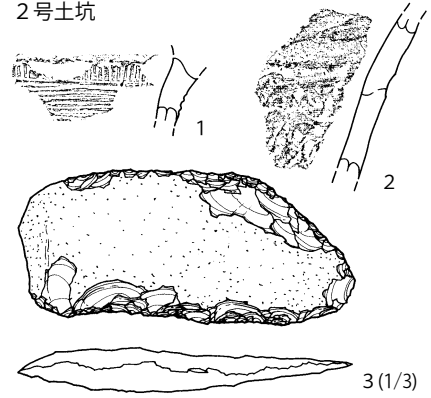
第3章 検出された遺構と遺物

1号土坑

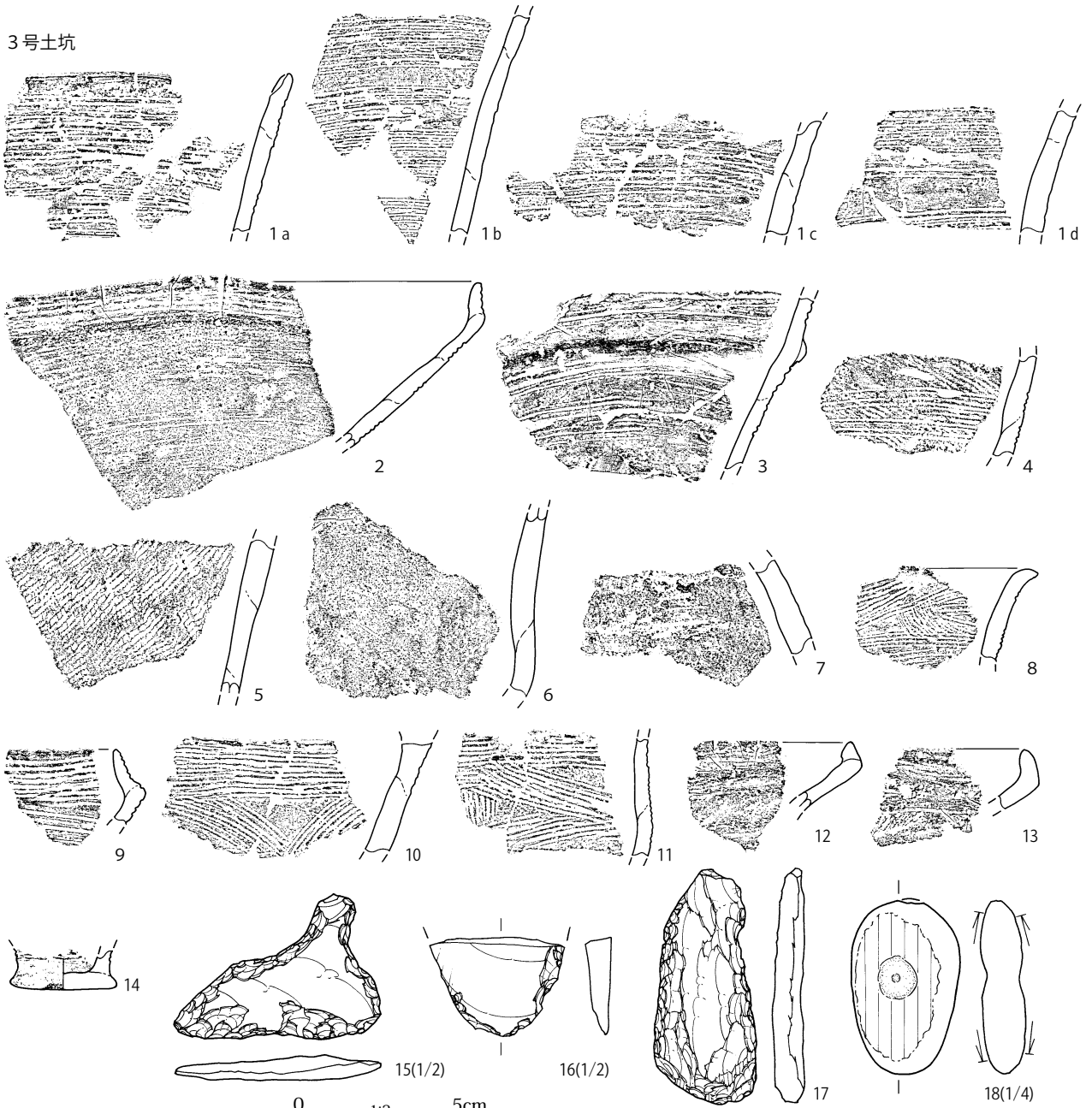


0 1:3 10cm

2号土坑



3号土坑

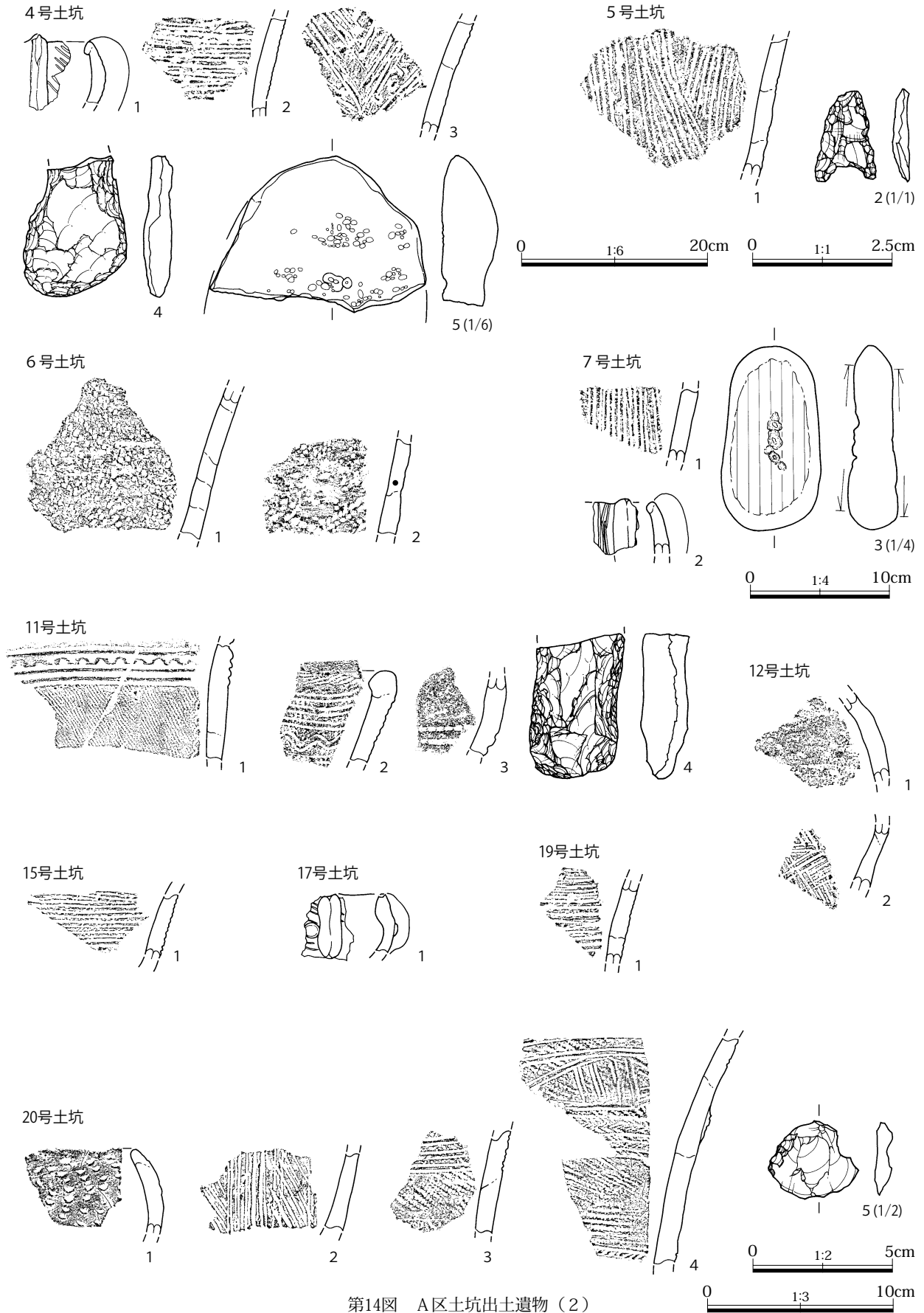


0 1:2 5cm

0 1:4 10cm

第13図 A区土坑出土遺物(1)

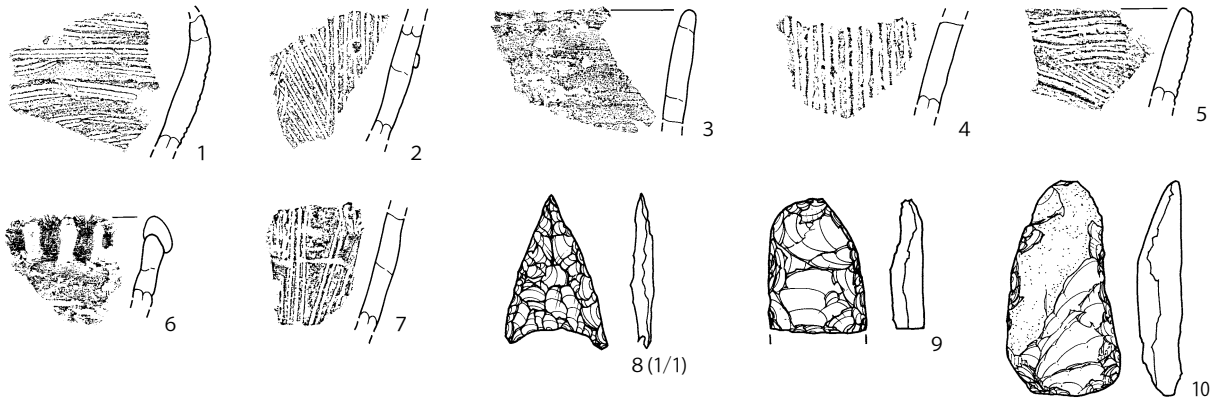
2. A区の遺構と遺物



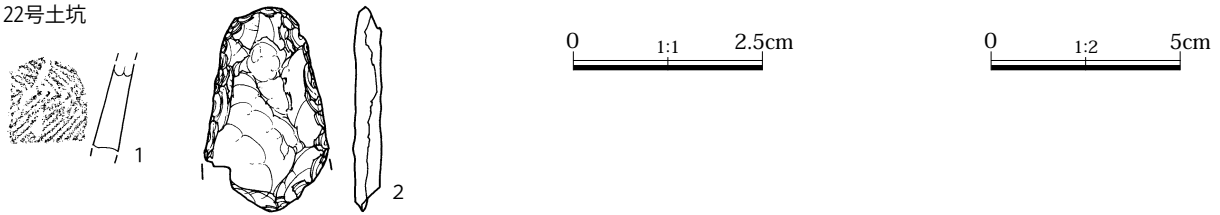
第14図 A区土坑出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

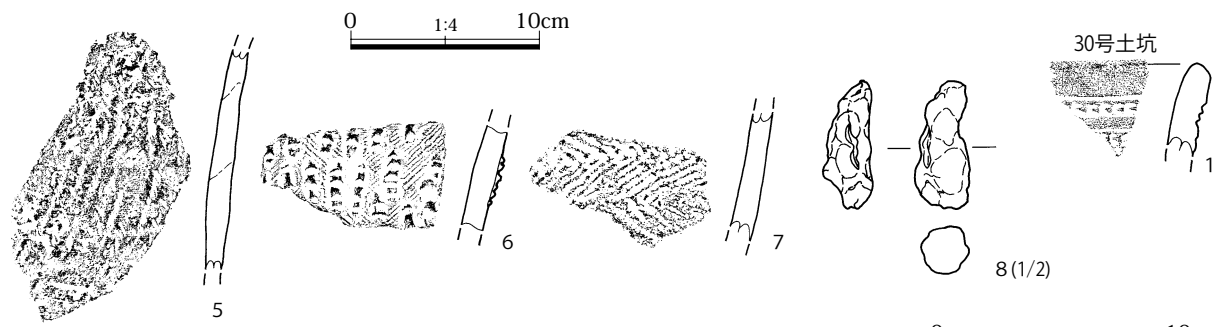
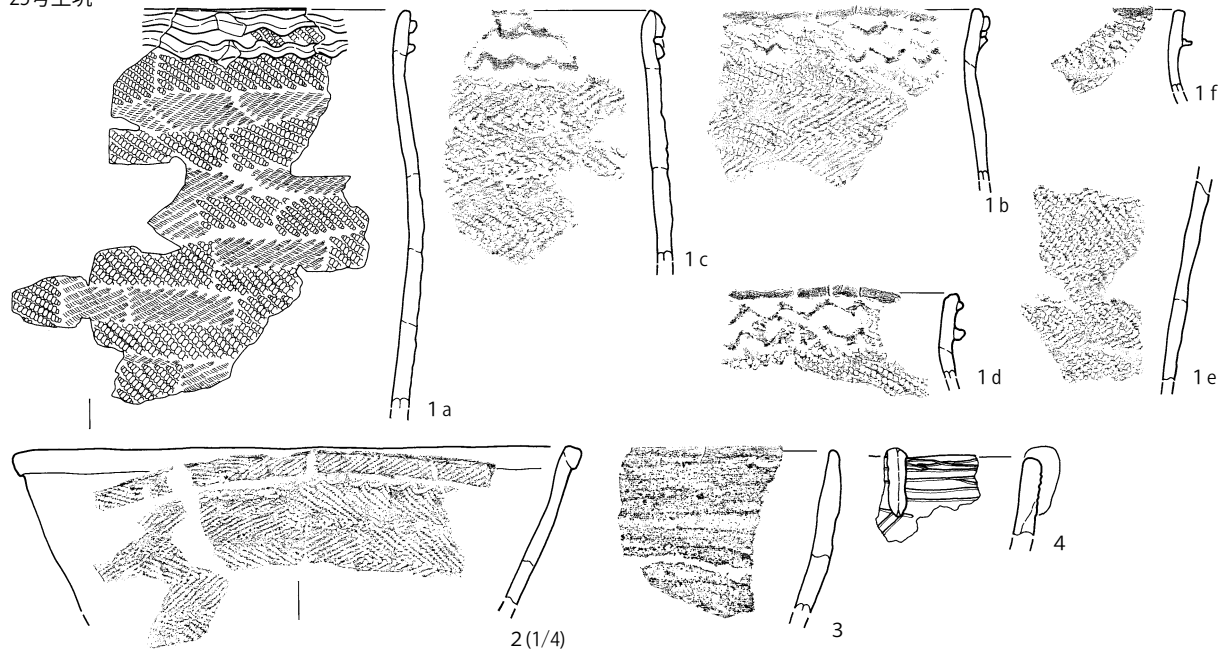
21号土坑



22号土坑



25号土坑



第15図 A区土坑出土遺物(3)

2. A区の遺構と遺物

状態で変質安山岩の凹石(3/第14図)が出土している。

A区11号土坑はA区北半部で検出された不整形の土坑である。五領ヶ台式土器が主体的に出土しており、当該期の土坑と考えられる。埋没土中から硬質泥岩の打製石斧(4/第14図)が出土している。

A区12号土坑はA区北半部で検出された円形土坑であるが断面がすり鉢状で他の土坑と形状がやや異なる。埋没土は他の楕円形土坑と同様であった。諸磯c式土器が1点と無文土器が出土している。土坑の時期は諸磯c式期と考えておきたい。

A区13号・14号土坑はA区北端部で検出されたやや大型の楕円形土坑である。14号土坑から型式不明の破片が4点出土しているのみであることから、時期を推定するのは困難である。

A区15号、17号土坑はA区北端部土坑集中部で検出された。15号土坑は楕円形、17号土坑は不整形であるが断面袋状である。それぞれ諸磯b式、諸磯c式土器が1点出土しているが、土坑の時期は不明と言わざるを得ない。17号土坑埋没土中からは黒曜石の加工痕ある剥片が2点出土した。

A区19号土坑もA区北端部土坑集中部で検出された。周辺部の掘り込みが著しく、平面形は不定型であるが、下半部は筒状の定型的な形態を残している。黒浜式と諸磯b式土器が出土しているが、土坑の時期は不明である。

A区20号土坑はA区中央部で検出された楕円形の土坑である。諸磯b式が主体的に出土している。土坑の時期は諸磯b式期と推定される。諸磯c式併行の口縁部破片(1/第14図)は東関東系の可能性があり注目される。

A区21号土坑はA区中央部で検出された。東半部が調査できなかったが円形と推定される。諸磯c式土器が主体的に出土している。本土坑からは埋没土中から打製石斧3点(9・10他/第15図)、黒曜石製の石鏃(8)が出土している。

A区22号土坑はA区北部で検出された不整形楕円形の土坑である。諸磯b式の羽状縄文の土器が出土し

ているが、土坑の時期は不明と言わざるを得ない。埋没土中から硬質泥岩の打製石斧(2/第15図)が出土している。

A区25号土坑はA区北部東端部で検出された円形で断面袋状の土坑である。諸磯c式と前期末土器群の両者が出土しているが、前期末土器群の方が大型破片である。土坑の時期も前期末葉と考えたい。指頭圧痕がある粘土塊(8/第15図)は埋没土中から出土した。石器類は剥片・礫・礫片が出土したのみで、石器は出土しなかった。

A区30号土坑はA区北端部土坑集中部で検出された楕円形の土坑である。諸磯b式土器と興津式と思われる小破片(1/第15図)が出土した。土坑の時期は不明である。

(2)ピット

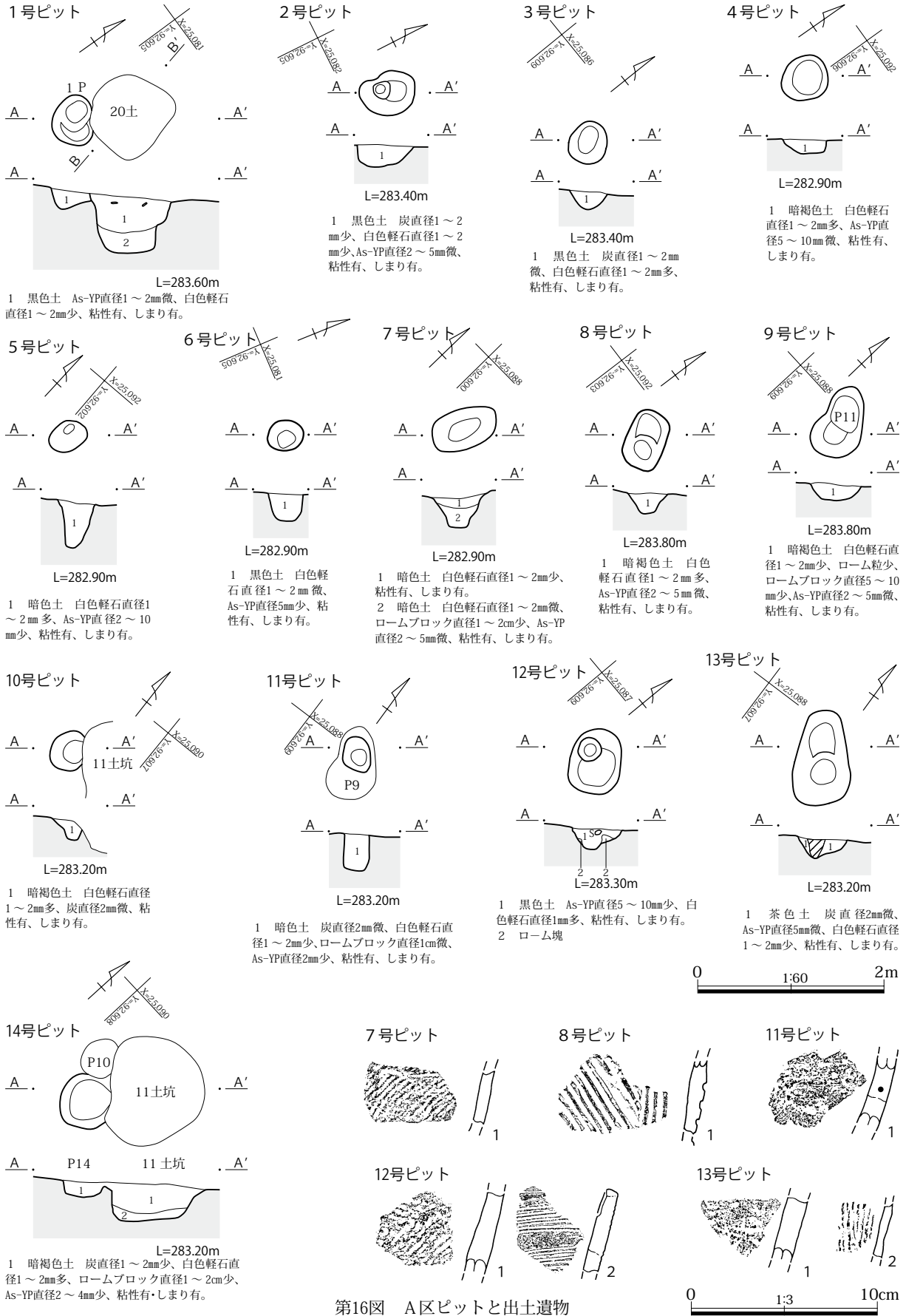
(第16図 PL.5・6・30 遺物観察表P.103・112)

A区で検出されたピットは14基である。形状は円形あるいは楕円形で、浅いピットが多い。それぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4・5表にまとめた。

これらのピットの分布はA区の北半部に偏り、中央部にある1号・2号・6号ピット以外は北部に集中していた。特に集中部は弧を描いて並ぶような分布状況であり、何らかの構造物の柱穴の可能性もあるが、調査では詳細を明らかにすることはできなかった。

ピットの出土遺物は少なかった。5号・6号ピットで諸磯c式土器、7号・8号ピットで縄文時代前期末の土器が出土している。また、11号ピットで時期不明の土器破片、12号ピットで黒浜式土器、諸磯b式土器と阿玉台I a式土器、13号ピットで黒浜式土器、諸磯b式土器、14号ピットから黒浜式土器、諸磯c式土器が出土しているが、いずれも遺構の時期を決めるのは躊躇される遺物量である。ここでは時期不明としておきたい。

第3章 検出された遺構と遺物



第16図 A区ピットと出土遺物

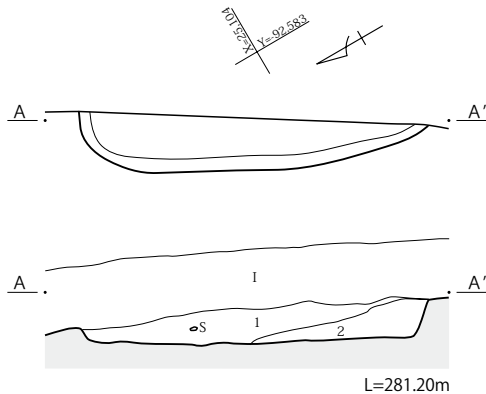
3. B区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居

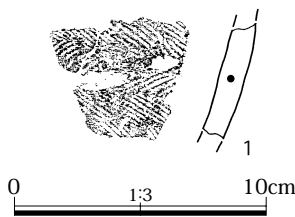
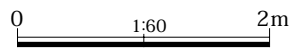
B区1号住居(第17図 PL.7・30 遺物観察表P.103)

B-1区北東部に1号住居が検出された。東側は既存道路で調査できなかったため、西壁周辺のみを検出である。狭い範囲の調査であり、規模は不明と言わざるを得ないが、西壁長は現状で2.80mである。北西隅の形状から隅丸方形と推定される。残存壁高は0.35mである。埋没土は白色軽石を含む黒色土および暗褐色土である。調査できた範囲の床面は平坦で硬く締まっていた。

出土遺物は黒浜式土器1点(1/第17図)のみで、時期を決める資料に乏しい。東側のC区住居群(2号・3号・5号住居)も黒浜式期であり、本住居も同様な時期と推定しておきたい。



1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~10mm少、粘性有、しまり有。
2 暗褐色土 ローム粒少、白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、ロームブロック直径1cm少、粘性有、しまり有。



第17図 B区1号住居と出土遺物

(2) 土坑

(第19図 PL.7・8・30 遺物観察表P.103・112)

B区では4基の土坑が検出された。B-1区で2基、B-2区で2基が散在していた。それぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4・5表にまとめた。

B-1区の2基は楕円形で、3号土坑の底面はボール状である。埋没土が暗色土あるいは暗褐色土であり、いずれも出土遺物がないことから、時期は不明である。

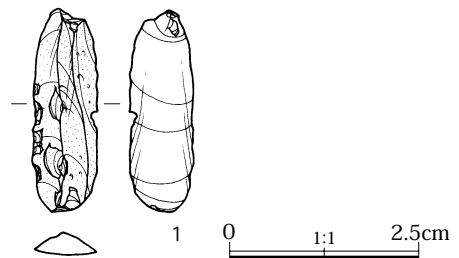
B-2区の2基は円形で、4号土坑は断面筒状、5号土坑は袋状である。B区の北東に隣接するD区の土坑群の分布に連なると推定される。4号土坑は出土土器から諸磯b式期の遺構と推定される。硬質泥岩製の打製石斧1点(5/第19図)と黒曜石の石核1点が出土した。5号土坑からは縄文土器16点が出土しているが、黒浜式1点、諸磯a式1点、諸磯c式3点、前期末の破片10点のほか、早期条痕文の土器が1点(1/第19図)出土しており、時期を推定しにくい。前期末の土坑と考えておきたい。石器も珪質頁岩(7)と黒曜石(6)の加工痕ある剥片、デイサイトの凹石(8)、黒曜石の剥片1点が出土している。

(3) 旧石器

(第18図 PL.8・30 遺物観察表P.112)

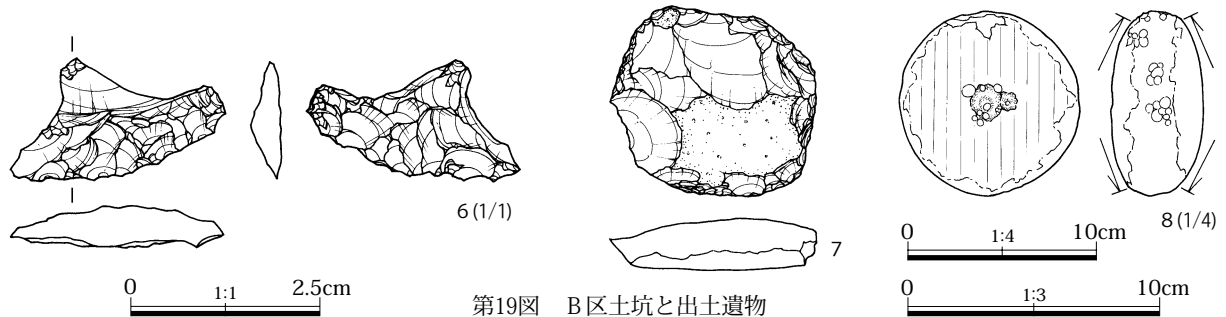
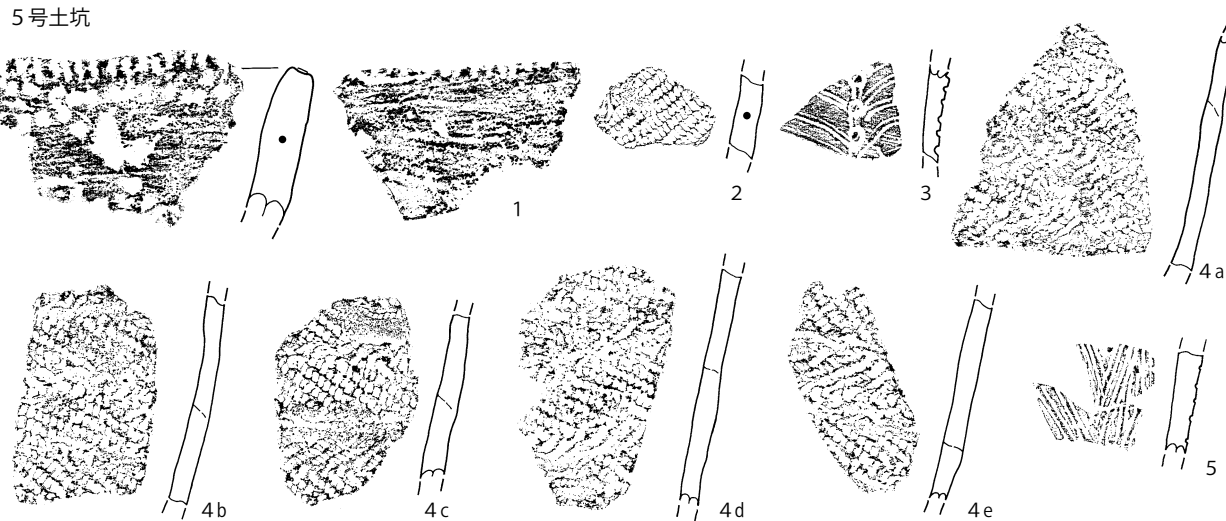
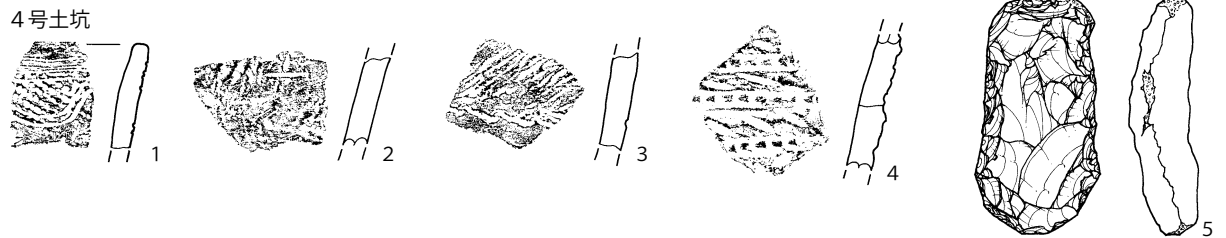
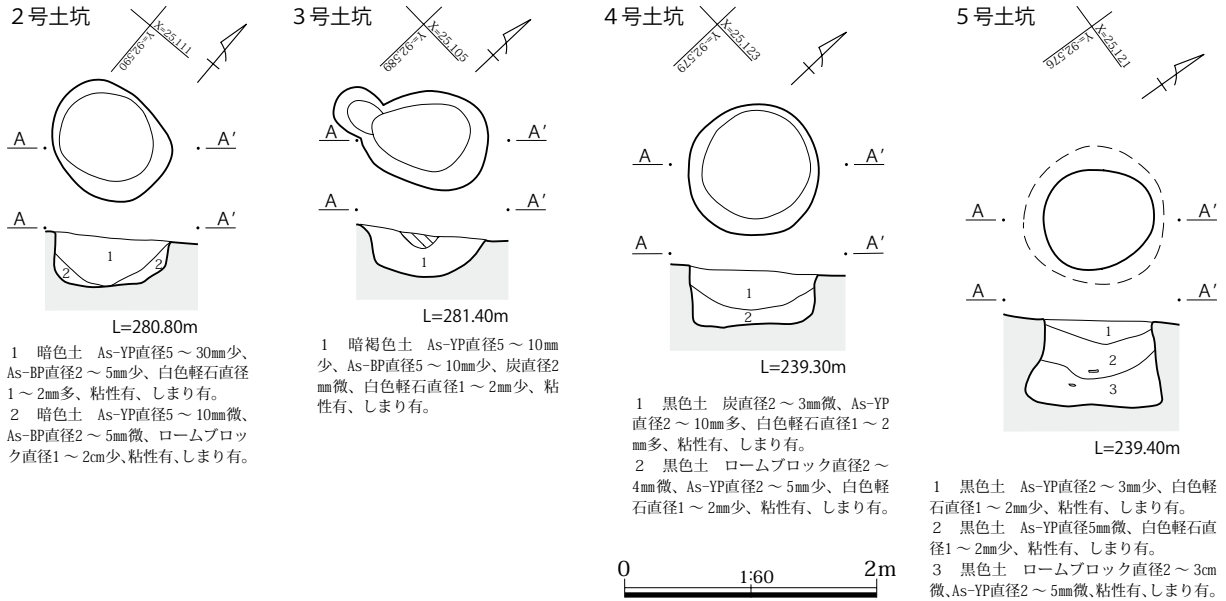
B-1区の第6試掘トレンチのAs-YPを含むローム層中から、黒曜石の剥片1点が出土した。周辺を幅2mずつ拡張して掘り下げたが、この剥片以外の旧石器を確認することはできなかった。

剥片は発掘調査時には細石刃との見方もあったが、詳細な観察の結果、剥片とすべきと判断した。



第18図 B区出土の旧石器

第3章 検出された遺構と遺物



第19図 B区土坑と出土遺物

4. C区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居

C区1a号住居(第20～29図 PL.9・10・31～35 遺物観察表P.103～105・112)

C区1a号住居は、C区の南東隅に位置する。南東壁は発掘区域外になったことから、可能な範囲内で拡張して調査した。しかし、攪乱によって壊されており、住居南東壁は確認できなかった。残存している3方の壁の形状から、4本主柱穴の隅丸方形の竪穴住居であることは確定的である。

規模は、長軸3.40m以上、短軸3.84mで、残存壁高は0.4m、北西壁方位はN-40° -Eであった。楕円形を呈する1b号住居の上層につくられていた。周辺には2号、3号、12・14号、13号土坑が重複していた。2号、3号土坑は埋没土の観察から本住居より古いと判断した。12号土坑は本住居P1より新しいことが確認されていることから、14号土坑は12号土坑より新しいことから、いずれも本住居より新しい。13号土坑は埋没土の観察より住居より古いことが判明している。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む硬く締まった黒色土である。柱穴は4本主柱穴で、検出された3本の主柱穴の規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.38×0.28×0.67m)、P2(0.53×0.37×0.62m)、P3(0.37×0.35×0.47m)、P4(0.35×0.29×0.5m)である。このほかに床面で5～6基のピットを検出したが、1a号住居よりやや底面高が高いこと、位置関係が住居平面形と合致しないことから、下層の1b号住居の柱穴と判断した。

炉は検出されなかった。検出された3方の壁には周溝が検出された。幅は10～15cm、深さは床面から6～8cmである。主柱穴のP1とP2を結んだ線と北東壁が交わる地点で周溝が途切れていた。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。

出土遺物は全体で土器1328点、石器・石片は187点である。土器の型式内訳は関山式・黒浜式148点、

諸磯a式53点、諸磯b式が1035点、諸磯c式が12点、不明77点と陶器3点である。このうち、109点の縄文土器を図化・掲載した(第22～29図)。出土土器は、関山Ⅱ式・黒浜式・諸磯a・b・c式と時期幅が広い。主体となるのは諸磯b式古段階で、先行する1b号住居とともに1a号住居もこの段階と考えられる。

石器は、打製石斧2点、石鏃2点、削器2点、石匙1点、石錐1点、楔形石器1点、石核6点、加工痕ある剥片3点、使用痕ある剥片1点、凹石2点、石皿1点、黒曜石の原石1点、剥片類96点、礫・礫片68点、総数187点が出土した。このうち12点を図化・報告した(第28・29図)。

6点が出土した石核の石材は黒曜石4点、珪質頁岩2点である。このうち珪質頁岩の1点は床面直上で出土している。黒曜石の石核4点は埋没土中からの出土である。また、重さ23.9gの黒曜石原石が埋没土中から、213.3gの原石(135/第29図)が北西壁沿いの周溝内から出土した。

出土土器から、諸磯b式期の住居と考えられる。

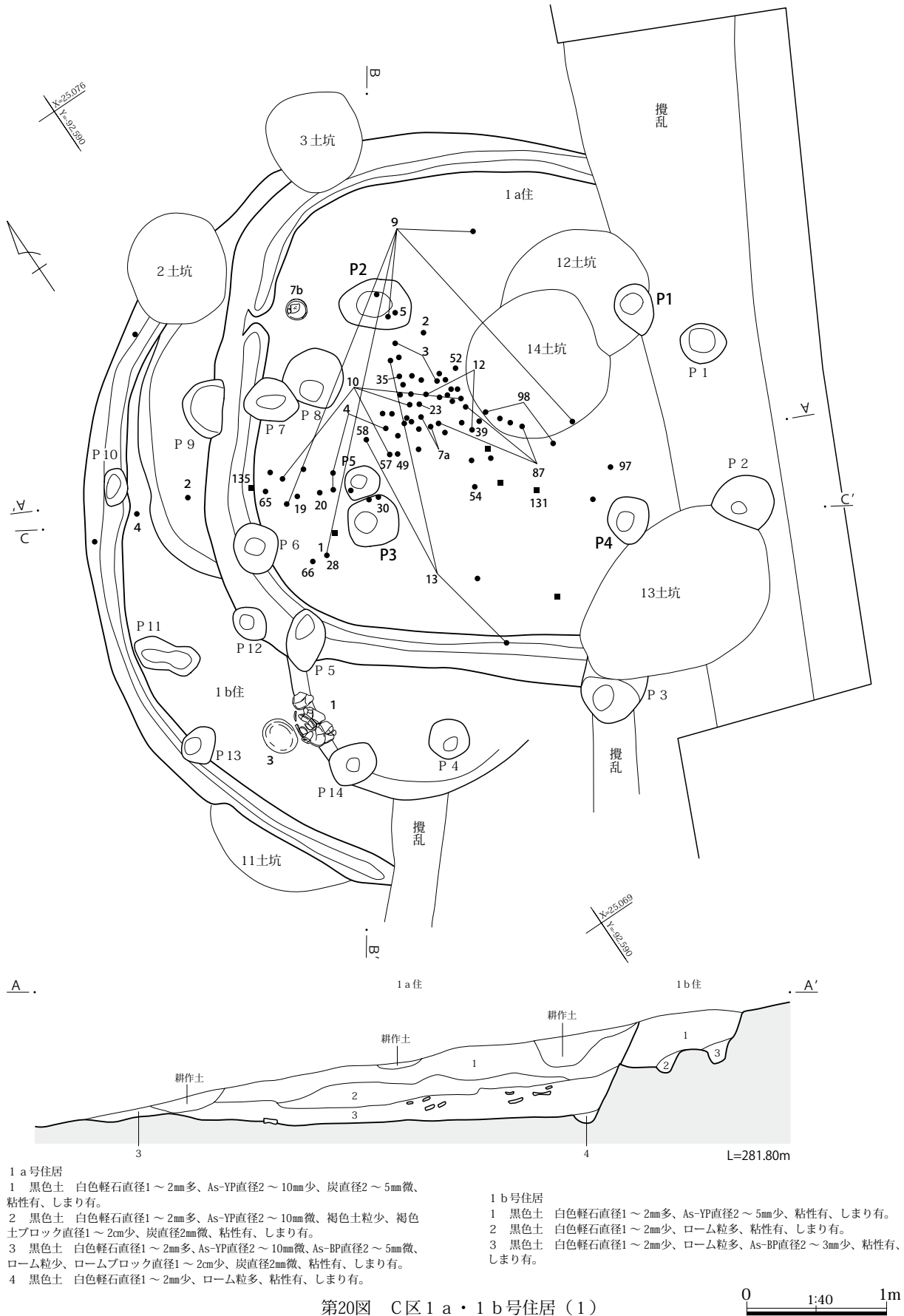
C区1b号住居(第20・21・29図 PL.10・35 遺物観察表P.105・112・113)

C区1b号住居は、C区の南東隅にある。1a号住居と重複して検出された。中央部を1a号住居、南東部から南部の壁を攪乱によって壊されているために西部の壁と床面が検出されたにとどまった。しかし、柱穴の基部が1a号住居の床面より深かったことから、柱配列が復元でき、楕円形の住居形態を想定した。

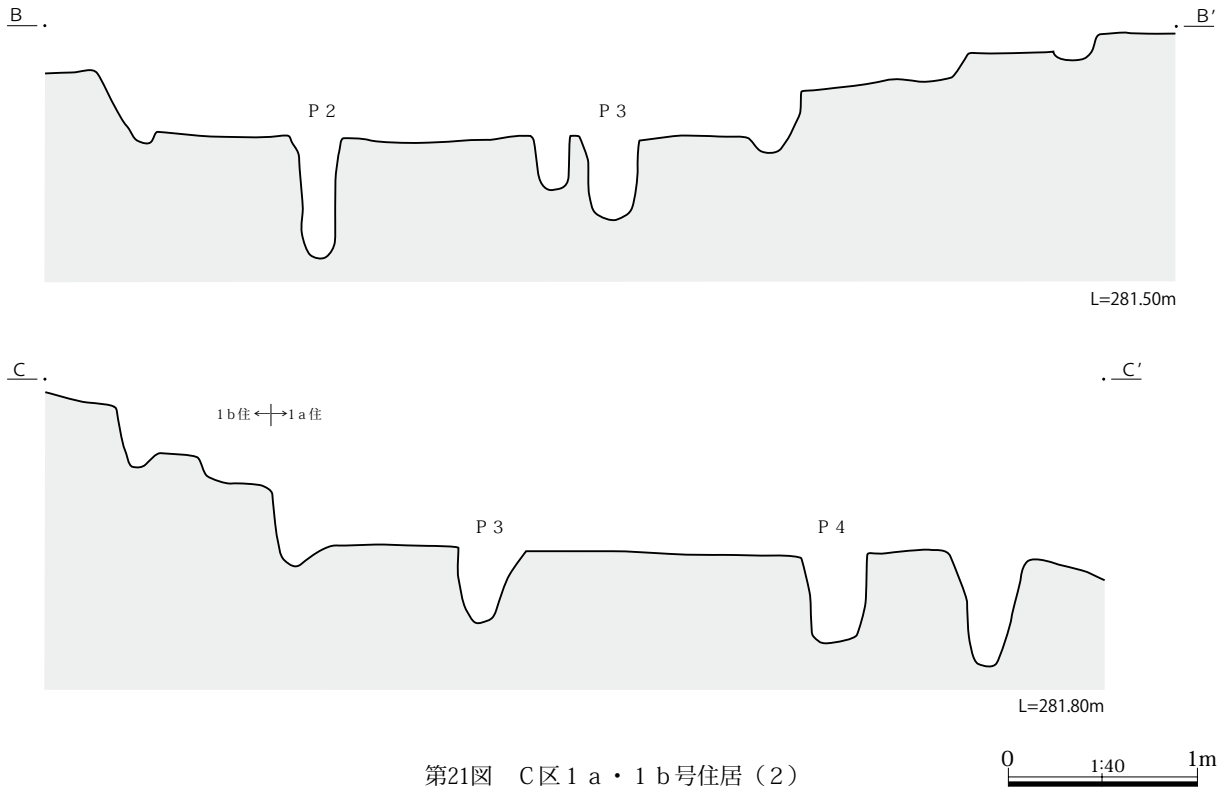
復元された住居の規模は、長径4.40m、短径3.60mで、残存壁高は0.33m、長軸方位は不明である。周辺には2号、3号、12・14号、13号土坑が重複していたが、2号・3号土坑は本住居より新しく、1a号住居より古い12～14号土坑との新旧関係は不明と言わざるを得ない。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む硬く締まった黒色土である。柱穴は4本主柱穴で、検出された柱穴は8本で、北西部のP7・

第3章 検出された遺構と遺物



4. C区の遺構と遺物



第21図 C区1a・1b号住居(2)

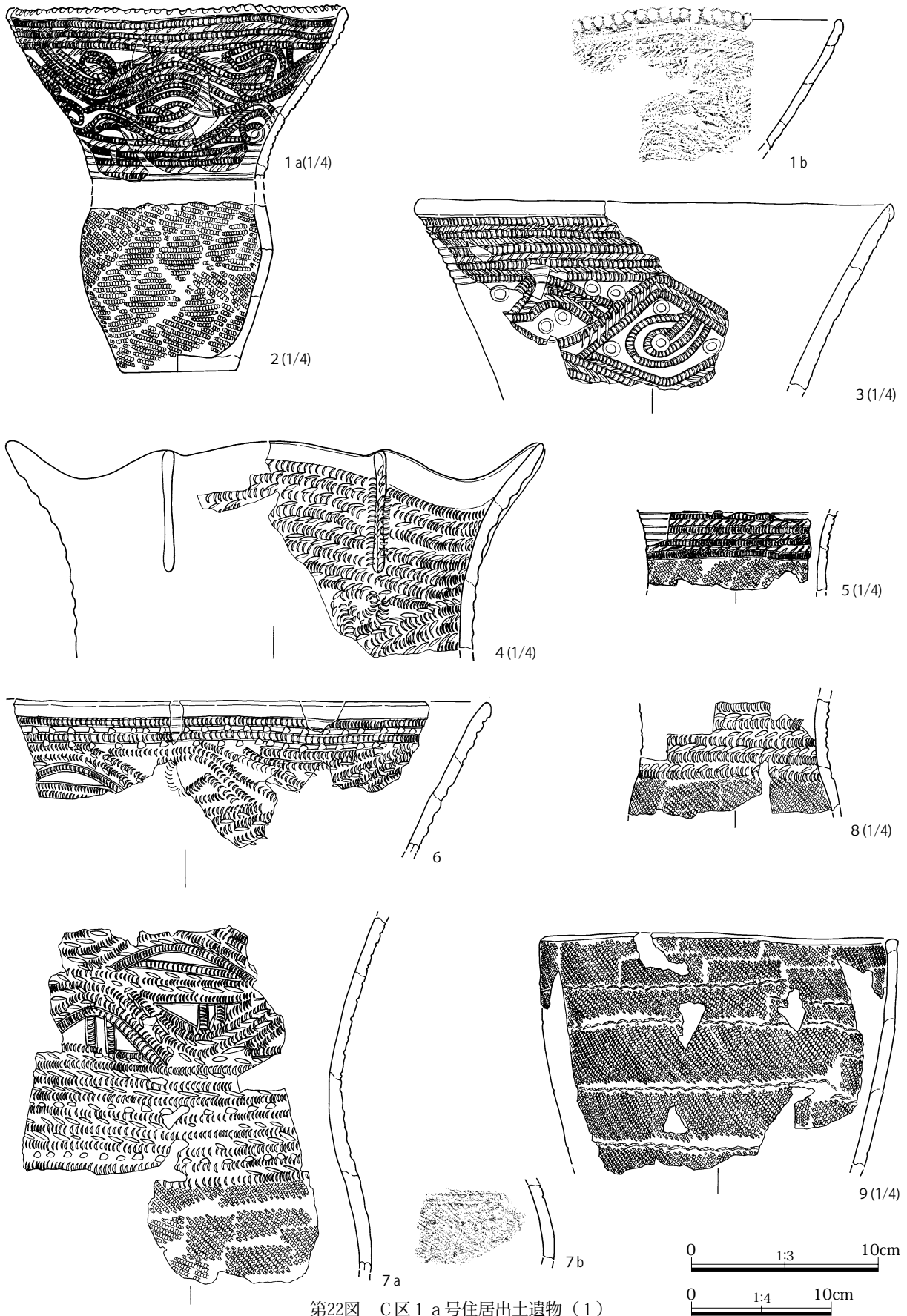
P 8が近接していた他は、4～8mの間隔で楕円形に並んでいた。P 1とP 8の間に柱穴1本が想定されるが、調査では検出できなかった。柱穴の規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1(0.33×0.29×0.35m)、P 2(0.45×0.37×0.33m)、P 3(0.44×0.32×0.75m)、P 4(0.29×0.29×0.39m)、P 5(0.45×0.29×0.58m)、P 6(0.37×0.32×0.41m)、P 7(0.40×0.32×0.21m)、P 8(0.42×0.40×0.25m)である。東側の柱穴の深さが浅い計測値になっているが、これは1a号住居床面からの計測値であるためである。底面標高はP 1が280.54m、P 2が280.26m、P 3が280.46m、P 4が280.82m、P 5が280.82m、P 6が280.50m、P 7が280.68m、P 9が280.65mである。このほかに西壁沿いでピットを検出しているが、底面標高が281m以上の浅いもので柱穴とはいえない。これらのピットの規模は第6表に掲げた。

炉は検出されなかった。検出された西壁には周溝が検出された。幅は10～15cm、深さは床面から2～6cmである。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。P 4とP 5の間には直径1.8m、

深さ0.19mの半円状の落ち込みが、P 6とP 7やや北側に直径2m、深さ0.12mの弧状の落ち込みが検出された。これらは重複する別遺構の可能性もあったが、落ち込みの段以外に埋没土の相違も認められなかったことから、同遺構内の施設と考えた。P 5南西部の落ち込み縁部で出土した浅鉢(1/第29図)はやや古手の様相を示す土器であり、このことから1b号住居より新しい遺構の存在は考えにくい。

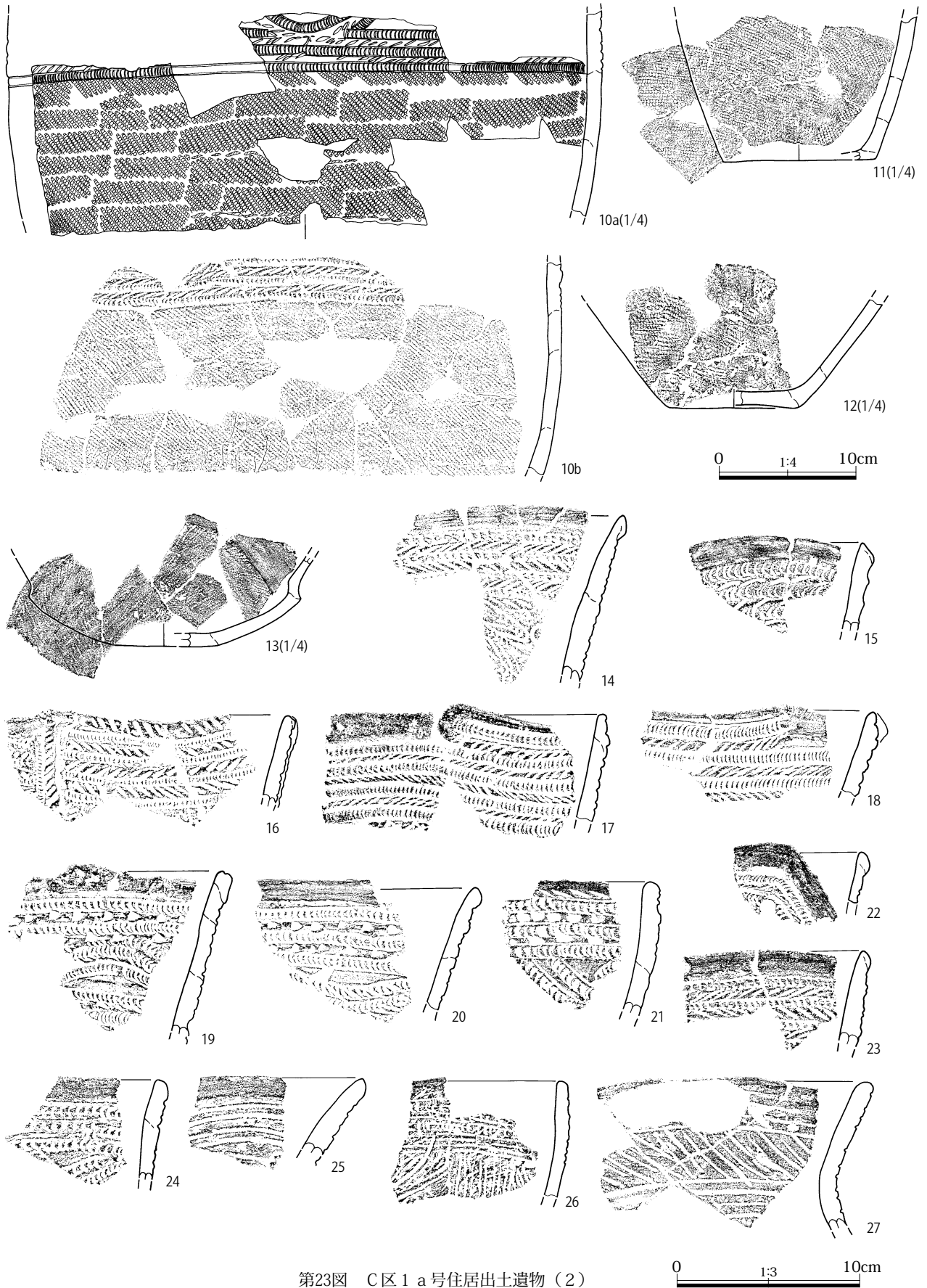
1b号住居の遺物として確実に取りあげた遺物は、土器が7点、石器が8点のみである。出土土器の型式内訳は諸磯b式が6点、不明1点であり、主体となるのは1a号住居と同様に諸磯b式古段階である。石器は、石皿(3/第29図)が西壁沿い床面直上で、磨製石斧(4/第29図)が北西壁際床面上10cmで、黒曜石剥片が北壁際床面直上と浅鉢の埋没土中から出土している。

1a号住居に壊された部分が大きく、全体像は復元・想定域を出ないが、諸磯b式のなかでの重複関係ととらえられる。



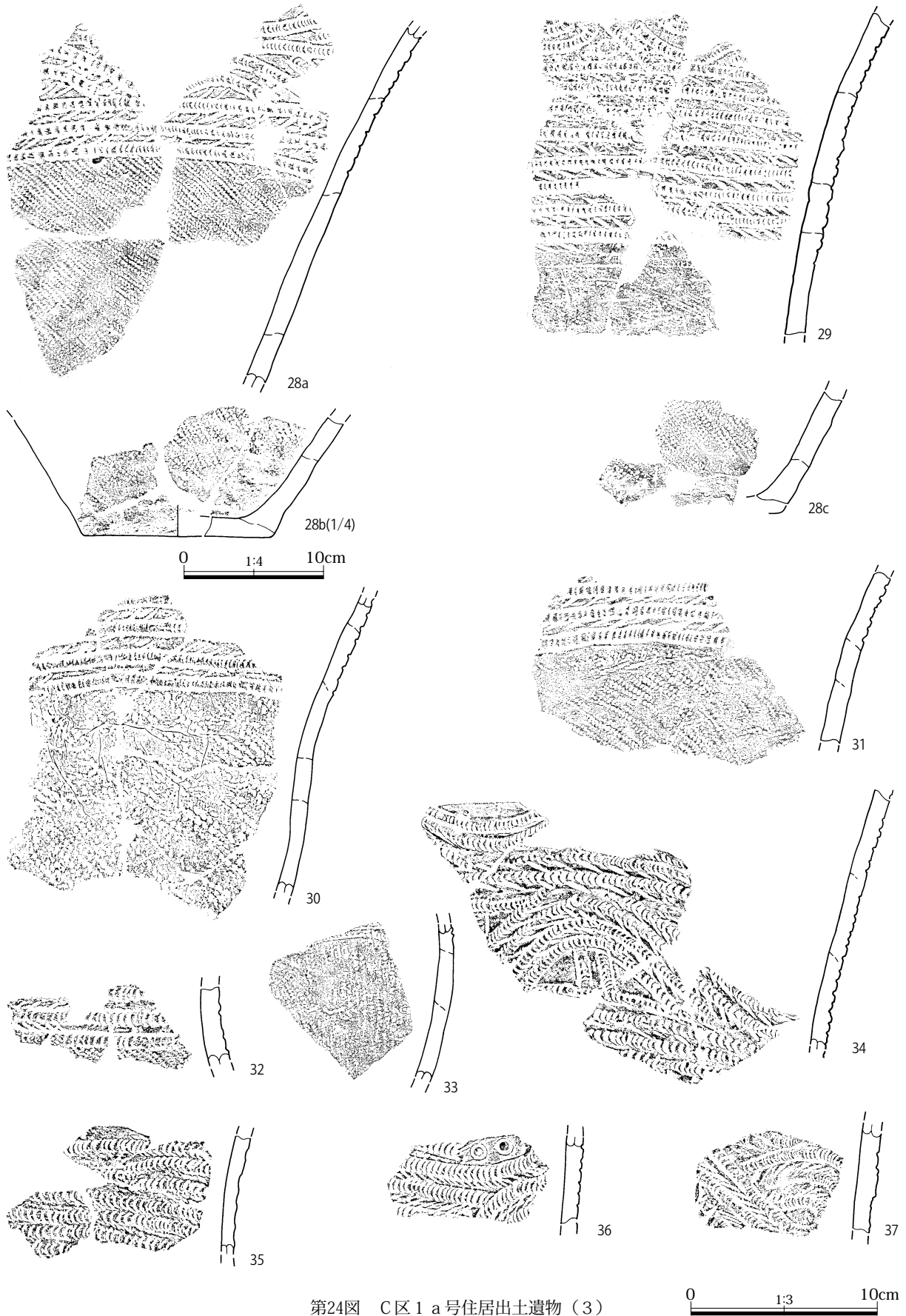
第22図 C区1a号住居出土遺物(1)

4. C区の遺構と遺物



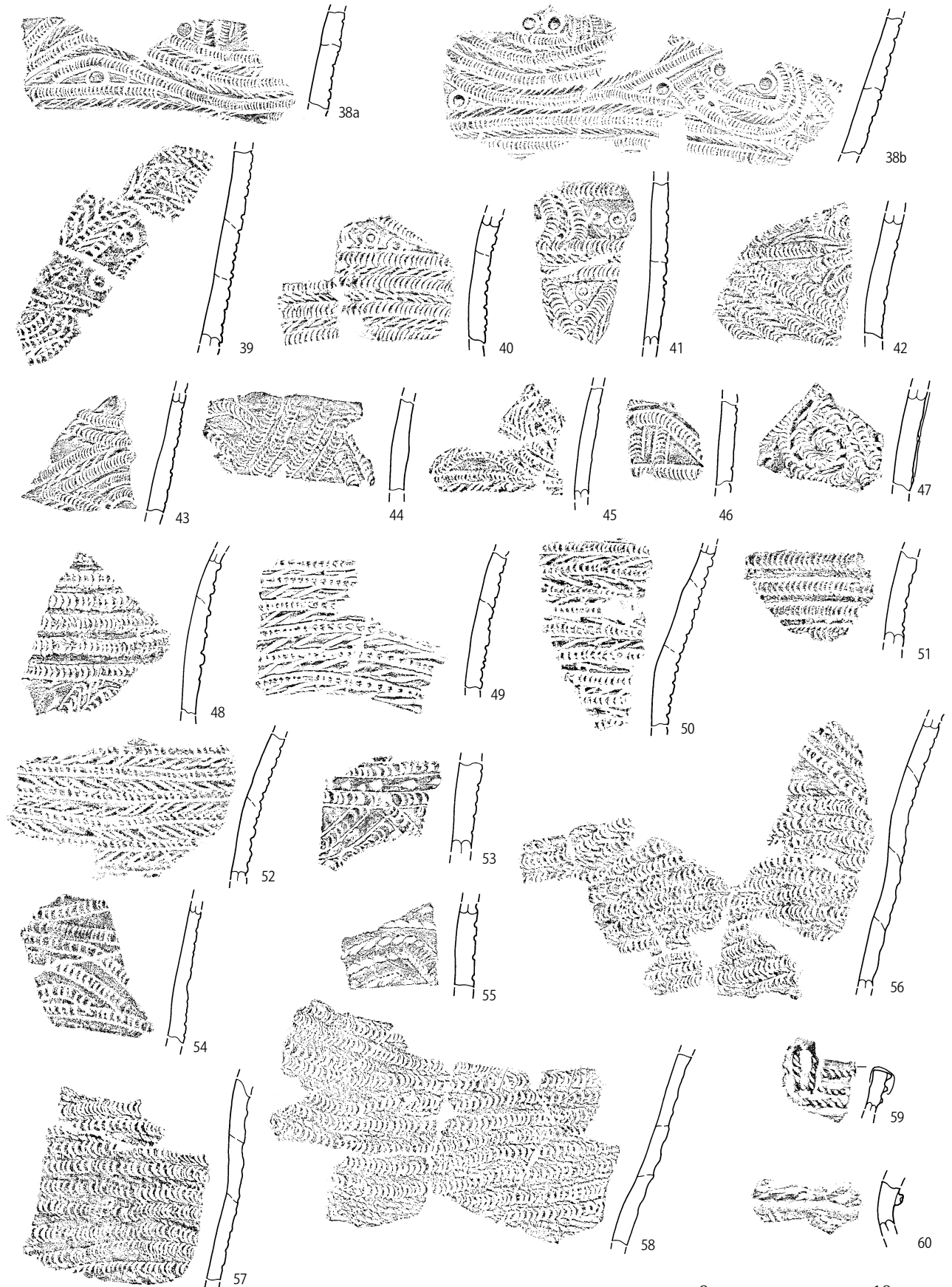
第23図 C区1a号住居出土遺物(2)

0 1:3 10cm



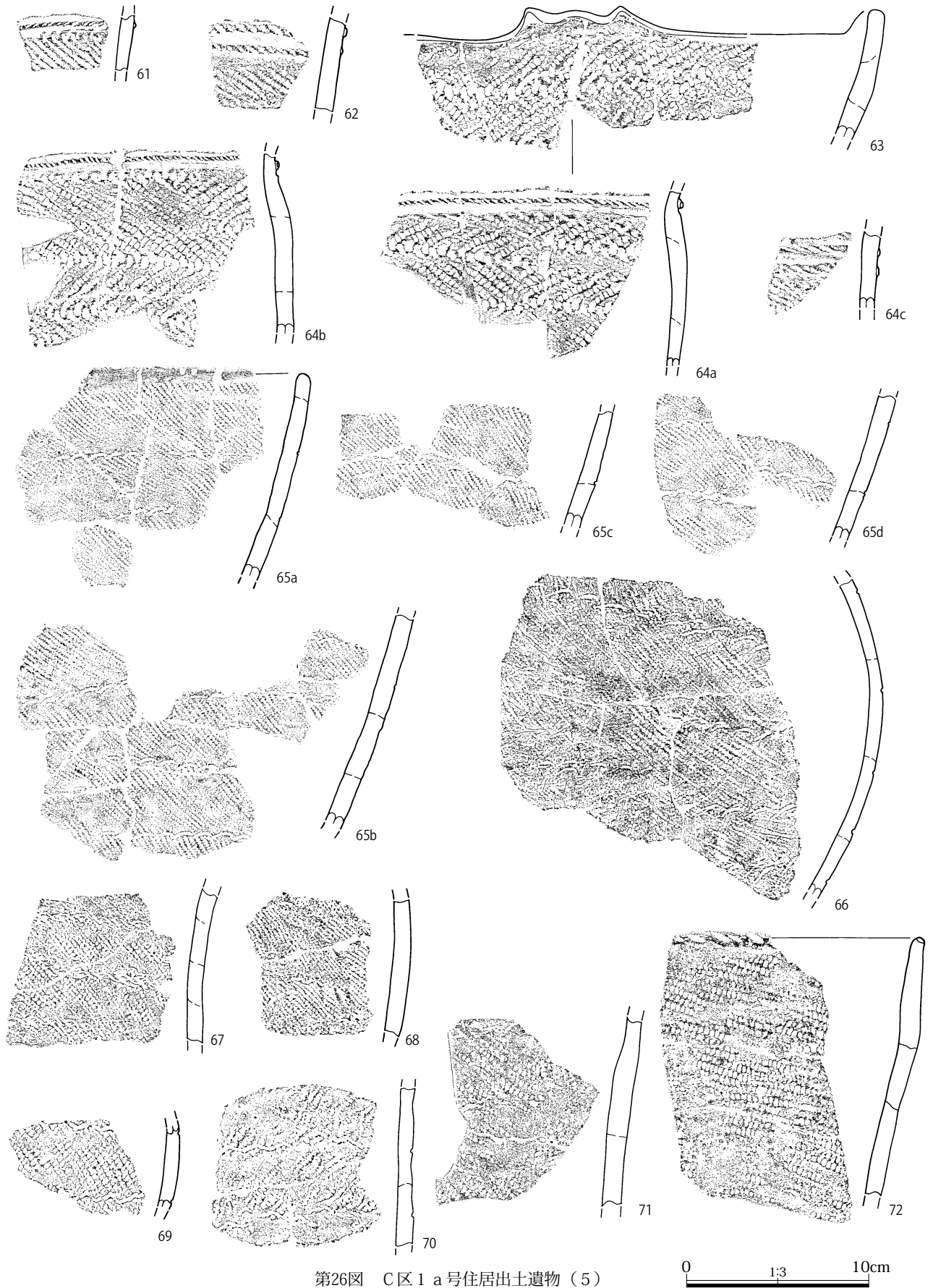
第24図 C区1a号住居出土遺物(3)

4. C区の遺構と遺物



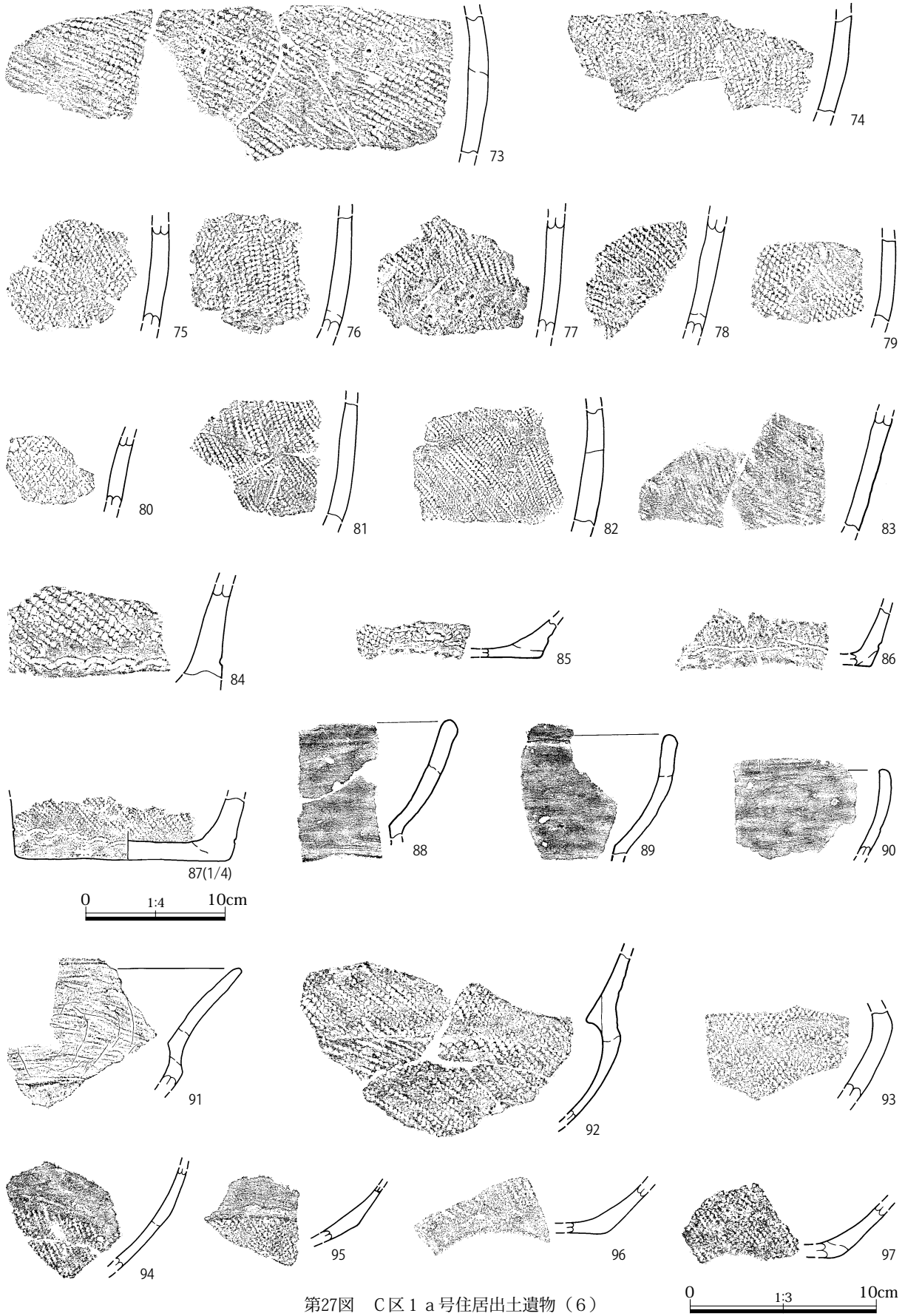
第25図 C区1 a号住居出土遺物(4)

0 1:3 10cm



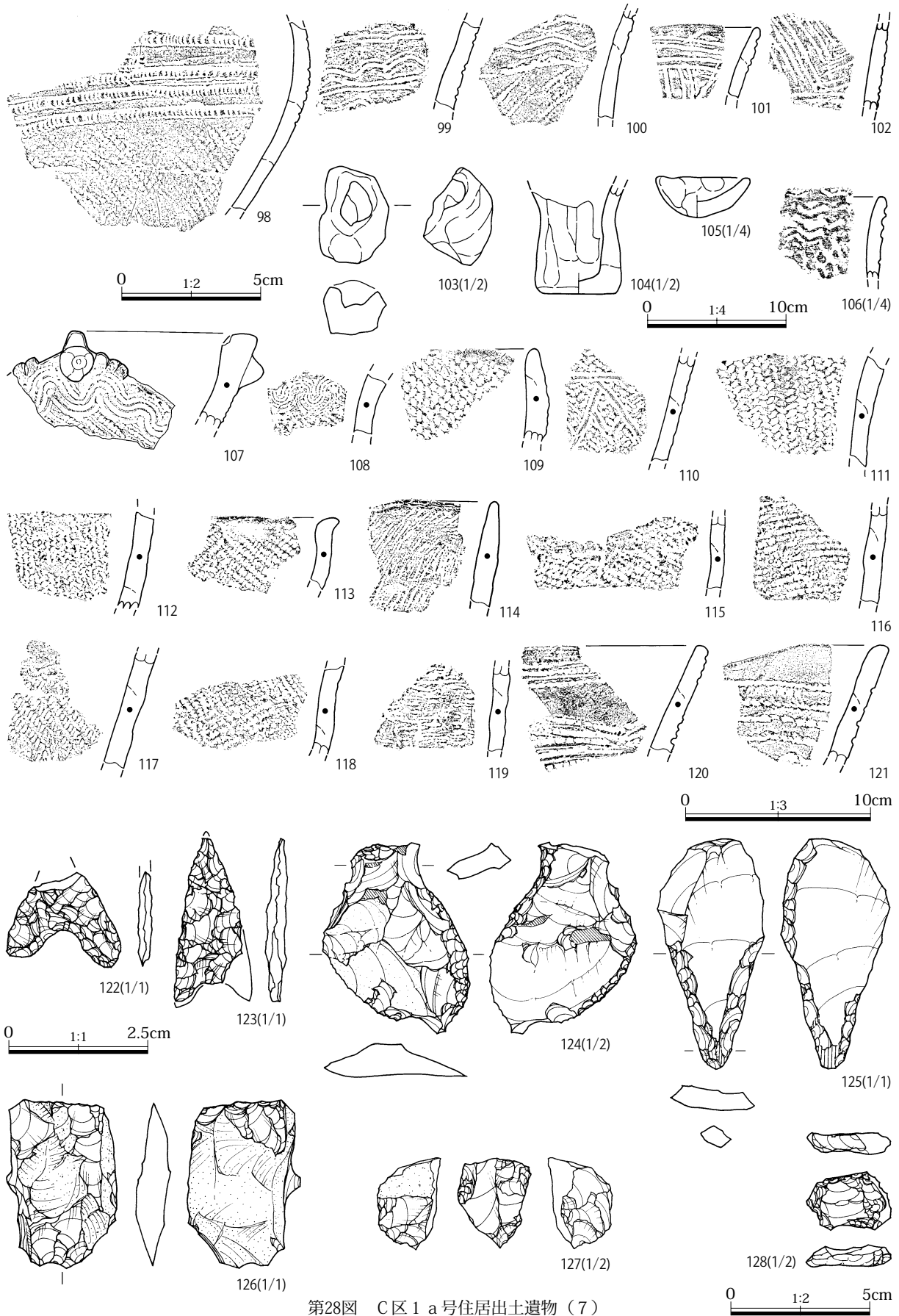
第26図 C区1a号住居出土遺物(5)

4. C区の遺構と遺物



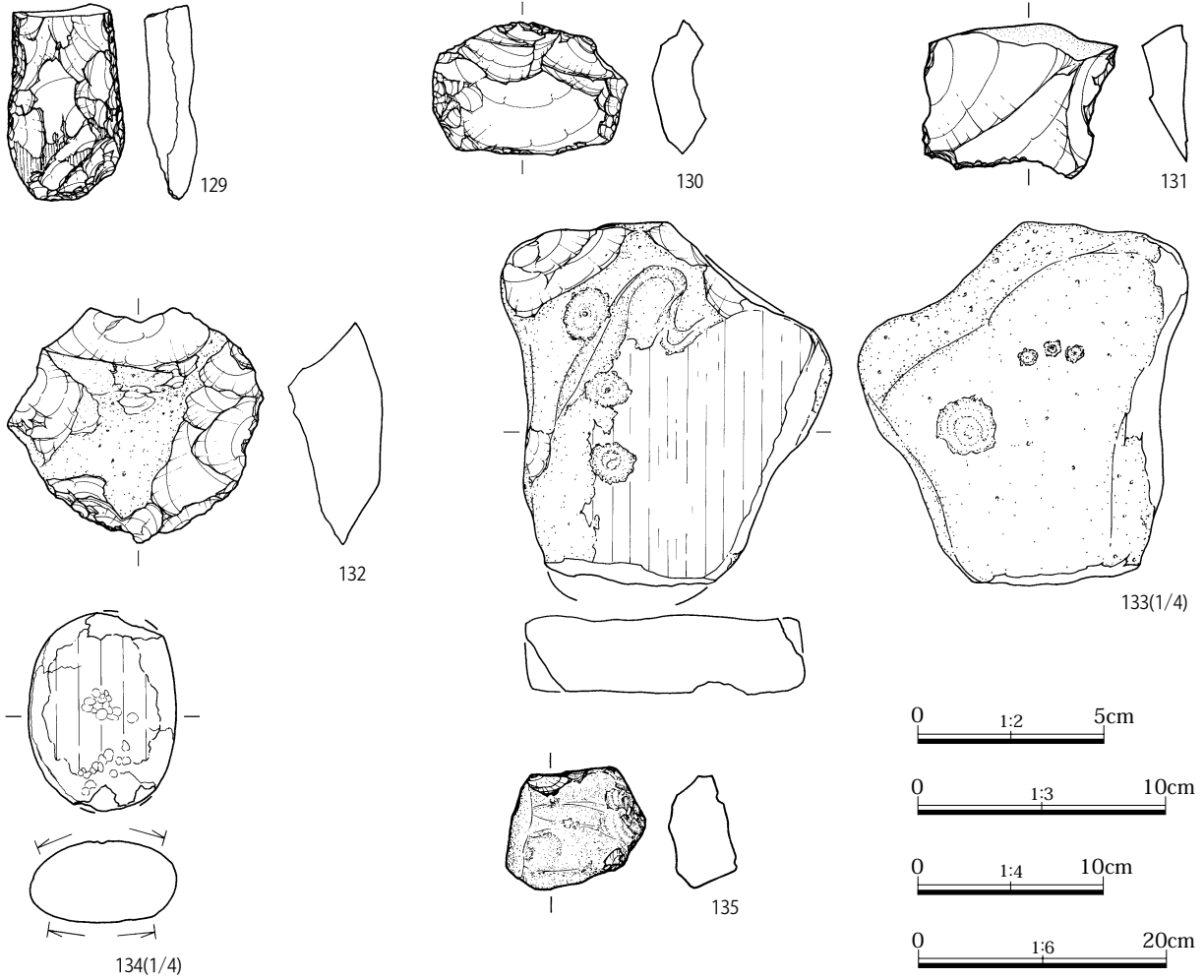
第27図 C区1 a号住居出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物

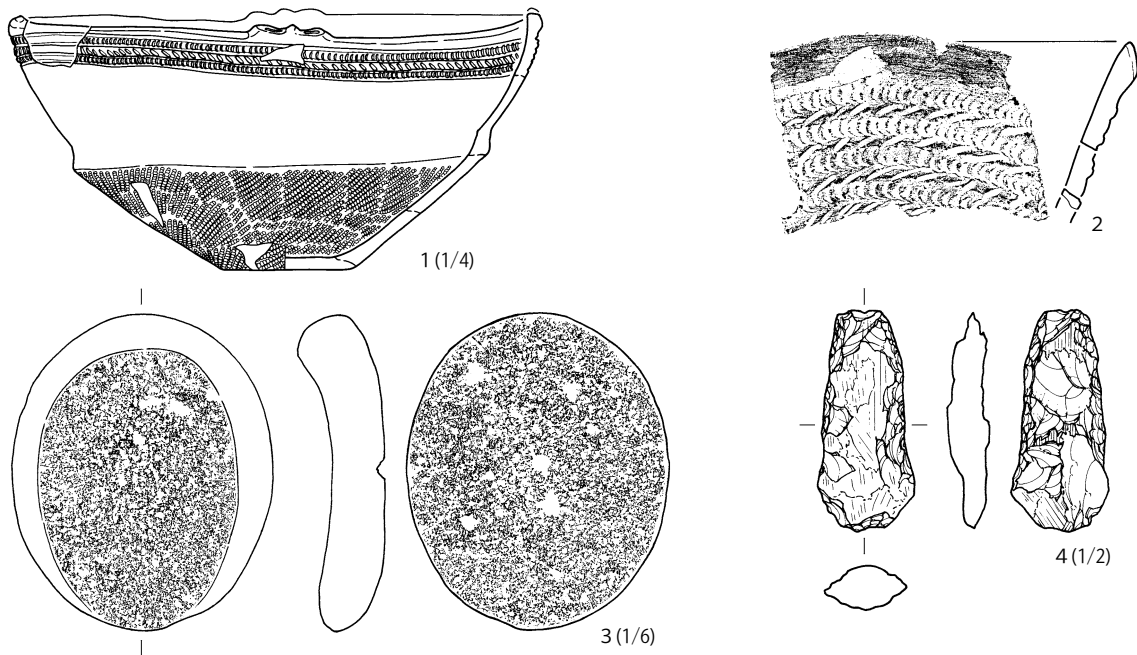


第28図 C区1a号住居出土遺物(7)

4. C区の遺構と遺物



1 b号住居



第29図 C区1 a号住居出土遺物(8)・1 b号住居出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

C区2号住居(第30～32図 PL.11・12・35 遺物観察表P.105・106・113)

C区2号住居は、C区のほぼ中央部に位置する。C区で検出された6軒の竪穴住居のうち唯一全形が調査できた。4本支柱穴の隅丸方形の竪穴住居である。やや北壁と南壁が北東部に開いており、平行四辺形に近い形状であった。

規模は、長軸4.70m、短軸4.30mで、残存壁高は0.52m、長軸方位はN-22° -Wであった。中央やや西部で10号土坑が重複していたが、本住居より古いことが埋没土の観察より判明している。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む締まった黒色土である。床面及びやや掘り下げた状態で多くの小ピットを検出したが、その位置と深さから柱穴は4本支柱穴と推定される。検出された支柱穴の規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.28×0.25×0.39m)、P2(0.28×0.24×0.36m)、P3(0.39×0.30×0.50m)、P4(0.40×0.28×0.63m)である。支柱穴の周辺でこのほかにも同様の規模・深さのピットを検出したが、位置が不規則であり、柱穴としては考えにくい。また、やや小規模なピットは壁に沿ってあり、壁柱穴と考えられる。これらのピットの規模は第6表に掲げた。

炉は住居中央やや北西の位置に検出された。長径1.02m、短径0.78mの楕円形で、底面と側面に石を敷設した石囲い炉である。底面の石は平盤で、側面の石は棒状礫である。南半部の石は遺存していなかった。北西部(土層断面D'付近)の石の下位からはピットが検出されており、住居の建て替え、あるいは、炉の構築にあたって何らかの施設が掘り込まれた可能性がある。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。周溝は検出されなかった。

出土遺物は全体で土器75点、石器・石片は79点である。土器の型式内訳は関山式・黒浜式56点、諸磯b式が9点、諸磯c式が8点、不明2点である。このうち、14点を図化・掲載した(第32図)。出土土器は、関山Ⅱ式・黒浜式・諸磯a・b・c式と時期幅が広く混在しているが、主体となるのは黒浜式であ

る。住居の時期は黒浜式とみておきたい。

石器は、石匙1点、削器1点、石核4点、加工痕ある剥片2点、凹石1点、敲石1点、石皿1点、台石1点、剥片類57点、礫・礫片24点、総数93点が出土した。このうち6点を図化・報告した(第32図)。4点が出土した石核の石材は黒曜石2点、チャート2点である。いずれも埋没土中からの出土である。

C区3号住居(第33図 PL.12・36 遺物観察表P.106・113)

C区3号住居は、C区の北東部に位置する。住居の南東部は発掘区域外で調査することはできなかった。形状は隅丸方形の竪穴住居である。

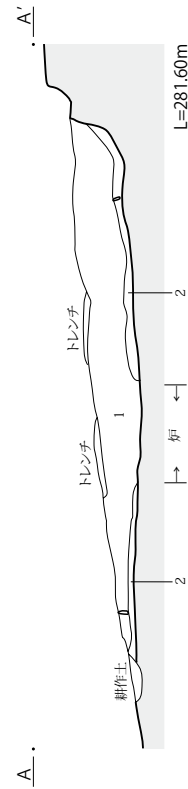
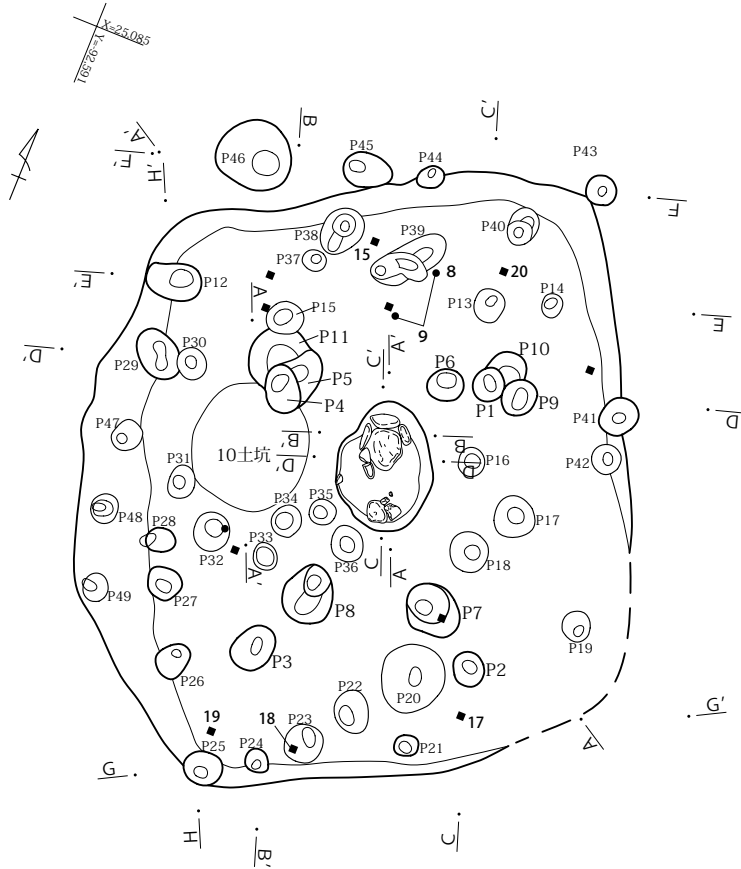
規模は、長軸4.20m、短軸3.80m以上で、残存壁高は0.22m、炉の主軸方位はN-32° -Wであった。重複する遺構はない。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む締まった黒色土である。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。床面及びやや掘り下げた状態で多くのピットを検出した。ピットはそれぞれ同様な規模・深さで、位置も不規則であり、支柱穴は判然としなかった。かろうじてP1～P4としたピットを、住居壁と炉との関係から支柱穴の可能性があるとしたい。他のピットの規模や深さは第6表に掲げた。

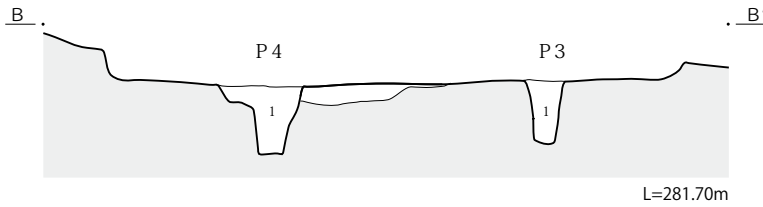
炉は住居のほぼ中央と推定される位置で検出された。長径0.88m、短径0.67mの楕円形で、北縁に長い棒状礫を配置していた。周溝は北西壁と南西壁に途切れながらも検出された。概ね幅16cm、深さ5～8cmである。

出土遺物は全体で土器22点、石器・石片は17点である。土器の型式内訳は関山式・黒浜式14点、不明8点である。このうち、3点を図化・掲載した(第33図)。出土土器は黒浜式主体であることから、本住居の時期は黒浜式期とみておきたい。石器は、磨石1点、剥片類9点、礫・礫片7点、総数17点が出土した。このうち磨石1点を図化・報告した(第33図)。

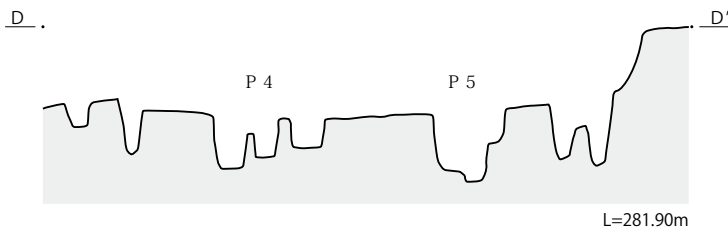
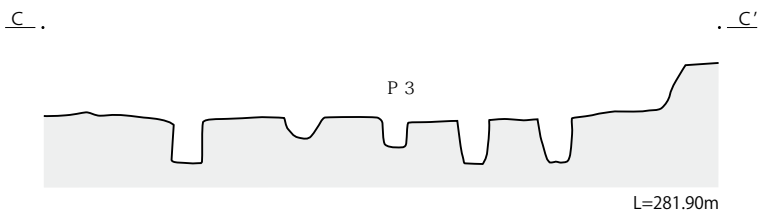
4. C区の遺構と遺物



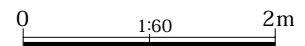
- 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm少、炭直径2～5mm少、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm微、As-BP直径2～5mm微、ローム粒少、粘性有、しまり有。



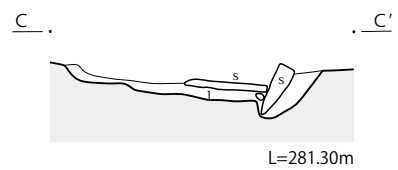
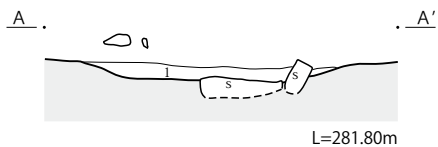
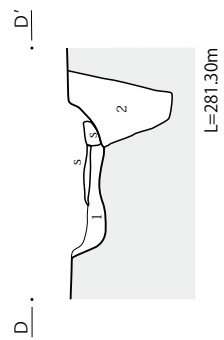
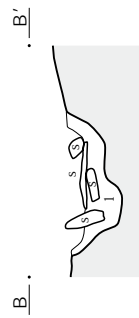
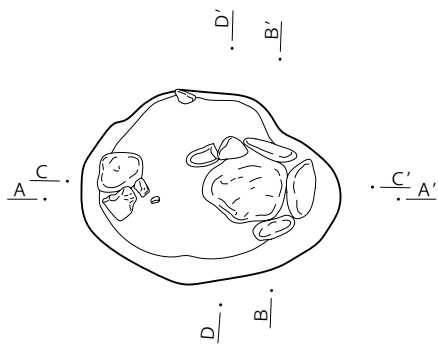
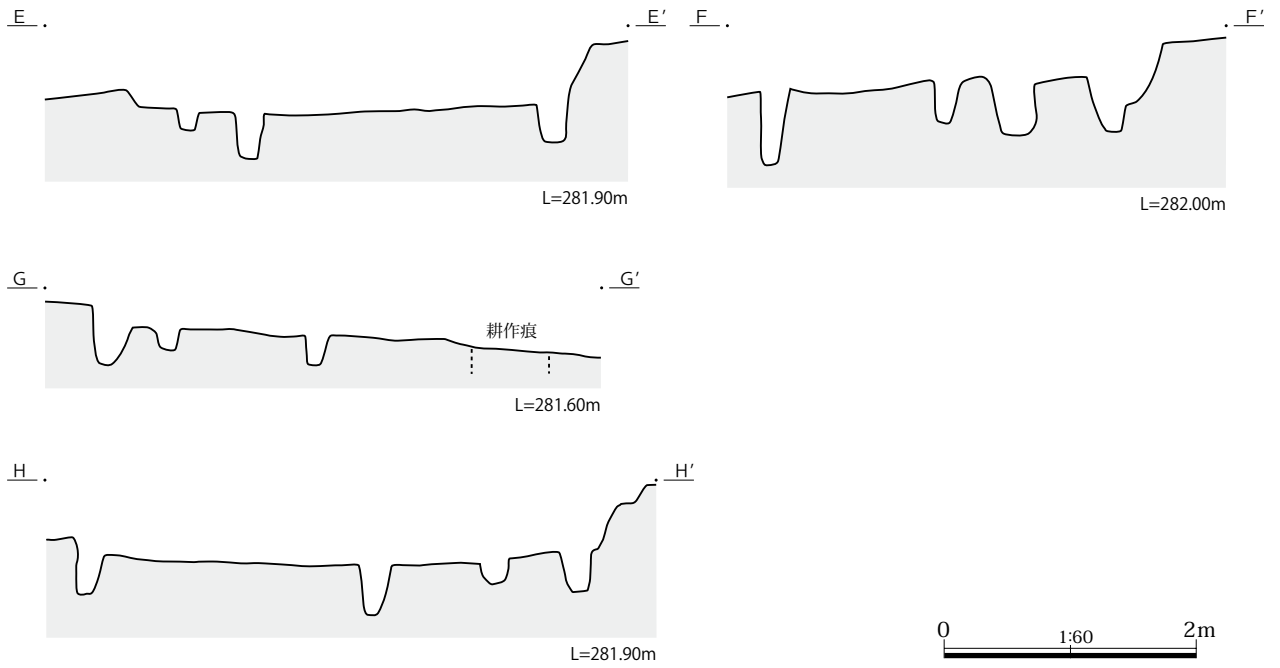
- 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、炭直径2mm少、ローム粒少、As-YP直径5mm少、粘性有、しまり有。



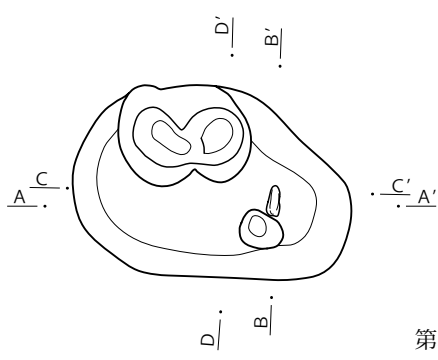
第30図 C区2号住居(1)



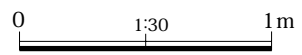
第3章 検出された遺構と遺物



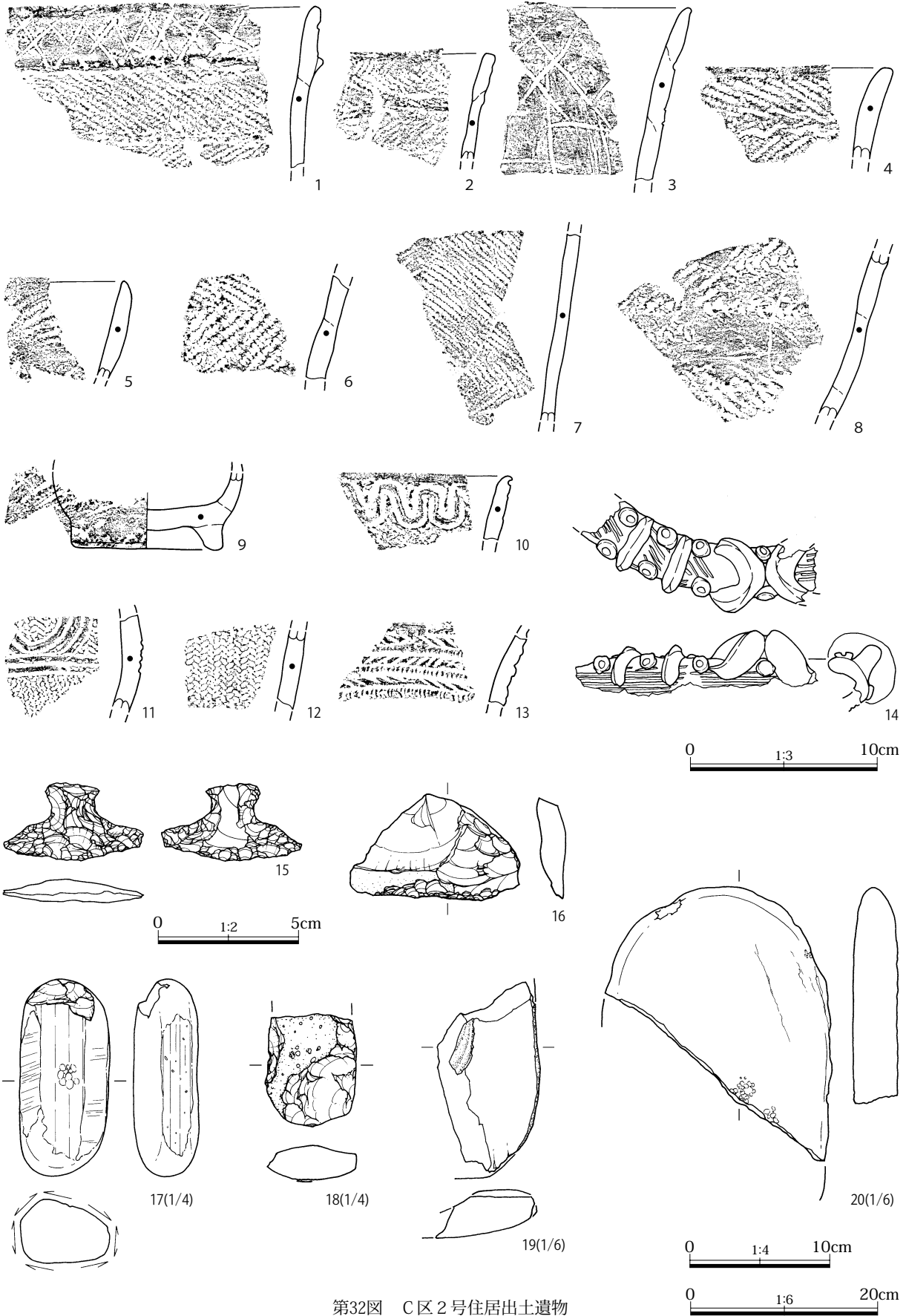
- 1 黒色土 As-BP直径2～3mm微、白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2mm微、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 As-BP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。



第31図 C区2号住居(2)

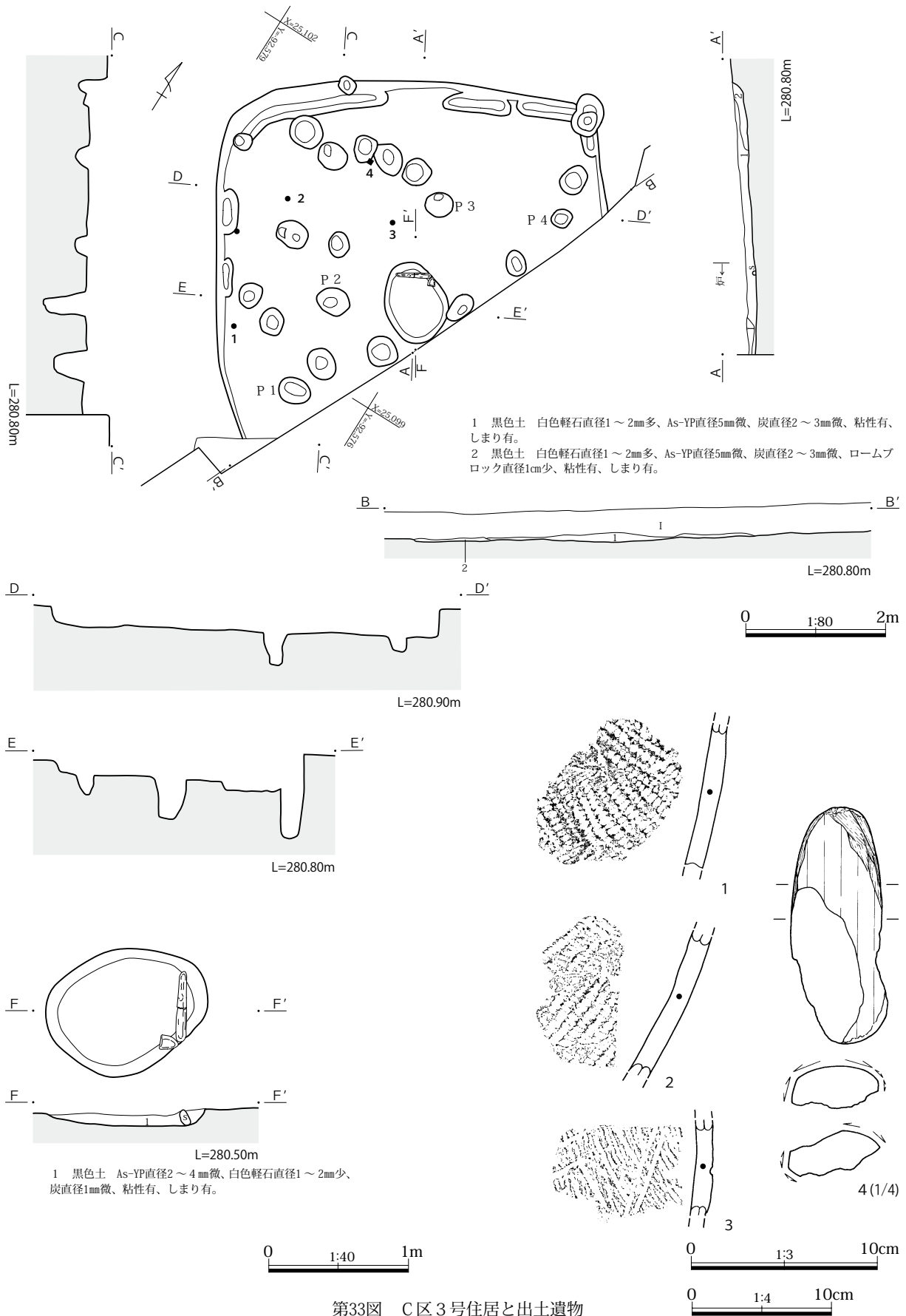


4. C区の遺構と遺物



第32図 C区2号住居出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第33図 C区3号住居と出土遺物

4. C区の遺構と遺物

C区4号住居(第34・35図 PL.13 遺物観察表 P.113)

C区4号住居は、C区の南西壁際に位置する。住居の北西部は現道確保の為、調査しなかった。また北東壁は削平を受けており、全体を検出できなかったが、発掘区北西壁での土層断面A-A'の観察および後述する支柱穴の位置から、住居の形状は方形と推定される。

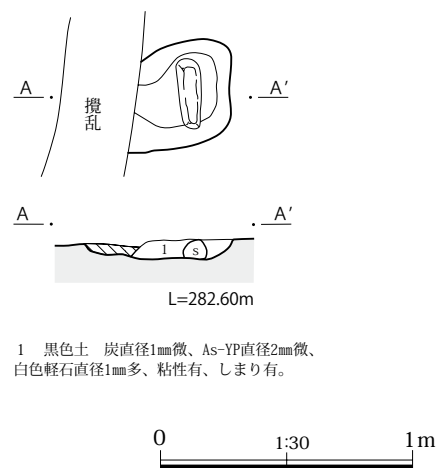
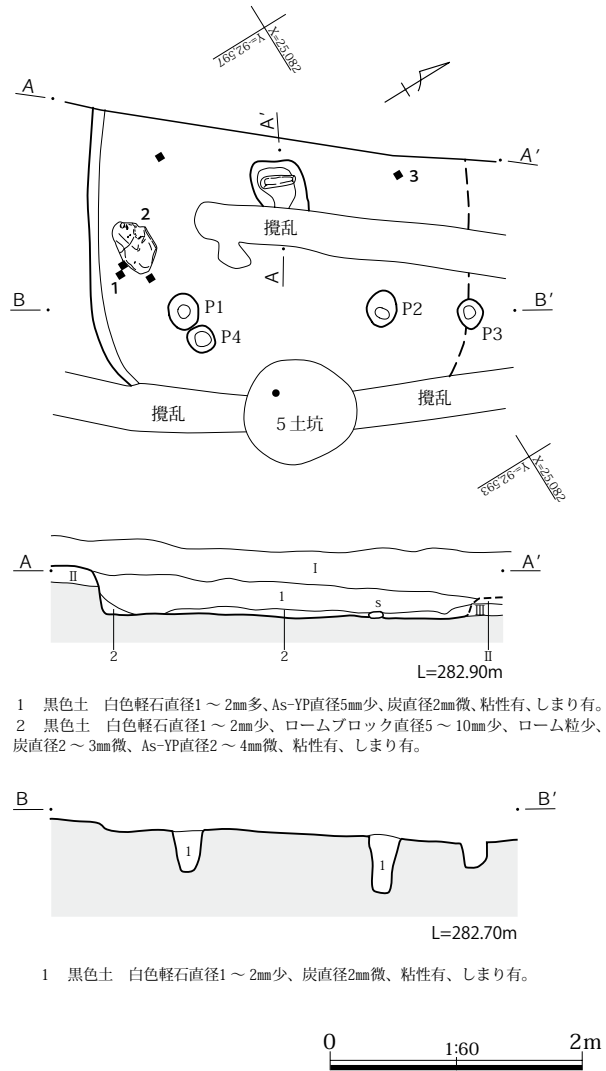
規模は、長軸3.0m以上、短軸2.0m以上で、残存壁高は0.16m、南西壁方位はN-60°-Wであった。南東壁に5号土坑が重複するが、新旧関係は不明である。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む締まった黒色土である。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。床面でピットを4本を検出したが、P1・P2は4本支柱穴の片側2本の支柱穴と推定され、その規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.28×0.24×0.28m)、P2(0.29×0.25×0.43m)である。周辺にはP3(0.23×0.21×0.22m)、P4(0.21×0.21×0.19m)も検出されている。

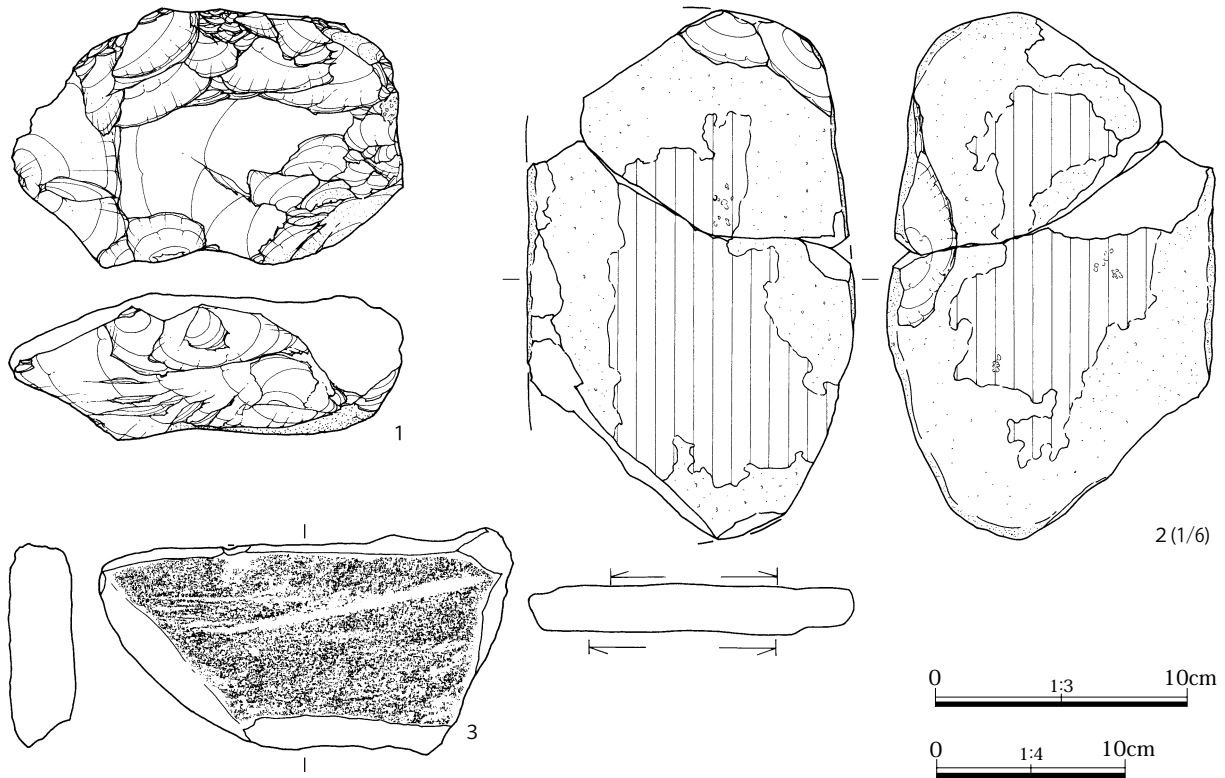
炉は住居のほぼ中央と推定される位置で検出された。南東部は溝状の攪乱によって壊されていた。炉の大きさは長径0.40m以上、短径0.42mの楕円形で、北西縁に棒状礫を配置していた。

周溝は検出されなかった。

出土遺物は全体で土器0点、石器・石片は29点である。土器が出土していないことから本住居の時期は不明と言わざるを得ないが、住居形態からして縄文時代前期の遺構と考えておきたい。石器は、加工痕ある剥片2点、石核2点、石皿1点、砥石1点、剥片類2点、礫・礫片21点が出土した。このうち3点を図化・報告した(第35図)。硬質泥岩製の石核(1/第35図)と石皿(2)は南西壁際床面直上で出土している。



第34図 C区4号住居



第35図 C区4号住居出土遺物

C区5号住居(第36図 PL.13・36 遺物観察表 P.106・113)

C区5号住居は、C区の北東隅に位置する。住居の北半部は現道確保の為、調査から除外した。南半部の形状から住居は方形と推定される。

規模は、長軸4.1m以上、短軸3.5m以上で、残存壁高は0.82m、南東壁方位はN-60°-Eであった。1号溝と重複するが、本住居の方が古い。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む締まった黒色土である。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。床面で4本、壁際で5本のピットを検出したが、P1・P2は4本支柱穴の北東側2本と推定される。その規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.38×0.31×0.13m)、P2(0.45×0.32×0.19m)である。南西隅の支柱穴は検出できなかった。P8とP9は相対する位置にあるが、詳細は不明である。規模はP8(0.41×0.19×0.142m)、P9(0.35×0.24×0.17m)である。P3～P7は壁周溝と重なる位置にあり、壁柱穴と考えられる。しかもP6を除く4本は支柱穴を結んだ線

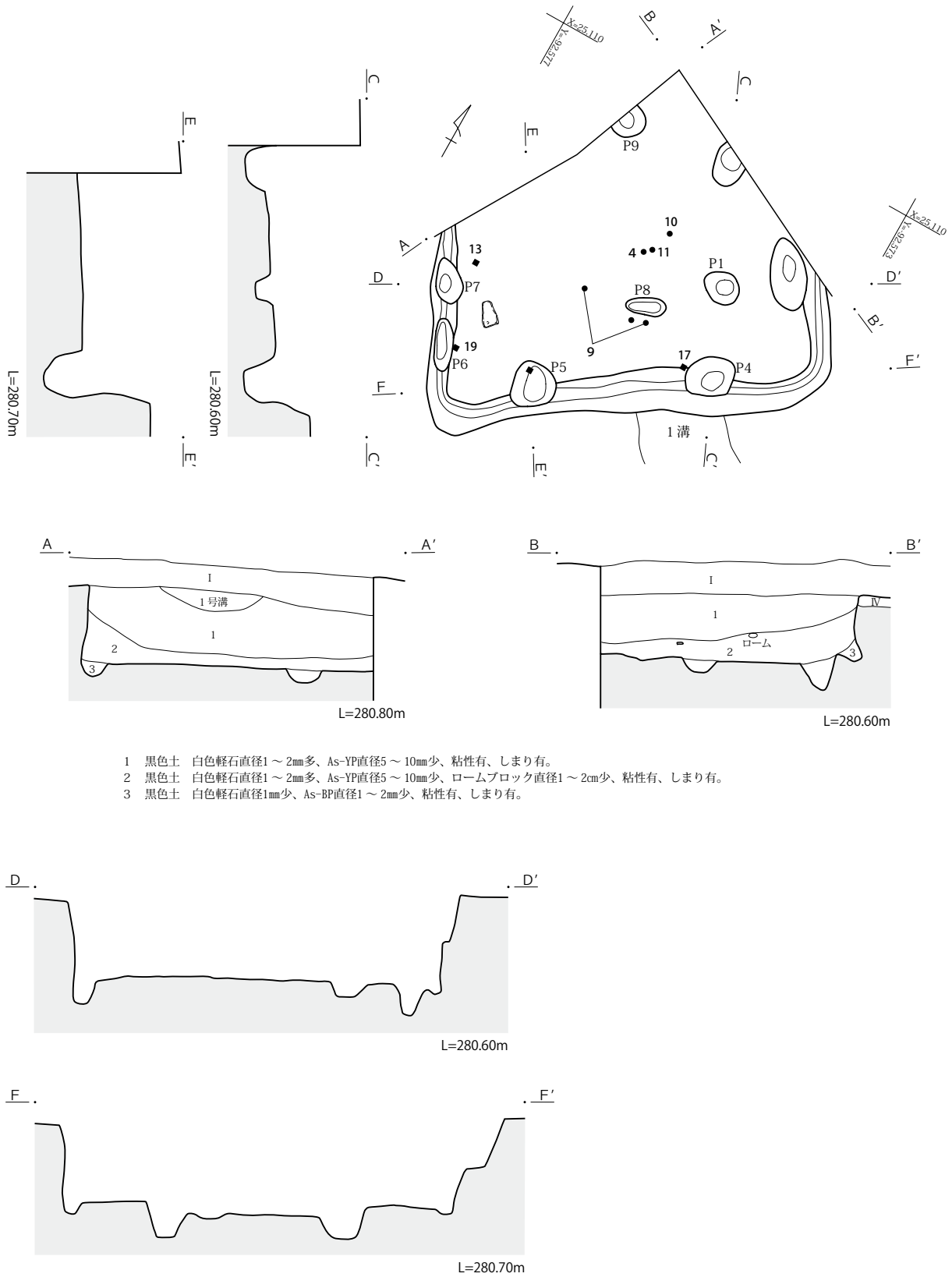
と各壁が交差する位置にあり、竪穴構造と関わる柱穴と推定される。規模はP3(0.74×0.37×0.37m)、P4(0.54×0.41×0.313m)、P5(0.47×0.46×0.39m)、P6(0.54×0.18×0.22m)である。

炉は調査範囲のなかでは検出されなかった。周溝は調査範囲の中では全周していた。

出土遺物は全体で土器87点、石器・石片は56点ある。土器の型式内訳は関山式・黒浜式73点、諸磯b式が13点、不明1点である。このうち12点を図化・掲載した(第37図)。主体は黒浜式と関山Ⅱ式で、黒浜式は細片である。住居の時期は黒浜式期と考えておきたい。中央部で出土した土器はやや床面から浮いた位置で出土している。

石器は、打製石斧1点、石匙1点、削器3点、石核2点、凹石2点、剥片類45点、礫・礫片2点が出土した。このうち7点を図化・報告した(第37図)。石核(18/第37図)や凹石(19)は床面直上で出土した。南西壁P7近くの床面直上で大型の礫が床面直上で出土した。

4. C区の遺構と遺物

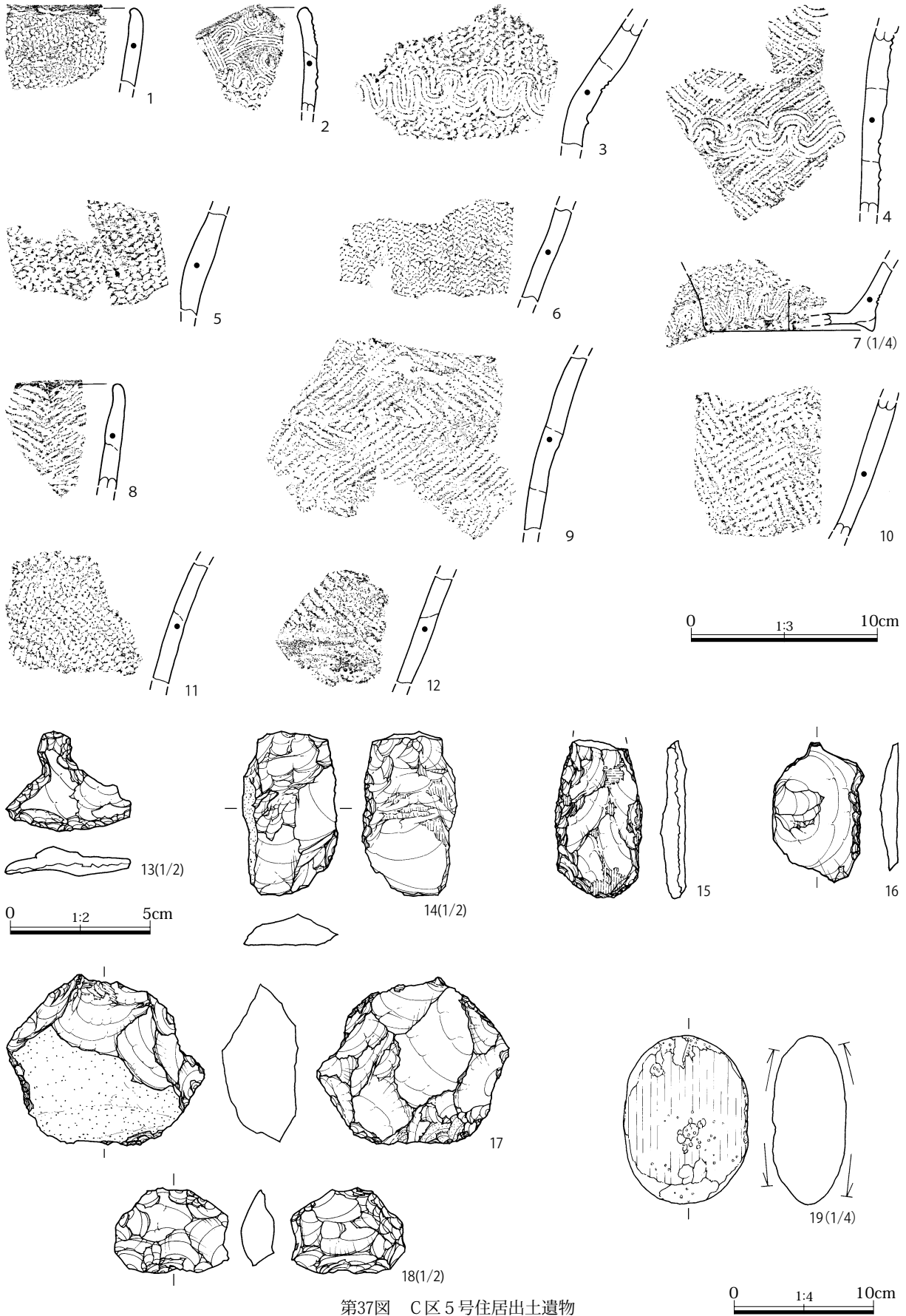


- 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm少、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm少、ロームブロック直径1～2cm少、粘性有、しまり有。
- 3 黒色土 白色軽石直径1mm少、As-BP直径1～2mm少、粘性有、しまり有。

第36図 C区5号住居

0 1:60 2m

第3章 検出された遺構と遺物



第37図 C区5号住居出土遺物

4. C区の遺構と遺物

(2)土坑

(第38～40図 PL.14・15・36・37 遺物観察表P.106・113・114)

C区では14基の土坑が検出された。発掘区南半に多く偏在し、住居と重複する土坑も8基あった。それぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4・5表にまとめた。以下、各土坑の特徴や出土遺物について概略をまとめる。

C区1号土坑は不定形でやや大型である。埋没土は他の縄文時代の土坑と同様の黒色土で埋まっていたことから、当該時期の土坑と判断した。黒浜式土器と諸磯b式土器(興津式?)が出土しているが、土坑の時期は諸磯b式段階と推定される。埋没土中から黒曜石の石核(4/第39図)が出土した。

C区2号・3号土坑は諸磯b式土器が主体的に出土しており、当該期の土坑とした。いずれも諸磯b式期古段階と推定される1a号・1b号住居と重複しており、住居より古いという調査所見が得られている。2号土坑埋没土中から旧石器と判断できる珪質頁岩剥片(3/第39図)が出土している。また、3号土坑からは、黒曜石製の加工痕ある剥片、石鏃(4)が埋没土中から、粗粒輝石安山岩の石皿(5)が中央部底面上4.5cmで出土している。

C区4号土坑は諸磯b式の土器が主体的に出土している。いずれも底面から10～30cmほど浮いた位置である。

C区5号土坑は諸磯b・c式土器が出土している。同様にC区6号土坑も諸磯b・c式土器が出土しているが、c式土器は細片のため混入と考えたい。C区8号・12号・14号土坑は諸磯b式土器主体で出土しており、当該期の土坑と推定される。C区12号・14号土坑は諸磯b式期の1a号住居と重複しているが、同時期内の重複ということになる。先述したように1a号住居の支柱穴P1が12号土坑より古いことから、C区12号・14号土坑は1a号住居より新しいことがわかっている。C区12号土坑からは埋没土中から緑色片岩の打製石斧(6/第39図)、14号土坑からは珪質頁岩の石核が出土している。

C区13号土坑は関山I式・諸磯a式・b式土器が出土しているが、埋没土中から出土している深鉢(6/第40図)がb式古段階であることから、土坑の時期はa式期と考えたい。したがって13号土坑は諸磯b式期の1a号住居より古いことが判明した。埋没土中から硬質泥岩の石核・加工痕ある剥片が1点ずつ出土している。

C区7号・9号・10号・11号土坑は出土土器が無いか少ないことから、時期は確定できないが、埋没土や形態が共通することから、縄文時代の土坑と推定される。

(3)ピット

(第40図 PL.15・37 遺物観察表P.106)

C区からは3基のピットが検出された。他にC区中央部西壁際に5基のピット状の落ち込みを検出したが、浅くて埋没土も他の縄文時代の遺構と異なったことから、遺構とはしなかった。

1号～3号ピットはC区南西部に散在し、4号ピットは3号住居北西部に位置する。ピットそれぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4表にまとめた。いずれも楕円形あるいは円形で、白色軽石やローム粒を含む黒色土で埋まっていた。C区3号ピット埋没土中から、黒浜式土器1点(1/第40図)が出土した。ピットの時期や機能については調査では明らかにできなかった。

(4)溝

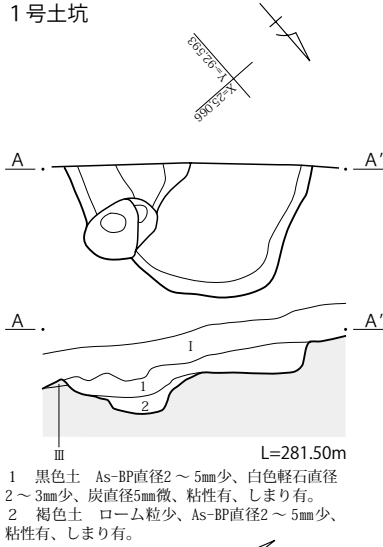
C区1号溝(第40図 PL.13 遺物観察表P.110)

C区北東隅の5号住居に重複して、1号溝が検出された。重複関係は5号溝より新しい。走向はN-50～60°-Wで、上幅0.9m、深さ0.27m、調査長3.60mである。浅間A軽石を多く含む締まりの弱い粘質の暗色土で埋まっていた。埋没土中から焙烙鍋の口縁部小片が出土した。

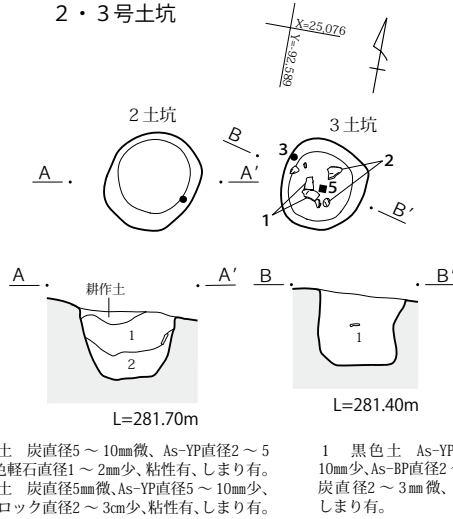
時期は縄文時代前期黒浜式期の5号住居より新しいことは明らかであるが、埋没土や出土遺物の特徴から近世後半以降と推定される。

第3章 検出された遺構と遺物

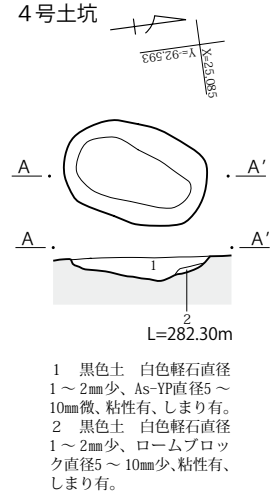
1号土坑



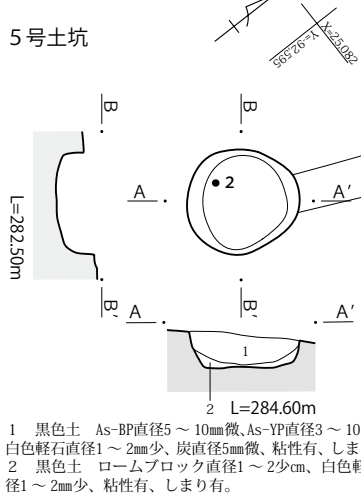
2・3号土坑



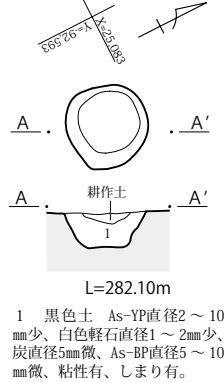
4号土坑



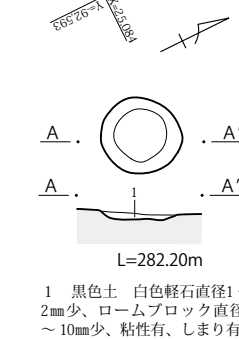
5号土坑



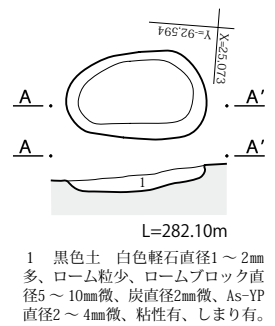
6号土坑



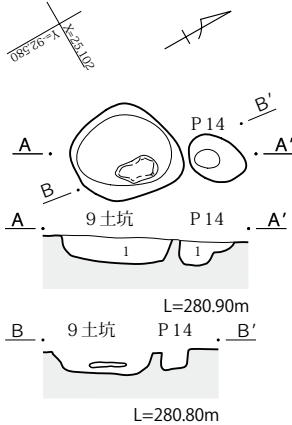
7号土坑



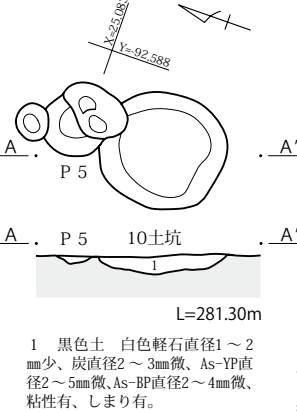
8号土坑



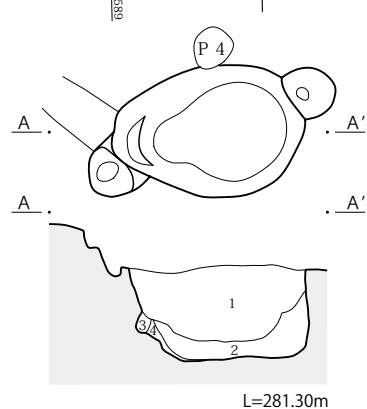
9号土坑



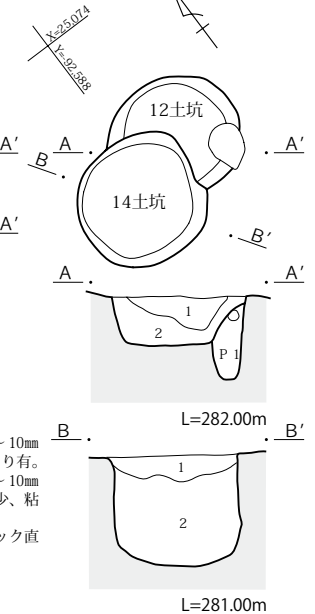
10号土坑



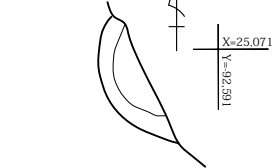
13号土坑



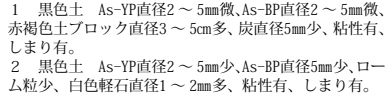
12・14号土坑



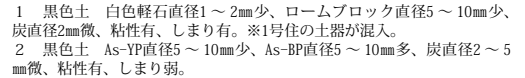
11号土坑



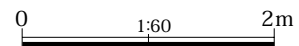
12号土坑



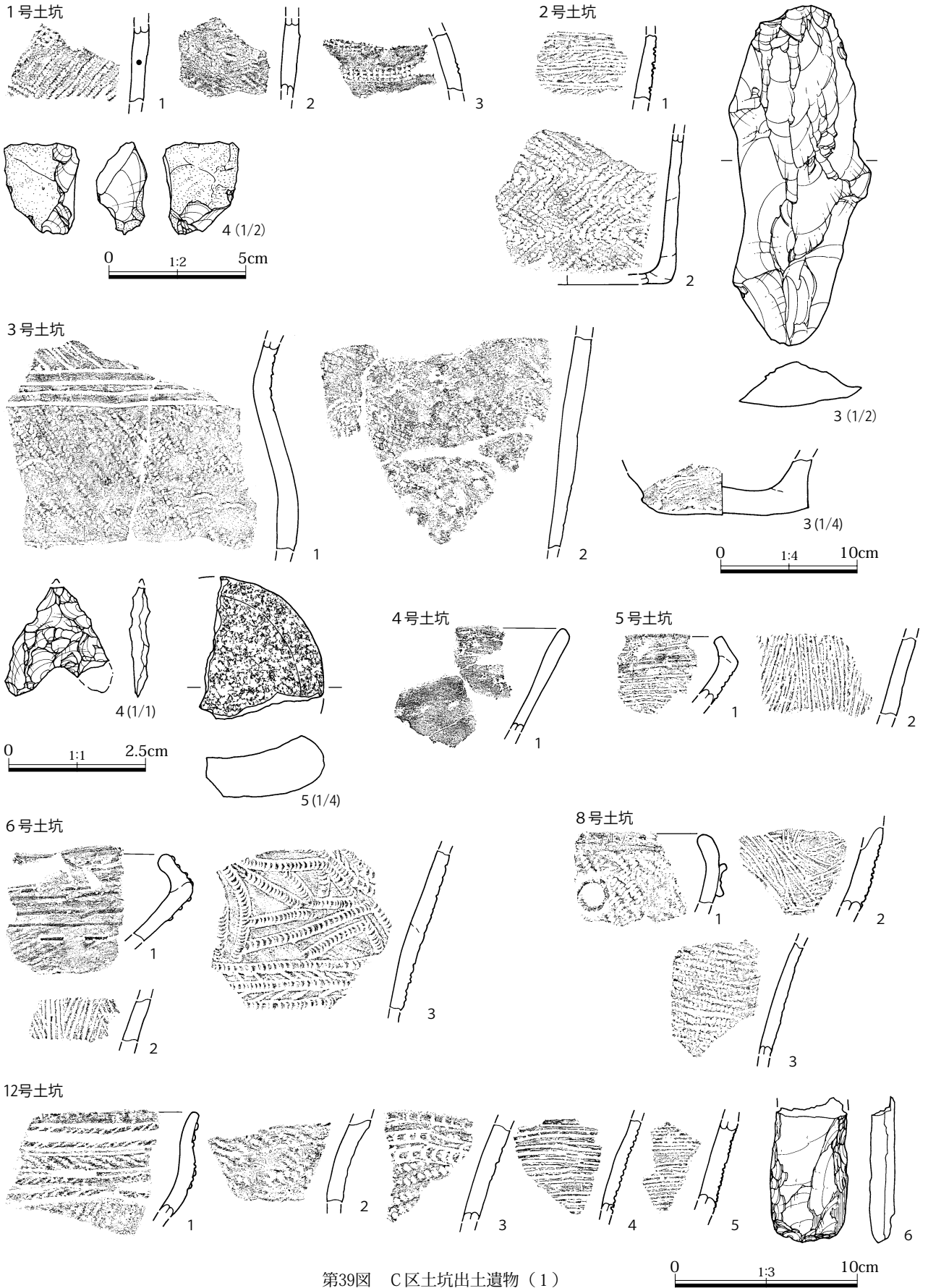
14号土坑



第38図 C区土坑



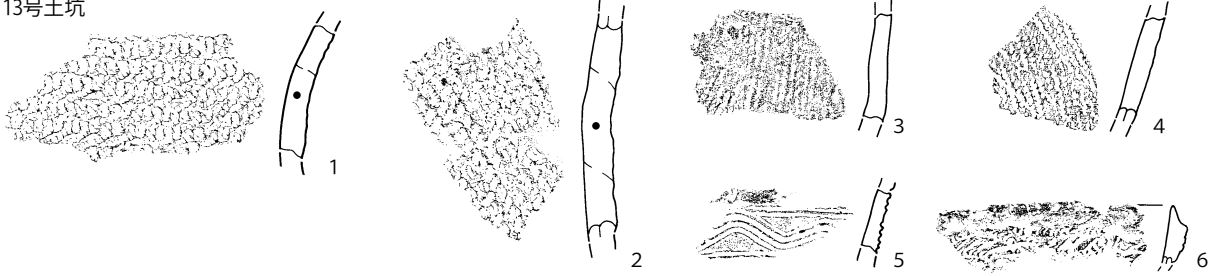
4. C区の遺構と遺物



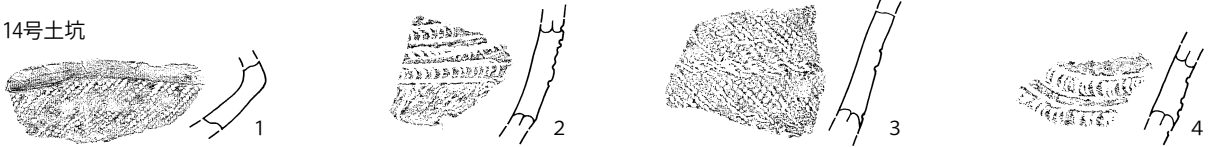
第39図 C区土坑出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

13号土坑

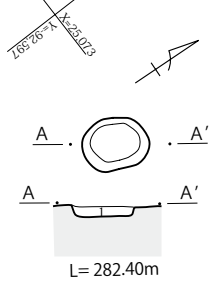


14号土坑



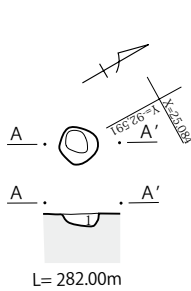
0 1:3 10cm

1号ピット



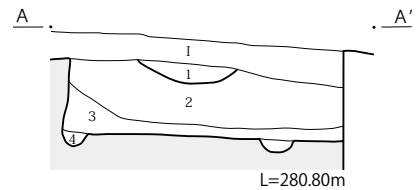
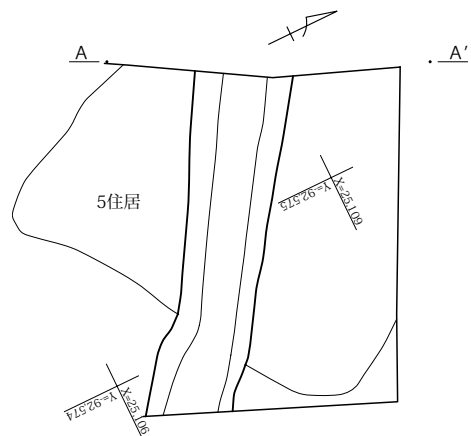
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

2号ピット



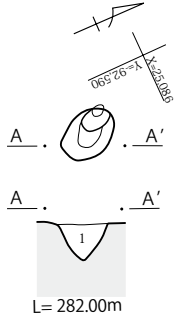
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径5mm微、粘性有、しまり有。

1号溝



1 褐色土。現畑耕作土。直径1～5mmのAs-A(白色軽石)少量含む。
 1 暗色土 As-A直径1～2cm多、粘性有、しまり弱。
 2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm少、粘性有、しまり有。
 3 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm少、ロームブロック直径1～2cm少、粘性有、しまり有。
 4 黒色土 白色軽石直径1mm少、As-BP直径1～2mm少、粘性有、しまり有。

3号ピット



1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。



0 1:3 10cm

0 1:60 2m

0 1:80 2m

第40図 C区土坑・ピット・1号溝と出土遺物

5. D区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居

D区1号住居(第41図 PL.17・37 遺物観察表 P.106・114)

D区1号住居は、D-1-2区の北東隅に位置する。発掘区が狭かったことから、住居全体を確認することはできなかった。また攪乱による削平も著しかったことから、床面の一部と5基のピットを検出したにとどまった。住居の全体形状が不明なことから、ピットが柱穴であるのかも判断が困難である。

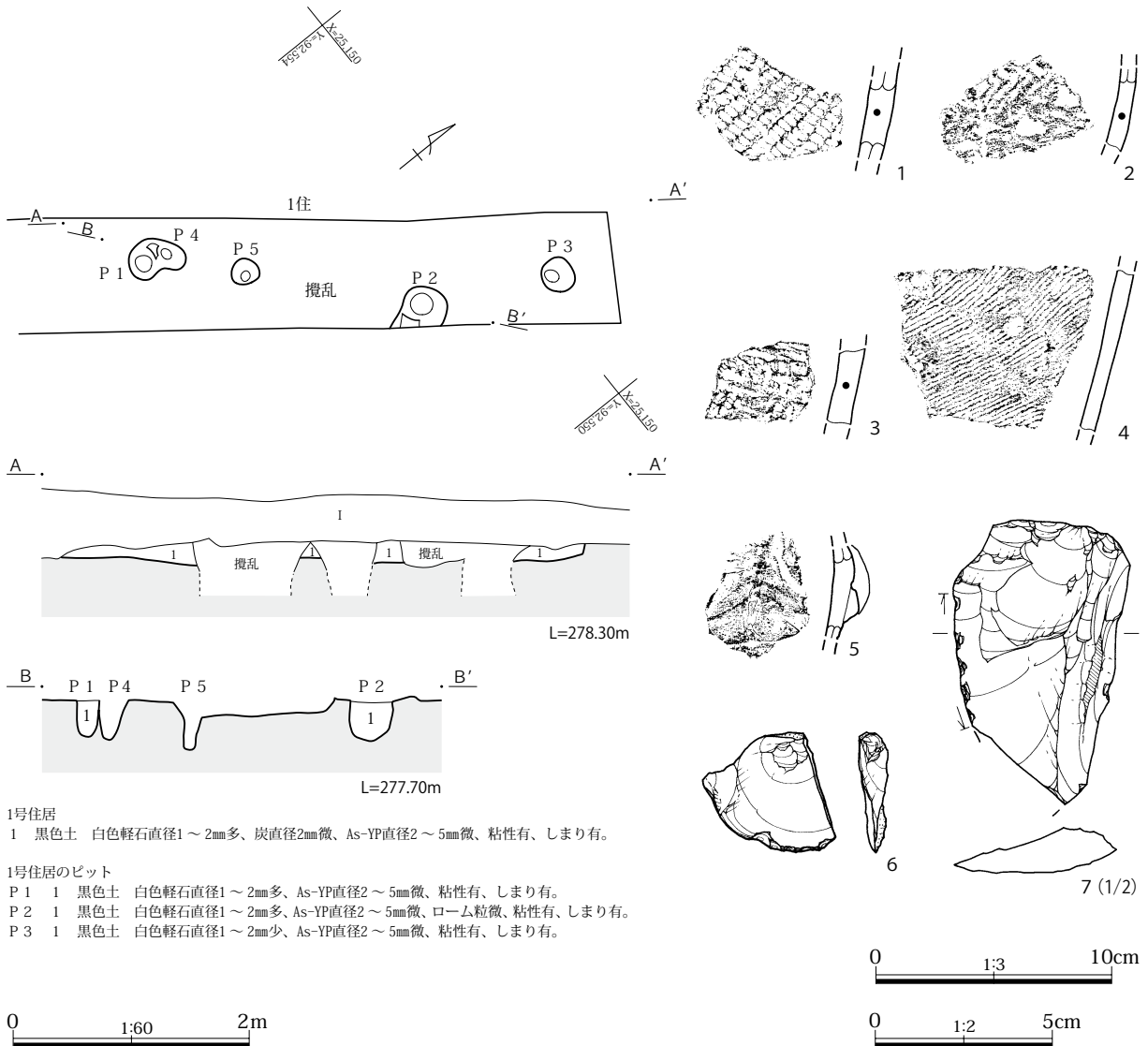
住居の規模は不明である。北隅で若干の壁を土層

断面で確認しているが、残存壁高0.12mである。ピットの規模は第6表にまとめた。

炉、周溝は検出されなかった。

出土遺物は全体で土器9点、石器・石片は10点である。土器の型式内訳は黒浜式4点、諸磯b式4点、阿玉台式1点である。このうち、5点を図化・掲載した(第41図)。出土土器は、型式が混在しており、住居の時期は不明と言わざるを得ない。

石器は、加工痕ある剥片2点、使用痕ある剥片2点、剥片類2点、礫・礫片4点、総数10点が出土した。このうち2点を図化・報告した(第41図)。石器は埋没土中から出土した。いずれも硬質泥岩製である。



1号住居
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、炭直径2mm微、As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。

1号住居のピット
P 1 1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。
P 2 1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm微、ローム粒微、粘性有、しまり有。
P 3 1 黒色土 白色軽石直径1~2mm少、As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。

第41図 D区1号住居と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

D区2号住居(第42・43図 PL.17・37・38 遺物観察表P.106・107・114)

D区2号住居は、D-1-2区の北東隅に位置する。現道確保のため、住居の南東隅を確認するにとどまった。南東隅で21号土坑と重複しているが発掘区南東壁土層断面の観察から、土坑より本住居P5の方が新しいとの所見が得られた。

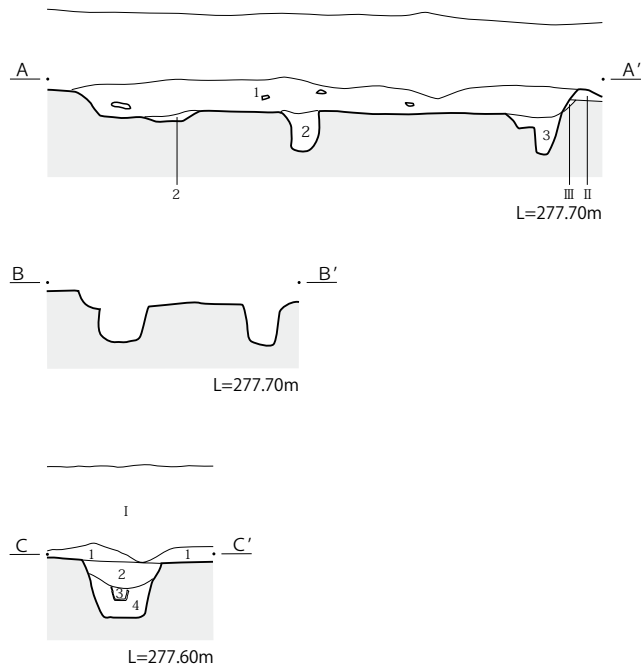
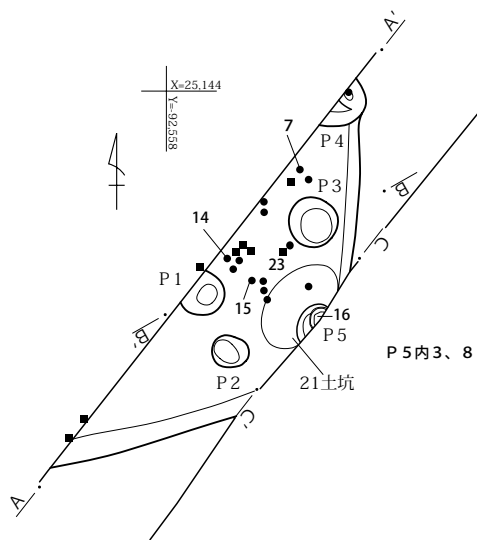
住居の規模は長軸2.6m以上、短軸2.5m以上で、残存壁高は0.17mである。埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒を含む締まった粘質黒色土である。床面で5基のピットを検出したが、住居の全体形状が不明であることから、これらのピットが柱穴かどうかは判断できなかった。P5の中位からは諸磯a式の深鉢胴部下半(16/第43図)が出土した。ピットの

規模は第6表にまとめた。

炉、周溝は検出されなかった。

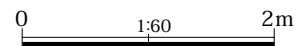
出土遺物は全体で土器72点、石器・石片は37点である。土器の型式内訳は黒浜式2点、諸磯a式69点、阿玉台式1点である。このうち、20点を図化・掲載した(第43図)。出土土器は、型式が混在しているが、住居の時期は最も出土数の多い諸磯a式期と推定される。

石器は、打製石斧2点(22/第43図他)、石匙1点(21)、加工痕ある剥片1点、使用痕ある剥片1点、凹石1点(23)、剥片類13点、礫・礫片18点が出土した。このうち3点を図化・報告した。いずれも埋没土中から出土した。

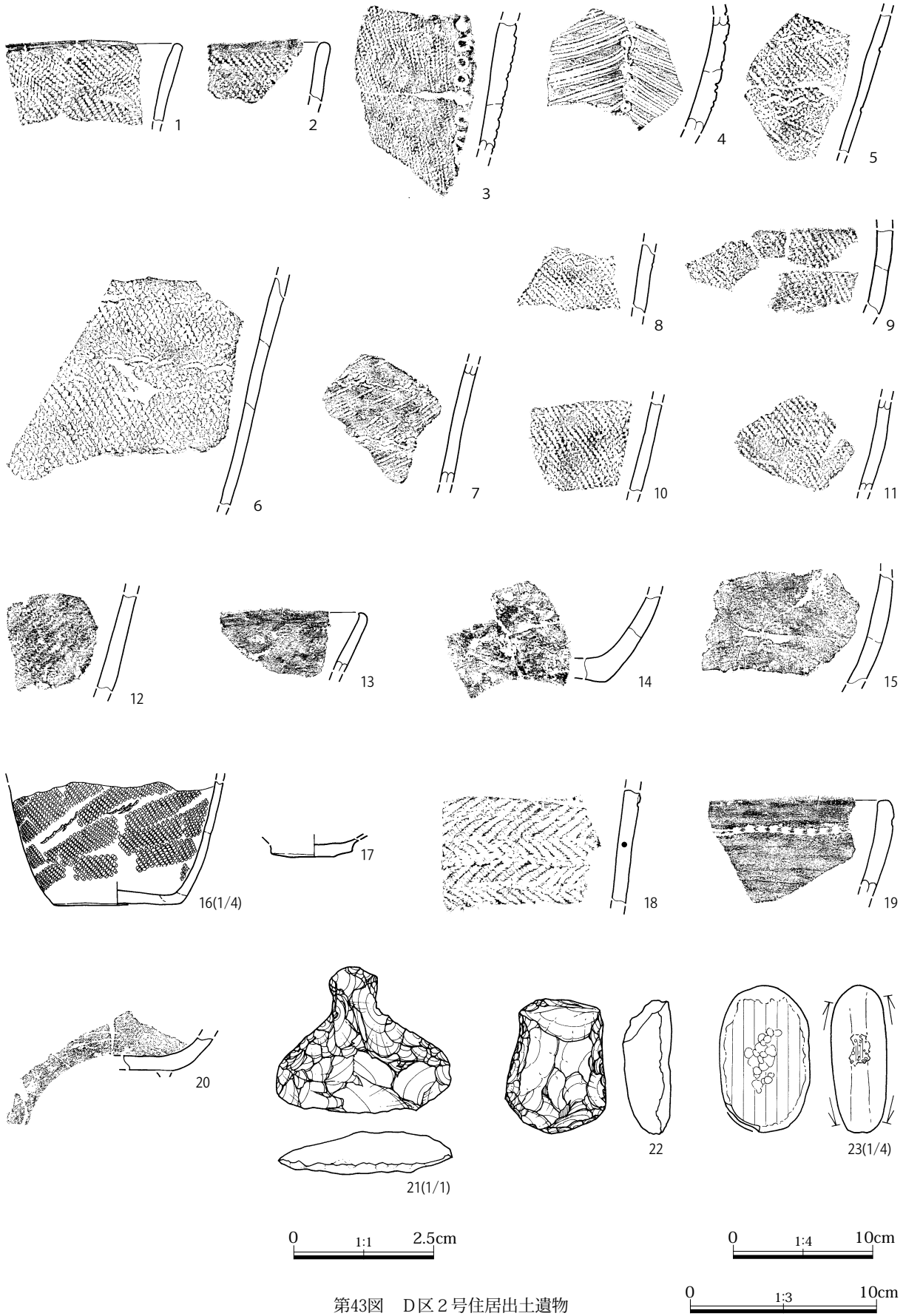


- 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。
- 3 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。

第42図 D区2号住居



5. D区の遺構と遺物



第43図 D区2号住居出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

D区3号住居(第44図 PL.17・38 遺物観察表 P.107・114)

D区3号住居は、D-2区の北東隅に位置する。東南半部は発掘区域外となり、調査することはできなかった。柱穴と推定されるピットが壁に沿って弧状に検出されたことから、円形あるいは楕円形の住居と推定される。16号土坑と重複しているが、埋没土の観察から本住居の方が新しいことが判明している。

住居の規模は長軸3.7m、短軸2.56m以上で、残存壁高は0.16mである。埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒を含む締まった粘質黒色土である。ピットは壁沿いに6本、床面で2本、合計8本が検出された。壁沿いのピットは柱穴と推定される。柱穴の規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 (0.23×0.23×0.26m)、P 2 (0.39×0.34×0.48m)、P 3 (0.32×0.22×0.27m)、P 4 (0.37×0.33×0.35m)、P 5 (0.33×0.32×0.33m)、P 6 (0.30×0.27×0.23m)である。その他に床面で検出されたピットの用途は不明であるが、その規模(長軸×短軸×深さ)はP 7 (0.30×0.28×0.62m)、P 8 (0.34×0.32×0.42m)である。

炉は住居中央やや西と推定される位置に検出された。土器が埋設された東端部分を検出することができた。全体の規模や形状は不明である。炉体土器は中期前葉の大型深鉢の底部(4/第44図)である。土器の下層には厚さ3cmの焼土が形成されていた。

出土遺物は全体で土器42点、石器・石片は24点である。土器の型式内訳は黒浜式5点、諸磯a式8点、諸磯b式8点、諸磯c式3点、阿玉台式・中期前葉の土器15点である。このうち、5点を図化・掲載した(第44図)。出土土器は、型式が混在しているが、住居の時期は最も出土数が多く、炉体土器の時期でもある中期前葉と考えられる。

石器は、加工痕ある剥片2点(7・8/第44図)、剥片類18点、礫・礫片4点が出土した。このうち2点を図化・報告した。石器はいずれも埋没土中から出土した。

(2)土坑

(第45～52図 PL.18～20・38～40 遺物観察表 P.107・108・114～116)

D区では25基の土坑が検出された。遺構の分布はD-1-1区とD-2区中央部、D-2区の北東部の2ヶ所に集中する傾向がみられた。それぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4・5表にまとめた。

D区で検出された25基の土坑の中には、弥生時代中期前半の土坑4基(2号・17号・14号・15号土坑)が含まれている。先述した2ヶ所の土坑集中区に2基ずつ検出された。D-2区北東側に隣接するE-2-1区にも弥生時代前期末～中期のE区42号土坑があり、連続した土坑群を形成しているものと推定される。以下、各土坑の特徴や出土遺物について概略をまとめる。

D区1号土坑は1基のみD-3区に位置していた。不整形円で出土遺物はなかった。埋没土は他の縄文時代の遺構と同様であることから、縄文時代の土坑と推定される。

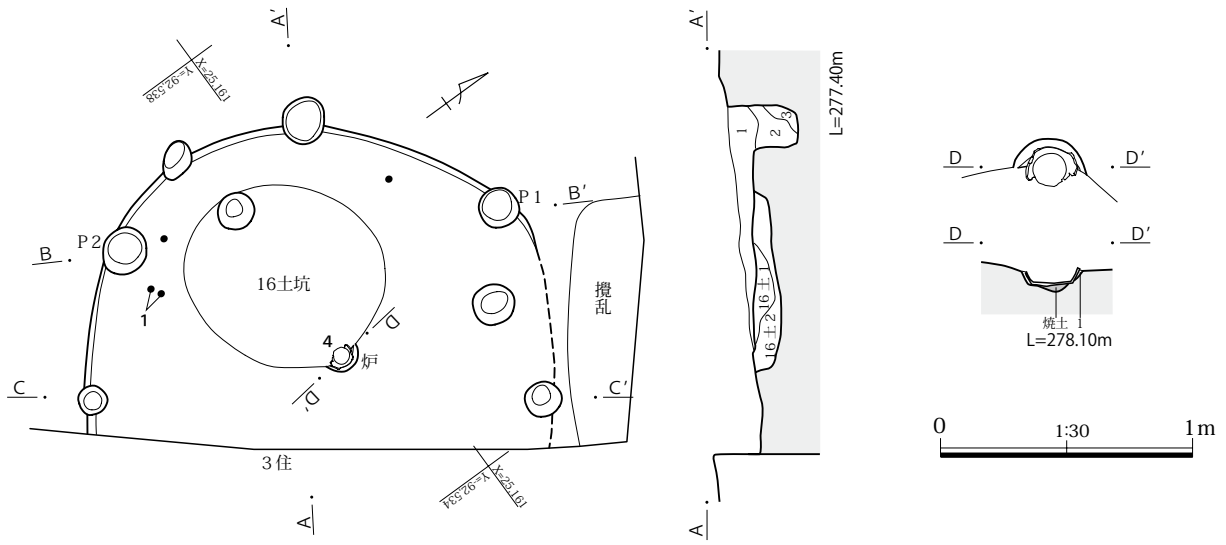
D区2号土坑は弥生時代中期前半の土坑である。D-1-1区で検出された。北西部が調査できなかったが、円形の土坑と推定される。口縁から体部下半の1/2まで復元できた甕(1/第48図)は西半部底面上5cmから上位に散乱していた破片である。その他破片は底面から数cm浮いた位置で出土した。また、底面上6cmで敲石1点(9/第48図)、砥石1点(10)、石鍬1点(11)が出土した。

D区3号土坑は東端が攪乱で壊されているが、楕円形の土坑である。出土土器は縄文時代中期前葉が主体である。

D区4号土坑は小型の楕円形土坑である。諸磯a式・五領ヶ台Ⅱ式土器が出土しているが、土坑の時期は五領ヶ台Ⅱ式段階と推定される。図示はしなかったが、黒曜石・硬質泥岩・チャート3種に石材の石核が1点ずつ埋没土中から出土した。

D区5号土坑は25号土坑と重複して検出された。ともに楕円形の土坑である。25号土坑の出土遺物はないが、5号土坑からは諸磯a式・b式土器が出土

5. D区の遺構と遺物



3号住居

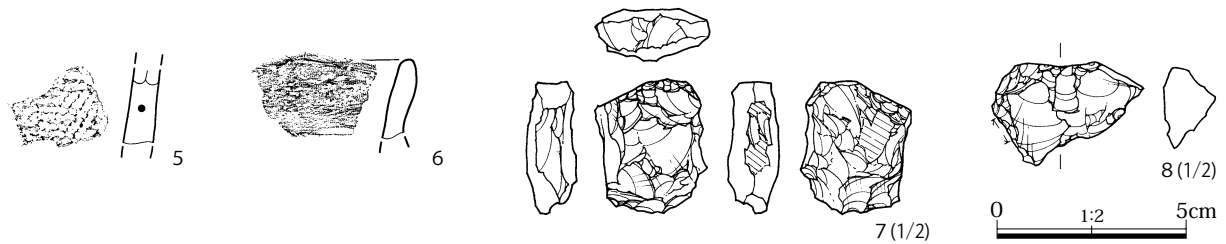
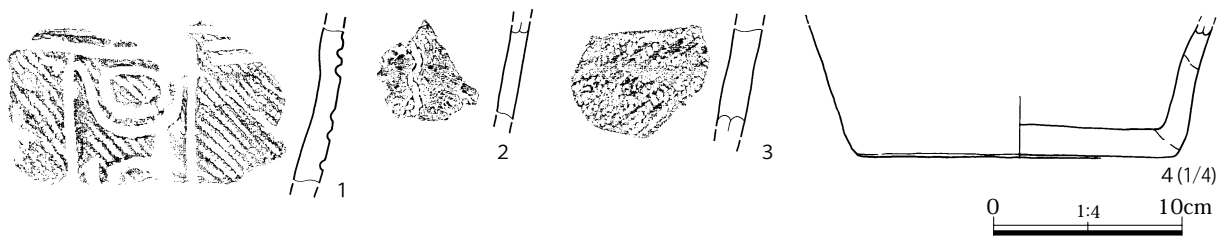
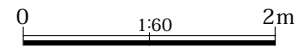
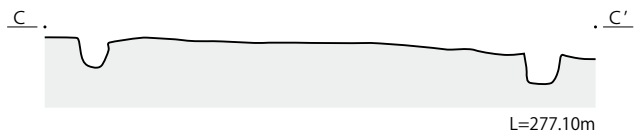
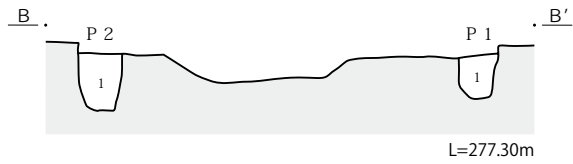
- 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm少、As-BP直径2～5mm微、ローム粒少、粘性有、しまり有。
- 3 黄褐色土 白色軽石直径1～2mm少、ローム粒多、粘性有、しまり有。

3号住居の炉

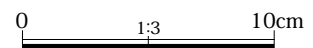
- 1 黒色土 粘性有、しまり有。掘り方。

3号住居のビット

- P 1 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。
- P 2 1 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm少、ロームブロック直径5mm微、粘性有、しまり有。

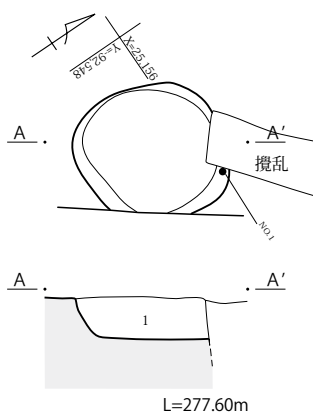


第44図 D区3号住居と出土遺物



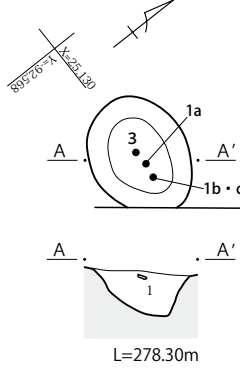
第3章 検出された遺構と遺物

1号土坑



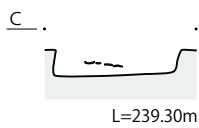
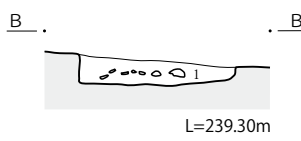
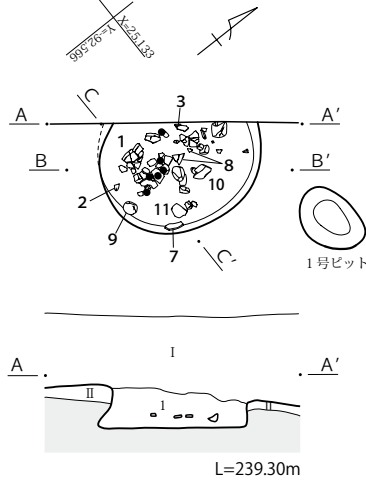
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~10mm少、ロームブロック直径1~3cm微、粘性有、しまり有。

4号土坑



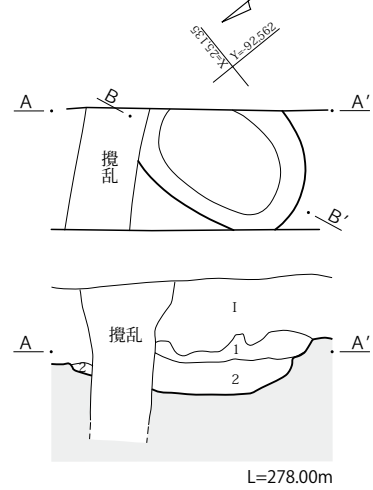
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。

2号土坑・1号ピット



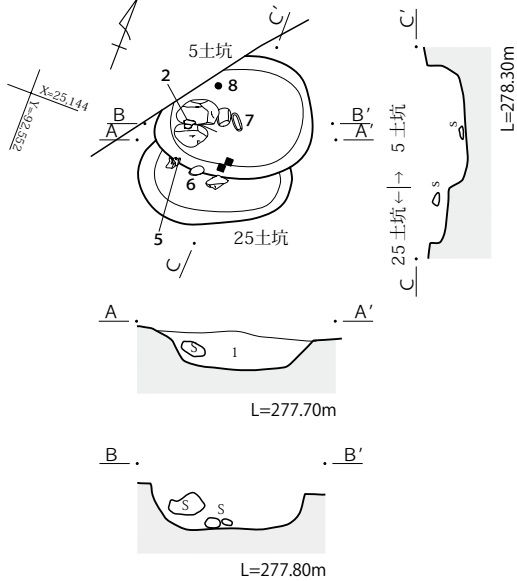
1 黒色土 As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。

3号土坑



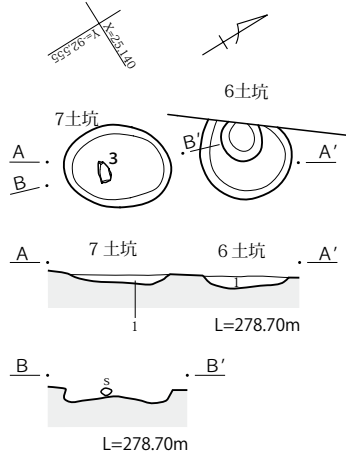
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm少、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~10mm少、炭直径2mm微、As-YP直径10~20mm微、粘性有、しまり有。

5・25号土坑



1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YPブロック直径1~2cm微、As-YP直径2~5mm微、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。

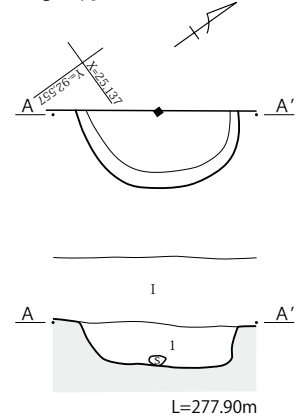
6・7号土坑



6号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。

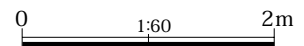
7号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。

8号土坑

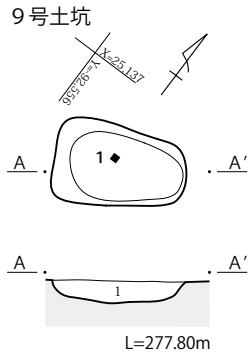


1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。

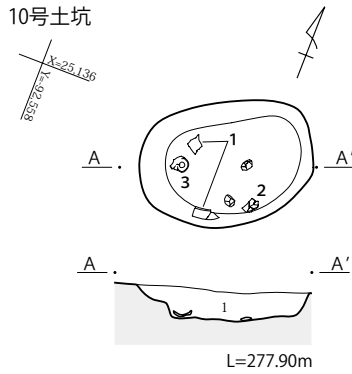
第45図 D区土坑(1)



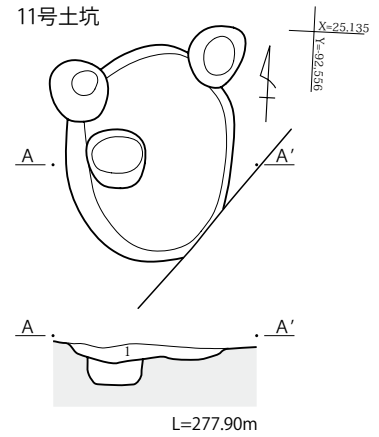
5. D区の遺構と遺物



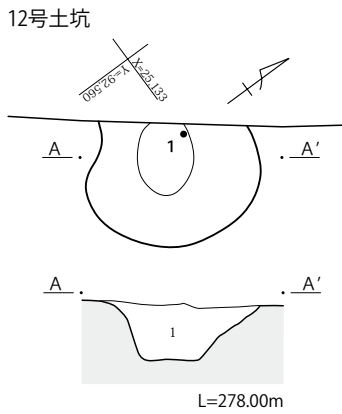
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、炭直径2mm少、ロームブロック直径1~2cm微、As-YP直径5~10mm少、粘性有、しまり有。



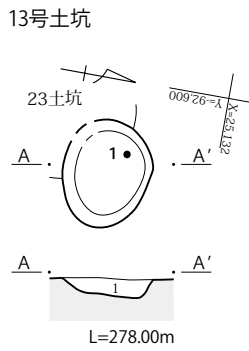
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。



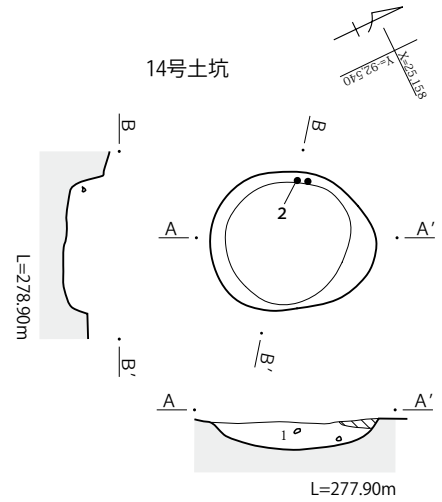
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm微、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。



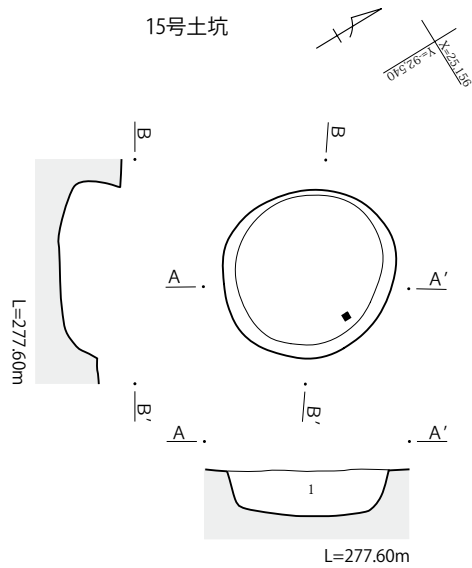
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~10mm多、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。



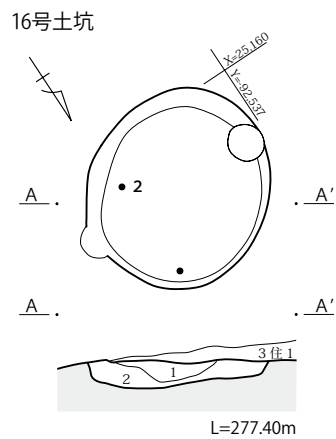
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2mm微、粘性有、しまり有。



1 黒色土 ローム粒少、As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。

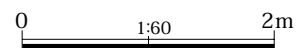


1 褐色土 ロームブロック直径1~5cm多、As-YP直径2~5mm少、黒色土少、粘性有、しまり有。人為的埋め戻しか。



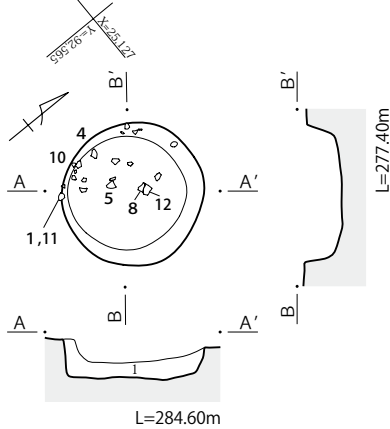
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径5~10mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~3mm少、粘性有、しまり有。

第46図 D区土坑(2)



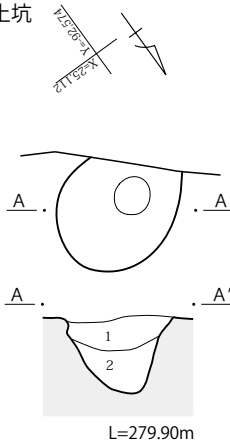
第3章 検出された遺構と遺物

17号土坑



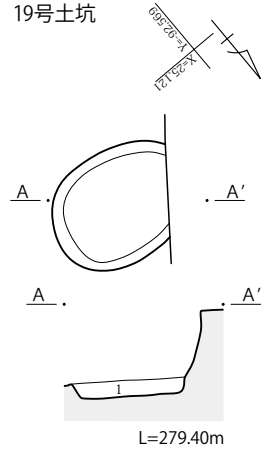
L=284.60m
1 黒色土 黒色土ブロック直径5～10mm多、ローム粒少、ロームブロック直径5mm少、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

18号土坑



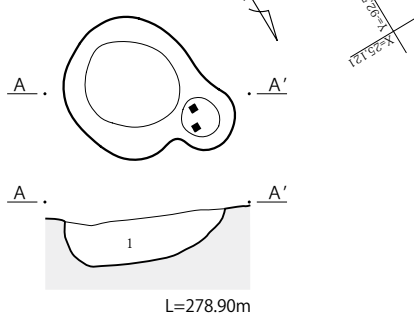
L=279.90m
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。

19号土坑



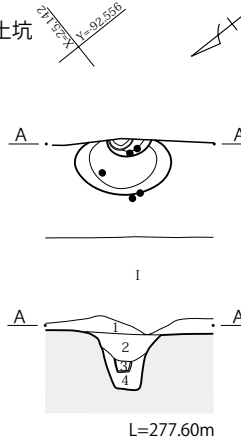
L=279.40m
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～3mm少、粘性有、しまり有。

20号土坑



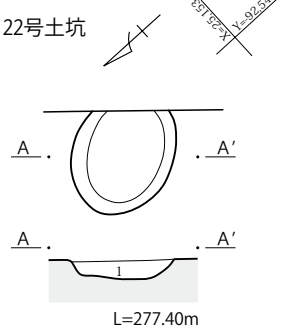
L=278.90m
1 黒色土 As-YP直径2～10mm少、白色軽石直径1～2mm多、粘性有、しまり有。

21号土坑



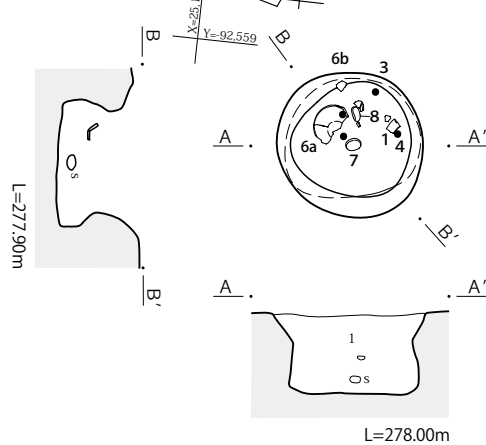
L=277.60m
1 1号住の覆土
2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。
3 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。
4 黒色土 ローム粒少、As-YP直径2～5mm微、白色軽石直径1mm少、粘性有、しまり有。人為的埋め戻し。

22号土坑



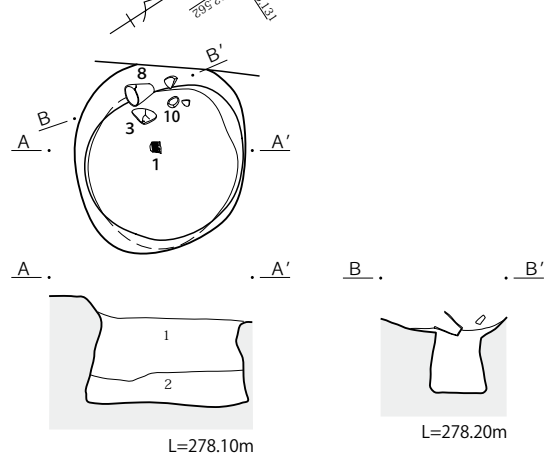
L=277.40m
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、ローム粒少、粘性有、しまり有。

23号土坑



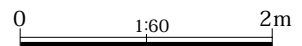
L=277.90m
L=278.00m
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、As-BP直径2～5mm微、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。

24号土坑



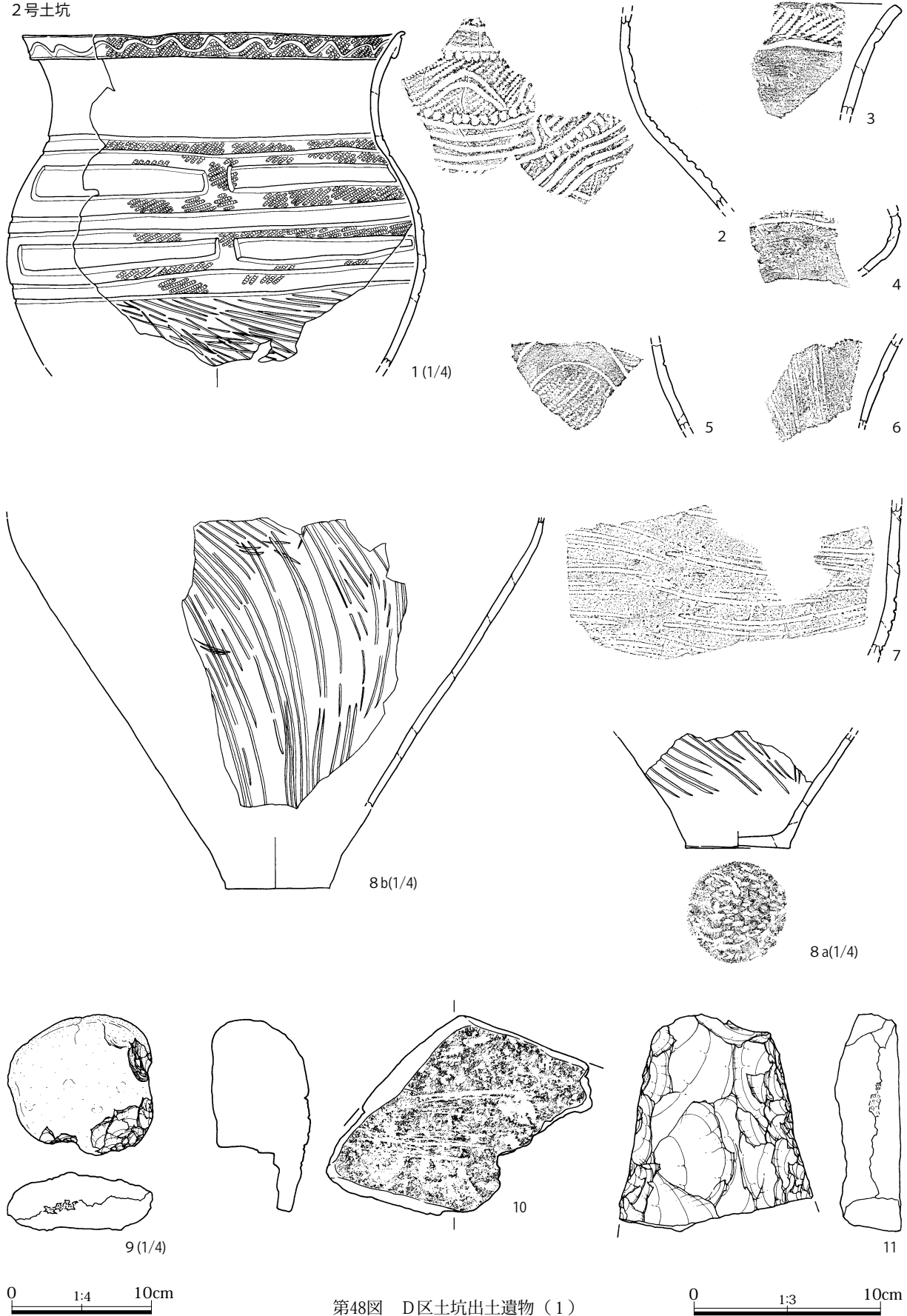
L=278.10m
L=278.20m
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、As-BP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。
2 茶色土 ロームブロック直径1～2cm微、As-BP直径2～5mm多、As-YP直径2～5mm微、白色軽石直径1～2mm少、粘性有、しまり有。

第47図 D区土坑 (3)



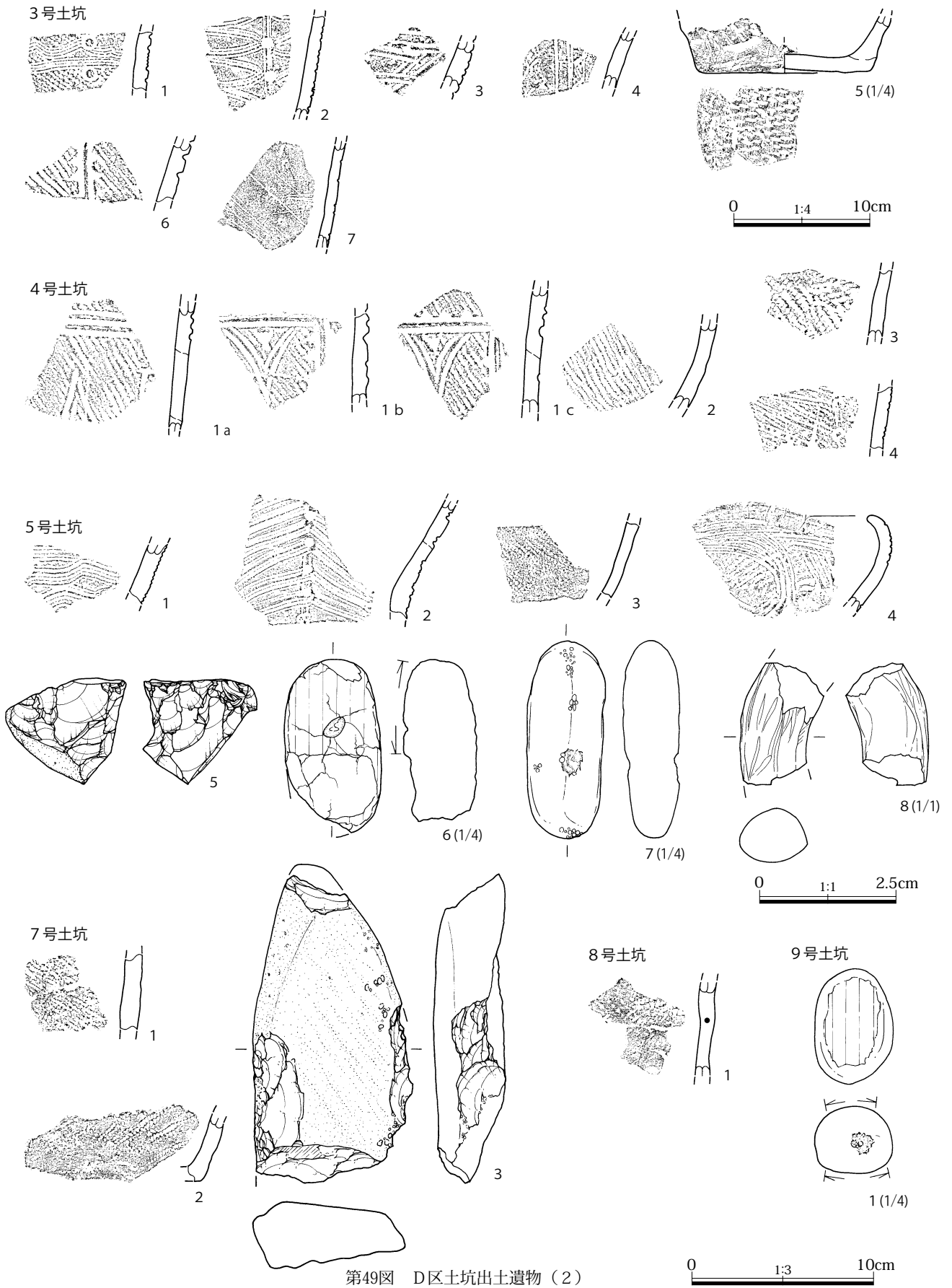
5. D区の遺構と遺物

2号土坑

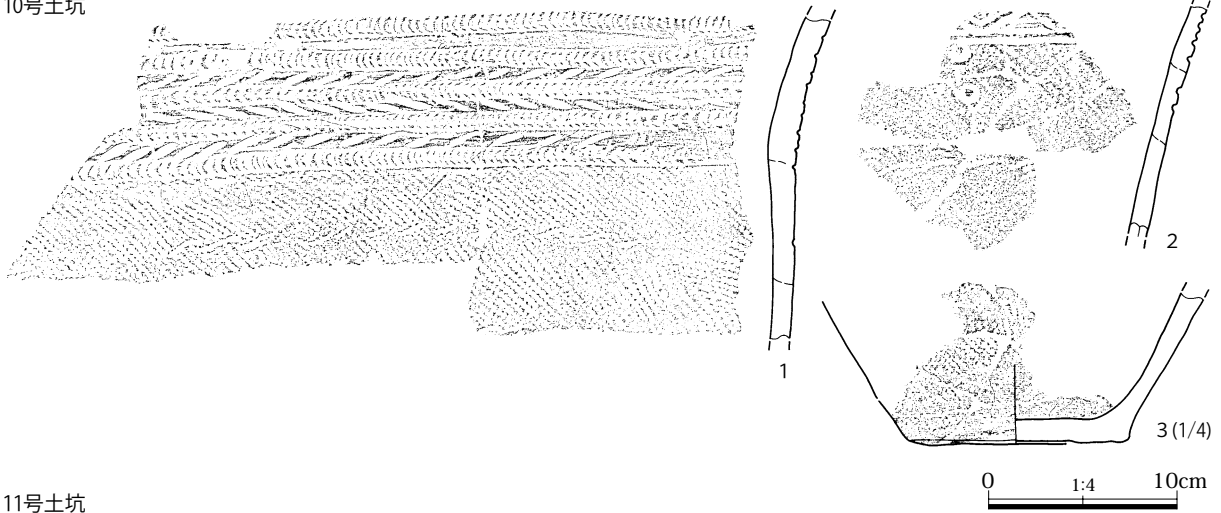


第48図 D区土坑出土遺物(1)

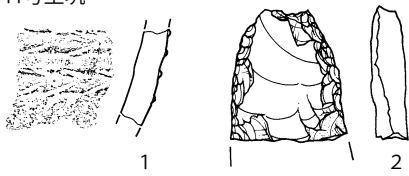
第3章 検出された遺構と遺物



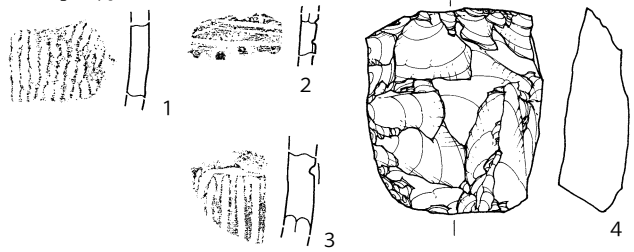
10号土坑



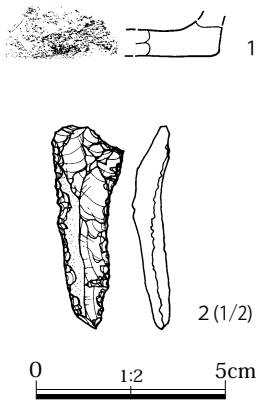
11号土坑



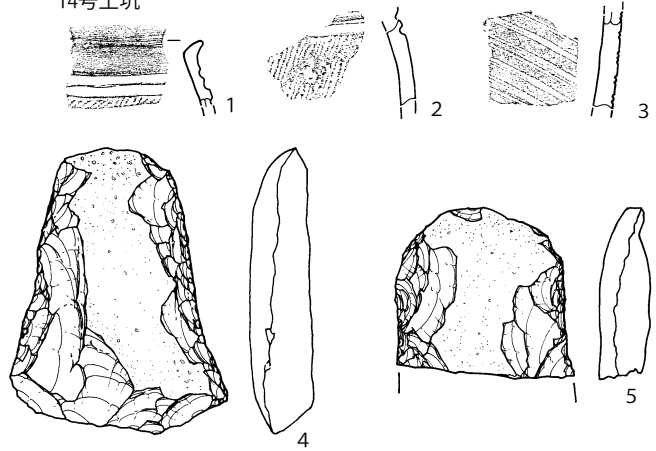
12号土坑



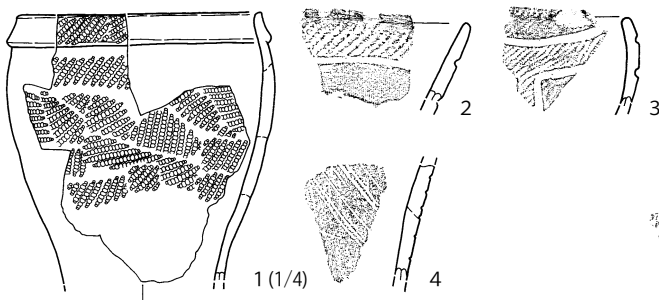
13号土坑



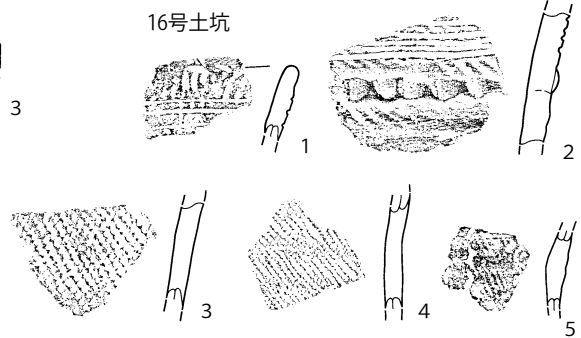
14号土坑



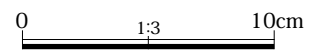
15号土坑



16号土坑

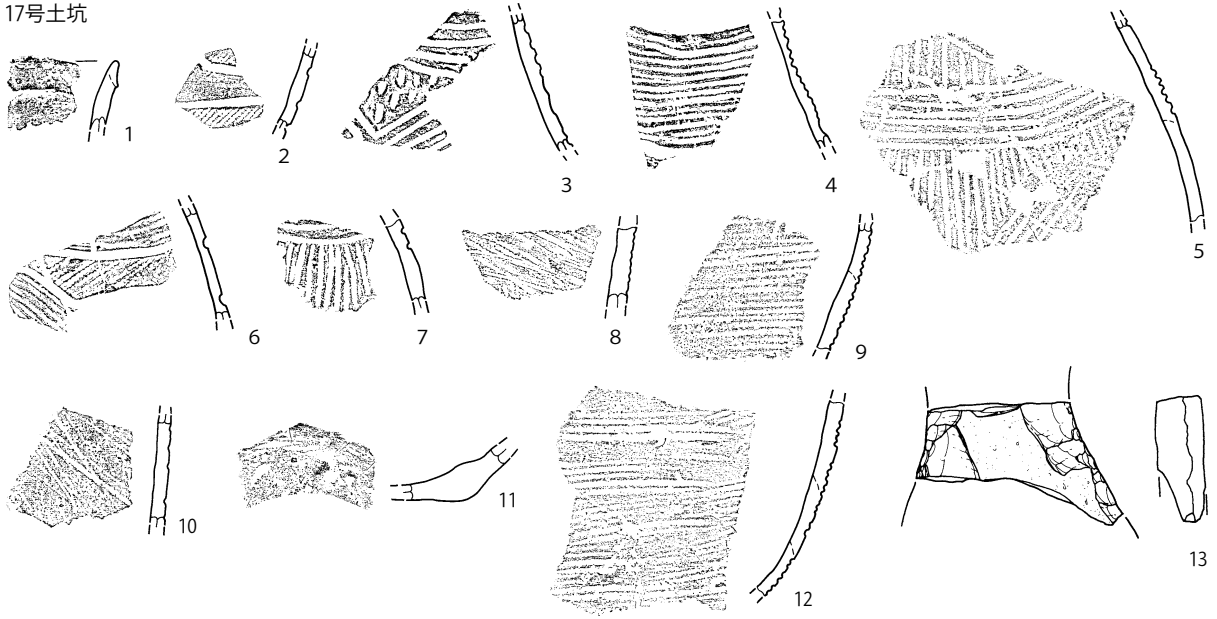


第50図 D区土坑出土遺物(3)

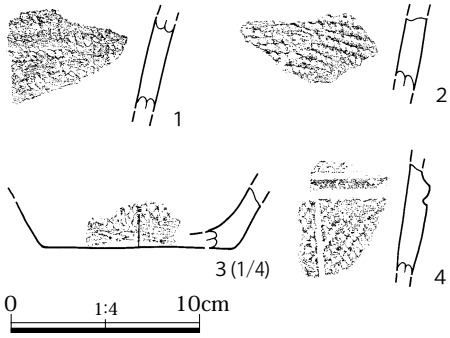


第3章 検出された遺構と遺物

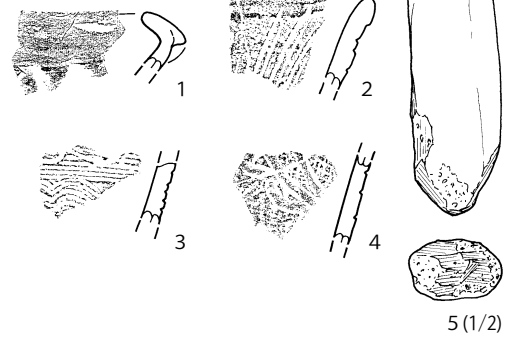
17号土坑



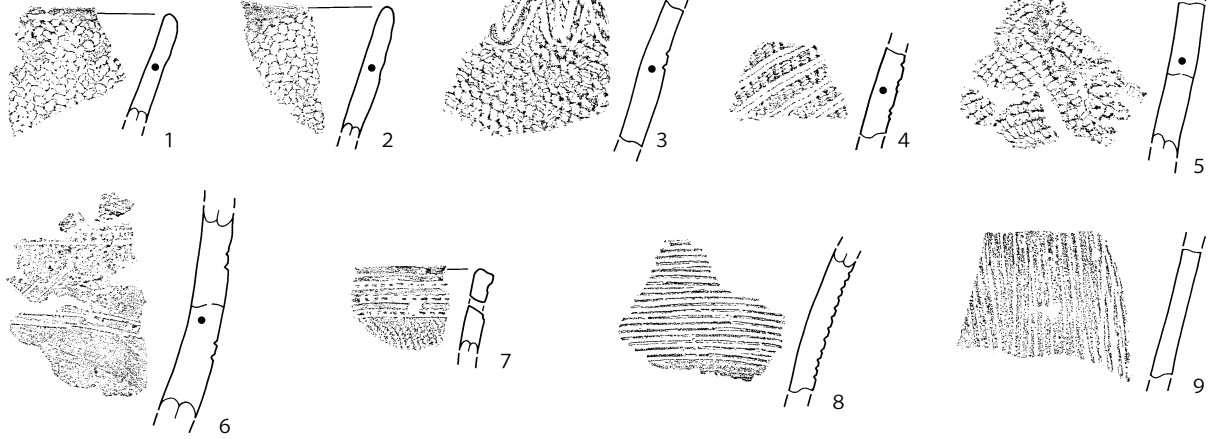
19号土坑



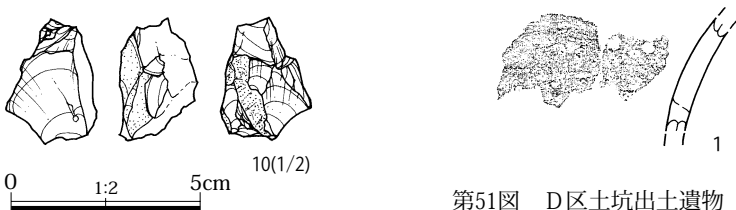
20号土坑



21号土坑

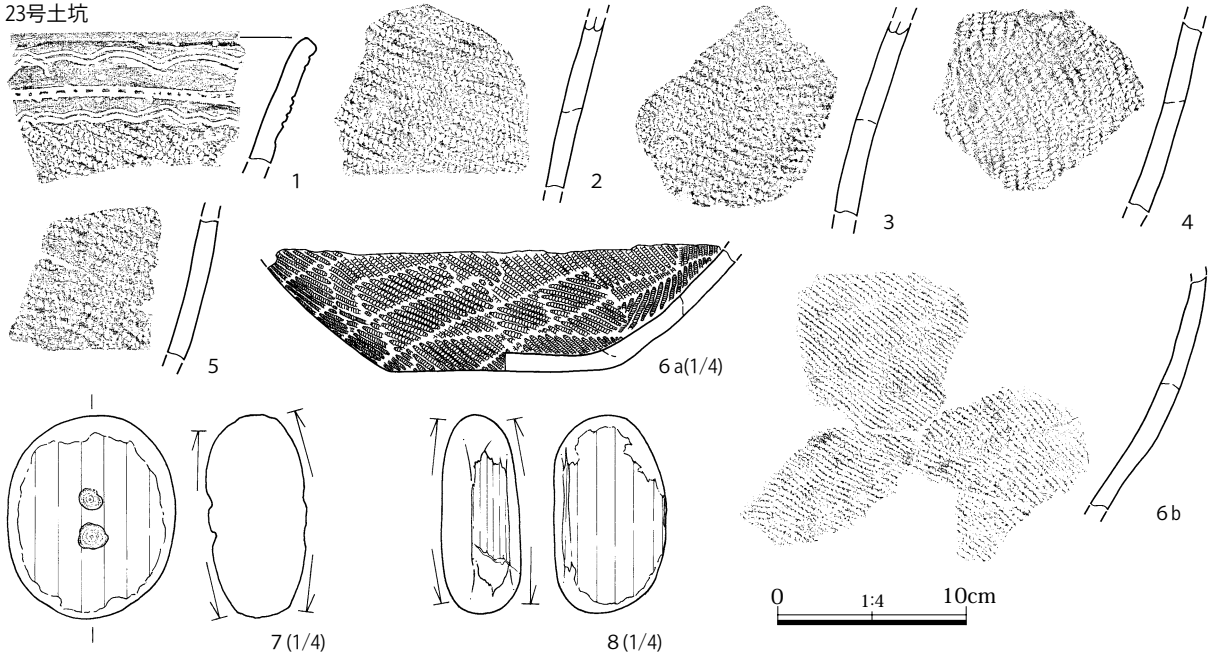


22号土坑

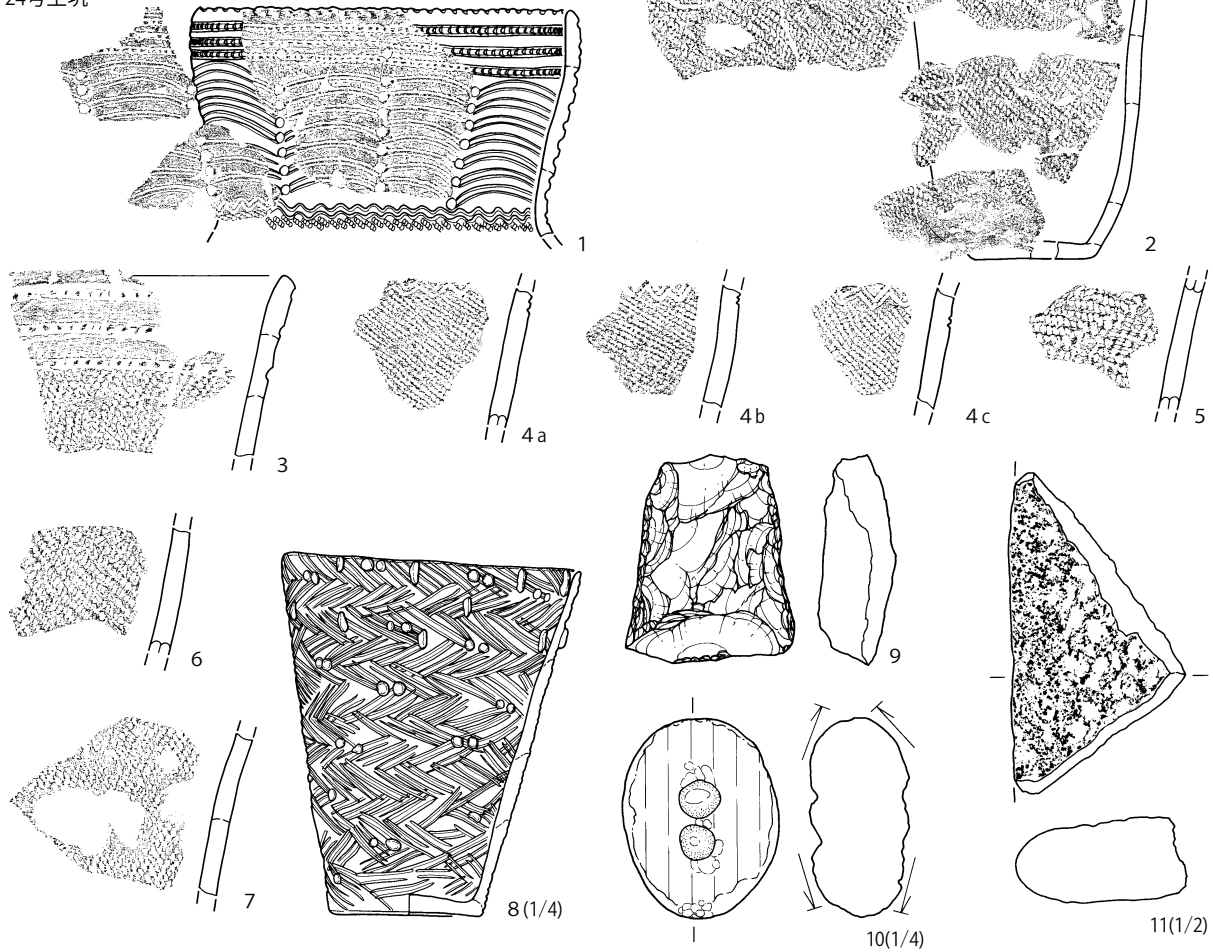


第51図 D区土坑出土遺物(4)

23号土坑



24号土坑



0 1:3 10cm

第52図 D区土坑出土遺物(5)

0 1:2 5cm

第3章 検出された遺構と遺物

している。5号土坑の時期は諸磯b式期と推定される。25号土坑が諸磯a式期の可能性があるが、断定できない。5号土坑からは硬質泥岩の石核2点(5/第49図他)、粗粒輝石安山岩およびデイサイトの凹石(6・7)、滑石製の扶状耳飾り1点(8)が出土した。

D区6号土坑は西端が発掘区域外で全形は調査できなかったが、円形の土坑と推定される。出土遺物はなく時期は不明であるが、埋没土の特徴から縄文時代の遺構と推定される。

D区7号土坑も楕円形の土坑で、諸磯b式土器が主体で出土している。このうち2点を図示した(1・2/第49図)。また、変玄武岩製の打製石斧(3/第49図)が中央部底面上4cmで出土した。

D区8号土坑は北西側が発掘区域外で全形は調査できなかった。黒浜式土器が1点埋没土中から出土している。土坑の時期は不明である。

D区9号土坑は、隅丸の楕円形で、土器は出土しなかった。中央部床面直上で粗粒輝石安山岩の敲石(1/第49図)が出土している。

D区10号土坑は楕円形の土坑で、D-2区の土坑密集部分で検出された。出土土器は諸磯b式土器主体である。土坑の時期も諸磯b式期と考えたい。石器は赤碧玉の加工痕ある剥片、硬質泥岩の石核が出土した。

D区11号土坑も楕円形の土坑で、D-2区の土坑密集部分で検出された。出土土器は諸磯b式土器1点のみで、土坑の時期は不明である。底面および周囲の小ピットとの関連は不明である。硬質泥岩の打製石斧1点(2/第50図)が出土した。

D区12号土坑は不整円形で断面ボール状の土坑で、北東部は調査区域外で全形は不明である。黒浜式・諸磯b式・諸磯c式・加曾利EⅡ式など時期幅の広い土器細片が出土した。土坑の時期は不明である。埋没土の特徴は他の縄文時代土坑と同様であった。硬質泥岩の石核(4/第50図)が埋没土中から出土している。

D区13号土坑はD-2区の土坑密集部分で23号土坑と重複して検出された。埋没土の観察からは13号土

坑の方が新しい。時期不明の縄文土器底部(1/第50図)とチャートの削器(2/第50図)が出土している。土器は中期前葉の可能性が考えられるが、後述するように23号土坑は諸磯a式と考えられるので矛盾はない。

D区14号・15号・17号土坑は弥生時代中期の土坑である。いずれも円形で、縄文時代の土器も混在するが、弥生時代中期前半の神保植松式あるいは神保富士塚式に併行する時期の弥生土器が出土した。14号土坑からは変玄武岩の石鍬(4/第50図)とデイサイト製の石鍬(5)、15号土坑からは硬質泥岩の石核、17号土坑からは変質安山岩の石鍬(13/第51図)が出土している。

D区16号土坑は大型の楕円形土坑で、中期前葉のD区3号住居の床面下から検出された。出土土器は、五領ヶ台式土器の細片1点が混じているが、諸磯b式土器が主体であることから、土坑の時期は諸磯b式期としたい。

D区18号土坑は円形・断面すり鉢状の土坑で、D-2区南端部で検出された。出土遺物がなく時期は不明であるが、埋没土の特徴は他の縄文時代の遺構と同様である。

D区19号土坑は楕円形の土坑でD-2区の土坑密集部分の南周辺部で検出された。出土土器は中期前葉の1点を混じるが、主体は諸磯a式土器である。土坑の時期も諸磯a式期と考えておきたい。

D区20号土坑は円形の土坑で、19号土坑に隣接して検出された。出土土器は諸磯a式と前期末葉の土器が出土しているが、土坑の時期は前期末としたい。チャートの石核、砂質頁岩の敲石(5/第51図)が埋没土中から出土した。

D区21号土坑はD-1-2区の2号住居と重複して検出された。本土坑の埋没土を2号住居のP5が切っていることから、本土坑の方が古い。出土土器には関山Ⅱ式・黒浜式・諸磯a式・b式土器が混在している。2号住居は諸磯a式期と考えられるので、土坑の時期は関山式・黒浜式期と推定されるが、判然としなかった。埋没土から黒曜石の石核が出土して

6. E区の遺構と遺物

いる。

D区22号土坑は南端が発掘区域外で全形は調査できなかったが、楕円形の土坑と推定される。諸磯a式土器が1点(1/第51図)出土したのみで、土坑の時期は不明であるが、埋没土の特徴は他の縄文時代の遺構と同様である。

D区23号・24号土坑は、いずれも円形・断面袋状の土坑で、D-2区の土坑密集部分の南部で隣接して検出された。土坑の時期は、どちらも諸磯a式土器を主体として出土していることから、いずれの土坑も諸磯a式期と考えられる。ただし24号土坑からは諸磯c式の完形土器(8/第52図)が出土しており、時期の違う土坑が重複しているか、24号土坑の時期が諸磯c式である可能性も示唆される。23号土坑からは珪質頁岩の加工痕ある剥片、砂岩の凹石(7/第52図)、粗粒安山岩とデイサイトの磨石(8)、珪質頁岩の加工痕ある剥片が出土している。24号土坑からは硬質泥岩の打製石斧(9/第52図)、粗粒輝石安山岩の凹石(10)、磨石、緑色片岩の石皿(11)が埋没土中から出土している。

6. E区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居

E区1号住居(第53・54図 PL.22・41 遺物観察表 P.108・109・116)

E区1号住居は、E区の南西隅E-1-1区の南端に位置する。E-1-1区は細長く、本住居の調査は中央部をトレンチ状に検出したにとどまった。したがって住居の形状は不明であるが、曲線を描くことから楕円形である可能性が高い。

住居の規模は、長軸4.35m、短軸0.98m以上で、残存壁高は0.34m、長軸方位は不明である。床面の東端は新しい遺構に切られている。調査では既存道路を隔てて南東側にある2号住居の北西隅の可能性を考えたが、調査工程上の都合から確認することはできなかった。

1号住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、

ローム粒を含む硬く締まった黒色土である。壁沿いに2本、中央部に1本ピットを確認したが、中央部のP1は支柱穴の可能性もある。規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.27×0.23×0.43m)である。壁沿いのピットの用途は不明である。

炉・周溝は検出されなかった。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。

出土遺物は全体で土器11点、石器・石片は36点である。土器の型式内訳は関山Ⅱ式8点、諸磯a式2点、阿玉台式が1点である。このうち、8点の土器を図化・掲載した(第54図)。

石器は石鏃1点、削器1点、石核1点、加工痕ある剥片2点、剥片類31点が出土した。このうち3点を図化・報告した(第54図)。石器はいずれも埋没土中からの出土である。南壁際から出土した大型礫の器種は未確認である。

出土土器は、関山Ⅱ式を主体としており、諸磯b式、阿玉台式は混入と推定される。住居の時期は関山Ⅱ式期と考えられる。

E区2号住居(第53・54図 PL.22・41 遺物観察表 P.108・109・116)

E区2号住居は、E区の南西隅E-2-1区の南端に位置する。北西部は調査区域外になり、南東壁際を検出したにとどまった。したがって住居の形状は不明である。住居の規模は、長軸3.26m、短軸0.82m以上で、残存壁高は0.74m、長軸方位は不明である。

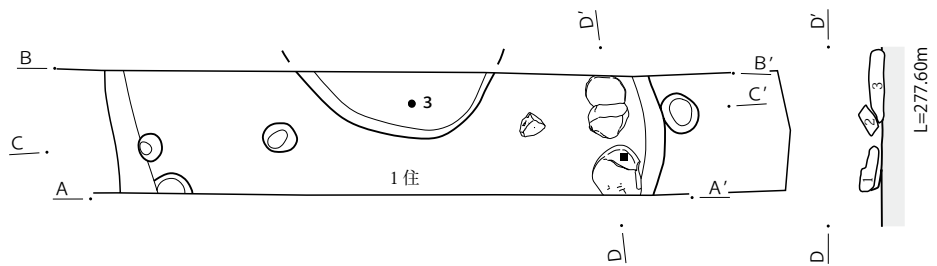
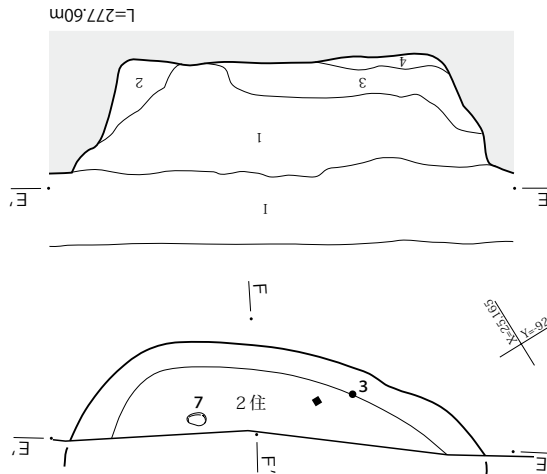
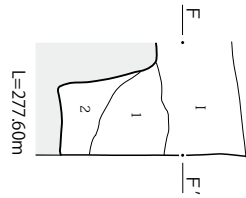
調査では、北西側にあるE区1号住居を切る落ち込みが本住居の北西隅にあたる可能性を考えた。床面までの深さや壁形状は共通している。しかし合成した全体の平面形状は不定型な三角形となり、住居形状とは考えにくい。ここではE-2-1区部分のみを2号住居として報告した。

住居の埋没土は白色軽石やAs-YP、炭化物粒、ローム粒を含む硬く締まった黒色土である。床面は平坦で、地山ローム土上面を床面としている。柱穴・炉・周溝は検出されなかった。出土遺物は全体で土器14点、石器・石片は28点である。土器の型式内訳は関

第3章 検出された遺構と遺物

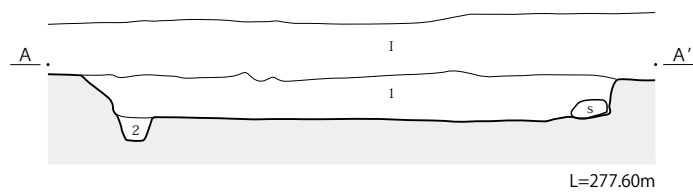
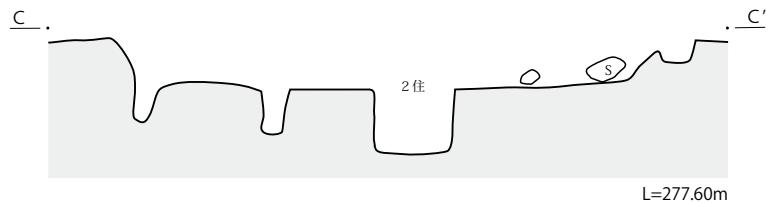
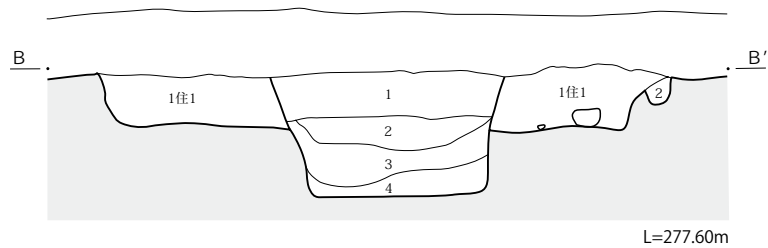
2号住居

- 1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、炭直径2~5mm少、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 ローム粒少、As-YP直径2~5mm少、As-BP直径5~10mm少、粘性有、しまり有。
- 3 黄褐色土 白色軽石直径1~2mm少、As-YP直径2~5mm微、As-BP直径2~5mm微、ローム粒多、粘性有、しまり有。
- 4 茶褐色土 白色軽石直径1~2mm微、As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。

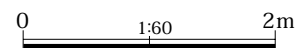


1号住居

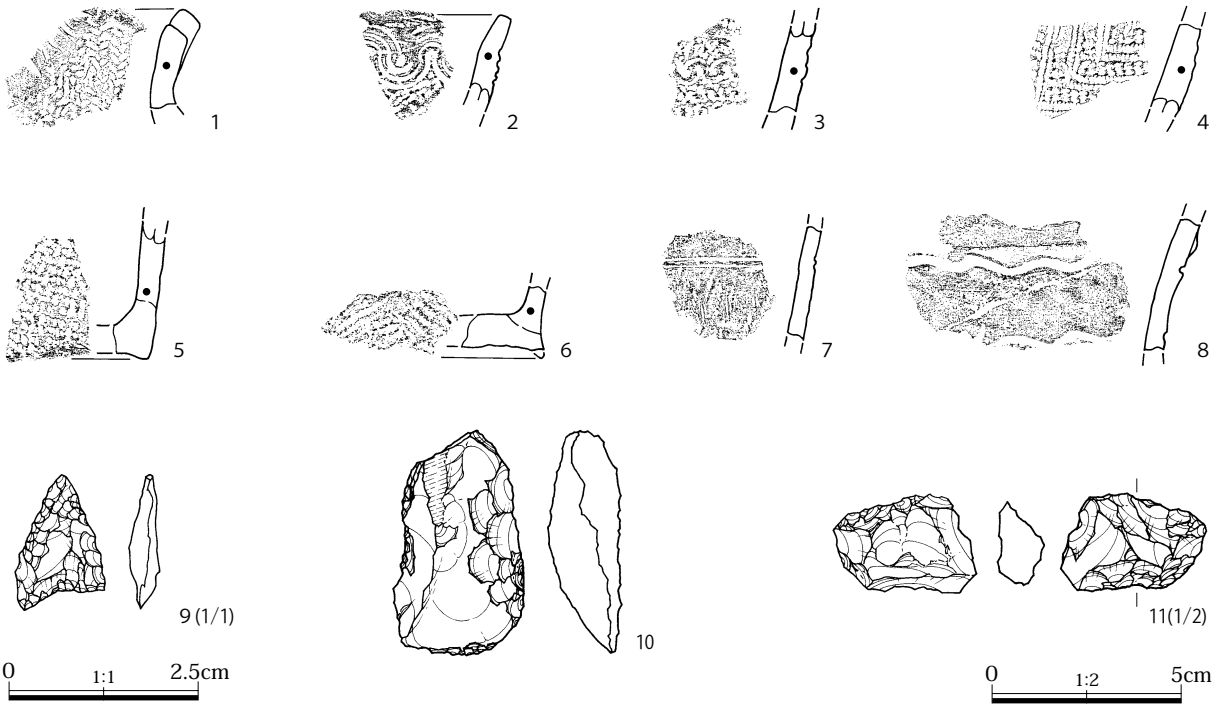
- 1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~10mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。
- 2 黒色土 白色軽石直径1~2mm少、As-YP直径2~5mm少、ロームブロック直径5~10mm少、ローム粒少、粘性有、しまり有。



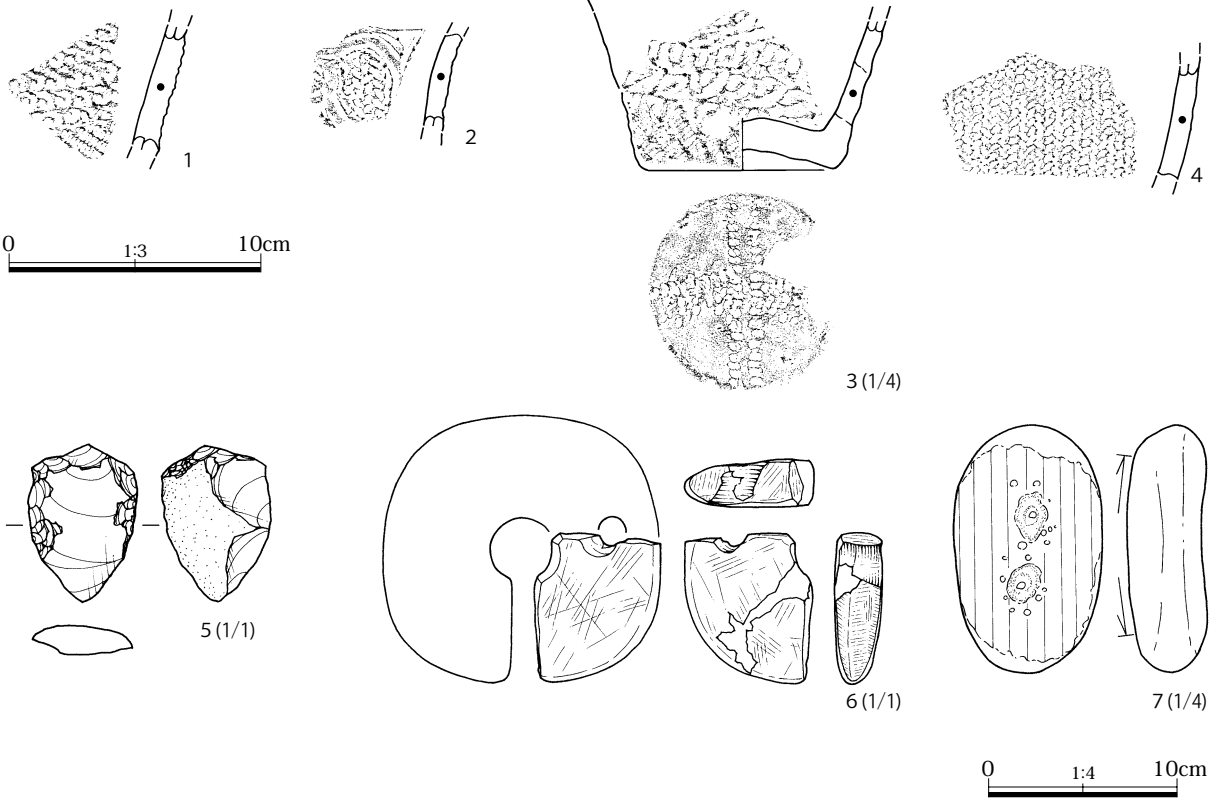
第53図 E区1号・2号住居



1号住居



2号住居



第54図 E区1号・2号住居出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

山Ⅱ式13点、不明1点で、このうち、4点の土器を図化・掲載した(第54図)。関山Ⅰ式の深鉢底部(3)は南壁際床面上32cmで出土した。

石器は加工痕ある剥片2点、凹石1点、挾状耳飾り1点、剥片類19点、礫・礫片5点が出土した。このうち3点を図化・報告した(第54図)。挾状耳飾り(6/第54図)と加工痕ある剥片(5)は埋没土中からの出土である。凹石(7)は南東隅床面上3cmで出土した。

出土土器は、関山Ⅱ式を主体としており、住居の時期は関山Ⅱ式期と考えられる。

(2)土坑

(第55～63図 PL.23～27・41～43 遺物観察表 P.109～110・116～118)

E区では42基の土坑が検出された。遺構の分布はE-2-1区の北西壁沿いからE-2-2区の南東端にかけての地点に集中する傾向がみられた。それぞれの形態、規模、出土遺物の内容等は、第4・5表にまとめた。概ね縄文時代の土坑と推定され、前期諸磯b式・c式期に加えて、中期勝坂式・阿玉台式期の土坑が多く分布している。出土土器がなく、時期を確定できなかった土坑もある。

また、弥生時代前期終末期の土坑1基E区42号土坑が含まれていた。E区42号土坑は先述したE-2-1区の南端にあり、D区で検出された弥生時代中期の土坑群と一連の土坑群を形成しているものと推定される。

以下、各土坑の特徴や出土遺物について概略をまとめる。

E区1号土坑はE-2-5区に1基のみ検出された円形の土坑である。E-2-5区は発掘区北端にあたり、縄文時代を中心とした本遺跡の遺構の密度は薄くなっている。出土土器は諸磯b式が多いが、諸磯c式、阿玉台式土器が混在している。土坑の時期は不明と言わざるを得ないが、埋没土は縄文時代の他の遺構と同様の特徴をもっていた。北壁沿いで緑色片岩製の石皿(5/第58図)が出土した。

E区2号土坑はE-2-4区に1基のみ検出された円

形の土坑である。出土土器は諸磯b式・c式・阿玉台式が混在している。土坑の時期は阿玉台Ⅰb式期と推定される。

E区3号土坑はE-2-3区に1基のみ検出された土坑である。北側は発掘区域外、東側は3号溝に切られており、全形は不明である。隅丸方形と推定される。出土土器は諸磯b式・前期末葉の土器があるが、前期末葉細片1点のみ図示した(第58図)。遺構の時期は不明である。

E区4号土坑はE-1-1区に1基のみ検出されたやや大型の円形土坑である。出土土器は関山Ⅱ式・黒浜式が混在している。土坑の時期は黒浜式期と推定される。石器も多く出土した。チャート製の石鏃2点(12・13/第59図)が中央やや東寄りとな北壁際の床面直上で出土している。また硬質泥岩の打製石斧(14)、珪質頁岩の削器(15)、チャートの石核、硬質泥岩の加工痕ある剥片が埋没土中から、閃緑岩の磨石が南西部の底面上12cmで出土した。

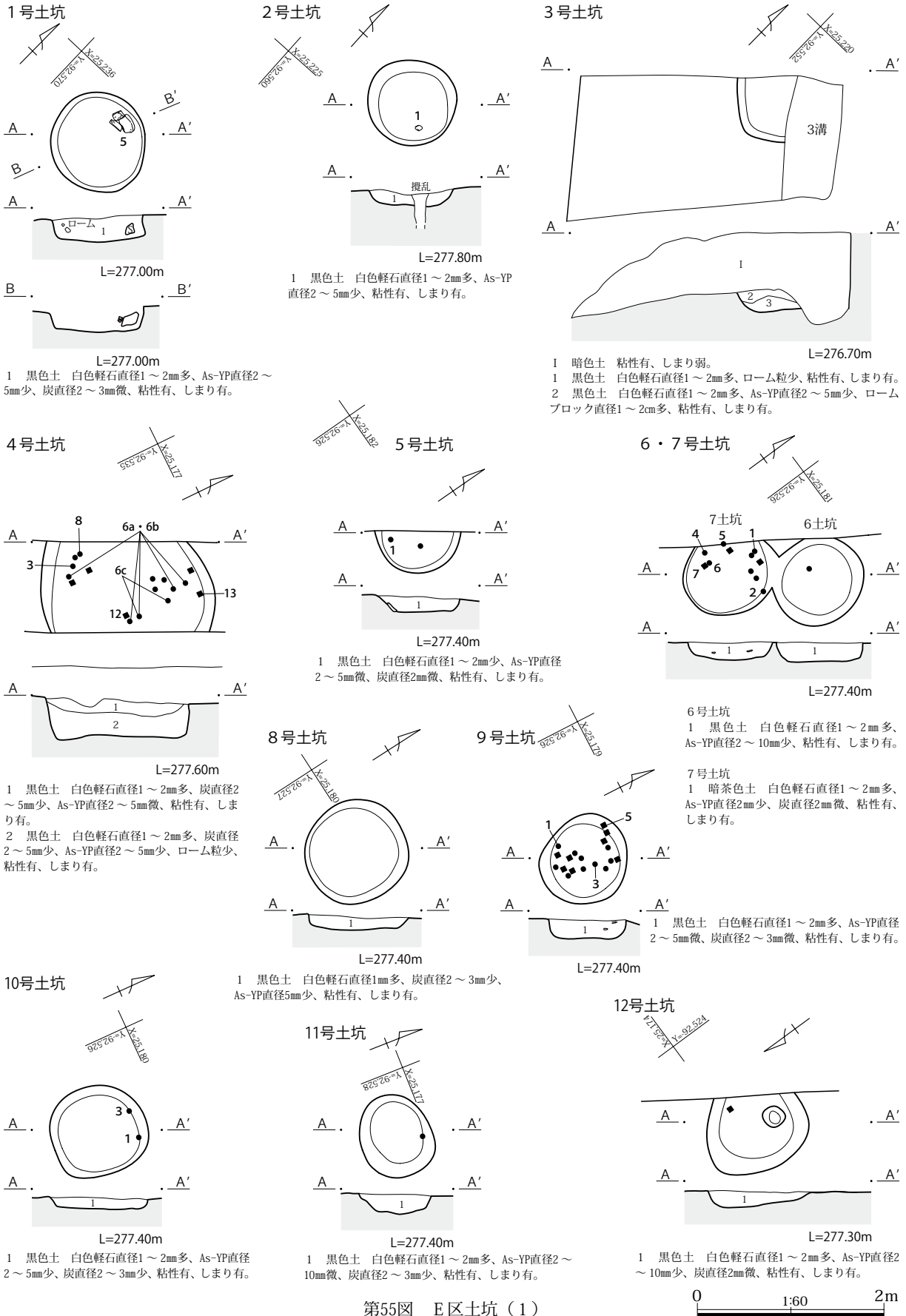
E区5号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された。北西側は発掘調査区域外である。出土土器は阿玉台Ⅰb式が主体で、遺構の時期も当該期と推定される。チャート製の石核(2/第59図)が出土した。

E区6号・8号・11号・12号土坑もE-2-1区の土坑集中区で検出された。円形あるいは楕円形の土坑である。これらの土坑の出土土器は、少ないか、あっても前期から中期の土器が混在しているために、土坑の時期を判断するのは困難である。石器は、6号土坑から黒曜石の石核(1/第60図)とチャートの石核、8号土坑からチャートの石鏃、11号土坑からゲイサイトの磨石が埋没土中から出土した。

E区7号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された楕円形の土坑である。出土土器は勝坂3式土器主体である。石器は粗粒輝石安山岩の磨石(7/第59図)や剥片・礫が底面から2～7cm浮いた位置で出土した。

E区9号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された小型の円形土坑である。出土土器は中期中葉の土器主体で、土坑の時期は勝坂1・2式期と推定され

6. E区の遺構と遺物



第55図 E区土坑(1)

第3章 検出された遺構と遺物

る。多くの剥片・礫片とともに、チャートの楔形石器(4/第60図)、黒曜石の石核が埋没土中から、流紋岩凝灰岩とデイサイトの凹石(5)がそれぞれ南底部面上10cm、北壁際底面上3cmで出土した。

E区10号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された円形土坑である。出土土器は中期中葉の土器主体で、土坑の時期は阿玉台I b式期と推定される。多くの剥片が出土したが、石器は出土しなかった。

E区13号・14号土坑・15号土坑・28号土坑はE-2-1区の土坑集中区で重複して検出された円形土坑である。13号土坑の出土土器は黒浜式・諸磯b式・中期前葉が混在しており、土坑の時期は特定できない。14号土坑は諸磯b式・c式が混在しているが、土層断面の観察から28号土坑より新しい。後述するように28号土坑が勝坂3式段階であることから14号土坑の諸磯b式・c式土器は混入の可能性が高い。また14号土坑からは黒色安山岩の石鏃(4/第60図)、細粒輝石安山岩の打製石斧(5)、硬質頁岩の削器(6)が埋没土中から出土した。

E区15号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された断面袋状の土坑である。出土土器は諸磯b式と中期中葉が相半ばするが、土器の出土状況からは中期中葉と推定される。これは勝坂3式土器が出土している28号土坑より新しい土層観察と矛盾しない。埋没土中から黒曜石の加工痕ある剥片2点が出土している。

E区28号土坑は14号・15号土坑と重複して検出された。出土土器は勝坂3式段階を主体とする。土坑の時期も当該期と推定される。中央部床面直上から硬質泥岩の打製石斧(6/第62図)、加工痕ある剥片、多くの剥片が出土した。

E区16号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された断面袋状土坑である。出土土器は黒浜式・諸磯b式・中期前葉が混在していた。また耳栓(5/第61図)が出土した。諸磯b式土器の出土量がやや多いと見られる。耳栓の型式も前期のものと推定される。石器は珪質頁岩の磨製石斧(6/第61図)、黒曜石の石鏃(7)、加工痕ある剥片が埋没土中から出土した。

E区17号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された円形土坑である。出土土器は諸磯b式と中期前葉浅鉢が見られる。量的には諸磯b式が多い。土坑の時期も諸磯b式期と推定される。滑石製の扶状耳飾り(4/第61図)が南東壁際底面上8cmで出土した。

E区18号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された円形土坑である。出土土器は諸磯b式土器が主体で、土坑の時期も当該期と推定される。粗粒輝石安山岩の礫が出土しているが、石器は出土しなかった。

E区19号土坑は18号土坑と重複してE-2-1区の土坑集中区で検出された楕円形土坑である。出土土器は型式不明の1点があるのみで、土坑の時期は不明と言わざるを得ない。

E区20号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された断面袋状の土坑である。西半部は発掘区域外で全形は不明である。出土土器は諸磯b式、前期末が混在する。土坑の時期は前期末と推定される。石器は出土しなかった。

E区22号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された円形土坑である。出土土器は黒浜式・諸磯b式が混在するが、黒浜式がやや多い。諸磯b式は細片1点である。埋没土中から黒曜石の石核が出土した。

E区23号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された円形土坑である。出土土器は諸磯b式2点のみである。土坑の時期も当該期と推定される。石器は黒曜石の石核(2/第61図)と、粗粒輝石安山岩の磨石(3)が出土した。

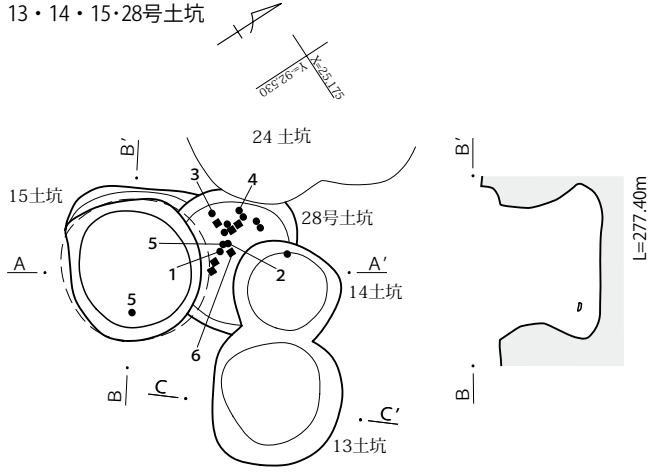
E区24号土坑はE-2-1区の土坑集中区で23号土坑と重複して検出された楕円形土坑である。埋没土の観察からは24号土坑が古い。出土土器はなかった。デイサイトの石核と、砂岩の台石(1/第62図)が出土した。

E区25号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された小型の円形土坑である。出土土器は諸磯b式と阿玉台式が見られる。いずれも細片で土坑の時期は不明である。石器は出土しなかった。

E区26号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された小型の円形土坑である。出土土器は諸磯b式の土

6. E区の遺構と遺物

13・14・15・28号土坑

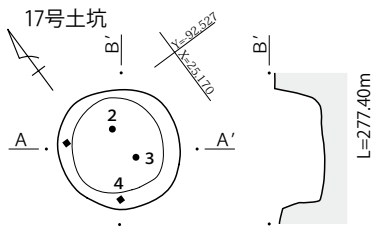
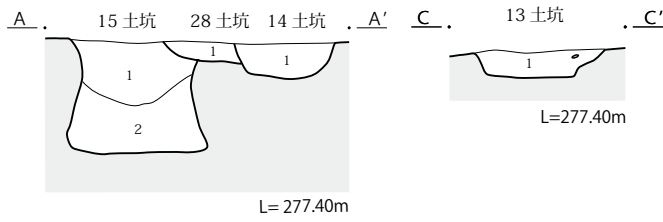


13号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。

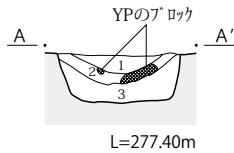
14号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、炭直径1～2mm少、粘性有、しまり有。

15号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～10mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5～10mm少、炭直径5mm微、粘性有、しまり有。

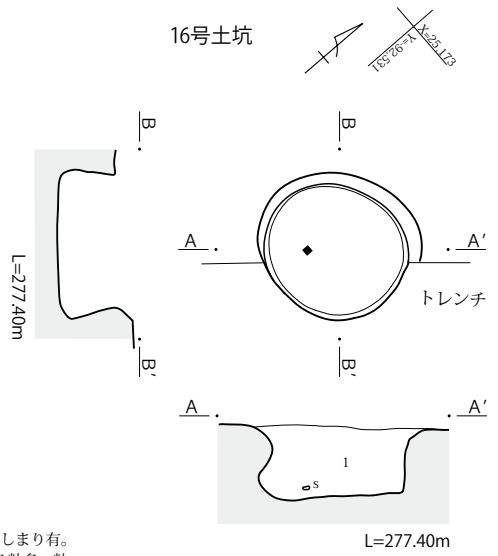
28号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。
15号坑より新しい。



1 黒色土 As-YP直径2～30mm多、白色軽石直径1mm多、粘性有、しまり有。
2 黒色土 As-YP直径2～20mm多、As-YPのブロックを含む、白色粒多、粘性有、しまり有。
3 黒色土 As-YP直径2～10mm少、炭直径2～10mm少、白色軽石直径1mm少、粘性有、しまり有。

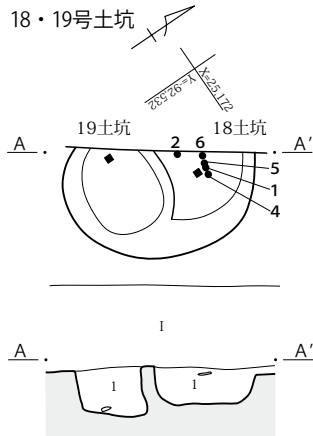


16号土坑



1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～10mm多、炭直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

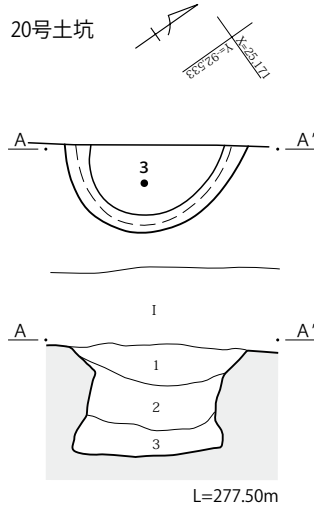
18・19号土坑



18号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

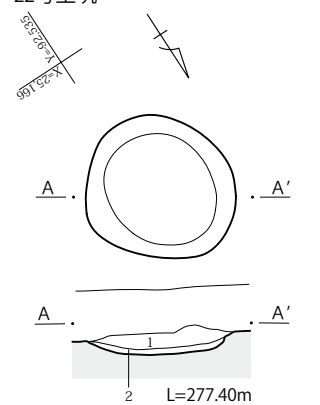
19号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

20号土坑



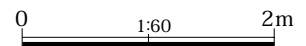
1 黒色土 As-YP直径2～10mm少、白色軽石直径1～2mm多、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。
2 黒色土 As-YP直径2～10mm少、As-BP直径2～10mm少、炭直径2mm少、白色軽石直径1～2mm多、粘性有、しまり有。
3 暗茶色土 As-YP直径2～10mm微、As-BP直径5mm少、ローム粒多、ロームブロック直径1～2cm少、粘性有、しまり有。

22号土坑



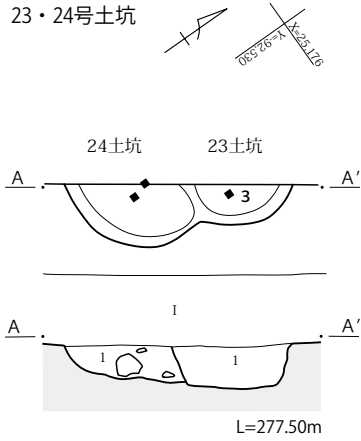
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、ローム粒少、ロームブロック直径1cm少、粘性有、しまり有。

第56図 E区土坑(2)



第3章 検出された遺構と遺物

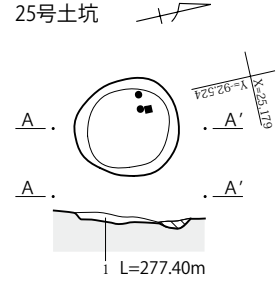
23・24号土坑



23号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm微、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。

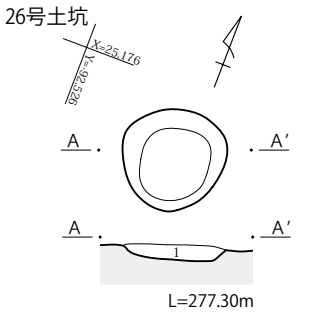
24号土坑
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

25号土坑



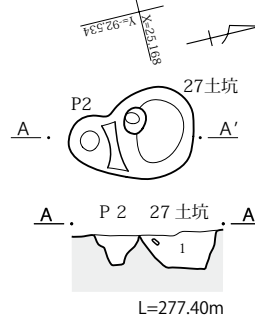
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径5mm微、粘性有、しまり有。

26号土坑



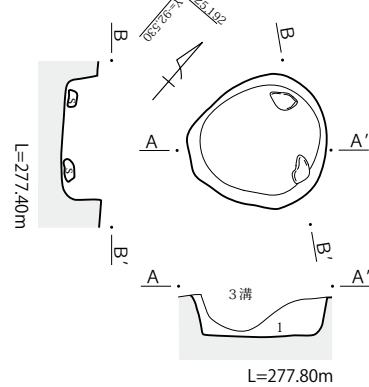
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

27号土坑・P2



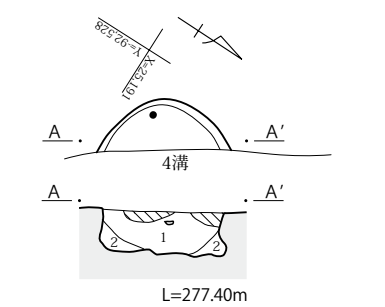
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、炭直径2～5mm微、粘性有、しまり有。

29号土坑



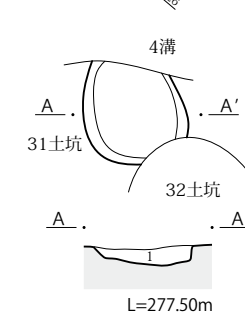
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、炭直径2～3mm少、粘性有、しまり有。

30号土坑



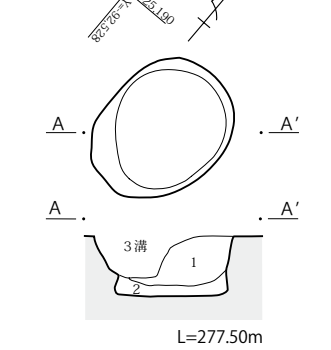
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、As-YP直径2～5mm少、As-BP直径2～5mm微、炭直径2mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、ローム粒少、As-BP直径2～3mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。

31号土坑



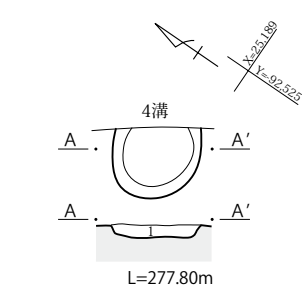
1 暗褐色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。

32号土坑



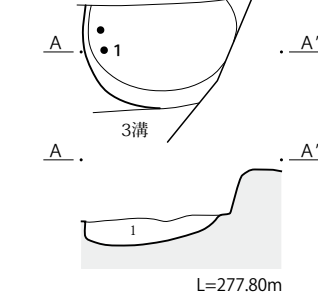
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm多、ロームブロック直径1～2cm少、As-YP直径2～5mm少、炭直径2～3mm少、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～10mm微、As-BP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。

33号土坑



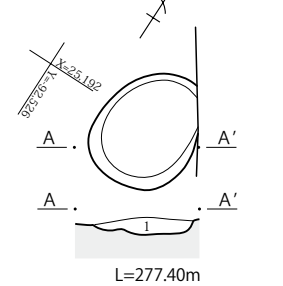
1 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm微、粘性有、しまり有。

34号土坑



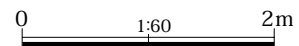
1 暗褐色土 白色軽石直径1～2mm少、As-YP直径2～5mm微、ロームブロック直径5～10mm微、粘性有、しまり有。

35号土坑

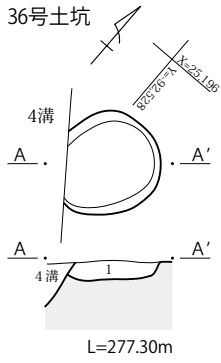


1 黒色土 白色軽石直径1～2mm少、ロームブロック直径1～2cm少、As-YP直径2mm微、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。

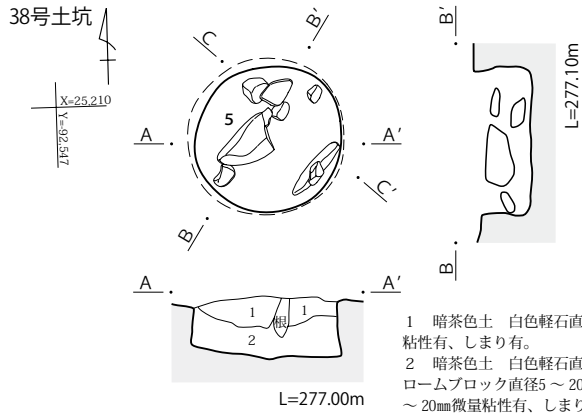
第57図 E区土坑(3)



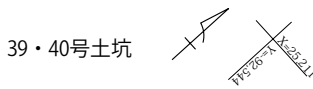
6. E区の遺構と遺物



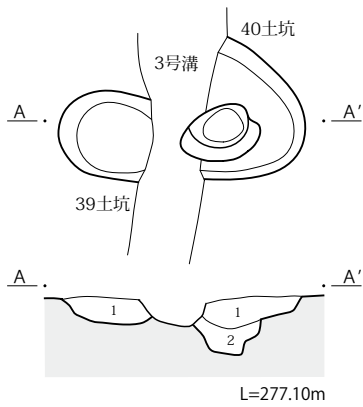
36号土坑
L=277.30m
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm微、ローム粒少、粘性有、しまり有。



38号土坑
L=277.00m
1 暗茶色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。
2 暗茶色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm微、ロームブロック直径5~20mm少、炭直径2~3mm少量、炭直径5~20mm微量粘性有、しまり有。

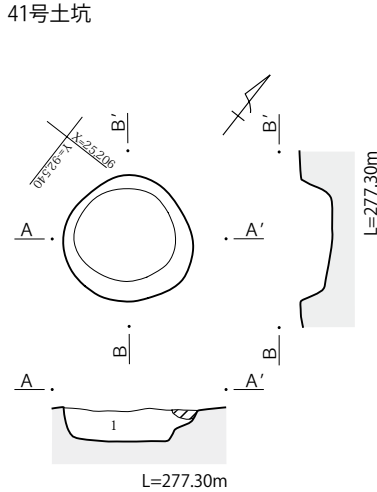


39・40号土坑
L=277.10m

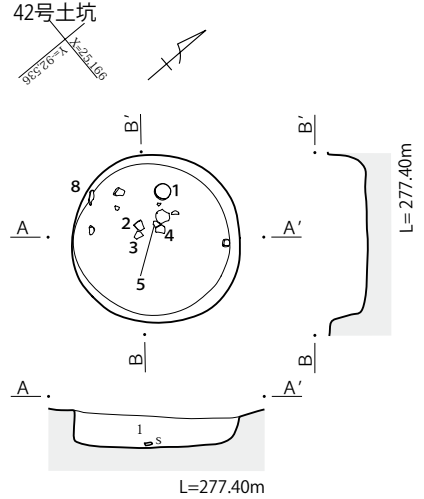


39号土坑
L=277.10m
1 黒褐色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、粘性有、しまり有。

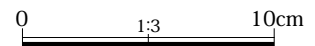
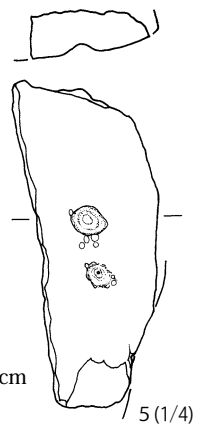
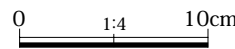
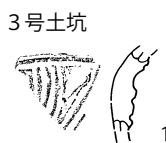
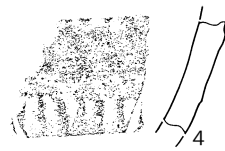
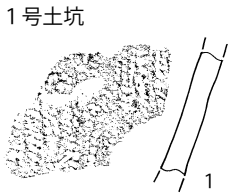
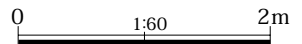
40号土坑
L=277.10m
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、炭直径2mm微、粘性有、しまり有。
2 黒色土 白色軽石直径1~2mm少、ロームブロック直径2~4cm微、ローム粒少、As-YP直径5~10mm微、粘性有、しまり有。



41号土坑
L=277.30m
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm微、炭直径2~3mm少、粘性有、しまり有。



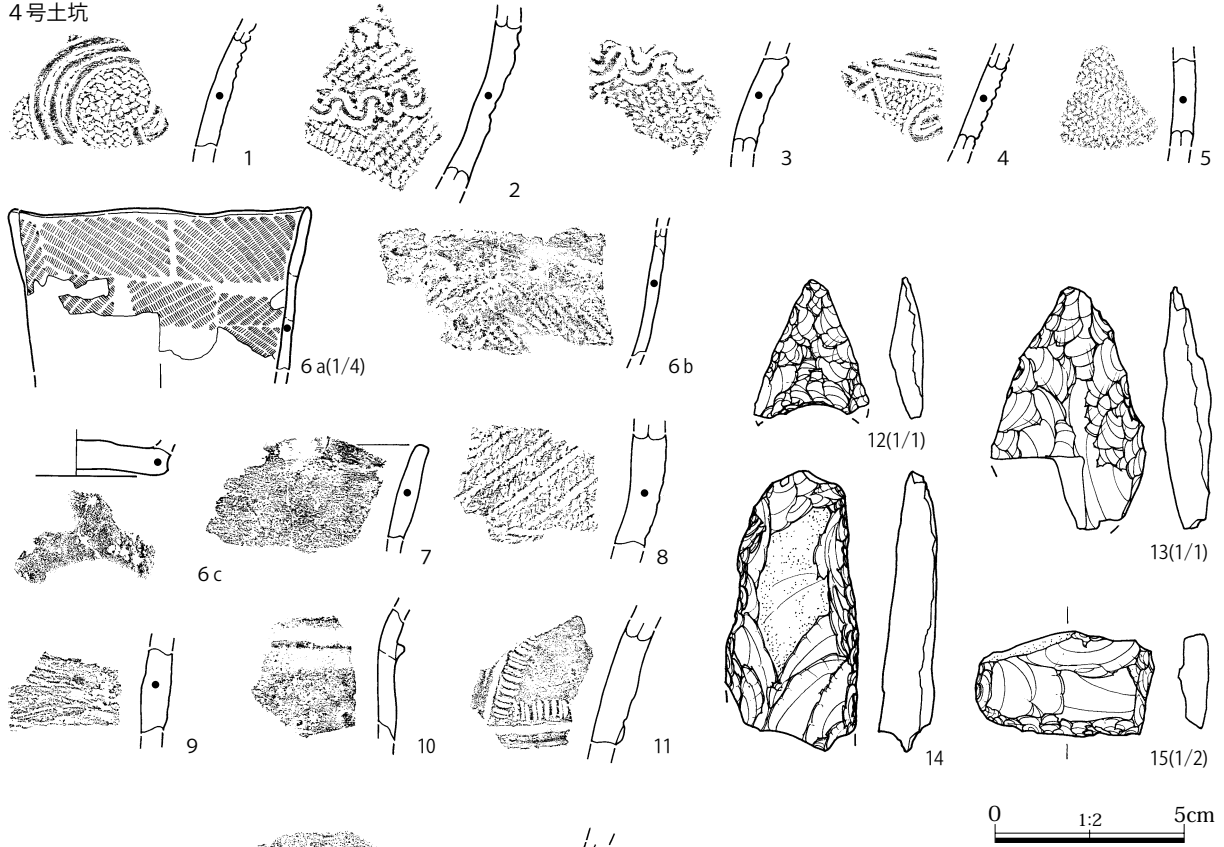
42号土坑
L=277.40m
1 黒色土 白色軽石直径1~2mm少、ロームブロック直径1~2cm少、As-YP直径2~5mm微、粘性有、しまり有。



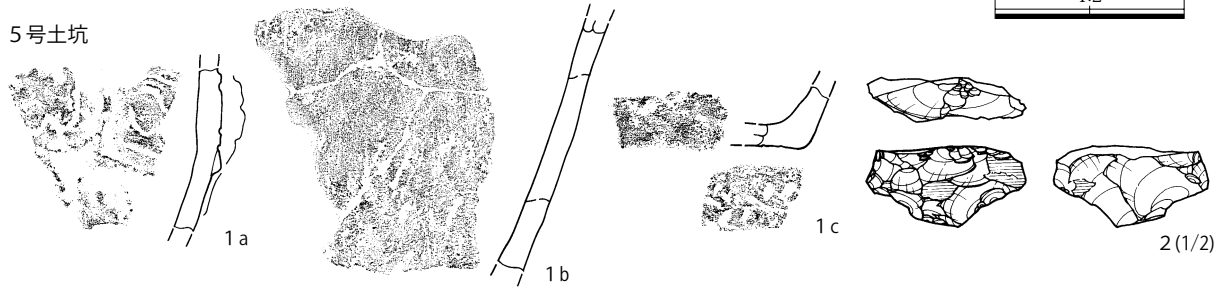
第58図 E区土坑(4)と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

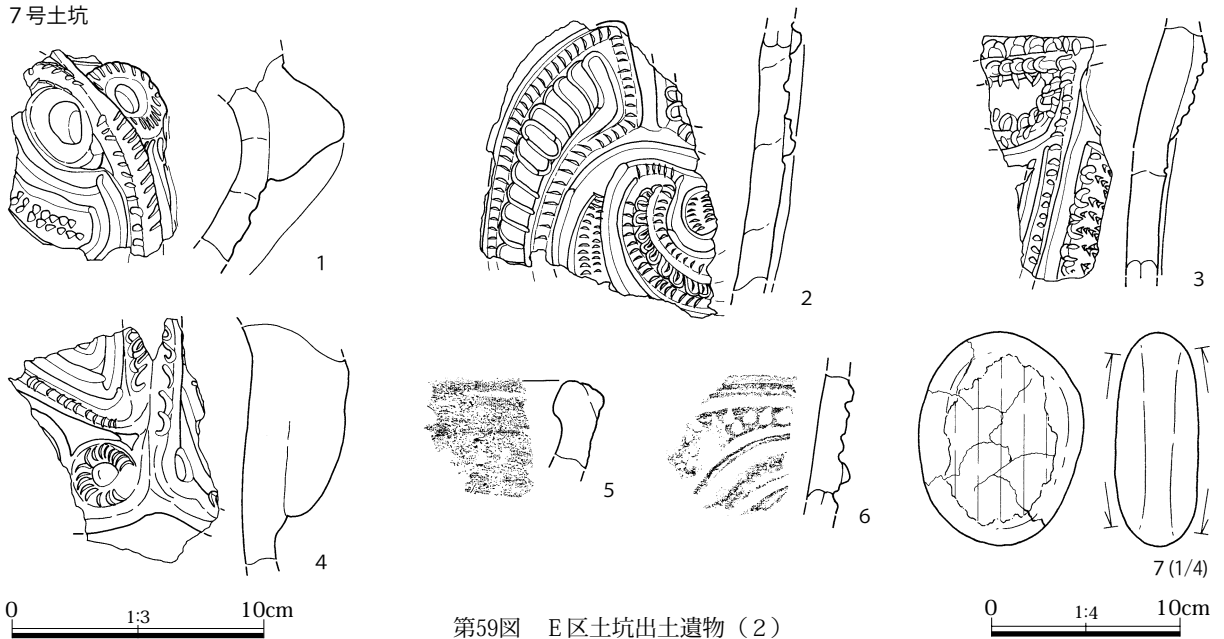
4号土坑



5号土坑



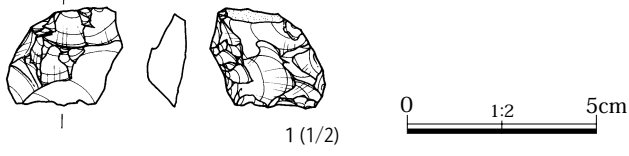
7号土坑



第59図 E区土坑出土遺物(2)

6. E区の遺構と遺物

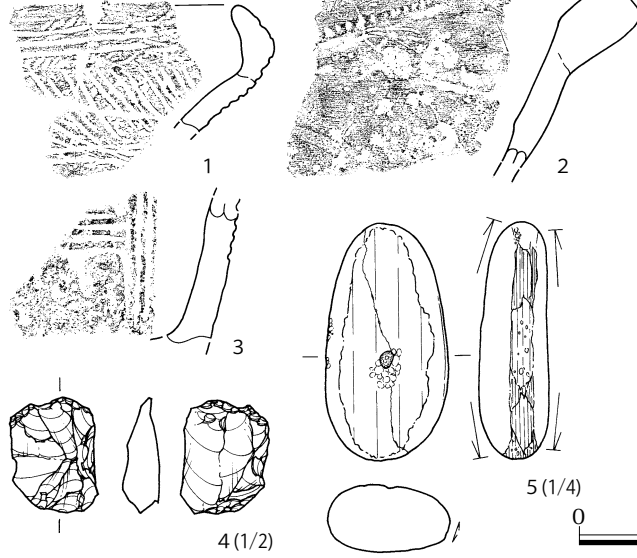
6号土坑



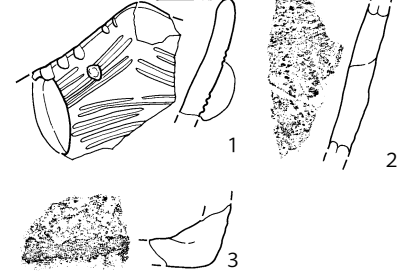
8号土坑



9号土坑



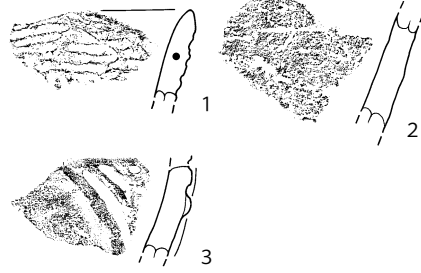
10号土坑



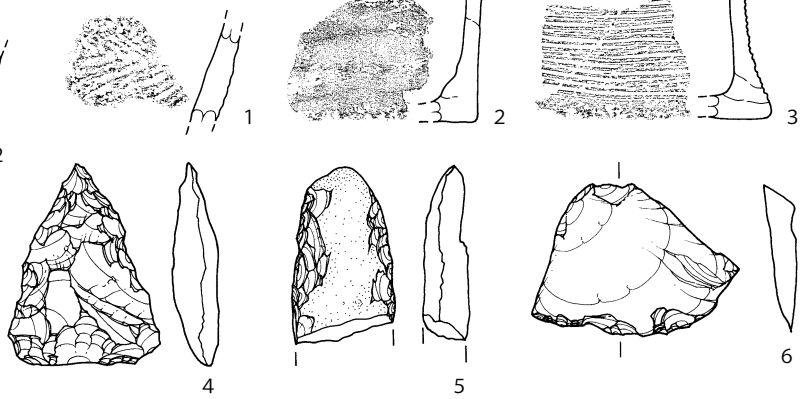
11号土坑



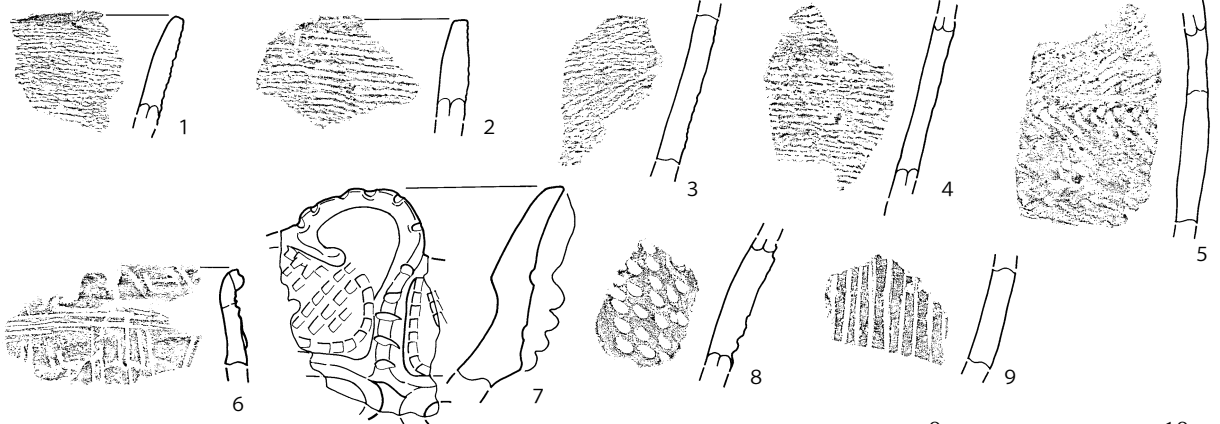
13号土坑



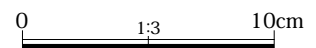
14号土坑



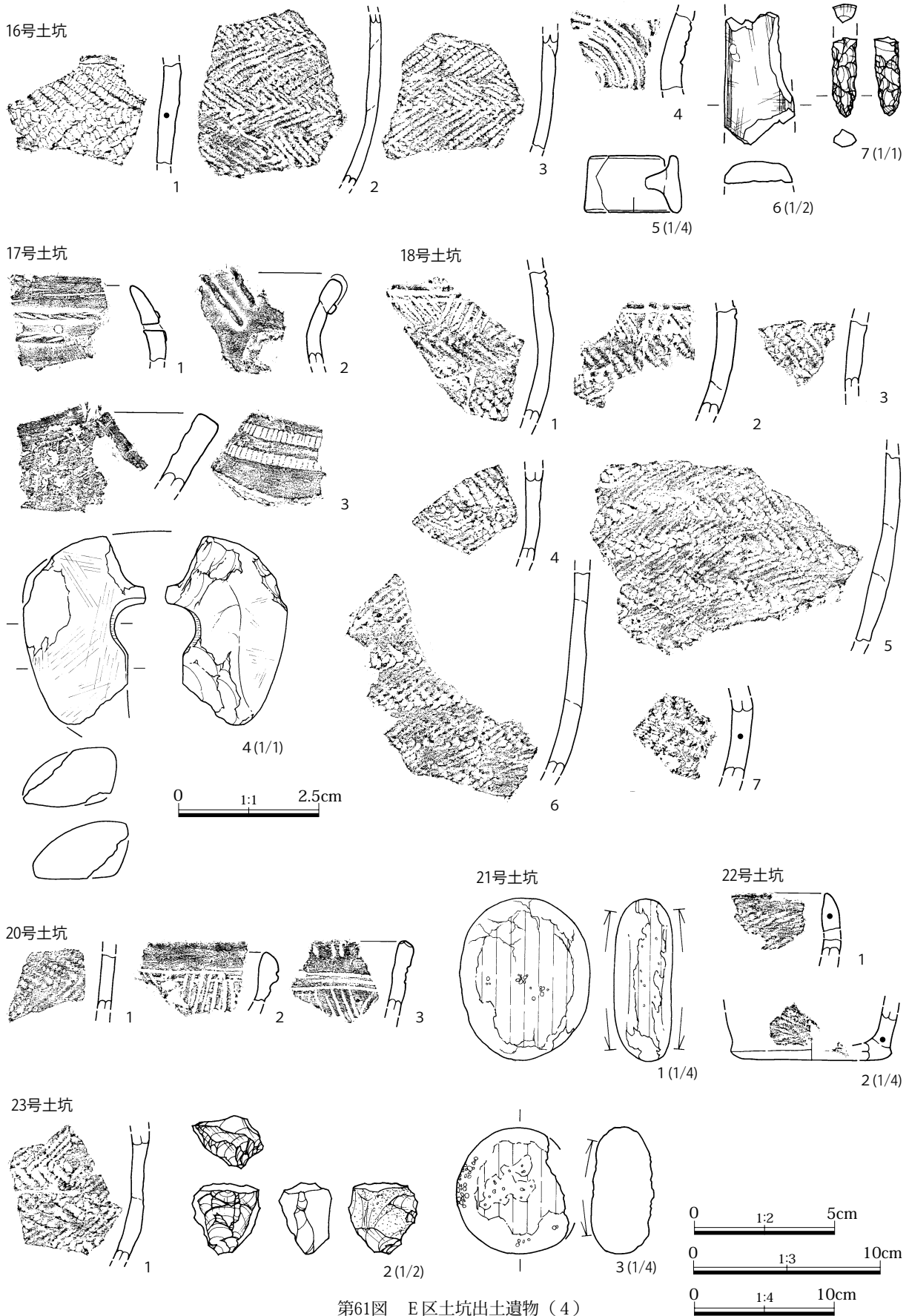
15号土坑



第60図 E区土坑出土遺物(3)



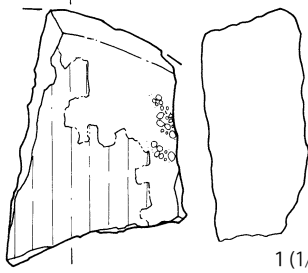
第3章 検出された遺構と遺物



第61図 E区土坑出土遺物(4)

6. E区の遺構と遺物

24号土坑



1 (1/4) 0 1:4 10cm

26号土坑



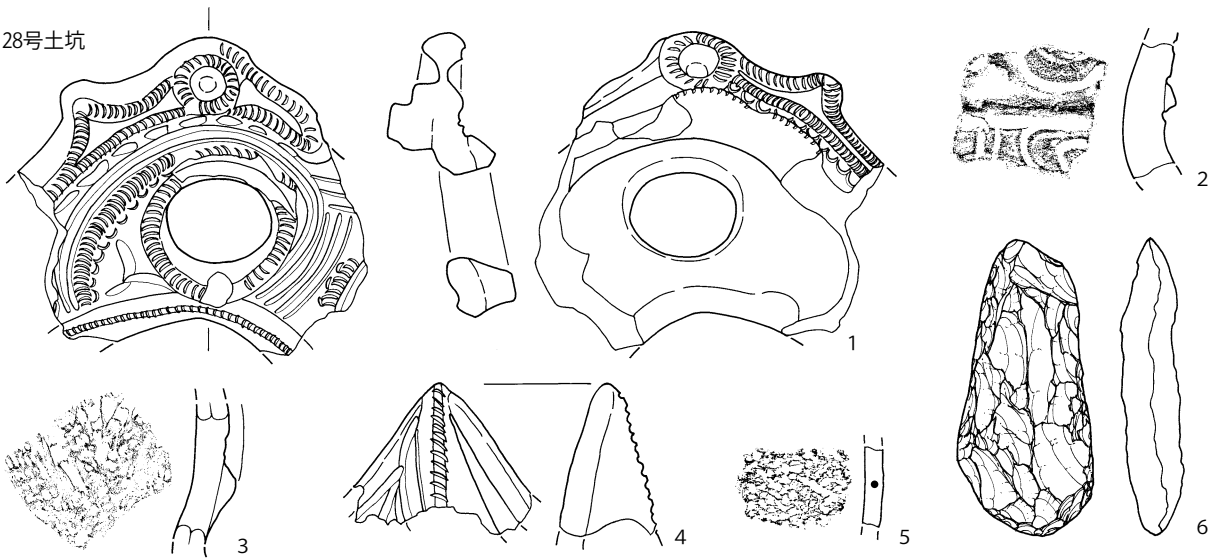
1

27号土坑

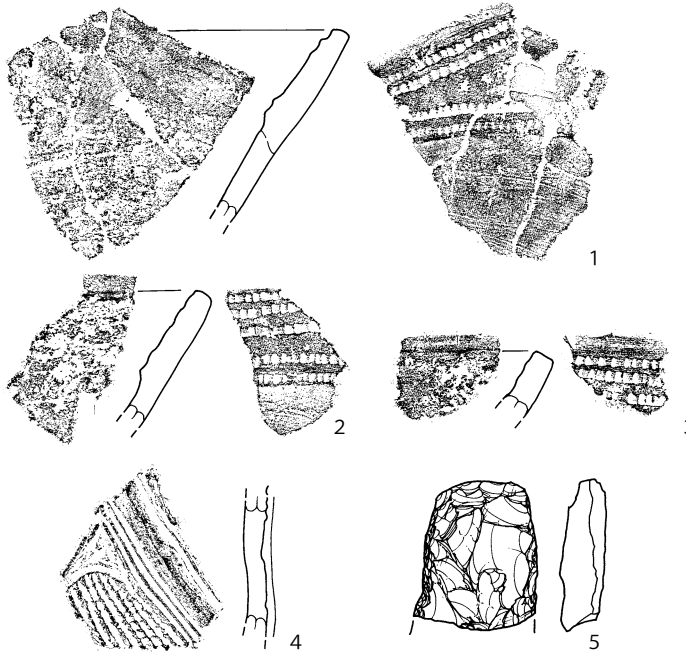


1

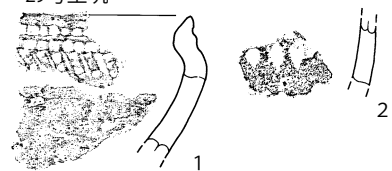
28号土坑



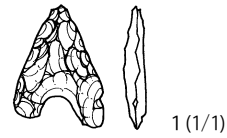
30号土坑



29号土坑



31号土坑

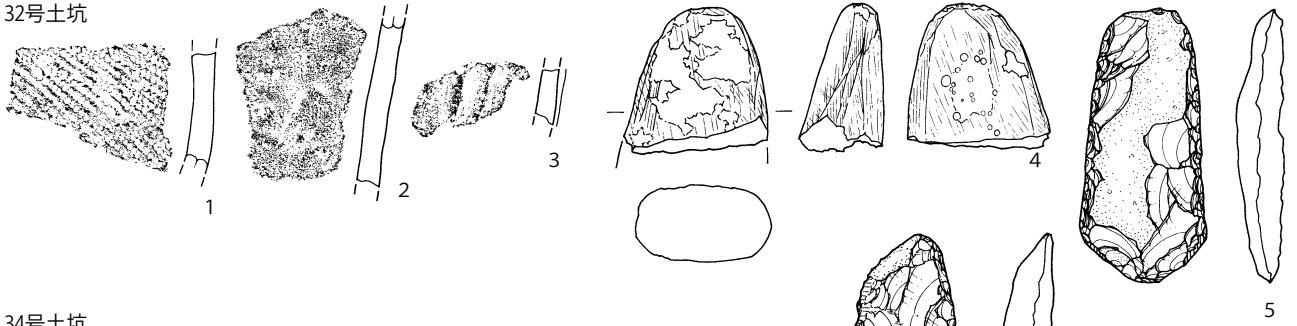


0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

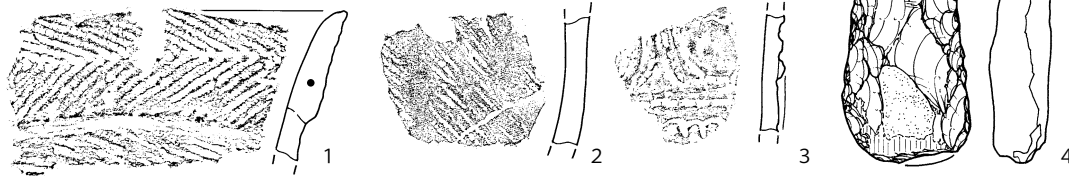
第62図 E区土坑出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

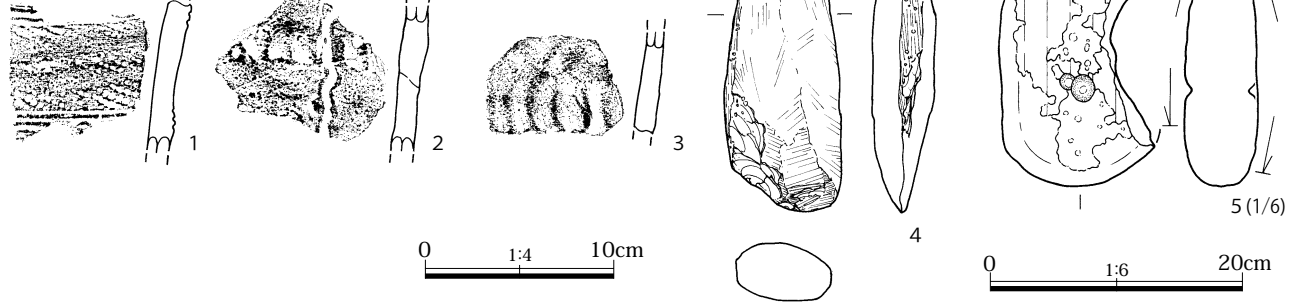
32号土坑



34号土坑



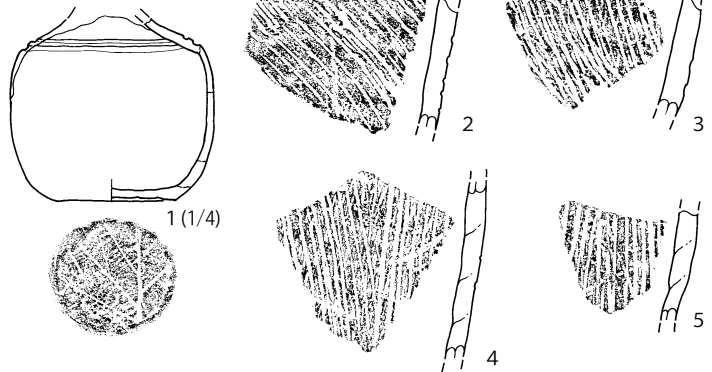
38号土坑



39号土坑



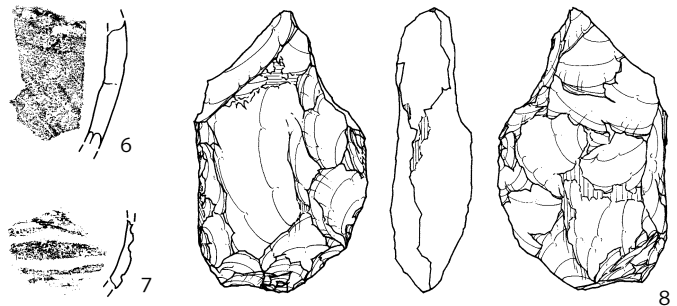
42号土坑



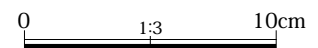
40号土坑



41号土坑



第63図 E区土坑出土遺物(6)



6. E区の遺構と遺物

製円盤(1/第62図)のみである。石器は出土しなかった。

E区27号土坑はE-2-1区の土坑集中区で検出された楕円形土坑である。出土土器は諸磯b式細片1点のみである。石器は出土しなかった。

E区29号土坑はE-2-2区の南端部で検出された円形土坑である。出土土器は阿玉台I b式主体で、土坑の時期も当該期と推定される。埋没土中から黒曜石の石核、加工痕ある剥片が出土した。

E区30号土坑はE-2-2区の南端部で検出された土坑である。東半部は発掘区域外であるが、円形と推定される。出土土器は中期前葉段階を主体とする。土坑の時期も当該期と推定される。埋没土中から硬質泥岩の打製石斧(5/第62図)、黒色安山岩の石核が出土した。

E区31号土坑はE-2-2区の南端部で32号土坑と重複して検出された。31号土坑が古い。出土土器は型式不明が2点のみである。埋没土中から黒色安山岩の石鏃(1/第62図)が出土した。

E区32号土坑はE-2-2区の南端部で31号土坑と重複して検出された。32号土坑が新しい。出土土器は細片ながら阿玉台I b式が主体的で、土坑の時期も当該期と推定される。埋没土中から変玄武岩と推定される磨製石斧(4/第63図)、硬質泥岩の打製石斧(5)が出土した。

E区33号・35号・36号土坑はE-2-2区の南端部で検出された小型の円形土坑である。出土土器は33号土坑から阿玉台式土器片1点が出土しているのみで、土坑の時期はいずれも不明である。石器も出土しなかった。

E区34号土坑はE-2-2区の南端部で検出された円形土坑である。北東部は4号溝に切られており、全形は不明である。出土土器は黒浜式・阿玉台I b式が混在している。土坑の時期は阿玉台I b式期と推定される。埋没土中から硬質泥岩の打製石斧(4/第63図)が出土した。

E区38号土坑はE-2-2区の北西端部で検出された断面袋状の土坑である。出土土器は諸磯b式・阿玉

台I b式が混在している。土坑の時期は阿玉台I b式期と推定される。デイサイトの多孔石(5/第63図)が西壁際底面上15cmから出土した。埋没土中から珪質頁岩の磨製石斧(4)、黒曜石と硬質泥岩の石核が出土している。

E区39号土坑はE-2-2区の北西端部で検出された楕円形土坑である。北東端部は3号溝に切られている。出土土器は諸磯b式・阿玉台I b式が混在している。諸磯b式土器がやや多く、土坑の時期は諸磯b式期と推定される。石器は出土しなかった。

E区40号土坑はE-2-2区の北西端部で検出された楕円形土坑である。南西端部は3号溝に切られている。出土土器は諸磯b式・阿玉台I b式が混在している。土坑の時期は阿玉台I b式期と推定される。石器は出土しなかった。

E区41号土坑はE-2-2区の北西端部で検出された円形土坑である。出土土器は黒浜式土器である。土坑の時期も黒浜式期と推定される。埋没土中から粗粒輝石安山岩の打製石斧が出土した。

E区42号土坑はE-2-1区の土坑集中区南西端で検出された円形土坑である。出土土器は弥生時代前期末と推定される。1の壺や7の鉢は縄文時代晩期終末の土器の可能性があり、甕(2~5)に施文された条痕文も細く鋭いことから、本土坑はD区の弥生時代中期前半と考えられる土坑よりも古いと考えられる。硬質泥岩の石鏃(8/第63図)と石核が出土した。

第3章 検出された遺構と遺物

(3)溝

E区ではE1-1区、E2-2～5区で4条の溝が検出された。いずれの時期も近世以降と推定される溝である。1～3号溝は耕作に伴う溝と推定される。4号溝は、発掘区東側に隣接する米山寺や段丘上にある馬山東城との関連が想定されたが、積極的に結びつける調査所見は得られなかった。

E区1号溝(第64図 PL.21・28 遺物観察表P.101)

E区1号溝はE-1-1区の屈曲部で検出された。走向はN-40°-Wで、現道地割の西側にほぼ平行する。上幅1.42m、深さ0.07m、調査長13.40mである。浅間A軽石やローム粒を含む締まりの弱い粘質の暗色土で埋まっていた。

遺構確認作業時に不明銅製金具1点とキセル吸い口1点が出土した。また、埋没土中から近現代の焙烙鍋破片1点が出土した。時期は近世以降であるが、詳細は明らかにできなかった。

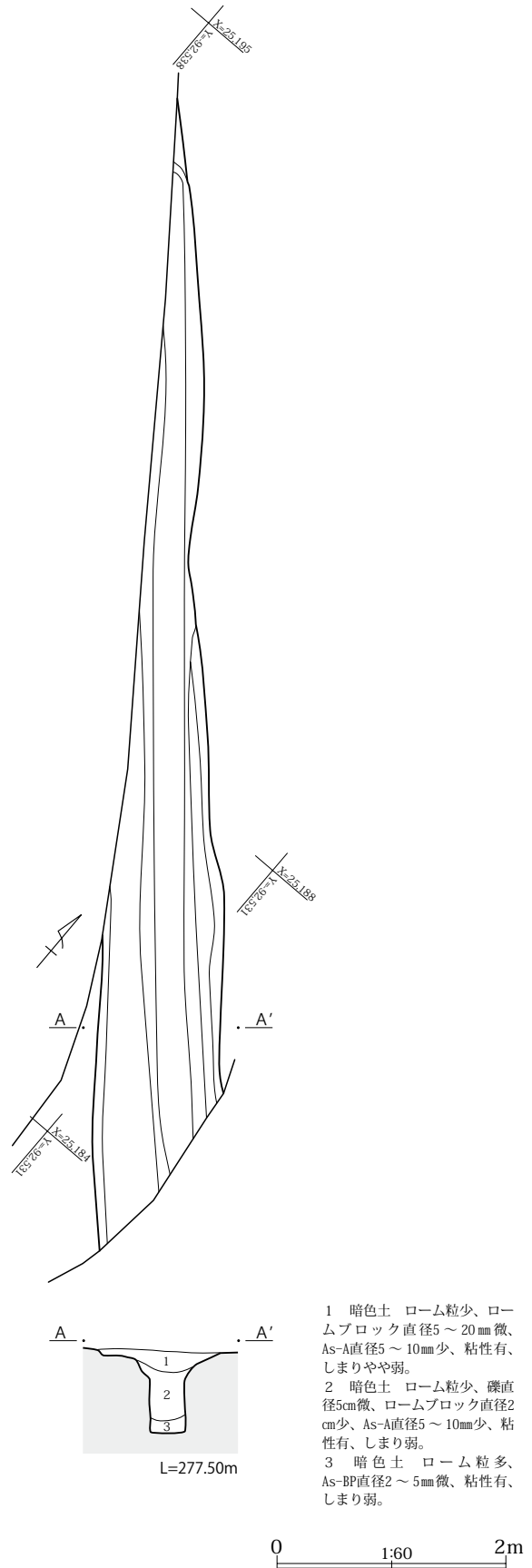
E区2号溝(第65図 PL.21・28 遺物観察表P.101)

E区2号溝はE-2-5区の南西端部に沿って検出された。走向はN-44°-Wで、現道地割の東側にほぼ平行する。上幅0.83m、深さ0.75m、調査長11.80mである。浅間A軽石やローム粒を含む締まりの弱い粘質の暗褐色土や茶色土で埋まっていた。出土遺物はない。埋没土の特徴からは近世以降と推定されるが、詳細は不明である。

E区3号溝(第66図 PL.21・28 遺物観察表P.101)

E区3号溝は、E-2-2～4区の3地区で検出された溝が連続するものと推定される。走向はN-45～48°-Wで緩やかに湾曲し、北半部で現道地割とはやや斜行する。上幅0.58～0.68m、深さ0.13～0.44m、調査長53.1mである。浅間A軽石やローム粒を含む締まりのある黒色土で埋まっていた。

北端部では表土と同質の埋没土中から陶磁器5点、鉄滓小破片1点が出土した。遺物は小破片であり、実測はできなかったが、土器の概要は下記のと



第64図 E区1号溝

おりである。

1. 製作地不肖 陶器徳利 鉄泥
2. 製作地不肖 鉄釉 碗か
3. 肥前 陶器 鉢 三島手 (江戸後期)
4. 肥前 磁器 瓶破片
5. 肥前 陶器 京焼風皿 透明釉

これらの遺物から、溝の時期は近世と推定される。

E区4号溝(第67図 PL.21・28・43 遺物観察表 P.119)

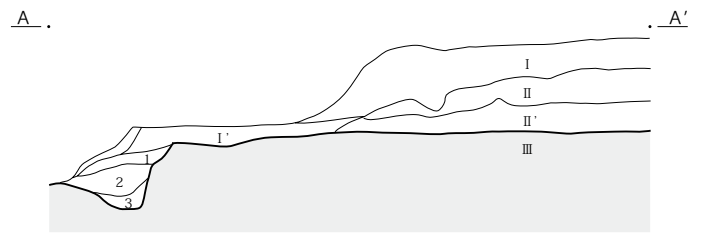
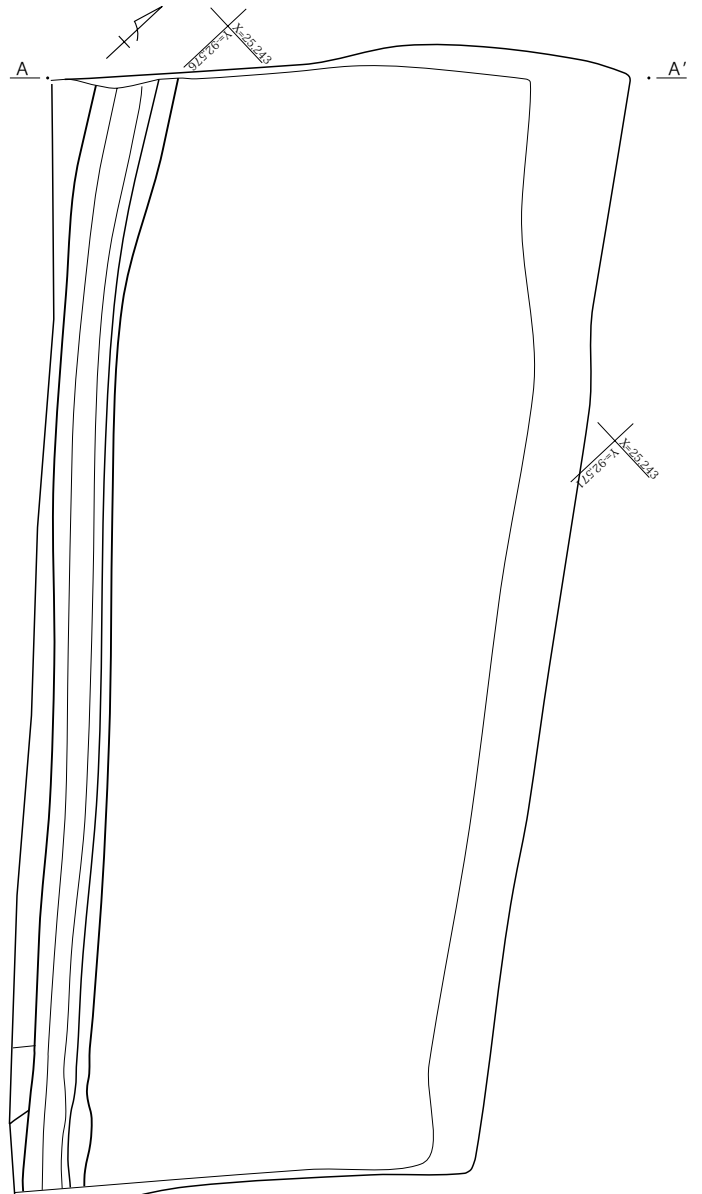
E区4号溝はE-2-2区南東部で検出された。北端部で北東方向へ緩やかに屈曲し、方形に地割を区画する溝と推定される。直線部分の走向はN-35°-Wで、現道地割とはやや斜行する。上幅1.50m、深さ1.64m、調査長12.8mである。浅間A軽石やローム粒を含む締まりのある暗色土で埋まっていた。埋没土中から陶磁器14点、不明鉄製品2点、銭貨1点が出土した。

4号溝の南端は南側の斜面に至り、北端は東に屈曲して米山寺の境内に伸びているが、現在の地表観察・古図及び同寺の伝にもなく、その性格は明らかにできなかった。

出土した土器はいずれも近世のもので、図示した肥前陶器皿(2/第67図)は17世紀後半でやや古い様相を示すが、肥前磁器筒形碗(1)は18世紀後半～19世紀初め、瀬戸美濃陶器小碗(3)は18世紀中葉～後半のものである。図示した土器以外に素焼きの手焙り土器に類すると推定される破片や、近世終末の形態を示す焙烙鍋の破片等が出土している。

鉄製品2点の詳細は不明と言わざるを得ない。多角形の容器になると推定される4は器面に看られる亀甲形の亀裂から鑄鉄製と推定される。

4号溝の時期は、出土遺物や埋没土の特徴から、近世と推定される。



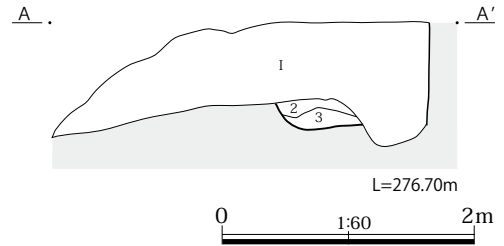
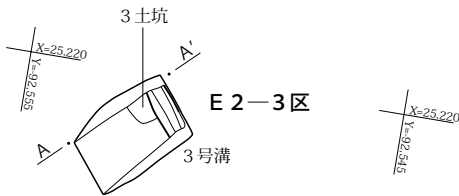
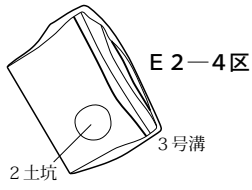
L=277.40m

- I 暗褐色土 As-A直径5～20mm少、粘性有、しまりやや弱い。
- I' 明茶色土 白色粒少、粘性有、しまり有。
- II 黒色土 白色粒直径1mm少、As-YP直径2mm微、粘性有、しまり有。
- II' 暗茶色土 白色粒直径1mm多、As-YP直径2～5mm少、粘性有、しまり有。
- 1 暗茶色土 ローム粒少、粘性有、しまり有。
- 2 茶色土 As-A直径5～10mm少、ロームブロック直径1～5cm多、粘性有、しまり有。
- 3 茶色土 ローム粒多、ロームブロック直径5mm少、粘性有、しまりやや弱い。

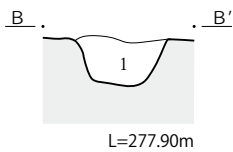
0 1:60 2m

第65図 E区2号溝

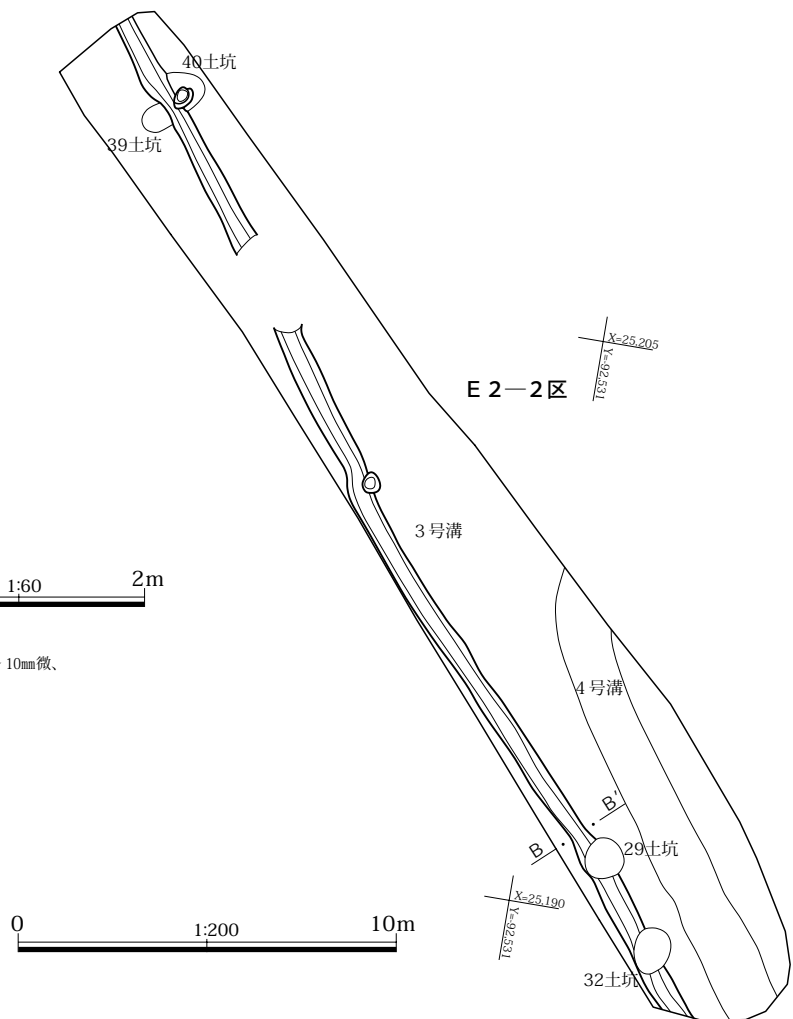
第3章 検出された遺構と遺物



- 1 暗色土 粘性有、しまり弱。
- 2 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、ローム粒少、粘性有、しまり有。
- 3 黒色土 白色軽石直径1~2mm多、As-YP直径2~5mm少、ロームブロック直径1~2cm多、粘性有、しまり有。

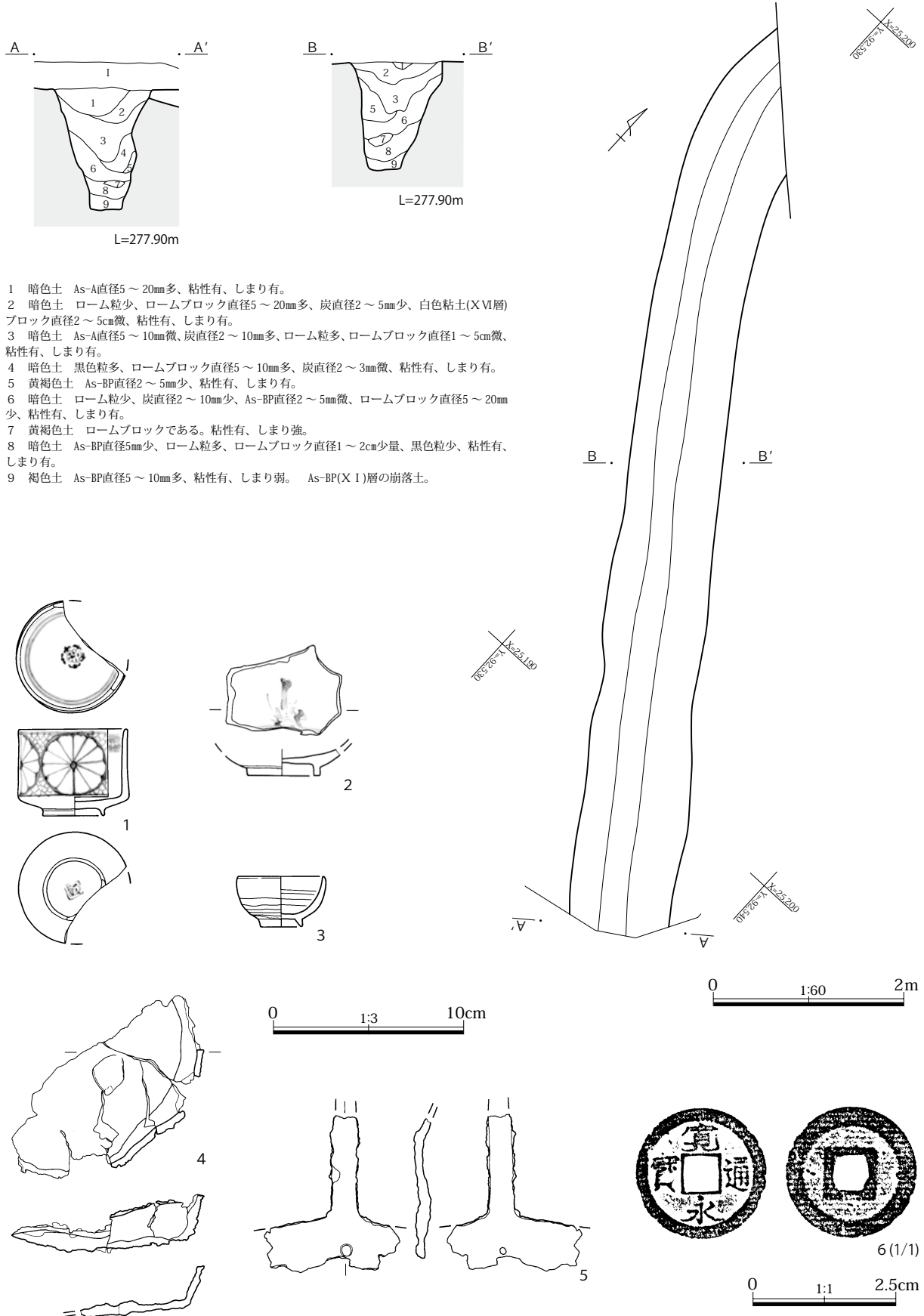


- 1 黒色土 ローム粒少、ロームブロック直径5~10mm微、As-A直径5~10mm少、粘性有、しまり有。



第66図 E区3号溝

6. E区の遺構と遺物



第67図 E区4号溝と出土遺物

7. 遺構外の出土遺物

(第68～70図 PL.44 遺物観察表P.110・111・118・119)

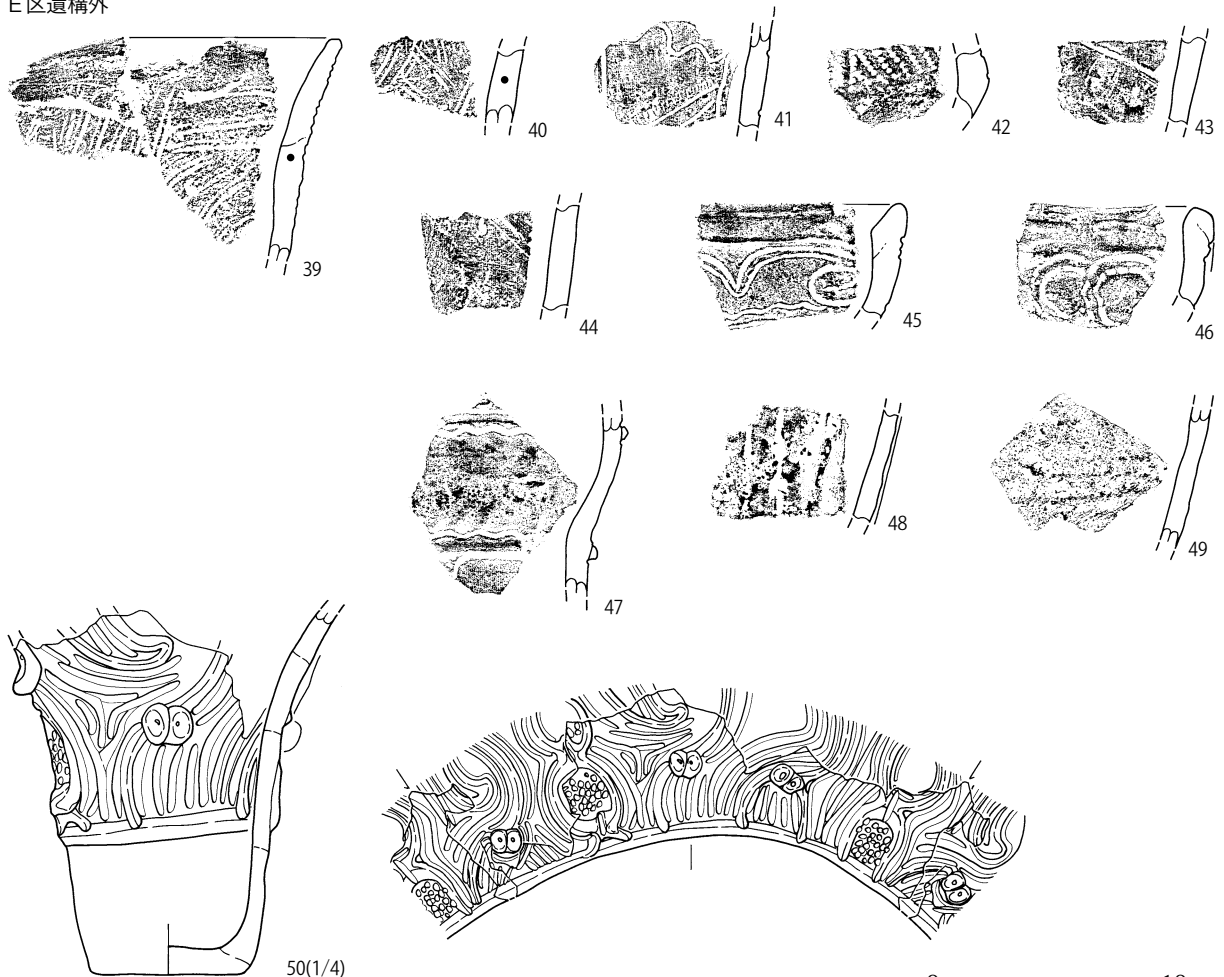
米山遺跡では、遺構に伴わない形でも多くの遺物が出土している。それは遺構確認時に表土に含まれていた遺物と、遺構出土でも明らかに時期の異なる混入遺物である。これらの遺構外出土の遺物すべてを報告書に掲載できないので、時期や器種を網羅するように選択し、遺構外の出土遺物として本項でその一部を報告する。図版は出土位置ごとでなく、土器は区ごとの土器型式、石器は全体の器種別に配置して掲載した。

遺構外で出土した土器の総数は縄文土器120点(各区表土等+E区溝)、羽釜5点、磁器1点である。

このうち遺構外の出土遺物として報告した土器は49点、羽釜1点である。縄文土器は前期関山式期から中期前葉の時期のものである。羽釜はA区遺構確認作業時に出土した5点のうちの1点で10世紀ころのものである。古代の遺構は発掘区内では検出されなかったが、段丘上に古代の遺構が分布する可能性を示唆している。これらの土器の出土位置、土器の特徴および時期の内訳は第7表に記載した。

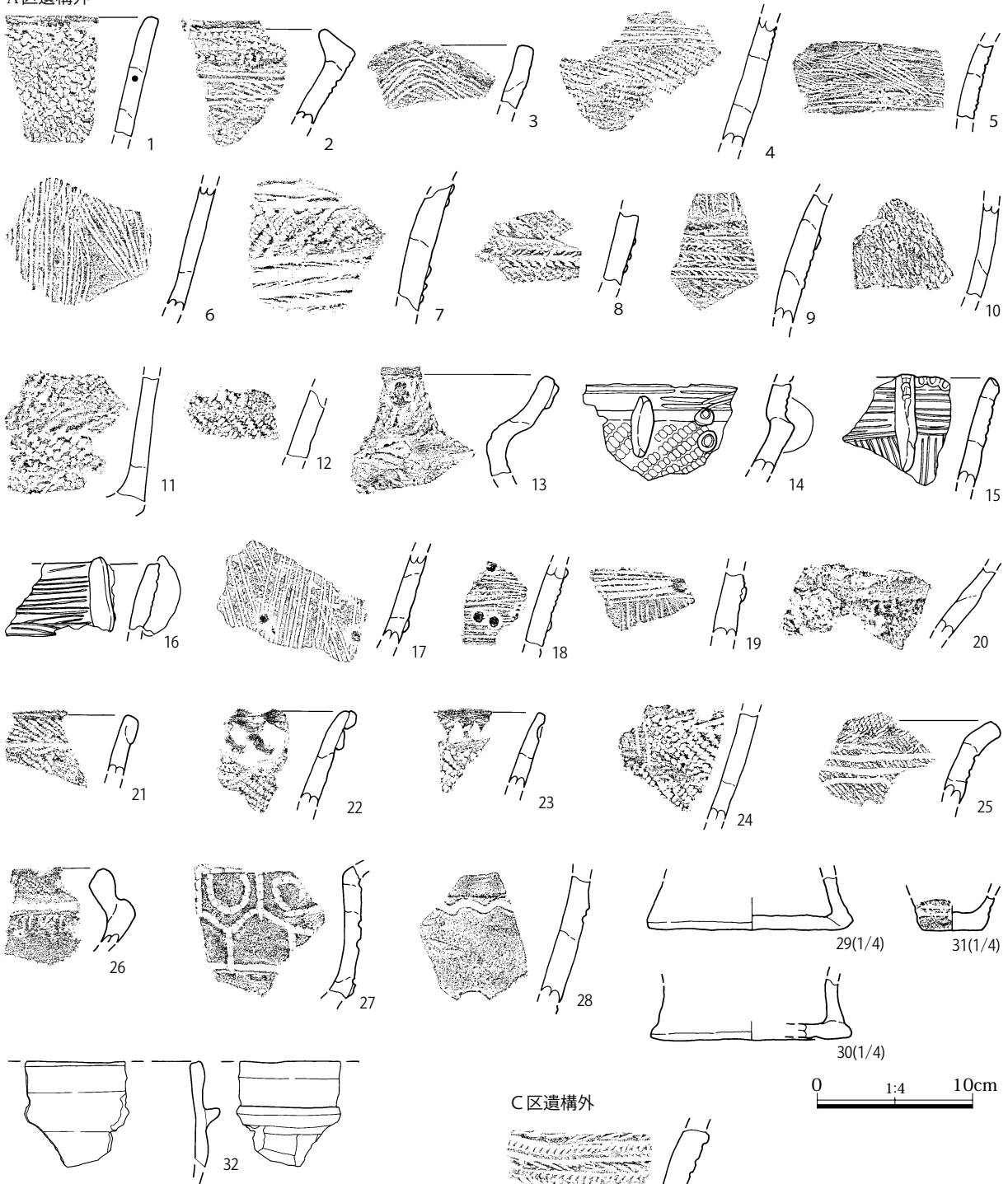
遺構外で出土した石器類は78点(各区表土等+E区溝)である。内訳は石器39点、剥片35点、礫・礫片4点である。このうち遺構外の出土遺物として13点の石器を報告した。これらの石器の出土位置および石材・重量等の内訳は第8表に記載した。なお、第71図51に掲載したナイフ形石器は、発掘区東側にある米山寺参詣用駐車場で採集した遺物である。

E区遺構外



第68図 E区遺構外出土土器

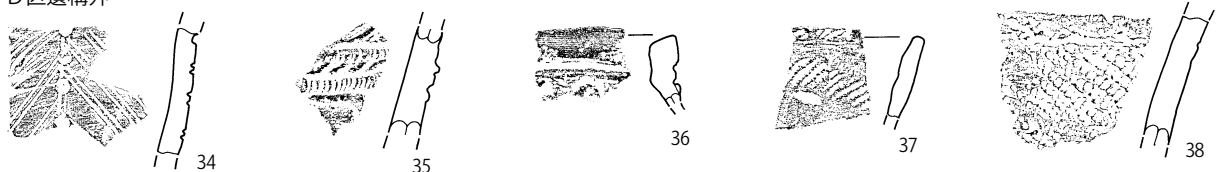
A区遺構外



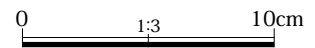
C区遺構外



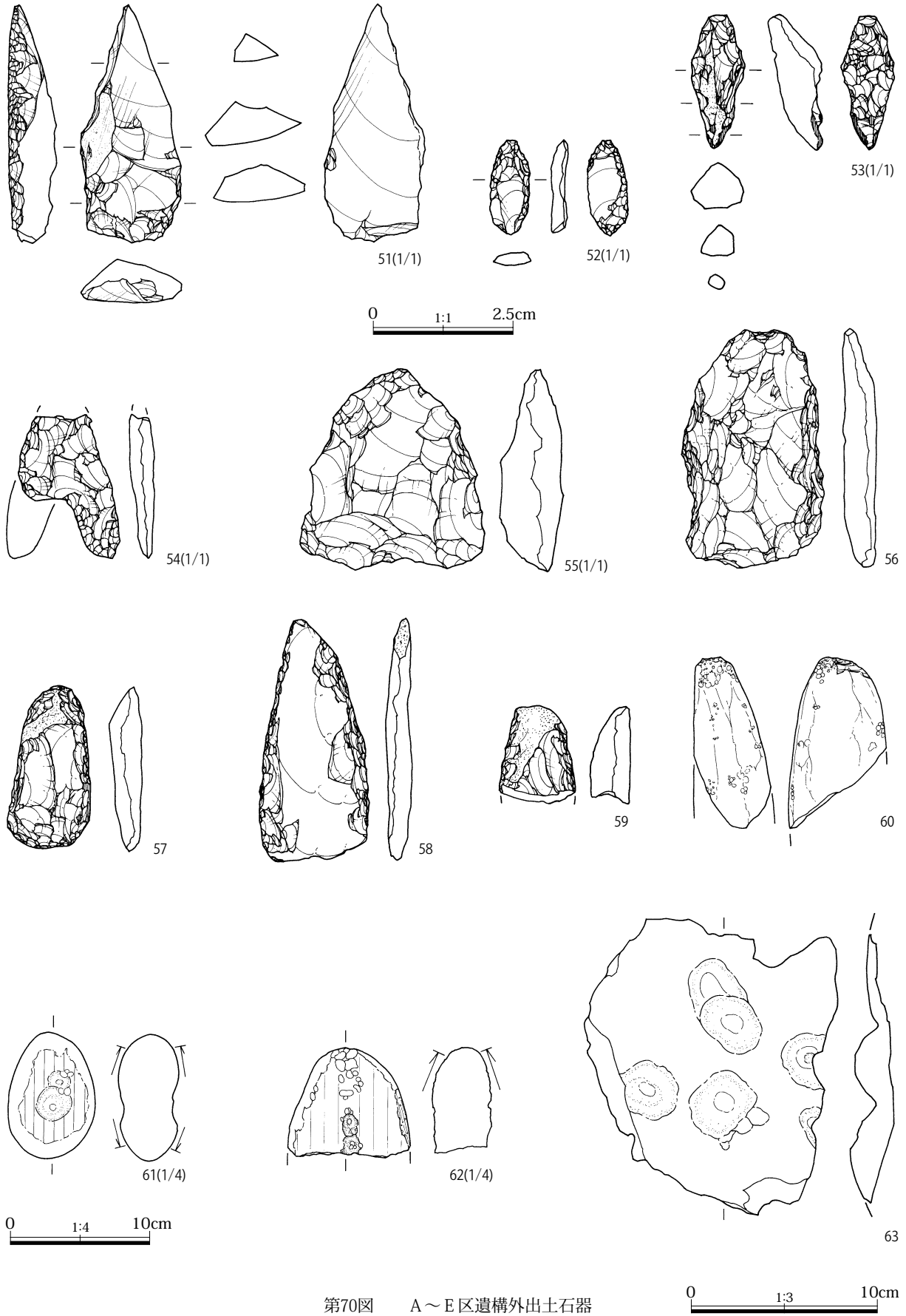
D区遺構外



第69図 A・C・D区遺構外出土土器



第3章 検出された遺構と遺物



第70図 A～E区遺構外出土石器

第4章 調査の成果

1. 米山遺跡の遺構分布について

米山遺跡の調査では、旧石器、縄文時代前期から中期にかけての遺構・遺物、弥生時代前期末および中期前半の土坑、近世の遺物が出土した。縄文時代以外の遺物および遺構は数が少なく、米山遺跡の遺構分布の中心は縄文時代といえる。

旧石器は3点出土した。至近に遺跡がある可能性が示唆される。今後の調査では留意すべきであろう。個々の遺物については本章-3で記述した。

縄文時代の遺構は第3章で報告したように前期から中期の住居・土坑が検出され、土器や石器が出土した。遺物についての所見は本章-2・3でまとめた。ここでは縄文時代の遺構の分布変遷について、まとめておきたい。発掘区に限られていたこと、時期が特定できる遺構は半数ほどであること等、制約もあるが、若干の偏在傾向や発掘区域外の遺構分布の推定も可能になろう。第71図は発掘区内の縄文時代・弥生時代の遺構のうち、時期が特定できたものについて時期別に示したものである。

関山式期の遺構はE区南端で2軒の住居が重複して検出されたのみである。重複部が現道路部分にかけ調査できなかったため、詳細は不明である。2号住居から扶状耳飾り(6)が1点出土している。

黒浜式期の遺構はB区東端に1軒、C区に4軒の住居が検出された。さらに東側へ分布が広がるのが予想される。調査区内では黒浜式期の土坑群は西側に隣接するA区でも検出されなかった。

諸磯a式期の遺構はD区中央部に住居1軒と土坑数基が散在する。この時期のD区24号土坑の上層には諸磯c式とみられる小型深鉢の完形(8)が出土している。時期の異なる土坑の存在も示唆される。

諸磯b式期の遺構は全体に散在するが、住居はC区南端に1a号・1b号住居が検出された。1a号・1b号住居はそれぞれ隅丸方形・楕円形の住居の重

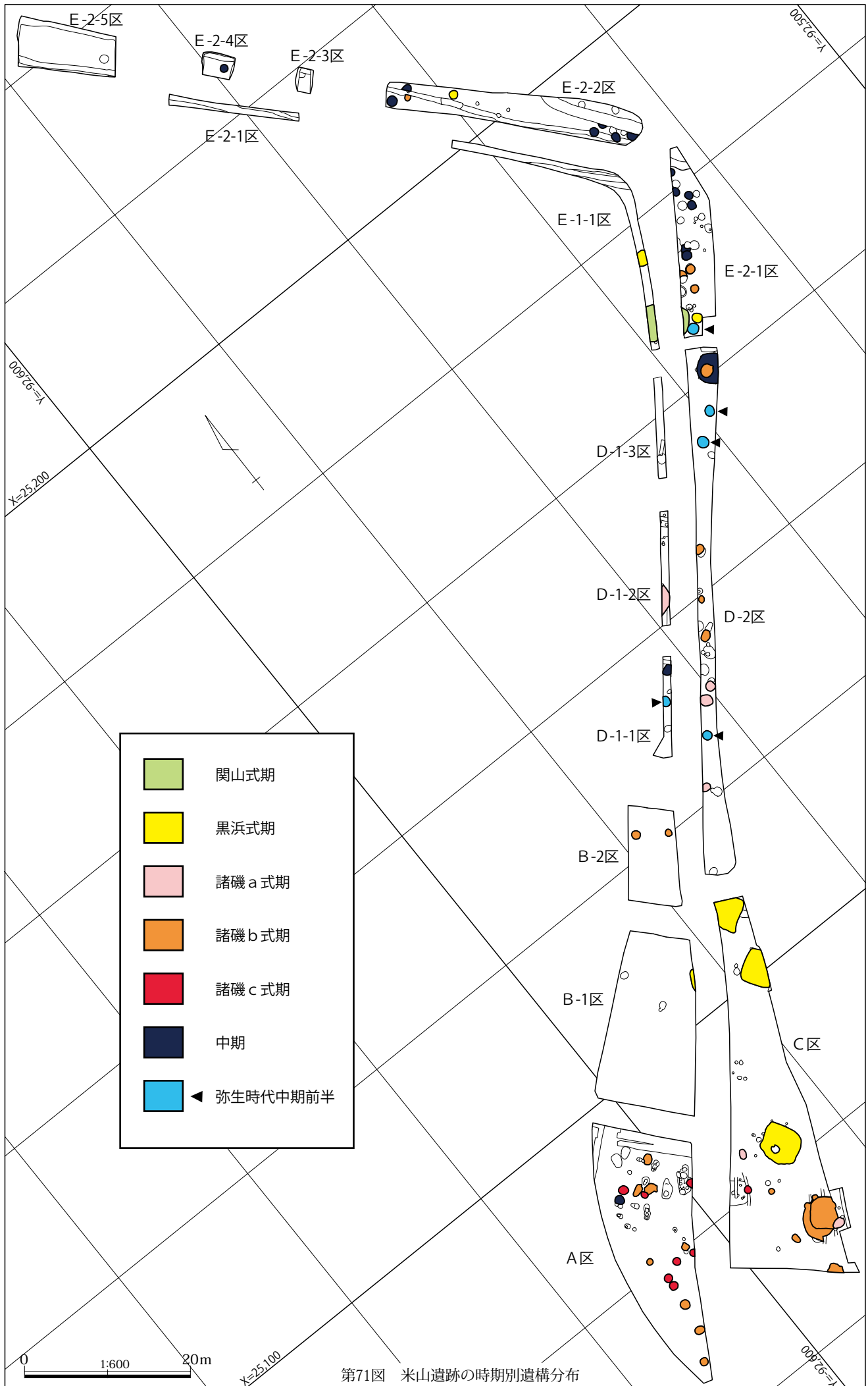
複で、いずれも諸磯b式古段階の土器が出土している。住居形態を異にする同型式時間内での重複事例である。この住居と同時期の土坑群は発掘区全体に散在しているが、①西側のA区と、②D区北部からE区南部にかけてのエリアにやや集中する傾向がある。特に②の土坑群からは、扶状耳飾り2点(D区5号土坑8、E区17号土坑4)、耳栓(E区16号土坑5)という墓壇に出土することが多い遺物が偏って出土しており、②の土坑群が居住域の北方にやや離れて形成された墓域である可能性も示唆される。ただしD区5号土坑8の扶状耳飾りは形態的には前期初頭に帰属するものと同型であることから、この扶状耳飾りは諸磯b式期の遺構分布の議論から除外して考えなければならないかもしれない。一方、①の土坑は住居群に隣接する貯蔵穴の可能性が高い。

諸磯c式期の遺構はA区とC区南部に土坑が集中する。これらの土坑の分布は諸磯b式期から継続した地点にあり、諸磯c式期の住居群が至近にある可能性を示唆している。先述したようにD区24号土坑8の小型深鉢は諸磯c式とみられ、北部への当該期の遺構の広がりも予想できる。

縄文時代中期の遺構は、前期と異なり、住居・土坑ともにE区に集中する傾向があった。段丘北東端部への遺構の広がりが予想される。

縄文時代の遺構分布に重なり、弥生時代中期前半を中心とする土坑群が、D区およびE区南端で検出された。中でもE区42号土坑はやや古い様相の土器を出土している。これらの弥生時代土坑群については、本章の4で詳述する。

以上のように、米山遺跡では段丘平坦面の北東端部を狭い範囲ながら発掘調査し、縄文時代前期から中期の遺構分布の変化をみてとることができた。段丘全体には小規模な集落が展開していたことが予想されるが、発掘区は限定された部分であり、全体像の解明は今後の調査に期待することになろう。



第71図 米山遺跡の時期別遺構分布

2. 米山遺跡の縄文土器について

本遺跡出土の縄文土器の概要を述べる。出土総破片数は3000点近くであるが、C区1a号・1b号住居出土土器量が約1/3を占めているように、前期後葉段階に量的な充実が見られた。その他の時期は遺構出土とはいえ、まとまりを見せておらず、少量の出土量にとどまる。各時期の小規模集落遺跡の一端を窺う出土状況である。出土土器の詳細は挿図・図版・属性表に委ねたい。

早期：C区1号住居に細片ながら押型文系土器の出土を見る。また、E区11号土坑より田戸下層式、B区5号土坑より茅山下層式が出土している。極めて希薄な存在ながら県内でも少量の出土が知られるのみであるため、本遺跡での出土も貴重な例となろう。

前期初頭：D区2号住居に花積下層式とした破片を掲載した。幅狭の原体による横位羽状縄文構成であるが、あるいは関山Ⅰ式に下る可能性もあろう。

前期前葉：関山Ⅰ式は少量である。E区2号住居やC区13号土坑で出土するが、客体的な存在であろう。

関山Ⅱ式はC区とE区に集中する。特にE区1号住居と2号住居は少量ながら関山式を主体とする出土状態である。なお、この段階に見られる片口深鉢はE区1号住居に片口部片が出土するのみである。

前期中葉：黒浜式は調査区全域より出土するが、関山式と同様にC区・E区への偏りを捉えた。C区2号住居・3号住居・5号住居にある程度のまとまりを見るが、個体での出土ではない。特に5号住居は関山Ⅱ式との混在であり、遺構時期は判断が難しい。その中で、C区2号住居1は口縁部に沈線による格子目文を施す例で、東関東系の様相に似る。その他では2号住居3やC区3号ピットに、格子目状沈線による施文が顕著な例が見られた。

前期後葉：諸磯a式はC区とD区に偏る。特にD区2号住居とD区23号・24号土坑にまとまる。D区24号土坑1は破片復元図であるが、口頸部に肋骨文を配す良好な例であろう。

本遺跡で圧倒的な出土量を誇る諸磯b式である

が、C区1a号・1b号住居を主体とする。爪形文を描出する一群が中核の土器群として位置付けられ、次いで縄文施文(結節含む)の一群が続き、浮線文や平行沈線文を施す一群は量的にも客体的である。このことから、C区1号住居出土土器の大半は諸磯b式古段階に比定されよう。爪形施文間が接近するため盛り上がり、浮線状の効果を見せる一群であり、矢羽状の刻みを施す例も加わるため、諸磯b式に特徴的な浮線文主体の中段階に極めて近い段階である。その中で、C区1b号住居出土浅鉢(1/第29図)は幅狭爪形文の描出であり、若干ながら古相を示す。他の1a号住居出土土器との新旧の整合性はあるが、あくまでも諸磯b式古段階の時間幅での重複関係と判断した。その他の土器群では、平行沈線文を多用する一群がA区3号土坑に出土している。また、E区18号土坑では、体部羽状縄文構成で、上半に沈線によるV字状意匠を配す例を見る。あるいは前期末葉に下る可能性があるが、器厚及び原体種により諸磯b式と判断した。

諸磯c式は少数の出土ながら、調査区全域で出土する。D区24号土坑では小型深鉢が出土する。

前期末葉：いわゆる典型的な十三菩提式や晴ヶ峰式の良好な出土は見られないが、A区25号土坑では口縁部が肥厚する土器や蛇行隆線を口縁部に付した羽状縄文系の土器が出土する。県内では該期資料は少なく、本遺跡が位置する西毛地域に偏る傾向がある。本例も好資料として位置付けられよう。

中期初頭・前葉：濃密な分布ではないが、D区とE区に集中する傾向がある。勝坂1式や阿玉台Ⅰb式は破片で混在する出土状態で主体的とはいえない。D区3号住居やD区4号土坑は少量の破片主体ではあるが、当該期の遺構と判断できよう。E区30号土坑には内面施文する浅鉢破片がまとまる。A区11号土坑では五領ヶ台Ⅱ式を見ることができる。

中期中葉：E区に集中するが、遺構出土の例は、7号土坑・28号土坑に限られる。勝坂3式を主体とする。また、遺構外ながらE区に「焼町類型」の出土を見ることができる。

3. 米山遺跡の石器について

本遺跡では、旧石器時代の石器3点、縄文時代の石器類1280点、弥生時代の石器類85点が出土した。

旧石器時代の石器は、尖頭器様の周辺加工石器1(第70図51)、細石刃様の小形剥片1(1/第18図)、二側縁加工したナイフ形石器1(52/第70図)がある。旧石器の試掘調査では1点(1/第18図)が確認されたのみである。これについては背面側剥離面が風化剥離面で覆われており、属性的には細石刃として評価する根拠は乏しい。小形・尖頭器様の石器はA区の遺構確認時に出土したもので、終末期のナイフ形石器に伴う可能性が高い。二側縁加工したナイフ形石器は基部側の右側縁に破損後の加工があり、再生を試みている可能性がある。遺跡地は鑄川と南牧川の合流点から4km下流にあり、内山峠ルートを進めば、信州産黒曜石原産地に至る最短ルート上にあり、周辺域には旧石器遺跡の存在が確実で、その実態説明が期待されている。

縄文時代石器類は、総計1280点(剥片系石器174点、礫石器49点、剥片類768点、礫・礫片類289点)が出土した。その内訳は528点が住居覆土、672点が土坑覆土、24点がピット・溝等の出土で、土坑出土の遺物が半数以上(56.5%)を占めた。このほか、遺構確認時に56点が出土しているが、縄文時代遺跡に形成されることの多い包含層は部分的に残存していたに過ぎず、組成的には欠落する器種も相当量があるかもしれない。

出土した主な石器には剥片系石器11種、礫石器8種があり、前期集落の典型的組成を示していた。各住居には主体的型式の土器があり、その帰属時期を示しているのであろうが、10～30%程度の異なる型式の土器が出土しており、石器も同程度の割合で各型式に伴う石器が混在している可能性が高い。既存の研究成果では、前期後葉に石材流通形態の画期があるとされているが、本遺跡ではそうした分析に耐える資料数はなく、大別時期毎の器種：石材組成の概要が分かる程度である。具体的に言えば、打製

石斧・石鏃等の剥片系石器に硬質泥岩等の頁岩類・チャート・黒曜石を、凹石や石皿等の礫石器にデイサイトや粗粒輝石安山岩を多用することが明らかであった。出土資料を見る限り、こうした傾向は出土遺構(住居・土坑)の種別・時期に係らず一貫している(第2・3表)。

剥片系石器の石材構成は、在地石材としての硬質泥岩・珪質頁岩・チャートに加え、黒色頁岩(利根川流域)、非在地の黒曜石(信州系)からなる。在地の硬質泥岩を多用する傾向は、西毛域における縄文時代遺跡の石材構成とすべきであるが、黒曜石を多用することも特徴的で、地域性のひとつになるだろう。黒色安山岩については、鑄川ルートに荒船山産の黒色安山岩採集地が期待されるものの、出土量は少なく、客体的に組成する程度である。荒船山産の黒色安山岩については、常識的には旧石器・縄文時代を通じ西毛域の遺跡では多用されたとしたいが、これまでの分析ではその存在が確認されていない。これについては顕微鏡観察等で解決可能であるが、将来的な課題のひとつとしておきたい。

礫石器には、デイサイトや粗粒輝石安山岩が多用されている。出土資料には砂岩・凝灰質砂岩・デイサイト・片岩類など秩父中・古世層や三波川変成岩に由来するものがあり、礫・礫片類として20種類を越える石材が確認されているが、このうち礫石器類に使用されている石材は10種類程度で、明らかな石材選択性・嗜好性が見て取れる。

器種レベルでは、硬質泥岩や珪質頁岩が打製石斧から石鏃まで広く使用、利根川流域の黒色頁岩に匹敵する石材の地位を占めていた。石鏃等の小形石器にはチャートや黒曜石を、礫石器では磨石・凹石にデイサイト・粗粒輝石安山岩を、石皿に片岩類を選択する傾向を示していた。

器種レベルで見た石器の製作構造は、打製石斧32点中(弥生時代中期土坑から出土した石鏃5点を除く)12点、石鏃17点中8点が未製品と捉えた。剥片類については分析が及ばず詳細は不明だが、経験的に言えば、本遺跡のような集落で打製石斧の集中製

3. 米山遺跡の石器について

作が確認されたことはなく、集落内では刃部再生や破損に伴う形状修正が行われたのであろう。これに対し、石鏃は集落内製作とすべきであるが、これは原石が遺跡地周辺域にないということを反映、集落内で原石は消費されたということになる。

このほか、個別石器では抉状耳飾り、砥石、石鏃が注目される。抉状耳飾り3点は滑石製で、E区2号住居6(第54図)が前期前葉(関山Ⅱ式期)の住居から、D区5号土坑8(第49図)とE区17号土坑4(第61図)が前期後葉(諸磯b式期)の土坑から出土した。D区5号土坑8は形態的には前期初頭に帰属するものと同型であり、混入の可能性が高い。

砥石は2点が出土した。C区4号住居3(第35図)

は断面U字状(幅3~6mm)の研磨面を有する縄文時代の有溝砥石と判断されたのに対して、D区2号土坑10(第48図)は幅1~2mmの線状痕を有するもので、弥生時代の土坑から出土した。線状痕については、金属器様の鋭い端辺を整えることにより生じたのであろう。

石鏃様の石斧は5点が出土した。詳細は不明だが、縄文時代石斧に比べ幅広であること、硬質泥岩の使用が減りデイサイトや変質安山岩・変質玄武岩を使用することが傾向として指摘することができる。破片資料が多く詳細は不明だが、いずれも弥生時代土坑から限定的に出土しており、縄文時代のそれとは区別しておくべきだろう。

第2表 米山遺跡の住居出土石器の器種と石材

	硬質泥岩	珪質頁岩	黒色頁岩	黒色安山岩	チャート	黒曜石	砂岩	凝灰質砂岩	デイサイト	粗粒輝石安山岩	滑石	緑色片岩	変質蛇紋岩	総計
打製石斧	2	2	1											5
磨製石斧													1	1
石鏃						3								3
石匙		1		1	2									4
石錐	1													1
楔						1								1
削器	5				2									7
石核	3	3			4	10								20
加工痕ある剥片	3	1		3	4	3								14
使用痕ある剥片	2	1				1								4
凹石									2	4				6
磨石									1					1
敲石	1													1
石皿							1	1		1		1		4
台石												1		1
石製品											1			1
砥石							1							1
総計	17	8	1	4	12	18	2	1	3	5	1	2	1	75

第3表 米山遺跡の土坑出土石器の器種と石材

	硬質泥岩	珪質頁岩	黒色頁岩	黒色安山岩	チャート	赤碧	黒曜石	細粒輝石安山岩	砂岩	砂質頁岩	デイサイト	デイサイト質凝灰岩	流紋岩質凝灰岩	粗粒輝石安山岩	変質安山岩	滑石	緑色片岩	閃緑岩	変質玄武岩	総計
打製石斧	12		1					2	1								2		1	19
磨製石斧		2																	1	3
石鏃			2	2			4													8
石匙			1																	1
石錐							1													1
楔					1															1
削器	1	2			1															4
石核	7			1	5		13				1									27
加工痕ある剥片	3	3			1	1	12													20
凹石									1		4	1	1	2	1					10
磨石											3			4				1		8
敲石										1				1						2
石皿														1			2			3
台石									1					1						2
多孔石											1									1
石製品																2				2
総計	23	7	1	4	10	1	30	2	3	1	9	1	1	9	1	2	4	1	2	112

4. 米山遺跡の弥生時代土坑について

米山遺跡では、弥生時代前期末および中期前半の土坑5基が検出された。これらの土坑は直径1.12mから1.35mの円形または楕円形で、断面形は筒状あるいは袋状をしている。残存壁高は地点によって異なり、当該期の地表面が不明であるので、深さを特定することは困難である。最も深いD区15号土坑が0.48mであるので、それ以上はあったものと推定される。

第3章で報告した通り、土坑からは土器と石器が出土している。土器は完形に近いものは少なく、D区2号土坑の甕やE区42号土坑の小型壺がある程度で、あとはいずれも破片である。またその多くが土坑底面から数cm浮いた状態で、複数個体の破片や石器が混在して出土した。

土坑の時期は出土土器から、E区42号土坑を除き弥生時代中期前半の新しい段階と推定される。出土した土器は2001年に石川日出志氏によって提唱された神保富士塚式土器の範疇の資料に対応する。石川氏は従来北関東地方で様相が明らかでなかった須和田式期の土器について、富岡市神保富士塚遺跡出土土器をあて、条痕文を多用する岩櫃山式から、中期後半の竜見町式成立過程までの様相を理解するための土器として、筒形土器と磨り消し縄文や幾何文、条痕文の衰退、器種間での文様互換などに特徴のある神保富士塚式土器を提唱した。

詳細な土器研究は次の機会に譲るが、米山遺跡の出土土器のなかには神保富士塚式よりも古いと例示された神保植松遺跡出土土器類似資料も含まれる。また、当該期の南東北の磨り消し縄文系の鉢の破片や、平沢型壺破片等も含まれており、中期前半の新段階に位置づけられる土器群と考えてよいと思われる。(第72図は土坑番号順)

E区42号土坑の出土土器は、深く鋭い条痕を施した胴部破片がほとんどで、そのなかに浮線網状文とみられる施文の浅鉢破片や、氷式の系統のなかで考えられると思われる肩部2条沈線で胴部を横方向に

磨いた小型壺があり、D区で検出された4基の土坑より、古い様相を看取できる。ここでは弥生時代前期末と考えておきたい。

5基の土坑からは石器も出土している。特筆すべきことは、石鍬がD区15号土坑を除く4基の土坑で出土していることである。他にD区2号土坑では敲石と砥石、図示はしていないがD区15号土坑から石核、E区42号土坑から石核が出土した。剥片・礫・礫片も出土しているが、使用痕跡のあるものは確認できなかった(第8表)。

これらの土坑の性格については、現状では決め手に欠ける。近在する杣瀬Ⅲ遺跡、下鎌田遺跡、神保植松遺跡、神保富士塚遺跡、七日市観音前遺跡等でも同様な時期の土坑が検出されている。特に神保植松遺跡、神保富士塚遺跡ではそれぞれ77基、30基の土坑が検出されており、遺構の立地、規模、出土遺物の状況等に米山遺跡の土坑と共通点が多く見いだせる。土坑の性格については、神保富士塚遺跡の報告書では「屋外貯蔵の用途あるいは二次的に廃棄等に用いられた土坑と考えておきたい」と記載されている。

あらためて米山遺跡の土坑群の性格を検討すれば、再葬墓、再葬に伴う一次葬土坑墓、土坑墓、貯蔵用あるいは廃棄用土坑等のいくつかの可能性が想定される。まず、埋葬用の完形に近い大型壺は出土していないことから、再葬墓の可能性はかなり低いと思われる。ただし弥生再葬墓の蔵骨器の83%が壺という統計があり、甕が用いられた例が無いわけではない。甕の大型破片が出土したD区2号土坑が再葬墓である可能性は皆無ではない。

次に再葬に伴う一次葬土坑墓あるいは土坑墓の可能性はある。福島県会津美里町油田遺跡D区では再葬墓群と混在して径1mほどの円形あるいは楕円形土坑59基が集中しており、土坑墓と報告されている。また、茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡では再葬墓群の脇にある土坑から小型壺が出土しており、副葬品を伴う一次葬土坑墓の可能性が指摘されている。米山遺跡では、D区2号土坑やE区42号土坑から小型精

4. 米山遺跡の弥生時代土坑について

時期	平面図 (1/10)	出土土器 (器形1/10、破片1/8)	出土石器 (1/10)
前期 末	I 期 E区42坑 		
	中期前半 新段階 III 期	II 期 D区2坑 	
D区14坑 			
D区15坑 			
D区17坑 			

第72図 米山遺跡の弥生時代土坑

第4章 調査の成果

製壺が出土しており、共通性が見いだせる。しかし、米山遺跡の調査中に人骨片の出土はなく、土坑埋没土の水洗選別調査も実施していないので、墓坑としての積極的な根拠に乏しい。また、剥片様の石器について遺骸解体用の道具としての議論もあるが、米山遺跡の出土石器類には大きさ・形状ともに解体用と積極的に考えられる剥片は確認できなかった。

一方、集落内には貯蔵用・廃棄用の土坑の存在も推定される。米山遺跡の土坑からは、土器とともに石鍬・砥石・敲石・石核等の生活道具としての石器が出土している。このことから貯蔵用・廃棄用の土坑としての可能性は高いと思われる。しかし、群馬県内では弥生時代前期末～中期前半の集落は、安

中市注連引原遺跡例がある程度で、集落内に住居以外にどんな施設があったか明確ではない。当該期の集落における貯蔵用・廃棄用の土坑の在り様も今後の調査研究課題となろう。

以上のように、米山遺跡の弥生時代前期末から中期前半の土坑群の性格は特定することが困難と言わざるを得ない。いくつかの選択肢から考えると、出土土器が破片であること、石鍬等の農具が出土していること等から集落内の廃棄土坑の可能性が高いと考えておきたい。それは同時に、土坑の時期に対応する居住域が、遺跡近くにある可能性が高いことをも示している。今後の調査の進展に期待したい。

参考文献

1. 本書
2. 『上毛古墳綜覧』
3. 下仁田町史刊行会1971『下仁田町史』
4. 日本道路公団・群馬県教育委員会・下仁田町遺跡調査会1997『下鎌田遺跡』
5. 富岡市1986『富岡市史』
6. 群馬県文化財情報システムWEB版
7. 下仁田町遺跡調査会・下仁田町教育委員会・日本道路公団1994『杣瀬Ⅰ遺跡・杣瀬Ⅱ遺跡・杣瀬Ⅲ遺跡』
8. 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本道路公団1992～1997『南蛇井増光寺遺跡』Ⅰ～Ⅵ
9. 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本道路公団1996『中沢平賀貝戸遺跡』
10. 富岡市教育委員会2009『丹生地区遺跡群』
11. 和田山遺跡調査会・富岡市教育委員会1994『和田遺跡』
12. 富岡市遺跡調査会1994『前畑遺跡・内出Ⅰ遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡』
13. 山崎 一1978『群馬県古城址の研究 下巻』
14. 新井房夫1962『関東盆地北西部地域の第四紀編年』『群馬大学紀要自然科学編』10
15. 木崎善雄・野村 哲・中島啓治編1977『群馬のおいたちをたずねて 下』上毛新聞社
16. 須貝俊彦1992『利根川支流、碓氷川における中期更新世以降の河成段丘発達史』地理学評論65巻4号
17. 古環境研究所1993「1. 南蛇井増光寺遺跡周辺の地形と地質」(群埋文1993『南蛇井増光寺遺跡Ⅱ』)
18. 須貝俊彦2000「5-3-(2)関東平野西部の丘陵・台地」『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会
19. 富岡市教育委員会1994『七日市観音前遺跡』
20. 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本道路公団1997『神保植松遺跡』
21. 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本道路公団1993『神保富士塚遺跡』
20. 井上太・若狭徹1994「富岡市観音前遺跡の弥生中期土器」『群馬考古学手帳』4
21. 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本道路公団1993『神保富士塚遺跡』
22. 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本道路公団1997『神保植松遺跡』
23. 石川日出志1996「東日本弥生中期関東の4地域の併存」『Y A Y! -弥生土器を語る会20回到達記念論文集-』
24. 石川日出志2003「神保富士塚式土器の提唱と弥生中期土器研究上の意義」『土曜考古』第27号
25. 石川日出志2003「平沢型壺の形成と大地型土器との関わり一覚え書き」『埼玉考古』第38号
26. 福島県会津農林事務所・福島県大沼郡会津美里町教育委員会2007『油田遺跡』
27. 常陸大宮市歴史民俗資料館2009『企画展示解説 再葬墓と人面付土器のふしぎ』
28. 設楽博己2008『弥生再葬墓と社会』塙書房

第5章 自然科学的分析報告

1. 米山遺跡の火山灰分析

上記分析は株式会社火山灰考古学研究所に委託した。分析結果は以下の通りである。

1. はじめに

関東地方北西部に位置する下仁田町域とその周辺に分布する後期更新世以降の地層や土壌の中には、浅間やハケ岳など北関東とその周辺の火山のほか、中部地方、中国地方、九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く挟在されている。テフラの中には、すでに層位や噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの層位関係を明らかにすることで、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることができる。

そこで、層位や年代が不明な土層やテフラ層が多く検出された下仁田町米山遺跡でも、地質調査を行って土層の層序やテフラの層相に関する記載を行うとともに、採取された試料についてテフラ検出分析を実施して、土層やテフラの層位や年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象となった地点は、第1深掘トレンチと第2深掘トレンチの2地点である。

2. 土層の層序

(1)第1深掘トレンチ

第1深掘トレンチでは、下位より若干色調が暗い灰褐色粘質土(層厚3cm以上)、成層した砂層(ブロック状、層厚5cm)、若干色調が暗い灰褐色粘質土(層厚18cm)、褐色がかかった灰色粘質土(層厚34cm)、褐色のリモナイト濃集層(層厚1cm)、黒褐色のマンガン濃集層(層厚2cm)、黄灰色細粒火山灰層(層厚1cm)、乳白色細粒火山灰層のブロックを含む灰褐色粘質土(層厚9cm)、成層したテフラ層(層厚51cm)、橙色軽石や黄色軽石を含む灰色岩片に富む灰褐色砂質土(層厚9cm、軽石の最大径11mm、岩片の最大径4mm)、灰褐色土(層厚12cm)、成層したテフラ層(層厚22cm)、橙色軽石混じり褐色砂質土(層厚6cm、軽石の最大径13mm)、橙色軽石を含む砂混じり褐色土(層厚19cm、軽石の最大径13mm)、黄色軽石や橙色軽石を含む褐色土(層厚18cm、軽石の最大径10mm)、黄色粗粒軽石(最大径27mm)を多く含む橙色軽石(最大径13mm)混じり褐色土(層厚26cm)、黄色軽石混じり褐色土(層厚5cm、軽石の最大径12mm)が認められる(図1)。

成層した砂層は、下部の黄色砂層(層厚4cm)と上部の白色砂層(層厚1cm)からなる。また、成層した2層のテフラ層のうち、下位のテフラ層は、下位より乳白色風化軽石層(層厚6cm、石質岩片の最大径2mm)、橙色軽石混じり乳白色軽石層(層厚8cm、軽石の最大径13mm、石質岩片の最大径7mm)、下部8cmに比較的粗粒の石質岩片を含む橙色粗粒軽石層(層厚27cm、軽石の最大径27mm、石質岩片の最大径11mm)、橙色軽石に富む暗灰色降下石質岩片層(層厚10cm、軽石の最大径21mm、石質岩片の最大径7mm)からなる。一方、上位のテフラ層は、下部の暗灰色石質岩片を含む橙色軽石層(層厚17cm、軽石の最大径21mm、石質岩片の最大径11mm)と、上部の灰褐色粗粒火山灰層からなる。

(2)第2深掘トレンチ

第2深掘トレンチでは、下位より白色礫を含む褐色粘質土(層厚25cm以上)、褐色粘質土(層厚19cm)、灰褐色粘質土(層厚38cm)、褐色のリモナイト層(層厚1cm)、黒褐色のマンガン層(層厚2cm)、わずかに褐色がかかった灰色粘質土(層厚2cm)、乳白色細粒火山灰層(層厚1cm)、褐色がかかった灰色粘質土(層厚3cm)、成層したテフラ層(層厚55cm)、橙色軽石や黄色軽石を含む灰色岩片に富む灰褐色砂質土(層厚10cm、軽石の最大径17mm、岩片の最大径4mm)、橙色軽石混じり褐色土(層厚12cm、軽石の最大径11mm)、成層したテフラ層(層厚20cm)、橙色軽石混じり褐色砂質土(層厚5cm、軽石の最大径5mm)、橙色軽石を含む砂混じり褐色土(層厚13cm、軽石の最大径7mm)、黄色軽石や橙色軽石を含む褐色土(層厚23cm、軽石の最大径14mm)、黄色粗粒軽石(最大径17mm)を多く含む橙色軽石(最大径13mm)混じり褐色土(層厚24cm)、黄色軽石混じり褐色土(層厚5cm、軽石の最大径6mm)、黄色軽石層(層厚4cm、軽石の最大径7mm)、黄色軽石混じり褐色土(層厚3cm、軽石の最大径7mm)が認められる(図2)。

成層した2層のテフラ層のうち、下位のテフラ層は、下位より乳白色風化軽石層(層厚3cm、石質岩片の最大径2mm)、とくに軽石に富む乳白色軽石層(層厚2cm、軽石の最大径7mm、石質岩片の最大径2mm)、乳白色軽石層(層厚7cm、軽石の最大径13mm、石質岩片の最大径5mm)、下部9cmに比較的粗粒の石質岩片を含む橙色粗粒軽石層(層厚30cm、軽石の最大径27mm、石質岩片の最大径12mm)、橙色軽石に富む暗灰色降下石質岩片層(層厚13cm、軽石の最大径27mm、石質岩片の最大径6mm)からなる。一方、上位のテフラ層は、下部の暗灰色石質岩片を含む橙色軽石層(層厚13cm、軽石の最大径24mm、石質岩片の最大径6mm)と、上部の灰褐色粗粒火山灰層からなる。

第5章 自然科学的分析報告

3. テフラ検出分析

(1)分析試料と分析方法

テフラの堆積状況がより良い第2深掘トレンチにおいて採取された9点のテフラ試料について、テフラ検出分析を実施して、試料に含まれるテフラ粒子の特徴を明らかにした。分析の手順は次の通りである。

- 1)細粒の試料9については10g、純度の高い軽石質試料では軽石のみ6g、あまり純度が高くない試料1についてはできるだけ軽石を多く含む部分について6gを秤量。
- 2)超音波洗浄により泥分を除去。
- 3)80°Cで恒温乾燥。
- 4)実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2)分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。試料9には、無色透明のバブル型ガラスがとくに多く含まれている。試料9には、わずかに黄色がかつた白色の軽石型ガラスのほか、ごく少量の灰色軽石型ガラスが含まれている。全体としてfelsicで、斜方輝石や単斜輝石が少量含まれている。さらに、この試料にはβ石英が多く含まれている。

試料7にも、わずかに黄色がかつた白色の軽石型ガラスのほか、ごく少量の灰色軽石型ガラスが含まれている。全体としてfelsicで、斜方輝石や単斜輝石が少量含まれている。この試料にはやや多くのβ石英が含まれている。試料6にも、わずかに黄色がかつた白色の軽石型ガラスが含まれている。やはり全体としてfelsicで、斜方輝石や単斜輝石が少量含まれている。さらにごく少量ながら、角閃石も認められる。さらに、この試料にはβ石英が少量含まれている。

試料5には、黄橙色や黄灰色の軽石型ガラスが含まれている。軽石はmaficで、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれている。ごくわずかにβ石英も認められる。試料4、試料3、試料2には、黄色の軽石型ガラスが含まれている。軽石はやはりmaficで、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれている。試料2ではβ石英は認められないものの、試料4や試料3にはβ石英が認められる。

試料1には、白色軽石型ガラスが含まれている。軽石はfelsicで、斜方輝石や単斜輝石が少量含まれている。β石英は認められない。

4. 考察—指標テフラとの対比

米山遺跡の第2深掘トレンチで認められたテフラのうち、試料9が採取された細粒火山灰層については、その層位や層相、含まれる火山ガラスの色調や形態などから、約2.4～2.5万年前^{*1}に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995など)に同定される。

また、試料8から試料3が採取されたテフラと試料2が採取されたテフラの2層については、層相から、約1.9～2.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1996, 未公表資料)に同定される。このうち下位のテフラ層については、室田軽石(MP, 森山, 1972, 早田, 1990)に同定される。テフラ検出分析の結果から、試料8から試料6にかけてのユニット群が、As-BP Group下部(町田・新井, 1992, 2003)に相当する可能性が考えられるが、現段階における下部の認定については課題も多いことから、今後斜方輝石の屈折率測定などを実施して確認する必要がある。

試料1に多く含まれる軽石については、層位や岩相などから、約1.3～1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)と考えられる。したがって、その下位の土層中に散在する粗粒の黄色軽石については、As-YPの可能性もあるものの、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 約1.7万年前^{*1}, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 約1.6万年前^{*1}, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)からなる大窪沢テフラ群(As-0k Group)に由来する可能性が十分考えられる。この軽石についても、今後火山ガラスや斜方輝石の屈折率測定が実施されると良い。

5. まとめ

米山遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を実施した結果、下位より始良Tn火山灰(AT, 約2.4～2.5万年前^{*1})、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9～2.4万年前^{*1})のうちの2層(下位のテフラ層: 室田軽石)、浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group, 約1.6～1.7万年前^{*1})に由来すると思われる軽石、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*1})を検出することができた。

^{*1} 放射性炭素(¹⁴C)年代。ATおよびAs-YPの較正年代については、各々約2.6～2.9万年前と約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)

1. 米山遺跡の火山灰分析

文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器¹⁴C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p.339-347.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の¹⁴C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
 森山昭雄(1972)榛名火山東・南麓の地形—とくに軽石流の地形について—. 愛知教育大学地理学報告, 36-37, p.107-116.
 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の¹⁴C年代. 地質学雑誌, 99, p.787-798.
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒班～前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
 早田 勉(1990)群馬県の自然と風土. 群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編1」, p.37-129.
 早田 勉(1996)関東地方～北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	火山ガラス		重鉱物		β石英の量
		量 ^{*1}	形態 色調	量 組成		
第2深掘トレンチ	1	-	pm 白	+	opx, cpx	-
	2	-	pm 黄	+++	opx, cpx	-
	3	-	pm 黄	+++	opx, cpx	(+)
	4	-	pm 黄	+++	opx, cpx	(+)
	5	-	pm 黄橙, 黄灰	+++	opx, cpx	(+)
	6	-	pm (黄)白	+	opx, cpx, (ho)	+
	7	-	pm (黄)白, 灰	+	opx, cpx	++
	8	-	pm (黄)白, 灰	+	opx, cpx	+++
	9	++++	bw 無色透明	-	-	-

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない.

bw: パブル型, pm: 軽石型. opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石. 色調の () はわずかな色を, 重鉱物の () は量が少ないことを示す.

*1: 試料1～8については軽石を粉砕処理しているために量についての記載は困難. 重鉱物組成では, 磁鉄鉱など不透明鉱物をのぞいている.

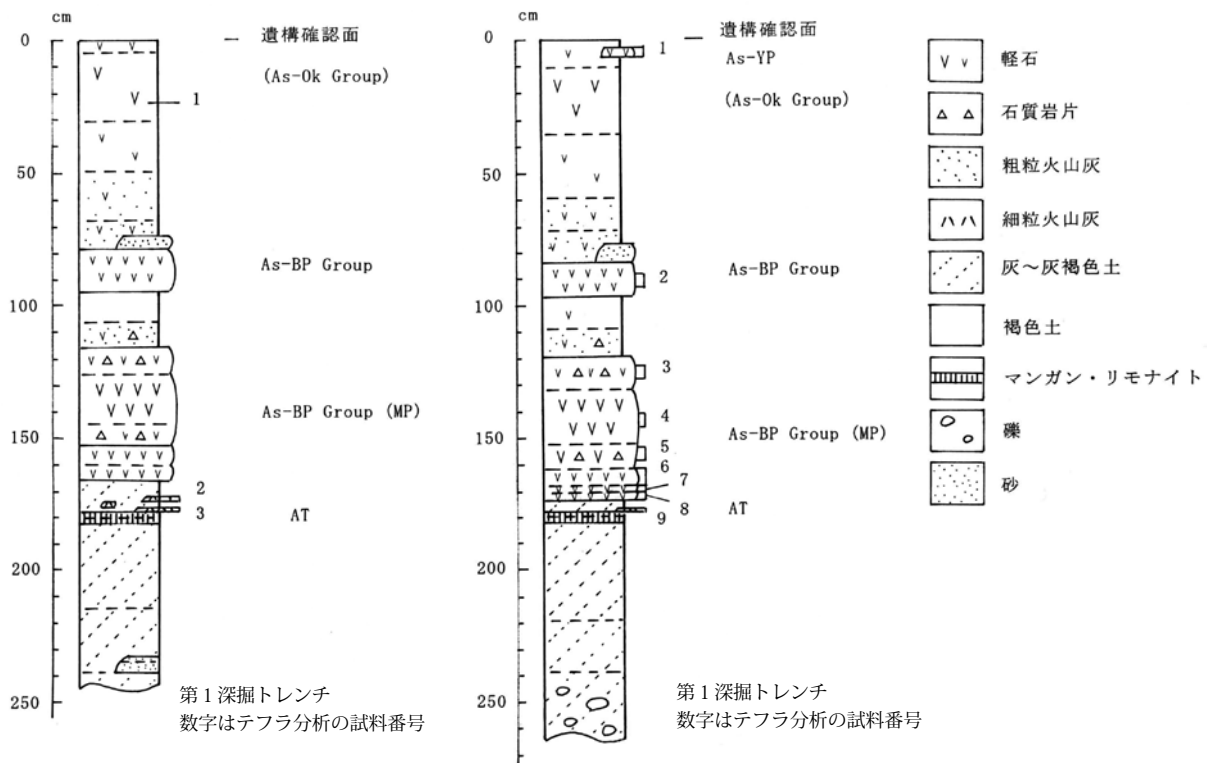


図1 深掘りトレンチの土層柱状図

遺構一覧・遺物観察表

第4表 米山遺跡遺構一覧表

区	No	遺構種	時期	形態		規模				
				平面形	断面形	長軸 m	短軸 m	深さ m		
A	1	土坑	諸磯b式期	円形	箱状	0.95	0.95	0.33		
A	2	土坑	諸磯b式期	楕円形	筒状	1.2	0.94	0.64		
A	3	土坑	諸磯b式期	円形	箱状	1.17	1.13	0.78		
A	4	土坑	諸磯c式期	円形	浅い箱状	1.03	0.98	0.71		
A	5	土坑	諸磯c式期	円形	箱状	1.02	0.99	0.3		
A	6	土坑	諸磯b式期	円形	血状	0.78	0.73	0.22		
A	7	土坑	諸磯c式期	円形	浅い箱状	0.91	0.9	0.16		
A	8	土坑	欠番							
A	9	土坑	欠番							
A	10	土坑	欠番							
A	11	土坑	五領ヶ台式期	楕円形	箱状	1.16	1.12	0.38		
A	12	土坑	諸磯c式期	楕円形	すり鉢状	1.2	1.06	0.29		
A	13	土坑	不明	楕円形	血状	1.69	1.13	0.31		
A	14	土坑	不明	楕円形	血状	1.48	1	0.21		
A	15	土坑	諸磯b式期?	楕円形	血状	1.22	1	0.16		
A	16	土坑	欠番							
A	17	土坑	諸磯c式期?	楕円形	袋状	0.83	0.7	1.06		
A	18	土坑	欠番							
A	19	土坑	諸磯b式期?	楕円形	箱状	1.47	1.15	0.62		
A	20	土坑	諸磯b式期	楕円形	筒状	0.91	0.72	0.71		
A	21	土坑	諸磯c式期	楕円形	箱状	0.58+	0.89	0.3		
A	22	土坑	不明	楕円形	血状	1.82	1.17	0.27		
A	23	土坑	欠番							
A	24	土坑	欠番							
A	25	土坑	諸磯c式期	不整形円形	袋状	0.69+	1.1	1.03		
A	26	土坑	欠番							
A	27	土坑	欠番							
A	28	土坑	欠番							
A	29	土坑	不明	不定形	筒状	0.65+	0.65	0.21		
A	30	土坑	諸磯b式期?	楕円形	血状	1.5	0.8	0.3		
A	1	ビット	不明	楕円形	血状	0.55	0.4	0.32		
A	2	ビット	不明	楕円形	血状	0.6	0.48	0.29		
A	3	ビット	不明	楕円形	血状	0.45	0.4	0.23		
A	4	ビット	不明	楕円形	血状	0.5	0.38	0.33		
A	5	ビット	不明	楕円形	筒状	0.4	0.3	0.71		
A	6	ビット	不明	楕円形	筒状	0.4	0.32	不明		
A	7	ビット	不明	楕円形	筒状	0.73	0.42	0.43		
A	8	ビット	不明	楕円形	筒状	0.65	0.42	0.28		
A	9	ビット	不明	楕円形	血状	0.34+	0.53	0.25		
A	10	ビット	不明	楕円形	筒状	0.48	0.39	0.24		
A	11	ビット	不明	楕円形	筒状	0.39	0.35	0.41		
A	12	ビット	不明	楕円形	血状	0.69	0.56	0.21		
A	13	ビット	不明	楕円形	血状	1	0.62	0.63		
A	14	ビット	不明	楕円形	血状	0.71	0.6	0.17		
B	1	1	住居	不明	方形	—	2.8+	不明	0.35	
B	1	1	土坑	欠番						
B	1	2	土坑	不明	楕円形	箱状	0.98	0.82	0.38	
B	1	3	土坑	不明	楕円形	血状	1	0.76	0.3	
B	2	4	土坑	諸磯b式	円形	箱状	1.04	1.02	0.46	
B	2	5	土坑	前期末	円形	袋状	0.84	0.78	0.68	
C	1	a	住居	諸磯b古段階	隅丸方形	—	3.84	3.40+	0.4	
C	1	b	住居	諸磯b古段階	円形	—	4.90+	—	0.32	
C	2	住居	黒浜式期	隅丸方形	—	4.7	4.3	0.52		
C	3	住居	黒浜式期	方形	—	4.2	3.8+	0.22		
C	4	住居	不明	隅丸方形	—	3+	2+	0.16		
C	5	住居	黒浜式期	方形	—	4.1	3.5+	0.82		
C	1	土坑	諸磯b式期	不定形	すり鉢状	2	1.04+	0.24		
C	2	土坑	諸磯b式期	楕円形	筒状	0.79	0.7	0.69		
C	3	土坑	諸磯b式期	円形	筒状	0.7	0.66	0.49		
C	4	土坑	諸磯a式期	楕円形	血状	0.75	1.13	0.76		
C	5	土坑	諸磯c式期	円形	箱状	0.89	0.82	0.75		
C	6	土坑	諸磯b式期	円形	箱状	0.68	0.66	0.38		
C	7	土坑	不明	円形	血状	0.63	0.6	0.1		
C	8	土坑	諸磯b式期	楕円形	浅い箱状	1.1	0.7	0.22		
C	9	土坑	不明	楕円形	浅い箱状	0.9	0.74	0.15		
C	10	土坑	不明	円形	血状	0.96	0.9	0.16		
C	11	土坑	不明	円形	血状	1.1+	0.35+	0.21		
C	12	土坑	諸磯b式期	円形	箱状	1.07	0.95	0.41		
C	13	土坑	諸磯a式期	楕円形	筒状	0.53	1.05	1		
C	14	土坑	諸磯b式期	円形	筒状	1.08	1	0.88		
C	1	ビット	不明	楕円形	浅い箱状	0.53	0.4	0.13		
C	2	ビット	不明	円形	血状	0.32	0.3	0.14		
C	3	ビット	不明	楕円形	筒状	0.47	0.33	0.64		
D	1	2	1	住居	不明	—	不明	不明	0.12	
D	1	2	2	住居	隅丸方形	—	2.6+	2.5+	0.17	
D	1	2	3	住居	隅丸方形	—	3.7	2.56+	0.16	
D	1	3	1	土坑	不明	不整形円形	箱状	1.3	1.12	0.32
D	1	1	2	土坑	弥生時代中期	楕円形	箱状	1.3	1.12	0.26

区	No	遺構種	時期	形態		規模				
				平面形	断面形	長軸 m	短軸 m	深さ m		
D	1	1	3	土坑	中期前葉	楕円形	血状	1.39+	1.04	0.24
D	1	1	4	土坑	五領ヶ台II式	楕円形	血状	0.98	0.8	0.25
D	2	1	5	土坑	諸磯b式期	楕円形	血状	1.36	0.99	0.31
D	2	1	6	土坑	不明	不整形円形	血状	0.73	0.6+	0.24
D	2	1	7	土坑	諸磯b式期	楕円形	血状	0.74	0.65	0.07
D	2	1	8	土坑	不明	円形	箱状	1.3	0.6+	0.24
D	2	1	9	土坑	不明	楕円形	血状	1.05	0.68	0.16
D	2	1	10	土坑	諸磯b式期	楕円形	箱状	1.38	1	0.25
D	2	1	11	土坑	不明	楕円形	血状	1.72	1.31	0.15
D	2	1	12	土坑	不明	不整形円形	すり鉢状	1.3	0.99+	0.49
D	2	1	13	土坑	不明	楕円形	血状	0.8	0.7	1.02
D	2	1	14	土坑	弥生時代中期	楕円形	血状	1.32	1.1	0.33
D	2	1	15	土坑	弥生時代中期	円形	箱状	1.32	1.3	0.48
D	2	1	16	土坑	諸磯b式期	楕円形	浅い箱状	1.56	1.44	0.19
D	2	1	17	土坑	弥生時代中期	円形	浅い箱状	1.12	1.12	0.25
D	2	1	18	土坑	不明	楕円形	すり鉢状	1.0+	0.9+	0.73
D	2	1	19	土坑	諸磯a式期	楕円形	浅い箱状	1.0+	0.9	0.14
D	2	1	20	土坑	前期末	楕円形	血状	1.39	1.17	0.36
D	1	2	21	土坑	諸磯a式期	楕円形	血状	0.76	0.45	0.38
D	2	1	22	土坑	不明	楕円形	血状	1	0.79	0.2
D	2	1	23	土坑	諸磯a式期	円形	袋状	1.18	1.13	0.72
D	2	1	24	土坑	諸磯a式期	楕円形	袋状	1.5	1.37	0.73
D	2	1	25	土坑	諸磯a式期?	楕円形	血状	1.22	0.4+	0.15
D	1	1	1	ビット	不明	楕円形	血状	0.59	0.4	0.27
E	1	1	1	住居	関山II式	隅丸方形	—	4.35	0.98+	0.34
E	2	1	2	住居	関山II式	隅丸方形	—	3.26+	0.82+	0.74
E	2	5	1	土坑	不明	円形	浅い箱状	1.1	1	0.26
E	2	4	2	土坑	阿玉台I b式期	円形	血状	0.98	0.97	0.09
E	2	3	3	土坑	不明	方形	浅い箱状	0.7+	0.66+	0.15
E	1	1	4	土坑	黒浜式期	楕円形	浅い箱状	0.96+	1.87	0.38
E	2	1	5	土坑	阿玉台I b式期	円形・半欠	浅い箱状	0.92	0.48+	0.15
E	2	1	6	土坑	不明	楕円形	血状	1	0.9	0.2
E	2	1	7	土坑	勝坂3式期	楕円形	血状	1.02	0.92	0.24
E	2	1	8	土坑	不明	円形	浅い箱状	1.1	1.08	0.13
E	2	1	9	土坑	勝坂1・2式	円形	浅い箱状	0.98	0.92	0.22
E	2	1	10	土坑	阿玉台I b式期	隅丸方形	浅い箱状	1	0.96	0.09
E	2	1	11	土坑	不明	楕円形	血状	0.9	0.78	0.23
E	2	1	12	土坑	不明	楕円形	血状	1.17	1	0.17
E	2	1	13	土坑	不明	円形	血状	1.04	1	0.25
E	2	1	14	土坑	諸磯c式期	楕円形	血状	0.83	0.76	0.26
E	2	1	15	土坑	中期前葉	円形・袋状	袋状	1.1	1.04	0.97
E	2	1	16	土坑	諸磯b式期	楕円形	袋状	1.3	1.18	0.59
E	2	1	17	土坑	諸磯b式期	円形	箱状	0.98	0.95	0.42
E	2	1	18	土坑	諸磯b式期	楕円形	箱状	0.7+	0.7+	0.25
E	2	1	19	土坑	不明	楕円形	筒状	1+	0.84	0.81
E	2	1	20	土坑	前期末	楕円形	袋状	1.43	1.3	0.35
E	2	1	21	土坑	欠番					
E	2	1	22	土坑	黒浜式期	不整形円形	血状	1.24	1.1	0.13
E	2	1	23	土坑	諸磯b式期	円形・半欠	血状	0.82	0.3+	0.25
E	2	1	24	土坑	不明	楕円形	箱状	1	0.6+	0.2
E	2	1	25	土坑	不明	円形	血状	0.82	0.79	0.07
E	2	1	26	土坑	諸磯b式期	不整形円形	血状	0.82	0.8	0.11
E	2	1	27	土坑	諸磯b式期	楕円形	筒状	0.7	0.6	0.35
E	2	1	28	土坑	勝坂3式期	楕円形	血状	1.12	0.92	0.19
E	2	2	29	土坑	阿玉台I b式期	円形	箱状	1.1	1.06	0.29
E	2	2	30	土坑	中期前葉	円形・半欠	箱状	1.06	0.4+	0.27
E	2	2	31	土坑	不明	楕円形	血状	0.9	0.8	0.17
E	2	2	32	土坑	阿玉台I b式期	楕円形	筒状	1.16	0.94	0.49
E	2	2	33	土坑	不明	円形・半欠	血状	0.56+	0.7	0.12
E	2	2	34	土坑	阿玉台I b式期	円形・半欠	血状	1.30+	0.84+	0.25
E	2	2	35	土坑	不明	楕円形	血状	1.04	0.79	0.17
E	2	2	36	土坑	不明	楕円形	血状	0.9	0.8	0.16
E	2	2	37	土坑	欠番					
E	2	2	38	土坑	阿玉台I b式期	円形・袋状	箱状	1.2	1.2	0.51
E	2	2	39	土坑	諸磯b式期	楕円形	血状	0.72+	0.7	0.21
E	2	2	40	土坑	阿玉台I b式期	楕円形	すり鉢状	0.4+	1.16	0.18
E	2	2	41	土坑	黒浜式期	円形	箱状	1.04	1	0.22
E	2	1	42	土坑	弥生前期末?	円形	箱状	1.35	1.32	0.29
E	2	1	1	ビット	欠番					
E	2	1	2	ビット	不明	楕円形	筒状	0.45	0.31	0.27
								上幅	調査長	深さ
C			1	溝	不明	直線	血状	0.9	3.6	0.27
E	1	1	1	溝	近世～現代	やや湾曲	薬研	1.42	13.4	0.07
E	2	5	2	溝	近世～現代	直線	箱状	0.83	11.8	0.75
E	2	2	3	溝				0.68	30.28	0.44
E	2	3	3	溝	近世～現代	直線	箱状	0.58	1.3	0.17
E	2	4	3	溝				0.6	3.7	0.13

遺構一覧・遺物観察表

第6表 竪穴住居柱穴計測表

住居	ビット番号	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)
C区1a号住居	P 1	0.38	0.28	0.67
C区1a号住居	P 2	0.53	0.37	0.62
C区1a号住居	P 3	0.37	0.35	0.47
C区1a号住居	P 4	0.35	0.29	0.50
C区1a号住居	P 5	0.26	0.22	0.30
C区1b号住居	P 1	0.33	0.29	0.35
C区1b号住居	P 2	0.45	0.37	0.33
C区1b号住居	P 3	0.44	0.32	0.75
C区1b号住居	P 4	0.29	0.29	0.39
C区1b号住居	P 5	0.45	0.29	0.58
C区1b号住居	P 6	0.37	0.32	0.41
C区1b号住居	P 7	0.40	0.32	0.21
C区1b号住居	P 8	0.42	0.40	0.25
C区1b号住居	P 9	0.42	0.28以上	0.28
C区1b号住居	P 10	0.27	0.17	0.05
C区1b号住居	P 11	0.46	0.21	0.13
C区1b号住居	P 12	0.28	0.23	0.30
C区1b号住居	P 13	0.28	0.24	0.18
C区1b号住居	P 14	0.34	0.27	0.24
C区2号住居	P 1	0.28	0.25	0.39
C区2号住居	P 2	0.28	0.24	0.36
C区2号住居	P 3	0.39	0.30	0.50
C区2号住居	P 4	0.40	0.28	0.63
C区2号住居	P 5	0.51	0.33	0.45
C区2号住居	P 6	0.30	0.27	0.27
C区2号住居	P 7	0.48	0.41	0.48
C区2号住居	P 8	0.47	0.40	0.27
C区2号住居	P 9	0.31	0.27	0.42
C区2号住居	P 10	0.32	0.25	0.15
C区2号住居	P 11	0.51	0.32	0.13
C区2号住居	P 12	0.45	0.29	0.31
C区2号住居	P 13	0.26	0.25	0.42
C区2号住居	P 14	0.19	0.15	0.27
C区2号住居	P 15	0.29	0.26	0.32
C区2号住居	P 16	0.24	0.21	1.36
C区2号住居	P 17	0.33	0.32	0.47
C区2号住居	P 18	0.33	0.31	0.16
C区2号住居	P 19	0.24	0.22	0.24
C区2号住居	P 20	0.56	0.51	0.30
C区2号住居	P 21	0.21	0.18	0.19
C区2号住居	P 22	0.33	0.28	0.43
C区2号住居	P 23	0.30	0.29	0.19
C区2号住居	P 24	0.21	0.18	0.15
C区2号住居	P 25	0.29	0.27	0.25
C区2号住居	P 26	0.28	0.21	0.29
C区2号住居	P 27	0.27	0.25	0.37
C区2号住居	P 28	0.24	0.17	0.41
C区2号住居	P 29	0.43	0.31	0.52
C区2号住居	P 30	0.25	0.23	0.47
C区2号住居	P 31	0.26	0.21	0.43
C区2号住居	P 32	0.31	0.30	0.41
C区2号住居	P 33	0.22	0.18	0.23
C区2号住居	P 34	0.26	0.24	0.42
C区2号住居	P 35	0.22	0.20	0.17
C区2号住居	P 36	0.28	0.26	0.15
C区2号住居	P 37	0.19	0.17	0.18
C区2号住居	P 38	0.39	0.31	0.29
C区2号住居	P 39	0.65	0.26	0.28
C区2号住居	P 40	0.31	0.21	0.35
C区2号住居	P 41	0.32	0.28	0.3
C区2号住居	P 42	0.24	0.23	0.3
C区2号住居	P 43	0.25	0.3	0.71
C区2号住居	P 44	0.23	0.18	0.04
C区2号住居	P 45	0.39	0.27	0.51
C区2号住居	P 46	0.61	0.53	0.56
C区2号住居	P 47	0.25	0.23	0.28
C区2号住居	P 48	0.24	0.22	0.24
C区2号住居	P 49	0.23	0.19	0.18
C区3号住居	P 1	0.35	0.27	0.25
C区3号住居	P 2	0.35	0.27	0.19
C区3号住居	P 3	0.3	0.25	0.36
C区3号住居	P 4	0.23	0.2	0.16
C区3号住居	P 5	0.36	0.28	0.34
C区3号住居	P 6	0.3	0.26	0.13
C区3号住居	P 7	0.37	0.28	0.44
C区3号住居	P 8	0.28	0.26	0.2
C区3号住居	P 9	0.28	0.22	0.11
C区3号住居	P 10	0.38	0.33	0.2
C区3号住居	P 11	0.33	0.27	0.23
C区3号住居	P 12	0.29	0.23	0.17
C区3号住居	P 13	0.37	0.27	0.2
C区3号住居	P 14	0.32	0.28	0.19
C区3号住居	P 15	0.33	0.26	0.25
C区3号住居	P 16	0.27	0.21	0.22
C区3号住居	P 17	0.34	0.21	0.59
C区3号住居	P 18	0.35	0.32	0.28
C区3号住居	P 19	0.45	0.34	0.41
C区5号住居	P 1	0.38	0.31	0.13
C区5号住居	P 2	0.45	0.32	0.19
C区5号住居	P 3	0.74	0.37	0.37
C区5号住居	P 4	0.54	0.41	0.31
C区5号住居	P 5	0.47	0.46	0.39
C区5号住居	P 6	0.54	0.18	0.22
C区5号住居	P 7	0.47	0.28	0.3
C区5号住居	P 8	0.41	0.19	0.14
C区5号住居	P 9	0.35	0.24	0.17
D区2号住居	P 1	0.34	0.27	0.33
D区2号住居	P 2	0.29	0.25	0.2
D区2号住居	P 3	0.4	0.29	0.32
D区2号住居	P 4	0.45	0.21	0.33
D区3号住居	P 1	0.24	0.23	0.26
D区3号住居	P 2	0.39	0.34	0.48
D区3号住居	P 3	0.32	0.22	0.27
D区3号住居	P 4	0.37	0.33	0.35
D区3号住居	P 5	0.33	0.32	0.33
D区3号住居	P 6	0.3	0.27	0.23
D区3号住居	P 7	0.3	0.28	0.62
D区3号住居	P 8	0.34	0.32	0.42
E区1号住居	P 1	0.27	0.23	0.43
E区1号住居	P 2	0.22	0.17	0.33
E区1号住居	P 3	0.28	0.17	0.22

第7表 米山遺跡土器属性表

区	出土遺構		図番号	P.L番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
	遺構番号	遺物番号												
A	1	土坑	1	13	29	深鉢	中央部底面上20cm	体部	破片	粗:白色粒・輝石	褐灰	良好	無筋L横位施文	諸磯b式
A	1	土坑	2	13	29	深鉢	東壁際底面上5cm	体部上半	破片	細:白色粒・石英・輝石	鈍い黄橙	良好	横位平行沈線群による多段分帯。弧線を充填する。無筋Lを地文とする	諸磯b式
A	2	土坑	1	13	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗:白色粒・石英・輝石	鈍い赤褐	良好	横位平行沈線群上に縦位平行沈線を密に施す	諸磯b式
A	2	土坑	2	13	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗:白色粒・石英・輝石	橙	良好	地文は無筋L。横位撫でを加える	諸磯b式
A	3	土坑	1	13	29	深鉢	中央やや北寄り底面上25cm	口縁部	破片	粗:石英・片岩	灰黄褐	良好	4点からなる。口縁部大波状縁波頂部の一端。板状で平行沈線群を配す	諸磯b式
A	3	土坑	2	13	29	深鉢	中央部底面上15cm	口縁部	破片	粗:白色粒・石英	橙	やや軟	頸部大きく外反し、口縁部は短く直立する。横位平行沈線群を多段に施す。外面煤付着。内面研磨	諸磯b式
A	3	土坑	3	13	29	深鉢	中央部	体部上半	破片	粗:白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	体部上半の隆帯貼付による屈曲部。浅い横位平行沈線群を施す	諸磯b式
A	3	土坑	4	13	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗:小礫・石英	灰褐	良好	横位平行沈線群を施す。地文は無筋R	諸磯b式
A	3	土坑	5	13	29	深鉢	中央やや北寄り底面上25cm	体部	破片	粗:白色粒・石英・小礫	橙	良好	無筋L横位施文	諸磯b式
A	3	土坑	6	13	29	深鉢	西壁際底面上22cm	体部中位	破片	粗:白色粒・石英・片岩	明赤褐	良好	緩やかな湾曲を呈す体部。無文	諸磯b式
A	3	土坑	7	13	29	深鉢	西壁際底面上22cm	体部上半	破片	粗:白色粒・石英・片岩	鈍い赤褐	良好	内湾する体部器形。無文で横位削り調整後平滑な撫でを加える	諸磯b式
A	3	土坑	8	13	29	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗:白色粒・石英	鈍い褐	良好	波状縁。口唇部外反。平行沈線による弧線文を配す。風車状渦巻文か	諸磯b式
A	3	土坑	9	13	29	深鉢	中央やや西寄り底面上16cm	口縁部	小片	粗:白色粒・石英	橙	良好	波状縁か。口縁部屈曲強い。横位平行沈線群を施す	諸磯b式
A	3	土坑	10	13	29	深鉢	北西壁際底面上10cm	体部	破片	粗:石英・片岩	明赤褐	良好	おそらく大波状縁波頂部の一端。横位沈線群が側縁に設け、弧線文を加える	諸磯b式
A	3	土坑	11	13	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗:白色粒・石英	橙	良好	横位沈線群以下、弧線による小区画文が配される。縦位短沈線も施す。地文は無筋RL	諸磯b式
A	3	土坑	12	13	29	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	粗:白色粒・輝石	灰褐色	良好	屈曲口縁部。無文	諸磯b式
A	3	土坑	13	13	29	深鉢	中央部底面上20cm	口縁部	小片	粗:白色粒・片岩	黒褐	良好	屈曲口縁部。極めて浅い横位平行沈線を施す。地文は無筋L横位施文	諸磯b式
A	3	土坑	14	13	29	深鉢	埋没土中	底部	小片	粗:白色粒・石英・小礫	橙	良好	埋没5.0cm。底部端部張り出す。横位平行沈線を施す	諸磯b式
A	4	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗:白色粒・石英	鈍い橙	良好	口縁部の棒状突起。地文は斜位平行沈線	諸磯c式
A	4	土坑	2	14	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗:白色粒・石英・小礫	橙	良好	横位平行沈線群を施す	諸磯c式
A	4	土坑	3	14	29	深鉢	中央部底面上4cm	体部	破片	粗:白色粒・小礫	鈍い褐	良好	平行沈線による矢羽状構成	諸磯c式
A	5	土坑	1	14	29	深鉢	中央やや東寄り底面上3cm	体部	破片	粗:白色粒・石英・輝石	鈍い黄橙	良好	やや幅広い斜位平行沈線群を相互に施す	諸磯c式
A	6	土坑	1	14	29	深鉢	中央やや北寄り底面上11cm	体部	破片	粗:白色粒・石英	鈍い褐	良好	横位RL	諸磯b式
A	6	土坑	2	14	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗:白色粒・石英・繊維少	明赤褐	良好	横位RL・LR+Rによる菱形状構成か	黒浜式
A	7	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	体部	小片	粗:石英・小礫	鈍い黄橙	良好	縦位平行沈線群を施す	諸磯c式
A	7	土坑	2	14	29	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	粗:白色粒	鈍い褐	良好	棒状突起を付す。地文は縦位平行沈線か	諸磯c式

第7表 米山遺跡土器属性表

出土遺構		遺物 番号	図 番号	P.L 番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
区	遺構番号													
A	8	土坑	1	16	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	橙	良好	無文、撫で調整が及ぶ	黒浜式
A	9	土坑	1	16	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	橙	良好	無筋・Rによる横位羽状構成	諸磯b式
A	9	土坑	2	16	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	明赤褐	良好	おそらく大波状縁波頂部の一端。横位沈線群を施す	諸磯b式
A	10	土坑	1	16	29	深鉢	埋没土中	体部	小片	粗：白色粒・輝石	明褐	良好	無文。	諸磯c式
A	10	土坑	2	16	29	浅鉢	埋没土中	体部	小片	粗：石英	橙	良好	薄手の器厚。縦位平行沈線群を施す	諸磯c式
A	11	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	細：白色粒・石英・輝石	鈍い赤褐	良好	内皮沈線を横位に設け、沈線間に交互刺突文を加える。体部はL R縦位施文	五領ヶ台II式
A	11	土坑	2	14	29	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英多・輝石	鈍い黄橙	良好	口縁部肥厚。横位平行沈線以下波状沈線を施す。口唇部無筋L横位施文	五領ヶ台II式
A	11	土坑	3	14	29	深鉢	埋没土中	体部	小片	粗：白色粒多	鈍い橙	良好	結節沈線2条を横位に施す。単軸施文	五領ヶ台II式
A	12	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	赤褐	良好	無文	諸磯b式
A	12	土坑	2	14	29	深鉢	埋没土中	体部	小片	粗：石英大・輝石	鈍い黄橙	良好	斜位平行沈線による。縦位矢羽状構成	諸磯c式
A	15	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	灰黄褐	良好	横位平行沈線を施す	諸磯b式
A	17	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	粗：白色粒・石英・輝石	明赤褐	良好	棒状貼付文と円形貼付文。地文は横位平行沈線か	諸磯c式
A	19	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	細：白色粒・石英・輝石	鈍い黄橙	良好	横位平行沈線群を施す	諸磯b式
A	20	土坑	1	14	29	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒	鈍い橙	良好	小波状縁頂部に刻み。内湾する口縁部に縦位刺突文を施す	諸磯c式併行
A	20	土坑	2	14	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	灰褐	良好	縦位平行沈線と斜位平行沈線	諸磯b式
A	20	土坑	3	14	29	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	橙	良好	横位平行沈線群を多段に配す。地文は横位RL	諸磯b式
A	20	土坑	4	14	29	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：小礫・石英	黒褐	良好	頸部文様は横位弧線文。体部は横位平行沈線と斜位刻みを重ねる。地文は横位・斜位RL	諸磯b式
A	21	土坑	1	15	30	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	細：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	僅かに内湾する体部。横位平行沈線を多段に施す	諸磯b式
A	21	土坑	2	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	縦位平行沈線と斜位平行沈線。小貼付文を付す	諸磯b式
A	21	土坑	3	15	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	褐灰	良好	無文。凹凸ある器面	諸磯c式
A	21	土坑	4	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・小礫・褐色粒	褐灰	良好	縦位平行沈線群を施す	諸磯c式
A	21	土坑	5	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	灰黄褐	良好	平行沈線による横位弧線文	諸磯b式
A	21	土坑	6	15	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	棒状貼付文を口唇部に連続する。横位平行沈線を施す	諸磯c式
A	21	土坑	7	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英	灰黄褐	良好	縦位平行沈線と斜位平行沈線を施す	諸磯c式
A	22	土坑	1	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	灰黄褐	良好	横位L RとRLによる羽状構成	諸磯b式
A	25	土坑	1	15	30	深鉢	埋没土中	口縁～体部	1/2	細：白色粒・石英・輝石	灰褐色	良好	6点からなる。口縁部に横位蛇行隆線。体部は横位RLと無筋Lによる羽状縦文構成。内面雑な研磨	前期末葉
A	25	土坑	2	15	30	深鉢	埋没土中	口縁～体部	1/5	細：白色粒・石英	黒褐	良好	口：29.0cm。口端部に平坦面を持ち折り返し状の口縁部。RLと無筋Lの横位羽状縦文構成	前期末葉
A	25	土坑	3	15	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・石英・輝石	鈍い橙	良好	口唇部尖り、口縁部は緩やかに内湾する。横位撫で痕が顕著	前期末葉
A	25	土坑	4	15	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	棒状貼付文を付し、地文に口縁部は横位、体部は斜位平行沈線を施す	諸磯c式
A	25	土坑	5	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	橙	良好	無筋L横位施文。内面煤付着	諸磯c式
A	25	土坑	6	15	30	深鉢	北壁際底面上26cm	体部	破片	細：白色粒	黒	良好	結節浮線状の貼付文を付す。地文は5・6条単位の斜位条線を施す	前期末葉
A	25	土坑	7	15	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い橙	良好	横位L RとRLによる羽状縦文構成	
A	25	土坑	8	15	30	粘土塊	埋没土中	—	破片	細：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	長：5.1cm 幅：2.1cm 重：14.95g。指頭痕の凹みを有する	
A	30	土坑	1	15	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒多	明赤褐	良好	口縁部に横位沈線と半截竹管による連続刺突文を施す	興津式?
A	7	ビット	1	16	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	橙	良好	無筋L横位施文	諸磯b式
A	8	ビット	1	16	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	明赤褐	良好	平行沈線は強い内皮施文のため半隆起状となす	前期末葉
B	1	住居	1	17	30	深鉢	埋没土中	体部下半	破片	粗：白色粒・繊維	鈍い赤褐	やや軟	無筋LとRによる横位羽状縦文構成	黒浜式
B	4	土坑	1	19	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	黒褐色	良好	口縁部に横位平行沈線を設け下位に弧線文を配す。地文横位RL。内面研磨	諸磯a式
B	4	土坑	2	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩少	鈍い赤褐	良好	横位L RとR?による羽状縦文構成	諸磯b式
B	4	土坑	3	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い赤褐	良好	無筋L横位施文。結節部を見る	諸磯b式
B	4	土坑	4	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	鈍い褐	良好	幅狭の内皮連続爪形文を横位多段に設け、斜位短沈線に沿う	諸磯b式
B	5	土坑	1	19	30	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩・繊維	鈍い赤褐	良好	緩やかな波状縁か。口唇部及び口縁部に刺突文。斜位刺突文による鋸歯意匠か。内外面横位条線を施す	早期
B	5	土坑	2	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	褐	良好	横位L Rを施す。内面研磨	関山・黒浜
B	5	土坑	3	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い赤褐	良好	円形刺突文と弧線文による肋骨文	諸磯a式
B	5	土坑	4	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い橙	良好	薄手の器厚を呈し、RL・L R結束羽状縦文が覆う	諸磯b式
B	5	土坑	5	19	30	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英	鈍い橙	良好	斜位平行沈線による。対向状の構成か	諸磯b式
C	1 a	住居	1	22	31	深鉢	北西壁際床面上1.5cm	口縁部	1/1	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い赤褐	良好	口：24.0cm。頸部で括れる。鋸歯状口縁部を呈し、横位3条の幅狭連続爪形文を多段に配す。爪形文による弧線状・渦巻状意匠を配し、爪形文間は斜位短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	2	22	31	深鉢	中央部床面上1.5cm	頸部～底部	1/1	粗：白色粒・石英・片岩	明赤褐	良好	底：8.2cm。体部中位で内湾する。斜位RLが覆う。あるいは1と同一個体か	諸磯b式
C	1 a	住居	3	22	31	深鉢	中央やや西寄り床面上6cm	口縁部	1/4	粗：白色粒・片岩	黒褐	良好	口：(33.4)cm。口縁部に横位連続爪形文を多段に設け、以下爪形文による変状区意匠や渦巻文を配す。爪形文間は浮線状で空白部に円形竹管文を施す。内面横位研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	4	22	31	深鉢	西隅床面上18cm	口縁部	1/5	粗：白色粒・石英・片岩少	鈍い赤褐	良好	口：(38.0)cm。波状縁両脇に垂下隆線を付す。口縁部は横位連続爪形文を多段に設け、以下弧線文や渦巻文を配す。爪形文間の浮線状効果は顕著で斜位短沈線を施す。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	5	22	31	深鉢	北部床面上4.5cm	頸部～体部上	2/3	粗：石英・片岩	明褐	良好	屈曲部に小型の横位連続爪形文を多段に設け、爪形文間は浮線状で斜位短沈線を施す。体部は斜位RL	諸磯b式
C	1 a	住居	6	22	31	深鉢	中央部床面直上	口縁部	1/3	粗：石英・片岩	褐	良好	口縁部肥厚。多段の横位連続爪形文間をD字刺突文が埋める。以下連続爪形文と斜位短沈線による横位弧線文と渦巻状意匠を配す。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	7 a	22	31	深鉢	西部床面上4cm	頸部～体部	1/4	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	口縁部は2帯に面され横位弧線文を波状に配す。頸部は横位連続爪形文を多段に設け、体部は横位RLを施す。爪形文間は浮線状で斜位短沈線やD字状刺突文を加える	諸磯b式
C	1 a	住居	7 b	22	31	深鉢	北壁際床面直上	体部上半	破片	粗：石英・雲母・片岩	鈍い赤褐	良好	横位平行沈線上位に連続爪形文を施す。体部は横位RL	諸磯b式
C	1 a	住居	8	22	31	深鉢	埋没土中	頸部～体部上	1/2	粗：白色粒・片岩	鈍い赤褐	良好	屈曲部に横位連続爪形文を多段に設け、爪形文間は浮線状で斜位短沈線を施す。体部は横位RL	諸磯b式
C	1 a	住居	9	22	31	深鉢	中央部+西壁沿い床面上7cm	口縁～体部上	1/1	粗：白色粒・石英	暗赤灰	良好	口：25.3cm。素口縁で丸みを帯びたバケツ形を呈す。横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居	10	23	31	深鉢	中央部+西壁沿い床面上1.5cm	体部上半	2/3	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	横位連続爪形文3条で体部を面す。上位は弧線状意匠か。爪形文間は浮線状で斜位短沈線を施す。横位RL。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	11	23	31	深鉢	埋没土中	体部～底部	1/2	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い橙	良好	大型の深鉢。直線的に立ち上がる。横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居	12	23	31	深鉢	中央部床面上6cm	底部	1/3	粗：小礫・石英・片岩	橙	良好	大型の深鉢。横位RLを施す。下半部に煤付着	諸磯b式
C	1 a	住居	13	23	32	浅鉢	西部+南西隅床面上9cm	体部～底部	1/2	細：白色粒・石英・片岩	橙	良好	頸部屈曲する有縁浅鉢。口縁部は無文で外反し、体部は扁平で横位RLを施す。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	14	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石・片岩	鈍い灰黄褐	良好	幅狭のD字状爪形文を横位多段に設ける。以下斜位爪形文による菱状・弧状区画文か。爪形文間は矢羽状短沈線。円形竹管文も施す	諸磯b式

遺構一覧・遺物観察表

区	遺構番号	遺物番号	図番号	PL番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
C	1 a	住居	15	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	第29図2と同一。多段の横位連続爪形文。浮線状の爪形文間に斜位短沈線を施す。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	16	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	橙	良好	緩やかな波状線より降線が垂下する。横位連続爪形文を多段に設け、矢羽状短沈線をその間に埋める。口唇部・降線にも短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	17	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	橙	良好	口唇部に弧状隆線による小突起を付し長楕円状区画を配す。細かな横位連続爪形文を多段に設け、矢羽状短沈線を埋める。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	18	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・石英・片岩	鈍い橙	良好	17と同一個体	諸磯b式
C	1 a	住居	19	23	32	深鉢	西隅床面上13cm	口縁部	破片	粗：白色粒・片岩	橙	良好	口唇部に楕円状小突起と波状小突起を付す。横位連続爪形文以下弧線文を配す。爪形文間はD字状刺突文を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	20	23	32	深鉢	西隅床面上12cm	口縁部	破片	粗：石英・片岩	鈍い褐	良好	平線。口縁部に横位連続爪形文3条を設け、以下爪形文による弧線文を配す。爪形文間は浮線状でD字状刺突文を加える	諸磯b式
C	1 a	住居	21	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・雲母	鈍い赤褐	良好	口唇部に斜位短沈線を施す。口縁部に横位連続爪形文3条を設け、以下斜位・弧状意匠を配す。爪形文間はD字状刺突文	諸磯b式
C	1 a	住居	22	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩	鈍い褐	良好	富士山形の波頂部。薄手で幅狭の連続爪形文を施し、爪形文間を短沈線が埋める。円孔は竹管状工具によるものか。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	23	23	32	深鉢	中央やや西寄り床面上7cm	口縁部	破片	粗：白色粒・片岩・輝石	鈍い褐	良好	幅狭の連続爪形文を多段に設ける。浮線状の爪形文間は斜位短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	24	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	明赤褐	良好	口縁部に横位連続爪形文2条を設け、斜位爪形文による弧線状意匠を配す	諸磯b式
C	1 a	住居	25	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒多	鈍い赤褐	良好	口縁部に横位平行沈線を多段に設ける。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	26	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	口縁部は幅狭の連続爪形文と平行沈線を多段に配し以下縦位平行沈線、弧状沈線を配す。乱雑な施文	諸磯b式
C	1 a	住居	27	23	32	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・石英	灰褐	良好	口縁部と頸部屈曲部に横位内皮沈線を設け、斜位沈線を充填する。内面横位研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	28	24	32	深鉢	北西壁際十南西周溝内床面上3cm	体部～底部	1/5	粗：白色粒・石英・片岩	赤褐	良好	底：10.0cm。横位連続爪形文3条で体部を画す。上位には爪形文による弧線状意匠。爪形文間は斜位短沈線を乱雑に施す。体部は横位R L。底面撫でにより平滑	諸磯b式
C	1 a	住居	29	24	32	深鉢	14・埋没土中・14坑	頸部～体上	破片	粗：石英多・片岩	橙	やや軟	横位多段連続爪形文と浮線状部位に斜位短沈線を加える。体部は横位R L施文後横位短沈線を乱雑に施す	諸磯b式
C	1 a	住居	31	24	32	深鉢	埋没土中	頸部～体上	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	横位多段連続爪形文と浮線状部位短沈線を施す。体部は横位R L結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居	32	24	32	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い赤褐	良好	横位連続爪形文で体部を画す。爪形文間は浮線状で一部矢羽状短沈線を加える。体部は横位R L	諸磯b式
C	1 a	住居	33	24	32	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英多・雲母	鈍い赤褐	良好	幅狭の横位連続爪形文を配す。体部は横位R L結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居	34	24	32	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：小礫・片岩・輝石	橙	良好	横位連続爪形文による分帯。弧線文による横位波状文を配す。中に縦位連続爪形文を埋める。爪形文間は斜位短沈線。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	35	24	32	深鉢	中央部やや西寄り床面上10cm	頸部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い赤褐	良好	横位連続爪形文を多段に配す。一部弧線状となる	諸磯b式
C	1 a	住居	36	24	32	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒・輝石	灰黄褐	良好	幅広い連続爪形文と斜位短沈線による弧線状意匠。横位波状文か。円形竹管文を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	37	24	32	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い赤褐	良好	連続爪形文による渦巻文。爪形文間は浮線状で斜位短沈線を加える	諸磯b式
C	1 a	住居	38	25	32	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒	灰褐	良好	横位連続爪形文で体部を画す。上位には爪形文による弧線状意匠や渦巻文を配す。爪形文間は浮線状で斜位短沈線を施し、意匠文中位などに円形竹管文を加える	諸磯b式
C	1 a	住居	39	25	32	深鉢	中央部床面上4cm	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い橙	良好	幅広い連続爪形文による菱状・弧状意匠。矢羽状短沈線・円形竹管文を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	40	25	32	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒	鈍い褐	良好	横位多段連続爪形文を設け、上位に爪形文による弧線状意匠を配す。円形竹管文も加える。浮線状部位には矢羽状短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	41	25	32	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒・石英	黒褐	良好	幅広い横位連続爪形文による分帯。弧線状意匠や三角区画を配す。円形竹管文を中に加える	諸磯b式
C	1 a	住居	42	25	33	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い褐	良好	連続爪形文と浮線状部位に斜位短沈線を加え、渦巻文を配す	諸磯b式
C	1 a	住居	43	25	33	深鉢	埋没土中	頸部	破片	細：白色粒・輝石	橙	良好	横位連続爪形文以下に菱状区画や渦巻状意匠が配される。浮線状部位に斜位短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	44	25	33	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：白色粒多・石英・片岩	鈍い赤褐	良好	連続爪形文による弧線状・半渦巻状意匠。施文はやや浅い	諸磯b式
C	1 a	住居	45	25	33	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英	赤褐	良好	幅広い連続爪形文による横位弧線文と菱状区画か。斜位短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	46	25	33	深鉢	埋没土中	頸部	破片	細：白色粒・石英	赤褐	良好	連続爪形文による横位波状文。中に縦位爪形文を埋める	諸磯b式
C	1 a	住居	47	25	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩粒	鈍い赤褐	良好	連続爪形文による渦巻文。爪形文間の浮線状効果が顕著。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居	48	25	33	深鉢	埋没土中	口縁部下	破片	粗：白色粒	鈍い褐	良好	横位多段連続爪形文を設け、以下弧線状意匠を配す。浮線状部位は顕著	諸磯b式
C	1 a	住居	49	25	33	深鉢	西部床面上7cm	頸部	破片	粗：石英・片岩	暗褐	良好	横位多段連続爪形文を施す。浮線状部位には斜位短沈線の深い施文	諸磯b式
C	1 a	住居	50	25	33	深鉢	埋没土中+13坑埋没土中	頸部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	横位連続爪形文を多段に設ける。爪形文間の浮線状効果は顕著で矢羽状短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	51	25	33	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	やや幅広い横位連続爪形文を多段に配す。爪形文間は浮線状となす	諸磯b式
C	1 a	住居	52	25	33	深鉢	中央部床面上7cm	頸部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	幅広い連続爪形文多段施文。浮線状部位には矢羽状短沈線を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	53	25	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	赤褐	良好	幅広い平行沈線施文後連続爪形文を重ねる。平行沈線間はD字状刺突文を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	54	25	33	深鉢	中央部やや西寄り床面上3cm	体部	破片	細：白色粒・輝石	橙	やや軟	平行沈線と連続爪形文による弧線状意匠。器面磨減	諸磯b式
C	1 a	住居	55	25	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	灰黄褐	良好	幅広い横位連続爪形文以下、爪形文による弧線意匠を配す	諸磯b式
C	1 a	住居	56	25	33	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：石英・片岩	赤褐	良好	頸部下半の横位多段連続爪形文。上半には斜位爪形文を施す	諸磯b式
C	1 a	住居	57	25	33	深鉢	西部床面上8cm	頸部	破片	粗：石英・片岩・輝石	明赤褐	良好	横位連続爪形文多段施文。斜位短沈線を埋める	諸磯b式
C	1 a	住居	58	25	33	深鉢	西部床面上11cm	頸部	破片	粗：石英・片岩	明赤褐	良好	57と同一か。横位多段連続爪形文を配す。地文に無節Rを施す	諸磯b式
C	1 a	住居	59	25	33	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	細：白色粒・輝石	鈍い橙	良好	口縁部に横位浮線文3条を設け、小突起状に縦位浮線文を口唇部に付す。浮線には刻みを付す	諸磯b式
C	1 a	住居	60	25	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	鈍い赤褐	良好	横位浮線文。斜位短沈線を刻み状に施す	諸磯b式
C	1 a	住居	61	26	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・雲母	橙	良好	横位浮線文に刻みを施す。体部は横位R L	諸磯b式
C	1 a	住居	62	26	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	橙	良好	横位浮線文を付す。横位R Lを浮線文上に施文する	諸磯b式
C	1 a	住居	63	26	33	深鉢	埋没土中	口縁部	1/5	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	小波状突起を付す。以下結束L R・R Lによる横位羽状縄文構成が覆う	諸磯b式
C	1 a	住居	64 a b	26	33	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英	灰褐	良好	刻みを付す横位降線を設け、体部は結束L R・R Lによる横位羽状縄文構成	諸磯b式
C	1 a	住居	64 c	26	33	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・輝石	灰褐色	良好	横位降線2条を設け、体部は横位R Lを施し、降線上にまで及ぶ	諸磯b式

第7表 米山遺跡土器属性表

区	遺構番号	遺物番号	図番号	P.L.番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等
C	1 a	住居 65	26	33	深鉢	西隅床面上12cm	口縁・体部	破片	粗：白色粒・石英	明赤褐	やや軟	素口縁でノケツ状を呈する。横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 66	26	33	深鉢	西隅床面上15cm	体部中位	破片	粗：白色粒・石英	赤褐	良好	内湾する体部。横位RL結節部施文・内外面煤付着	諸磯b式
C	1 a	住居 67	26	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い褐	良好	横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 68	26	33	深鉢	埋没土中+14坑埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い褐	良好	横位細縄文RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 69	26	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い橙	良好	横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 70	26	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒多	赤褐	良好	器面凹凸有り。横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 71	26	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い褐	やや軟	横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 72	26	33	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・雲母	橙	やや軟	口唇部に刻みを付す。以下横位・斜位RLが覆う	諸磯b式
C	1 a	住居 73	27	33	深鉢	埋没土中	体部中位	破片	粗：白色粒・輝石・片岩	明赤褐	良好	横位RLが覆う	諸磯b式
C	1 a	住居 74	27	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	明赤褐色	良好	横位・斜位RLが覆う。内面煤付着	諸磯b式
C	1 a	住居 75	27	33	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 76	27	34	深鉢	埋没土中	体部下位	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	斜位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 77	27	34	深鉢	埋没土中	体部下位	破片	粗：白色粒・片岩	明赤褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 78	27	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い黄褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 79	27	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	鈍い赤褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 80	27	34	深鉢	西部床面直上	頸部～体中	破片	粗：小礫・片岩・輝石	明褐	良好	横位多段連続爪形文と斜位短沈線を施す。体部は横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 80	27	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	鈍い赤褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 81	27	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維?	鈍い赤褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 82	27	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い黄褐	良好	横位・斜位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 83	27	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・片岩	橙	やや軟	無節R横位施文。器面磨減	諸磯b式
C	1 a	住居 84	27	34	深鉢	埋没土中	体部下位	破片	粗：白色粒・石英	鈍い褐	良好	横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 85	27	34	深鉢	埋没土中	底部	破片	細：石英	鈍い赤褐	良好	開き気味の体部下位。横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 86	27	34	深鉢	埋没土中	底部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	やや薄手の器厚。横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 87	27	34	深鉢	中央部床面直上	底部	2/3	粗：白色粒多	鈍い赤褐	良好	底：11.4cm。大型の深鉢。直線的に立ち上がる。体部は横位RL結節部施文	諸磯b式
C	1 a	住居 88	27	34	浅鉢	中央や西寄り床面上5cm	口縁部	破片	細：白色粒	橙	良好	口縁部内湾。頸部屈曲強く内稜顕著。内外面研磨、赤彩痕残る	諸磯b式
C	1 a	住居 89	27	34	浅鉢	中央部床面上4cm	口縁部	破片	粗：白色粒・片岩	橙	良好	口縁部内湾。頸部屈曲。無文で外面横位研磨を施す	諸磯b式
C	1 a	住居 90	27	34	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	口縁部内湾。無文で外面横位研磨を施す	諸磯b式
C	1 a	住居 90	27	34	浅鉢	埋没土中	底部	破片	粗：石英・雲母	黒褐	良好	強く開く体部下位。横位RLを施す。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居 91	27	34	浅鉢	埋没土中	口縁～頸部	破片	粗：白色粒	赤褐	良好	頸部屈曲する有稜浅鉢。口縁部は無文で外反し、体部は横位RLか。内外面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居 92	27	34	浅鉢	埋没土中	頸部～体上	破片	細：石英・片岩粒	鈍い橙	良好	内稜顕著。横位RLが覆う。内面研磨	諸磯b式
C	1 a	住居 93	27	34	浅鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・輝石多	鈍い橙	良好	緩やかな体部屈曲部。横位RLを施す。内面丁寧な研磨を施す	諸磯b式
C	1 a	住居 94	27	34	浅鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	橙	良好	頸部屈曲は緩やか。体部は横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 95	27	34	浅鉢	埋没土中	体部中位	破片	粗：石英・輝石	鈍い橙	良好	屈曲する有稜浅鉢。口縁部は無文で丁寧な研磨を加える。体部は横位RL	諸磯b式
C	1 a	住居 97	27	34	深鉢	南西部床面上2cm	底部	破片	細：石英・片岩・輝石	鈍い黄橙	良好	あるいは鉢か。小型器種。横位RLを施す	諸磯b式
C	1 a	住居 98	28	34	鉢	中央部床面直上	体部上半	破片	粗：小礫・片岩・輝石	浅黄褐	良好	幅狭の横位連続爪形文を間隔を設けて多段に施す。体部は横位RL。内面平滑	諸磯b式
C	1 a	住居 99	28	34	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	横位平行沈線と横位波状文を多段に配す	諸磯a式
C	1 a	住居 100	28	34	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・輝石	橙	良好	器厚薄手。平行沈線による横位波状文以下横位RL結節部施文	諸磯a式
C	1 a	住居 101	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒	橙	良好	口縁部に横位平行沈線を設け、縦位弧線文を配す	諸磯b式?
C	1 a	住居 102	28	34	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	横位平行沈線上位に対向する斜位沈線を配す	諸磯b式?
C	1 a	住居 103	28	34	粘土塊	埋没土中	?	破片	細：白色粒・石英	橙	良好	指状の孔を見る。周縁にも凹凸多い	前期後葉?
C	1 a	住居 104	28	34	ミニチュア	埋没土中	体部～底部	破片	細：白色粒	褐	良好	深鉢ミニチュアか。細身で縦位無で施される	前期後葉
C	1 a	住居 105	28	34	ミニチュア	埋没土中	口縁底部	完形	粗：白色粒・石英	黒	良好	口3.4cm。浅鉢ミニチュアか。外面指頭痕明瞭。内面無で	前期後葉
C	1 a	住居 106	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石・片岩	鈍い赤褐	良好	口縁部横位山形、体部は縦位楕円型文が施される	早期
C	1 a	住居 107	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・繊維	鈍い橙	良好	波状縁。波頂部に小突起。口唇部に瘤状小突起を連ねる。口縁部は横位コンパス文。地文は付加条1種RL+L2条。内面研磨	関山II式
C	1 a	住居 108	28	34	深鉢	埋没土中	頸部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い赤褐	良好	外反部に横位コンパス文を設け、地文は付加条1種RL+L2条か。内面研磨	関山II式
C	1 a	住居 109	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	口唇部丸頭状。口縁部は緩やかに内湾する。組紐を施す	関山II式
C	1 a	住居 110	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石・繊維	鈍い橙	良好	内皮平行沈線を横位に設け以下平行沈線による横位縦縄文を配す。地文は組紐横位施文	関山II式
C	1 a	住居 111	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄褐	良好	外反する体部上半か。組紐施文	関山II式
C	1 a	住居 112	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	明黄褐	良好	組紐施文	関山II式
C	1 a	住居 113	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・繊維	赤褐	良好	口唇部外反。0段多条LとRによる縦位羽状縄文構成。菱形状構成か	黒浜式
C	1 a	住居 114	28	34	深鉢	18	口縁部	破片	粗：白色粒・繊維	黄橙	良好	口唇部角頭状。無節L横位施文	黒浜式
C	1 a	住居 115	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・繊維	褐	良好	横位RLを施す	黒浜式
C	1 a	住居 116	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	橙	良好	斜位RLを施す	黒浜式
C	1 a	住居 117	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	鈍い黄橙	良好	横位RLと無節Lによる横位羽状縄文構成	黒浜式
C	1 a	住居 118	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	0段多条横位LとRの菱形状構成	黒浜式
C	1 a	住居 119	28	34	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	無節L斜位施文	黒浜式
C	1 a	住居 120	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・繊維	明黄褐	良好	口縁部に刺突文列による区画文構成。	神/木式?
C	1 a	住居 121	28	34	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	橙	良好	緩やかな波状縁。横位刺突文列を多段に施す	黒浜式古
C	1 b	住居 1	29	35	浅鉢	西壁際段縁床面直上	口縁～底部	3/4	粗：白色粒・石英・片岩粒	黄褐色	良好	口28.0cm 底7.0cm 高13.5cm。体部で屈折する有稜の浅鉢。内稜も顕著。口唇部に横位8字状突起を4単位配す。口縁部は小型の連続爪形文を2条設け、以下を無文とする。爪形文間には縦線状で細かな斜位短沈線を施す。体部は横位RL	諸磯b式
C	1 b	住居 2	29	35	深鉢	北西隅床面上6cm	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い赤褐	良好	緩やかな波状縁。横位連続爪形文を多段に設け、浮線状の爪形文間に斜位短沈線を施す。破片下端に内孔を見る。内面研磨	諸磯b式
C	2	住居 1	32	35	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	口縁部横位隆線で画し、沈線による格子目状意匠を配す。体部は横位LとRによる縦位縄文構成	黒浜式併行
C	2	住居 2	32	35	深鉢	住居内P5/埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・繊維	橙	良好	口縁部は僅かに有段状。横位LとRによる縦位縄文構成が覆う	黒浜式

遺構一覧・遺物観察表

出土遺構		遺物番号	図番号	P.L番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
区	遺構番号													
C	2	住居	3	32	35	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・繊維	明黄褐	良好	口唇部尖る。口縁部に沈線による大柄の格子目文を配し、以下縦位沈線を施す	黒浜式併行
C	2	住居	4	32	35	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	明黄褐	良好	口縁部外反。L RとR Lによる結節羽状縄文構成	黒浜式
C	2	住居	5	32	35	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・繊維	鈍い黄褐	良好	口唇部尖り、口縁部は内湾する。横位L Rを施す	黒浜式
C	2	住居	6	32	35	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	黄褐	良好	横位R LとL Rによる羽状縄文構成	黒浜式
C	2	住居	7	32	35	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	褐	良好	横位R LとL Rによる羽状縄文構成	黒浜式
C	2	住居	8	32	35	深鉢	北壁際床面上2cm	体部	破片	細：石英・繊維	鈍い黄橙	良好	L RとR Lによる横位羽状縄文構成。撫でが加わる追加整形施文か	黒浜式
C	2	住居	9	32	35	深鉢	北西壁際床面上	底部	1/2	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	底：7.5cm。高台付き底部。体部下半は内湾する。無節Lを施す	黒浜式
C	2	住居	10	32	35	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	明黄褐	良好	口縁部に大柄のコンパズ文。体部は横位細紐施文か	関山II式
C	2	住居	11	32	35	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	褐	良好	横位内皮沈線を設け上位に重弧状意匠。地文は横位細紐施文	関山II式
C	2	住居	12	32	35	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・繊維	鈍い赤褐	良好	横位細紐施文	関山II式
C	2	住居	13	32	35	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	褐	良好	内皮連続爪形文を横位多段に設け、斜位短沈線が沿う	諸磯b式
C	2	住居	14	32	35	深鉢	埋没土中	口縁～体部	破片	粗：白色粒・輝石	明黄褐色	良好	著しい内湾口縁部。耳状貼付、棒状貼付文、ボタン貼付文を付す。地文は横位・斜位平行沈線。	諸磯c式
C	3	住居	1	33	36	深鉢	南西壁際床面上6cm	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	橙	良好	体部下半か。横位L Rを施す	黒浜式
C	3	住居	2	33	36	深鉢	西部床面上2cm	体部	破片	細：白色粒・輝石・繊維	明褐	良好	横位R LとL Rによる羽状縄文構成	黒浜式
C	3	住居	3	33	36	深鉢	中央やや北寄り床面上	体部	破片	粗：石英・片岩・繊維	鈍い黄橙	良好	斜位沈線による縦位矢羽状構成。地文は無節R横位施文	黒浜式
C	5	住居	1	37	36	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・片岩・繊維	橙	良好	横位細紐施文	関山II式
C	5	住居	2	37	36	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	双波状口縁。4条一組の平行沈線による弧線文やコンパズ文を施す。地文は細紐か	関山II式
C	5	住居	3	37	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	体部各裂部の横位コンパズ文。地文は横位細紐	関山II式
C	5	住居	4	37	36	深鉢	中央部床面上30cm	体部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い橙	良好	横位のコンパズ文。地文は付加状1種R L + L 2条とL R + R 2条による羽状縄文	関山b式
C	5	住居	5	37	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・繊維	鈍い橙	良好	厚手の器厚を呈す。横位細紐を施す	関山II式
C	5	住居	6	37	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・繊維	橙	良好	横位細紐施文	関山II式
C	5	住居	7	37	36	深鉢	埋没土中	底部	1/2	細：白色粒・繊維	橙	良好	底：8.8cm。上げ底。下部にコンパズ文。地文は細紐を施す。外底面丁寧な研磨。内面煤付着	関山II式
C	5	住居	8	37	36	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・輝石・繊維	暗褐	良好	口縁部僅かに内湾。無節LとRによる縦位羽状縄文構成	黒浜式
C	5	住居	9	37	36	深鉢	南東壁際床面上	体部	破片	粗：石英・片岩・繊維	明褐	良好	横位L RとR Lによる菱形状構成	黒浜式
C	5	住居	10	37	36	深鉢	中央部床面上27cm	体部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い褐	良好	横位L RとR Lによる羽状縄文構成	黒浜式
C	5	住居	11	37	36	深鉢	中央部床面上30cm	体部	破片	粗：白色粒・輝石・繊維	明褐	良好	付加条1種R L + R横位施文	黒浜式
C	5	住居	12	37	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・繊維	橙	良好	横位L Rを施す。撫でが加わる追加整形施文か	黒浜式
C	1	土坑	1	39	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・繊維	橙	良好	薄手の器厚。横位L RとR Lの羽状縄文構成	黒浜式
C	1	土坑	2	39	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	体部下半か。無節Rを横位に施す	諸磯b式
C	1	土坑	3	39	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	貝殻腹縁による連続刺突文	興津式?
C	2	土坑	1	39	36	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い赤褐	良好	横位平行沈線群を配す。地文は無節L	諸磯b式
C	2	土坑	2	39	36	深鉢	埋没土中	底部	1/4	粗：白色粒多、石英	鈍い赤褐	良好	結束R L・L Rによる横位羽状縄文構成。内面研磨	諸磯b式
C	3	土坑	1	39	37	深鉢	中央部底面上23cm	体部上半	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い橙	良好	幅広い内皮平行沈線を横位に設け、上位には斜位平行沈線、下位は横位L L。結節部を見る	諸磯b式
C	3	土坑	2	39	37	深鉢	中央部底面上17cm	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い橙	良好	結節R Lを横位に施す。器面磨滅	諸磯b式
C	3	土坑	3	39	37	深鉢	北西壁際床面上11cm	底部	1/1	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	非対称な器形。無節を施す	諸磯b式
C	4	土坑	1	39	37	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	薄手で素口縁を呈する。開きは強い。無文	諸磯a式
C	5	土坑	1	39	37	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	内屈する口縁部。横位平行沈線群を施す。地文は横位R L	諸磯c式
C	5	土坑	2	39	37	深鉢	西部底面上4cm	体部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	内皮平行沈線群を対向斜位に施す	諸磯c式
C	6	土坑	1	39	37	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い黄橙	ややく	内屈する口縁部。異種粘土で横位沈線文を設ける。地文は無節横位施文	諸磯b式
C	6	土坑	2	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い黄橙	良好	縦位平行沈線と斜位平行沈線による対向意匠	諸磯c式
C	6	土坑	3	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・片岩粒	橙	良好	連続爪形文と斜位短沈線を横位に設け、連続爪形文による菱形状区画文が配される。内面研磨	諸磯b式
C	8	土坑	1	39	37	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・輝石	鈍い黄橙	良好	口縁部内湾し、中位が凹む円形貼付文を付し、地文に横位R Lを施す	諸磯b式
C	8	土坑	2	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	幅広い平行沈線を乱雑な弧状に施す	諸磯b式
C	8	土坑	3	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・白色粒	橙	良好	横位・斜位L Rを施す	諸磯a式
C	12	土坑	1	39	37	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩・輝石	鈍い橙	良好	体部上半で内湾。刻みを浮すための浮線文を横位に設け、内皮沈線を倒縁とする。横位L Rを地文とする	諸磯b式
C	12	土坑	2	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	暗褐	良好	外反する体部。破片上端は浮線文の痕跡か。横位R Lを施す	諸磯b式
C	12	土坑	3	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い橙	良好	横位平行沈線施文後連続爪形文を施す。以下地文横位L R	諸磯b式
C	12	土坑	4	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	横位平行沈線群を多段に施す	諸磯b式
C	12	土坑	5	39	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い黄橙	良好	幅広い横位平行沈線群を多段に施す	諸磯b式
C	13	土坑	1	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	鈍い黄橙	良好	環状L Rを横位多段に施す	関山I式
C	13	土坑	2	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	灰褐	良好	前々段反戻R L L横位施文か	関山I式
C	13	土坑	3	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	橙	良好	無節L横位・斜位施文	黒浜式
C	13	土坑	4	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・片岩粒	明赤褐	良好	横位L Rを施す	諸磯a式
C	13	土坑	5	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	明赤褐	良好	横位平行沈線間に横位波状文を施す	諸磯a式
C	13	土坑	6	40	37	鉢?	埋没土中	体部	破片	粗：石英・白色粒	明赤褐	良好	口唇部尖り、不整形な口縁部。体部端は有段状で小型の連続爪形文を施す。体部は爪形文と斜位短沈線による弧状意匠か	諸磯b式
C	14	土坑	1	40	37	浅鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・輝石	明赤褐	良好	体部上半で屈曲する。上位は丁寧な研磨、体部は横位R Lを施す。内面研磨	諸磯b式
C	14	土坑	2	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	鈍い赤褐	良好	横位連続爪形文を施す。地文は無節L横位施文	諸磯b式
C	14	土坑	3	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	直前段反戻R L L横位施文	諸磯b式
C	14	土坑	4	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	黒褐	良好	幅広い平行沈線による弧状意匠施文後連続爪形文を加える	諸磯b式
C	3	ピット	1	40	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・繊維	明赤褐	良好	沈線による大柄の格子目文を配し、以下縦位沈線を施す。C区2号住居3と同一個体か	黒浜式併行
D	1	住居	1	41	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・繊維	鈍い赤褐	良好	0段多条L R横位施文	黒浜式
D	1	住居	2	41	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・繊維	橙	良好	無節LとRによる横位羽状縄文構成か。器面磨滅	黒浜式
D	1	住居	3	41	37	深鉢	P 2埋没土中	体部	破片	粗：石英・繊維	鈍い橙	良好	L Rと無節Rによる横位羽状縄文構成	黒浜式
D	1	住居	4	41	37	深鉢	P 2埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	褐	良好	無節L横位施文	諸磯b式
D	1	住居	5	41	37	深鉢	P 1埋没土中	頸部	破片	粗：石英・雲母	褐灰	良好	隆線による口縁部区画文。倒縁は単列の結節沈線	阿玉台I b式
D	2	住居	1	43	37	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い赤褐	良好	薄手。横位L Rが覆う	諸磯a式
D	2	住居	2	43	37	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：雲母末・片岩	鈍い赤褐	良好	薄手の器厚を呈す。横位L Rが覆う	諸磯a式
D	2	住居	3	43	37	深鉢	P 5底面上37cm	体部	破片	粗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	縦位円形刺突文を施す。地文斜位L R	諸磯a式
D	2	住居	4	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	暗褐	良好	縦位円形刺突文と4条一組の平行沈線による肋骨文	諸磯a式
D	2	住居	5	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い褐	良好	器厚薄手。結節施文の横位L Rを施す	諸磯a式
D	2	住居	6	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	薄手の器厚呈す。結節施文横位L R。内面研磨	諸磯a式

第7表 米山遺跡土器属性表

出土遺構		遺物番号	図番号	P.L番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
D	2	住居	7	43	37	深鉢	東壁際床面直上	体部	破片	細：白色粒・輝石	褐	良好	器厚薄手。無筋L横位施文。結節部の施文を見る	諸磯a式
D	2	住居	8	43	37	深鉢	P5底面上40cm	体部	破片	粗：石英・片岩	明赤褐	良好	結節施文の横位L Rを施す	諸磯a式
D	2	住居	9	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	浅黄橙	良好	横位L R。器面磨滅。内外面煤付着	諸磯a式
D	2	住居	10	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	横位L Rを施す。薄手の器厚を呈す	諸磯a式
D	2	住居	11	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石・片岩	鈍い褐	良好	横位L Rを施す。薄手の器厚を呈す	諸磯a式
D	2	住居	12	43	37	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	橙	良好	無筋L横位施文か。器面磨滅	諸磯a式？
D	2	住居	13	43	37	鉢	南東部床面上3cm	口縁部	破片	細：石英・輝石	赤褐	良好	薄手の器厚を呈し、無文。内外面丁寧な研磨を施す	諸磯a式
D	2	住居	14	43	38	深鉢	南東部床面上2cm	底部	破片	粗：白色粒・輝石	橙	良好	体部下半は無文。凹凸ある器面。内面煤付着	諸磯a式？
D	2	住居	15	43	38	鉢	南東部床面直上	体部下半	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	内湾する体部下半。無文で内外面とも研磨	諸磯a式？
D	21	土坑	16	43	38	深鉢	P5底面上15cm	体部下半 ~底部	1/1	細：白色粒・石英・輝石	鈍い黄橙	良好	底：9.0cm。内湾気味に開く体部下半。横位・斜位L Rを施す。内外面に少量の煤付着。	諸磯a式
D	2	住居	17	43	38	浅鉢	埋没土中	底部？	1/1	細：白色粒・片岩粒	褐	良好	小径の突出底部。体部は薄手で強く開く	諸磯a式？
D	21	土坑	18	43	38	深鉢	北東部底面上28cm	体部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い褐	良好	上位に沈線と細線跡の痕跡を見る。0段多条L RとL Rの横位羽状縄文構成	花積下層式
D	2	住居	19	43	38	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・雲母多	暗褐	良好	平縁。口縁部に複列同時施文の幅狭結節沈線が沿う	阿玉台II式
D	2	住居	20	43	38	鉢	埋没土中	底部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	灰褐	良好	15と同一個体か。高台の剥落痕跡を見る	諸磯a式？
D	3	住居	1	44	38	深鉢	南西壁際床面上2cm	体部上半	破片	粗：白色粒・片岩粒	鈍い赤褐	良好	縦位隆線を設け、体部は重円文、垂下沈線が施される。縄文はL R縦位充墳施文	中期前葉
D	3	住居	2	44	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	縦位結節L Rを施す。結節部の強調か	中期前葉？
D	3	住居	3	44	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	橙	良好	横位L Rを施す	中期前葉？
D	3	住居	4	44	38	深鉢	炉体土器	体部~底部	1/1	粗：石英・片岩大	鈍い赤褐	良好	底：16.8cm。大型の深鉢。直線的に立ち上がる。無文	中期前葉？
D	3	住居	5	44	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・繊維	橙	良好	0段多条横位L RとL Rの羽状縄文構成	黒尻式
D	3	住居	6	44	38	深鉢	ピット埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	明赤褐	良好	波状縁頂部。無文ながら破片下端に隆線貼付あるいは頸部屈曲の痕跡有り	諸磯b式？
D	2	土坑	1	48	38	甕	西半部底面上5cm	口縁~体部	1/2	粗：白色粒・輝石	鈍い赤褐	良好	口：27.0cm。折り返し口縁部に横位波状沈線。肩部より体部中位は沈線で画された変形の工字文。おそらく4単位か。施文部はL R。磨消部は撫で及び研磨。体部下半は斜位条痕を施す。内面は稀な横位研磨。体部中に煤付着	弥生中前期半
D	2	土坑	2	48	38	甕	中央部+南壁際底面上4cm	頸部~体部	破片	細：白色粒・石英	鈍い褐	良好	頸部は横位磨消帯と刺突文、横位沈線群で画され、2重沈線による弧文を横位に配す。縄文は横位L R。肩部は横位弧状沈線による分帯か。上位に縦位・横位沈線、中位に刺突文を施す。縄文は横位L R	弥生中前期半
D	2	土坑	3	48	38	甕	中央やや北寄り底面上8cm	口縁部	破片	細：白色粒	橙	良好	口縁部に1条の横位沈線を設け横位L Rを充墳する	弥生中前期半
D	2	土坑	4	48	38	小型甕	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	鈍い黄橙	良好	強く内湾する体部上半。横位沈線2条を施す。	弥生中前期半
D	2	土坑	5	48	38	甕か甕	埋没土中	体部上半	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	2条の細沈線で画された磨消部は円文か波状文と推定される。縄文はL R充墳施文。磨消部は丁寧な研磨を施す。	弥生中前期半
D	2	土坑	6	48	38	甕か甕	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	半截竹管状工具による、浅い縦位条痕を施す。内面横位撫で	弥生中前期半
D	2	土坑	7	48	38	甕か甕	南東壁際底面上8cm	体部中位	破片	細：白色粒・輝石	鈍い黄褐	良好	幅広い半截竹管状工具による横位条痕を施す。外面煤付着	弥生中前期半
D	2	土坑	8	48	38	甕か甕	中央部底面上3cm	体部~底部	1/4	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い黄褐	良好	底：7.4cm。2点からなる。薄手で斜位・縦位条痕を施す。底面に網代痕。体部中位外面に煤付着。内面強い撫で調整	弥生中前期半
D	3	土坑	1	49	38	深鉢	1	体部	破片	細：白色粒・輝石	黄褐	良好	円形刺突文を縦位に配し、横位平行沈線と波状文を施す。地文は横位L R	諸磯a式
D	3	土坑	2	49	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・片岩少	鈍い褐	良好	縦位平行沈線に円形刺突文を重ねる。横位対弧状隆線を連接する肋骨文	諸磯a式
D	3	土坑	3	49	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	暗褐	良好	内皮平行沈線横位・斜位施文	諸磯b式
D	3	土坑	4	49	38	深鉢	4	体部	破片	粗：石英・片岩	明褐	良好	幅広い平行沈線が垂下し、L R縦位結節部が加わる	五領ヶ台II式・中期前葉
D	3	土坑	5	49	38	深鉢	埋没土中	底部	1/3	粗：白色粒・石英少	明黄褐	良好	薄手の器厚を呈す体部下半。凹凸ある器面。底面網代痕あり	前期末葉~中期初葉
D	3	土坑	6	49	38	深鉢	4	体部	破片	粗：白色粒・石英・雲母多	明黄褐	良好	垂下沈線2条の両脇に三角陰刻文を刻む。斜位沈線も施される。地文は縦位L R	五領ヶ台II式
D	3	土坑	7	49	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・輝石	明黄褐	良好	細沈線を斜位に施す。乱雑な施文	弥生中期か？
D	4	土坑	1	49	38	深鉢	中央部底面上13cm	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・雲母多	明黄褐	良好	3点。横位・縦位沈線に三角陰刻文を配す。沈線によるV字・Y字状意匠も配す。地文は縦位L R	五領ヶ台II式・中期前葉
D	4	土坑	2	49	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	褐	良好	横位L R。外面煤付着	諸磯a式
D	4	土坑	3	49	38	深鉢	中央部底面上20cm	体部	破片	細：白色粒・石英	明褐	良好	横位L Rを施す	諸磯a式
D	4	土坑	4	49	38	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	鈍い橙	良好	縦位平行沈線に円形刺突文を重ね、幅広い斜位連続爪形文、平行沈線を施す。肋骨文	諸磯a式
D	5	土坑	1	49	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	横位波状沈線群を多段に配す	諸磯a式
D	5	土坑	2	49	39	深鉢	南西部大型礫上底面上10cm	体部	破片	粗：白色粒・石英	褐	良好	縦位平行沈線に円形刺突文を重ねる。斜位平行沈線を加える肋骨文	諸磯a式
D	5	土坑	3	49	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い黄褐	良好	横位L Rを施す	諸磯a式
D	5	土坑	4	49	39	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩	褐	良好	内湾する波状縁頂部。平行沈線による渦巻文を配す。地文は無筋L横位施文	諸磯b式
D	7	土坑	1	49	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	明褐	良好	横位L Rを施す	諸磯b式
D	7	土坑	2	49	39	深鉢	埋没土中	体部下半	破片	細：石英・輝石	明黄褐	良好	横位L Rを施す。内面平滑	諸磯b式
D	8	土坑	1	49	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	横位L Rと付加条1種L R+?による羽状縄文構成	黒尻式
D	10	土坑	1	50	39	深鉢	南壁際+北西壁際底面上2cm	体部上半	1/4	細：白色粒	鈍い褐	良好	幅広い連続爪形文を多段に配し、斜位短沈線が矢羽状に沿う。浮線状の効果を示す。体部は横位L R、結節部施文	諸磯b式
D	10	土坑	2	50	39	深鉢	南西壁際底面上8cm	体部上半	破片	粗：石英・片岩多	橙	良好	横位平行沈線と波状文を上位に配し、体部は縦位円形刺突文を施す。地文は横位L R結節部施文	諸磯a式
D	10	土坑	3	50	39	深鉢	西壁際底面上3cm	底部	1/3	粗：石英・片岩多	橙	良好	大型の深鉢か。横位・斜位L Rを施す	諸磯b式
D	11	土坑	1	50	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・輝石	橙	良好	横位浮線文。矢羽状短沈線を加える	諸磯b式
D	12	土坑	1	50	39	深鉢	北西部底面上3cm	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い橙	良好	無筋L斜位施文	諸磯a式
D	12	土坑	2	50	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	良好	良好	円形貼付文を付す。地文は横位・斜位平行沈線	諸磯c式
D	12	土坑	3	50	39	深鉢	埋没土中	口頸部	破片	粗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	隆線による区画文か。側面は沈線、縦位短沈線を充墳する	加曾利E II式
D	13	土坑	1	50	39	深鉢	北西部底面上5cm	底部	破片	粗：石英多・輝石	明褐	良好	直立気味の体部下半。底面は平滑	中期前葉か
D	14	土坑	1	50	39	甕	埋没土中	口縁部	小片	細：白色粒・石英	灰褐	良好	薄手で口縁部に数条の横位沈線を設け、沈線間に横位L Rを施す。沈線施文は鋭利で、内外面丁寧な研磨を加える	弥生中前期半
D	14	土坑	2	50	39	甕か甕	北西壁際底面上15cm	体部上半	小片	細：白色粒・石英	暗褐	良好	横位沈線以下横位L Rを施す。沈線施文は鋭利。外面煤付着	弥生中前期半
D	14	土坑	3	50	39	甕？	埋没土中	体部	小片	細：白色粒・輝石	明赤褐	良好	半截竹管状工具による斜位条痕。煤付着	弥生中前期半
D	15	土坑	1	50	39	深鉢？	埋没土中	口縁~体部	1/4	細：白色粒・輝石	明褐	良好	口：12.3cm。折り返し口縁を呈し横位L R施文。体部はL Rを乱雑に施す。内面横位へら撫で。外面煤付着	弥生中前期半
D	15	土坑	2	50	39	浅鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	灰褐	良好	口縁部に横位L Rを施し、以下沈線で画された磨消山型文。磨消部と内面は丁寧な研磨を施す	弥生中前期半

遺構一覧・遺物観察表

出土遺構		遺物	図	P.L	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
区	遺構番号	番号	番号	番号										
D	15	土坑	3	50	39	鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	鈍い黄褐	良好	方形モチーフの磨蝕文。LR施文。口唇部にも施文	弥生中期前半
D	15	土坑	4	50	39	壺か甕	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	細く鋭くまばらな条痕文	弥生中期前半
D	16	土坑	1	50	39	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・石英・輝石	鈍い赤褐	良好	口縁部下に横位平行沈線を設ける。地文は無筋L斜位施文	諸磯b式
D	16	土坑	2	50	39	深鉢	南西部	体部	破片	粗：白色粒・輝石・片岩少	橙	良好	押圧を加えた横位鎖状隆帯上位に横位平行沈線群を施す。地文は横位RL	諸磯b式
D	16	土坑	3	50	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	明褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
D	16	土坑	4	50	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	褐	良好	横位RLを施す	諸磯b式
D	16	土坑	5	50	39	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	明赤褐	良好	縦位結節Lを施す	五領ヶ台II式・中期前葉
D	17	土坑	1	51	39	壺か甕	南西壁際底面上17cm	口縁部	小片	細：白色粒・石英	明赤褐	良好	薄手の器厚を呈し、口唇部尖る。折り返し状口縁	弥生中期前半
D	17	土坑	2	51	39	壺か甕	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い橙	良好	沈線で画された幅狭の縦文帯。横位Lを充填する	弥生中期前半
D	17	土坑	3	51	39	壺	埋没土中	頸部～体部	小片	粗：白色粒・石英・片岩	鈍い褐	良好	頸部に横位沈線を施す。施文は深い。体部は斜位沈線で画された区画内を刺突文が充填する	弥生中期前半
D	17	土坑	3	51	39	壺か甕	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英	明赤褐	良好	横位沈線以下波状沈線を施す。縦文は横位LRか。体部は斜位条痕	弥生中期前半
D	17	土坑	4	51	39	壺	西壁際底面上12cm	頸部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	上下に幅広い凹線を設け、横位沈線を埋める。内面器面磨滅著しい	弥生中期前半
D	17	土坑	5	51	39	壺か甕	中央部底面上10cm	体部上半	破片	粗：石英・片岩大・褐色粒	鈍い橙	良好	肩部に6条の横位沈線を設け、斜位沈線で画された区画内を縦位沈線を埋める	弥生中期前半
D	17	土坑	6	51	39	壺か甕	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩・褐色粒	鈍い橙	良好	横位沈線以下縦位沈線を充填する。区画文構成か	弥生中期前半
D	17	土坑	7	51	39	壺か甕	埋没土中	体部	破片	粗：石英	鈍い褐	良好		弥生中期前半
D	17	土坑	8	51	39	壺か甕	中央部底面直上	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い褐	良好	平行沈線状工具による浅い斜位条痕を施す	弥生中期前半
D	17	土坑	9	51	39	壺か甕	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩大・褐色粒	明黄褐	良好	4・5条単位の櫛歯状工具による横位条痕を密に施す	弥生中期前半
D	17	土坑	10	51	39	壺か甕	西壁際底面上13cm	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い橙	良好	浅い斜位条痕を施す。外面微量煤付着	弥生中期前半
D	17	土坑	11	51	39	壺か甕	南西壁際底面上17cm	底部	破片	粗：石英大・片岩大	橙	良好	やや粗雑な作り。横位削り調整を施す。底面に僅かに網代痕残る	弥生中期前半
D	17	土坑	12	51	39	壺か甕	中央部底面直上	体部	破片	粗：石英・片岩大・褐色粒	鈍い黄橙	良好	4・5条単位の櫛歯状工具による横位条痕。外面煤付着	弥生中期前半
D	19	土坑	1	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	褐	良好	横位RLを施す	諸磯a式
D	19	土坑	2	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	鈍い赤褐	良好	横位RLを施す	諸磯a式
D	19	土坑	3	51	40	深鉢	埋没土中	底部	小片	細：白色粒	鈍い褐	良好	結節横位RLを施す	諸磯a式
D	19	土坑	4	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母	鈍い褐	良好	幅広い内皮沈線を横位に設け、浅い沈線が垂下する。地文横位LR	中期前葉
D	20	土坑	1	51	40	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	口縁部強く内屈し、無文。屈曲部下に三角連続陰刻文を横位に配す	前期末葉
D	20	土坑	2	51	40	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	口縁部僅かに肥厚。平行沈線による縦位弧線文か	前期末葉
D	20	土坑	3	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	黒褐	良好	横位平行沈線群と波状文を施す	諸磯a式
D	20	土坑	4	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	鈍い褐	良好	内皮沈線による弧線文。地文は細かい格子目文	前期末葉
D	21	土坑	1	51	40	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	組紐横位施文。内面撫で調整により平滑	関山II式
D	21	土坑	2	51	40	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	波状縁。組紐横位施文	関山II式
D	21	土坑	3	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	鈍い褐	良好	平行沈線による大柄な横位コンパス文を配す。地文は組紐の横位施文。内面研磨。煤付着	関山II式
D	21	土坑	4	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い褐	良好	前段階合煎L(RL)横位施文	関山II式
D	21	土坑	5	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	鈍い黄橙	良好	0段多条RLとLRによる羽状縦文構成	黒浜式
D	21	土坑	6	51	40	深鉢	埋没土中	体部下半	破片	細：白色粒・繊維	鈍い褐	良好	厚手の器厚を呈す。横位平行沈線で画された間を斜位平行沈線による縦文が埋める	黒浜式
D	21	土坑	7	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	幅狭の連続爪形文3条を横位に設け、以下横位RLを施す。内面研磨。補修孔あり	諸磯a式
D	21	土坑	8	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い褐	良好	幅狭の内皮工具による横位平行沈線群	諸磯b式
D	21	土坑	9	51	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い黄橙	良好	縦位平行沈線群を施す。やや乱雑な施文	諸磯b式
D	22	土坑	1	51	40	浅鉢	埋没土中	頸部	破片	細：白色粒・石英・輝石	鈍い黄褐	良好	外反する頸部か。無文で内外面研磨	諸磯a式
D	23	土坑	1	52	40	深鉢	南西壁際底面上31cm	口縁部	破片	細：白色粒・片岩粒	鈍い赤褐	良好	幅狭の横位波状平行沈線2条と連続爪形文を口縁部に配し、体部は横位RLを施す。内面研磨	諸磯a式
D	23	土坑	2	52	40	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	細：白色粒・石英	褐	良好	横位RLを施す。1と同一個体か	諸磯a式
D	23	土坑	3	52	40	深鉢	東壁際底面上9cm	体部	破片	粗：片岩・輝石	灰褐	良好	横位・斜位RLを施す	諸磯a式
D	23	土坑	4	52	40	深鉢	南西壁際底面上37cm	体部	破片	粗：片岩・輝石	褐	良好	横位・斜位RLを施す	諸磯a式
D	23	土坑	5	52	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	褐	良好	横位・斜位RLを施す	諸磯a式
D	23	土坑	6	52	40	浅鉢	中央やや北西寄り底面上25cm	体部下半	1/2	粗：白色粒・輝石	明黄褐色	良好	底：12.2cm。強く開く体部下半。横位RLを施す。内面中位煤付着。内面撫で	諸磯a式
D	23	土坑	7	52	40	深鉢	東壁際底面上9cm	体部	破片	細：白色粒・輝石	明黄褐色	良好	内湾する体部器形。横位RLを施す。外面煤付着、内面縦位研磨を加える	諸磯a式
D	24	土坑	1	52	40	深鉢	中央部＋西部底面上24cm	口縁～体部	1/5	粗：白色粒・輝石	暗褐色	良好	口：(19.6cm)。鋸歯状口唇部。口縁部に幅狭連続爪形文3条を設け、以下縦位円形刺突文と弧状平行沈線による筋骨文を配す。円形刺突文施文前(左)に鋭い縦位沈線を施す。割り付け線か	諸磯a式
D	24	土坑	2	52	40	深鉢	埋没土中	口縁～底部	1/3	細：白色粒・輝石	灰黄褐	やや軟	口：13.3cm 底：5.8cm 高：(18.2)cm。小型の深鉢。横位RLが覆う。器面剥落多い	諸磯a式
D	24	土坑	3	52	40	深鉢	西部底面上25cm	口縁部	破片	細：白色粒・片岩粒	鈍い赤褐	良好	口縁部に幅狭の横位連続爪形文を3条設け、体部は横位LRを施す	諸磯a式
D	24	土坑	4	52	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	灰褐	良好	幅狭の平行沈線による横位縦文を配す。地文は横位RL	諸磯a式
D	24	土坑	5	52	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	横位RLとLRによる羽状縦文構成	諸磯a式
D	24	土坑	6	52	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	褐	良好	横位RLを施す	諸磯a式
D	24	土坑	7	52	40	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	赤褐	良好	横位LRを施す	諸磯a式
D	24	土坑	8	52	40	深鉢	西壁際底面上48cm	口～底部	完形	粗白色粒・石英・片岩少	鈍い黄橙	良好	口：15.6cm 底：8.0cm 高18.5cm。小型の深鉢。円形貼付文棒状貼付文。棒状貼付文は上半に偏る。地文は縦位矢羽状平行沈線を施す。外面上半煤付着	諸磯c式
E	1	住居	1	54	41	深鉢(注口)	埋没土中	注口部	破片	細：白色粒・繊維	明黄褐	良好	片口深鉢。組紐施文	関山II式
E	1	住居	2	54	41	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	明黄褐	良好	口唇部直下に半截竹管による横位コンパス文が配される。地文は横位LRか	関山II式
E	1	住居	3	54	41	深鉢	北隅床面上48cm	体部	破片	粗：石英・繊維	明赤褐	良好	幅狭の横位コンパス文。地文は組紐横位組紐施文	関山II式
E	1	住居	4	54	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	黒褐	良好	前段階合煎L(RL)とR(LR)による横位羽状縦文構成	関山II式
E	1	住居	5	54	41	深鉢	埋没土中	底部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	上げ底を呈す。LRとRLによる羽状縦文構成	黒浜式?
E	1	住居	6	54	41	深鉢	埋没土中	底部	破片	細：白色粒・繊維	鈍い黄橙	良好	上げ底を呈す。横位組紐施文。底面・内面は平滑	関山II式

第7表 米山遺跡土器属性表

出土遺構	遺物番号	図番号	P.L番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
E 1	住居	7	54	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い黄橙	良好	横位平行沈線を設ける。地文は無節L横位施文	諸磯b式
E 1	住居	8	54	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母	鈍い黄橙	良好	横位隆線以下に波状沈線を施す	阿玉台1b式
E 2	住居	1	54	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	鈍い黄橙	良好	多段の環状0段多条R.L横位施文	関山1式
E 2	住居	2	54	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：石英・石英・繊維	良好	良好	内皮平行沈線による弧状意匠。地文は組紐	関山II式
E 2	住居	3	54	41	深鉢	南壁際床面上32cm	底部	破片	細：白色粒・石英・繊維	明赤褐	良好	多段の環状0段多条R.L横位施文。0段多条R.Lとの羽状繩文構成か。底面に環状繩末端押圧による十字状意匠が施される	関山1式
E 2	住居	4	54	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	黒褐	良好	組紐	関山II式
E 1	土坑	1	58	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	暗褐	良好	斜位R.Lを施す	諸磯b式
E 1	土坑	2	58	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	鈍い褐	良好	連続凹形文による弧線状意匠	諸磯b式
E 1	土坑	3	58	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	黒褐	良好	対向する斜位平行沈線群。空白部に斜位沈線を埋める	諸磯c式
E 1	土坑	4	58	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母多	黒褐	良好	斜位沈線が施される。横位ヒダ状圧痕	阿玉台1b式
E 2	土坑	1	58	41	鉢	南東部底面上8cm	口縁部	破片	粗：石英・輝石・雲母末	褐	良好	口縁部内湾。無文で内縁は鋭い。内面煤付着	阿玉台1b式
E 2	土坑	2	58	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母末	明赤褐	良好	横位ヒダ状圧痕を設ける	阿玉台1b式
E 3	土坑	1	58	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	明赤褐	良好	幅狭の横位内皮沈線以下弧状沈線群を施す。空白部に三角陰刻文を刻む	前期末葉
E 4	土坑	1	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	黒褐	良好	内皮平行沈線による渦巻状意匠。地文は組紐施文	関山III式
E 4	土坑	2	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	黒褐	良好	横位コンパス文を配す。0段多条R.LとL.Rの羽状繩文構成。環状R.Lも施される	関山II式
E 4	土坑	3	59	41	深鉢	南西部底面上22cm	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	横位コンパス文を配す。地文は横位組紐施文	関山II式
E 4	土坑	4	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	横位内皮平行沈線以下、平行沈線による意匠文が配される。地文は組紐施文	関山II式
E 4	土坑	5	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・繊維	橙	良好	組紐横位施文	関山II式
E 4	土坑	6	59	41	深鉢	北半部+南西壁際底面直上	口縁・体部・底部	1/3	粗：石英・輝石・繊維	褐・黒褐	良好	口唇部凹凸あり。口縁部は僅かに外傾する。底部は上げ底。無節LとRによる羽状繩文構成。底面は施文。内面研磨	黒浜式
E 4	土坑	7	59	41	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・繊維	鈍い褐	良好	口唇部凹凸あり。無文	黒浜式
E 4	土坑	8	59	41	深鉢	南西部底面上24cm	体部	破片	粗：白色粒・石英・繊維	鈍い赤褐	良好	付加条1種R+R2条横位施文	黒浜式
E 4	土坑	9	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	鈍い赤褐	良好	無節斜位施文。横位撫でが加わる	黒浜式
E 4	土坑	10	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	鈍い赤褐	良好	横位隆線を設ける。他は無文	阿玉台1b式
E 4	土坑	11	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	横位隆線と半隆起状沈線による区画文構成。幅広連続凹形文に沿う	勝坂2式
E 5	土坑	1	59	41	深鉢	南壁際底面直上	口縁・体部・底部	破片	粗：石英大・雲母	赤褐色	良好	隆線による口縁部区画文。側線は単列の結節沈線。区画内は波状文を施す。体部は無文	阿玉台1b式
E 7	土坑	1	59	41	深鉢	北壁際底面上16cm	体部上半	破片	粗：石英・片岩	灰黄褐	良好	双環状突起より刻みを付す弧状隆線が派生する。側線は沈線。区画内に刺突文を加える	勝坂3式
E 7	土坑	2	59	41	深鉢	北東壁際底面上7cm	体部	破片	粗：石英・片岩	明赤褐	良好	刻みを付す2条隆線による渦巻状意匠か。側線は内皮沈線。隆線間は内皮沈線・蓮華文を埋める	勝坂3式
E 7	土坑	3	59	41	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	横位隆線以下垂下隆線と弧状隆線を配す。側線は沈線と蓮華文。三角連続刺突文も施される	勝坂3式
E 7	土坑	4	59	41	深鉢	南西部底面上10cm	体部	破片	粗：石英・片岩	黒褐	良好	垂下太隆線下端に双環状突起を配す。以下は無文か。側線は沈線及び蓮華文。環状突起上に内皮凹形文を施す	勝坂3式
E 7	土坑	5	59	41	浅鉢	西部底面上4cm	口縁部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	口縁部内面肥厚。無文	中期中葉
E 7	土坑	6	59	41	深鉢	南西部底面上12cm	体部	破片	粗：石英・雲母	灰褐	良好	弧状隆線による曲線文構成。側線2条沈線。空白部は刺突文を充填する	「新巻類型」
E 8	土坑	1	60	41	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	口縁部に三角連続陰刻文を配す	前期末葉
E 8	土坑	2	60	41	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	粗：白色粒・片岩・輝石	明黄褐	良好	無文の体部破片。薄手の器厚	諸磯b式か
E 9	土坑	1	60	41	深鉢	南西壁際底面上5cm	口縁部	破片	粗：白色粒	橙	良好	口縁部内湾部を内皮平行沈線2条で画し、斜位沈線を充填する	諸磯b式
E 9	土坑	2	60	41	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩	橙	良好	口縁部肥厚し、波状線を呈す。口唇部に刻み。内面丁寧な研磨を施す	中期中葉
E 9	土坑	3	60	41	深鉢	中央部底面上15cm	体部	破片	粗：石英・片岩多	明赤褐	やや軟	数条の垂下沈線より横位沈線が派生する区画文構成。横位連続三叉文を配す	勝坂1式
E 10	土坑	1	60	42	深鉢	北壁際底面上8cm	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	橙	良好	波状線。口唇部に刻みを付す。棒状貼付文と円形貼付文を付す。地文は横位平行沈線	諸磯c式
E 10	土坑	2	60	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：片岩粒・輝石	灰褐	良好	ヒダ状圧痕が設けられる	阿玉台1b式
E 10	土坑	3	60	42	深鉢	北壁際底面上8cm	底部	破片	粗：石英・片岩	明赤褐	良好	無文。器面剥落著しい	中期前葉か
E 11	土坑	1	60	42	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	細：白色粒・石英	褐	良好	幅広の横位沈線を多段に施文する	?
E 13	土坑	1	60	42	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	褐灰	良好	波状線波頂部。無節R横位施文	黒浜式
E 13	土坑	2	60	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	褐	良好	無節Lの末端を見る	諸磯b式
E 13	土坑	3	60	42	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い赤褐	良好	横位沈線以下弧状隆線と側線2条の沈線を施す	中期中葉
E 14	土坑	1	60	42	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い黄橙	良好	無節LとRの横位羽状繩文構成	諸磯b式
E 14	土坑	2	60	42	深鉢	埋没土中1層	底部	破片	粗：白色粒・石英・雲母末	橙	良好	結節部端部を見る。外器面は平滑。内面煤付着	諸磯b式
E 14	土坑	3	60	42	深鉢	埋没土中1層	底部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	張出底部。横位沈線を施す	諸磯c式
E 15	土坑	1	60	42	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	鈍い褐	良好	無節L斜位施文による横位の条を施す	諸磯b式
E 15	土坑	2	60	42	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒	鈍い黄橙	良好	無節L斜位施文による横位の条を施す	諸磯b式
E 15	土坑	3	60	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒	黒褐	良好	無節L斜位施文による横位の条を施す	諸磯b式
E 15	土坑	4	60	42	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	明赤褐	良好	無節L斜位施文による横位の条を施す	諸磯b式
E 15	土坑	5	60	42	深鉢	南東部底面上16cm	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	R.Lと無節Lによる横位羽状繩文構成	諸磯b式
E 15	土坑	6	60	42	深鉢	埋没土中1層	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	橙	良好	口縁部肥厚し、口唇部に平行沈線による刻み。横位平行沈線以下縦位・斜位平行沈線を施す	前期末葉?
E 15	土坑	7	60	42	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・片岩粒	鈍い橙	良好	小型の扇状突起か。非対象の可能性もある。隆線による口縁部区画文。単列の結節沈線を施す。頸部は構門状区画文か	阿玉台1b式
E 15	土坑	8	60	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	隆線による円形区画文か。刺突文を充填する	「焼町類型」
E 15	土坑	9	60	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い褐	良好	縦位沈線を施す	中期中葉
E 16	土坑	1	61	42	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	細：白色粒・石英・繊維	鈍い黄褐	良好	0段多条R.LとL.Rによる羽状繩文構成	関山II式
E 16	土坑	2	61	42	深鉢	埋没土中1層	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	明赤褐	良好	L.RとR.Lの横位羽状繩文構成	諸磯b式
E 16	土坑	3	61	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・片岩少	黒褐	良好	L.RとR.Lの横位羽状繩文構成。結節施文を見る	諸磯b式
E 16	土坑	4	61	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	明赤褐	良好	内皮沈線による重弧状意匠。三叉文を陰刻する	中期中葉
E 16	土坑	5	61	42	耳栓	埋没土中1層	1/2	細：白色粒	赤褐	良好	上：3.0cm 底：3.2cm 高：2.0cm。内面中位が突出する。外面丁寧な研磨を施す	前期後葉?	
E 17	土坑	3	61	42	浅鉢	北東部底面上8cm	口縁部	破片	粗：石英・片岩大	赤褐	良好	波状線。内面に施文面を持ち、丁寧な角押文を2条施す	中期前葉
E 17	土坑	1	61	42	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・雲母少	橙	良好	矢羽状短沈線を加えた浮線文2条間に小穴を穿つ	諸磯b式
E 17	土坑	2	61	42	深鉢	中央やや西寄り底面上2cm	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	口縁部外反し2条の斜位浮線文を付す。下位に弧状浮線文刻痕跡を見る	諸磯b式
E 18	土坑	1	61	42	深鉢	中央部底面上19cm	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・片岩	赤褐	良好	横位平行沈線以下対向する斜位平行沈線を設ける。R.Lと無節Lの横位羽状繩文構成	諸磯b式
E 18	土坑	2	61	42	深鉢	南西部底面上15cm	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・片岩	赤褐	良好	横位平行沈線以下対向する斜位平行沈線を設ける。R.Lと無節Lの横位羽状繩文構成	諸磯b式
E 18	土坑	3	61	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	赤褐	良好	R.Lと無節Lの横位羽状繩文構成	諸磯b式

遺構一覽・遺物観察表

出土遺構		遺物	図	P L	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等	
区	遺構番号	番号	番号	番号										
E	18	土坑	4	61	42	深鉢	中央部底面上8cm	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	赤褐	良好	R Lと無筋Lの横位羽状縄文構成	諸磯b式
E	18	土坑	5	61	42	深鉢	中央部底面上7cm	体部中位	破片	粗：白色粒・石英・片岩	暗褐	良好	横位R Lと無筋Lによる横位羽状縄文構成	諸磯b式
E	18	土坑	6	61	42	深鉢	中央部底面上23cm	体部上半	破片	粗：白色粒・石英・片岩	暗赤褐	良好	上位に緩やかな外反部を持つ。横位R Lと無筋Lによる横位羽状縄文構成	諸磯b式
E	18	土坑	7	61	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・繊維	橙	良好	0段多条R LとL Rによる横位羽状縄文構成	黒浜式
E	20	土坑	1	61	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒	赤褐	良好	無筋LとR Lによる横位羽状縄文構成	諸磯b式
E	20	土坑	2	61	42	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	赤褐	良好	横位沈線以下斜位沈線を対向状に施す。空白部を陰刻処理する	前期末葉
E	20	土坑	3	61	42	深鉢	西部底面上27cm	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黒褐	良好	口唇部に刻み、横位沈線以下斜位沈線を対向状に施す	前期末葉?
E	22	土坑	1	61	42	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・繊維	褐	良好	無筋L横位施文。補修孔を見る	黒浜式
E	22	土坑	2	61	42	深鉢	埋没土中	底部	破片	細：白色粒・褐色粒	橙	良好	底：Ø8cm。端部僅かに張り出す。無筋Rを施す	黒浜式
E	23	土坑	1	61	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	黒褐	良好	R Lと無筋Lによる横位羽状縄文構成	諸磯式
E	26	土坑	1	62	42	土製円盤	埋没土中		破片	粗：白色粒	純い黄褐	良好	径2.2cm 重：3.3g。深鉢体部破片を利用。平行沈線を施す	諸磯式
E	27	土坑	1	62	42	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	赤褐	良好	斜位R Lを施し、条を横走る	諸磯b式
E	28	土坑	1	62	43	深鉢	中央部底面上5cm	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	純い褐	良好	大型の中空状突起。中に円孔を配し周縁を小突起で飾る。下部嘴状突起を連続か。沈線、蓮華文、三叉状沈線を施す	勝坂3式末
E	28	土坑	2	62	43	深鉢	中央部底面上5cm	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	黒褐	良好	横位隆線による分帯。沈線による弧状意匠を配す	勝坂3式末
E	28	土坑	3	62	43	深鉢	西壁際底面上8cm	体部	破片	粗：白色粒・褐色粒	暗赤褐	良好	隆線によるV字状意匠。側縁は結節沈線。R Lを充填し隆線上も施文	阿玉台IV式
E	28	土坑	4	62	43	深鉢	北西壁際底面上15cm	突起	破片	粗：白色粒・輝石	純い赤褐	良好	尖状突起。波頂部より刻みを付す太隆線が垂下する。沈線を側縁とする。内面研磨	勝坂3式末
E	28	土坑	5	62	43	深鉢	中央部底面上5cm	体部	破片	粗：石英・繊維	橙	良好	組紐施文	関山II式
E	29	土坑	1	62	43	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：片岩	純い赤褐	良好	口縁部内湾し口唇部尖る。口唇部に2条の角押文を設け、斜位角押文を連続する	中期前葉
E	29	土坑	2	62	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：片岩粒	純い赤褐	良好	横位ヒダ状圧痕を施す	阿玉台I b式
E	30	土坑	1	62	43	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	純い赤褐	良好	波状縁。口縁部内面施文部を設け角押文を施す。波頂部にも垂下角押文を見る	中期前葉
E	30	土坑	2	62	43	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	純い赤褐	良好	波状縁。口縁部内面施文部を設け角押文が沿う。中に横位角押文を充填する	中期前葉
E	30	土坑	3	62	43	浅鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	純い赤褐	良好	波状縁。口縁部内面の角押文3条	中期前葉
E	30	土坑	4	62	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	暗赤褐色	良好	弧状隆線による不整形区画か。幅狭の内皮沈線を側縁とし、三叉文、三角連続刺突文を充填する	勝坂1式
E	32	土坑	1	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英・片岩	純い黄褐	良好	横位R Lを施す	諸磯b式
E	32	土坑	2	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	褐	良好	ヒダ状圧痕の押圧を見る	中期前葉
E	32	土坑	3	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母多	明赤褐	良好	2条の斜位隆線を付す	中期前葉
E	34	土坑	1	63	43	深鉢	北西壁際底面上6cm	口縁部	破片	細：石英・繊維	黒褐	良好	口唇部は尖り、口縁部は肥厚する。0段多条R LとL Rによる横位羽状縄文構成	黒浜式
E	34	土坑	2	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩粒	赤褐	良好	無筋L縦位施文。間隔施文	中期前葉
E	34	土坑	3	63	43	深鉢	埋没土中	体部上半	破片	粗：石英大・雲母多	暗褐	良好	隆線による口縁部楕円状区画か。側縁は単列の結節沈線。頸部は刺突文を加えた横位波状文を配す	阿玉台I a式
E	38	土坑	1	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	純い黄褐	良好	横位沈線群を多段に配す。地文は横位R L	諸磯b式
E	38	土坑	2	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母	灰黄褐	良好	縦位波状沈線による懸垂文構成。横位ヒダ状圧痕を施す	阿玉台I b式
E	38	土坑	3	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	細石英・輝石・雲母末	灰黄褐	良好	横位ヒダ状圧痕を施す	阿玉台I b式
E	39	土坑	1	63	43	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・輝石	純い黄褐	良好	口唇部に斜位短沈線。口縁部は肥厚し、横位L Rを施す	諸磯b式
E	39	土坑	2	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・輝石	純い黄橙	良好	2条の横位浮線文。矢羽状短沈線を加える	諸磯b式
E	40	土坑	1	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・輝石・片岩	暗灰黄褐	良好	横位浮線文を付す。浅い刻みを施す	諸磯b式
E	40	土坑	2	63	43	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	純い赤褐	良好	輪積み痕にヒダ状圧痕を加える	阿玉台I b式
E	41	土坑	1	63	43	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	細：白色粒・繊維	黒褐	良好	付加条1種L R + L 2条横位施文か。補修孔あり	黒浜式
E	42	土坑	1	63	43	小型壺	北西部底面上18cm	頸部～底部	1/1	細：白色粒多・石英・輝石	灰黄褐	良好	底：6.4cm。肩部に2条の横位沈線を施す。外面横位研磨、内面横位施文。外面縁付着	弥生前期末か
E	42	土坑	2	63	43	不明	中央部底面上18cm	体部	破片	粗：石英大・片岩大	橙	良好	深く鋭い斜位条痕文。胎土に砂粒を多く含む。	弥生中期前半
E	42	土坑	3	63	43	不明	中央部底面上21cm	体部	破片	粗：石英大・片岩大	純い橙	良好	深く鋭い縦位・斜位条痕文。胎土に砂粒を多く含む。	弥生中期前半
E	42	土坑	4	63	43	不明	中央部底面上21cm	体部	破片	粗：石英大・片岩大	灰黄褐	良好	深く鋭い斜位条痕文。器面磨滅。胎土に砂粒を多く含む。	弥生中期前半
E	42	土坑	5	63	43	不明	中央部底面上21cm	体部	破片	粗：石英大・片岩大	純い橙	良好	深く鋭い縦位条痕文。胎土に砂粒を多く含む。	弥生中期前半
E	42	土坑	6	63	43	壺か甕	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・輝石	純い褐	良好	浅い斜位条痕文を施す。内外面縁付着	弥生中期前半
A	42	土坑	7	63	43	浅鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	深い沈線による浮線網状文か。器面磨滅	縄文晩期か
A			1	69	44	深鉢	表土	口縁部	破片	粗：白色粒・繊維	橙	良好	口唇部僅かに外反。横位組紐を施す。内面研磨	関山II式
A			2	69	44	浅鉢	表土	口縁部	破片	粗：白色粒・小礫	橙	良好	屈曲口縁部に円形刺突文を充填する。以下横位平行沈線を多段に配す。地文は横位R L	諸磯b式
A			3	69	44	深鉢	表土	口縁部	破片	粗：石英・片岩	淡黄	良好	波状口縁波頂部。幅狭の平行沈線群が沿う。地文は無筋Rか	諸磯b式
A			4	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・輝石	純い橙	良好	横位平行沈線群を設け、体部は地文横位R Lを施す	諸磯b式
A			5	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	純い黄橙	良好	横位沈線で画された間を横位弧線文が配される	諸磯b式
A			6	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	純い黄橙	良好	縦位平行沈線群と斜位平行沈線群、あるいは縦位対弧状意匠か	諸磯b式
A			7	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・輝石	橙	良好	矢羽状刻みを付す横位浮線文。地文は横位L R	諸磯b式
A			8	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・石英	純い赤褐	良好	異種粘土による浮線文。矢羽状刻みを施す。地文は横位R Lか	諸磯b式
A			9	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	純い赤褐	良好	横位隆線上位を縦位矢羽状刻み、下位を横位矢羽状刻みが施される。地文は横位R L	諸磯b式
A			10	69	44	深鉢	攪乱	体部	破片	粗：石英・小礫	純い橙	良好	無筋L横位・斜位施文。硬質原体か	諸磯b式
A	23	土坑	11	69	44	深鉢	埋没土中	体～底部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	純い黄橙	良好	横位L RとR Lによる羽状構成	諸磯b式
A	23	土坑	12	69	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	暗灰黄	良好	横位L R	諸磯b式
A			13	69	44	深鉢	表土	口縁部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	純い赤褐	良好	口縁部内湾し頸部強く屈曲。円形貼付文を付し、地文は無筋LとR Lによる羽状縄文構成	諸磯b式新
A			14	69	44	深鉢	表土	体部上半	破片	細：白色粒・石英・輝石	黄灰	良好	屈曲部にボタン状貼付文と棒状貼付文を付す。上位に横位平行沈線。地文は横位L R	諸磯b式
A			15	69	44	深鉢	表土	口縁部	破片	粗：白色粒・輝石	純い橙	良好	口唇部に刻み、口縁部に棒状貼付文を付し、地文は口縁部横位。体部は斜位平行沈線を施す	諸磯c式
A	16	土坑	16	69	44	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：白色粒・石英	橙	良好	棒状貼付文を付す。地文は横位平行沈線	諸磯c式
A			17	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	灰黄褐	良好	小型の円形貼付文を付す。地文は斜位平行沈線文	諸磯c式
A	24	土坑	18	69	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	灰黄褐	良好	小型の円形貼付文を付す。地文は横位平行沈線	諸磯c式
A	4	トレ	19	69	44	深鉢	3層	体部	破片	粗：白色粒・石英・輝石	橙	良好	円形貼付文を付す。地文は上位に横位、下位に縦位平行沈線群を充てる	諸磯c式
A	18	土坑	20	69	44	浅鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	純い褐	良好	大きく開く薄手の体部。無文	諸磯c式
A			21	69	44	深鉢	小片	口縁部	破片	細：白色粒・石英	褐灰	良好	折り返し状口縁。端部に平面を持つ。横位R L	前期末葉
A			22	69	44	深鉢	表土	口縁部	破片	細：白色粒・石英・輝石	純い黄橙	良好	口縁部に横位蛇行隆線2条を設ける。以下は横位R Lを施す	前期末葉

第8表 米山遺跡石器類一覽表

区	遺構番号	遺物番号	図番号	P.L番号	器種	出土位置	部位	残存	胎土	色調	焼成	器形・文様の特徴	型式等
A		23	69	44	深鉢	表土	口縁部	小片	粗：白色粒・石英	鈍い赤褐	良好	口縁部下部に三角陰刻文を連続する。縄文は横位RL	前期後葉
A	24	24	69	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石	鈍い黄褐	良好	縦位平行沈線下部を見る。地文は横位RL	前期後葉
A		25	69	44	深鉢	表土	口縁部	破片	細：白色粒・輝石	灰黄褐	良好	口縁部波状突起を付し横位沈線を2条、弧状沈線を1条設ける。地文は口縁部にも及び	五領ヶ台II式
A		26	69	44	深鉢	攪乱	口縁部	破片	粗：石英・雲母	明赤褐	良好	口縁部に太隆線を横位に設け、内皮連続刺突文を乗せる。上位に外皮による連続刺突文を施す。口唇部に横位RL	五領ヶ台II式
A		27	69	44	深鉢	表土	口頸部	破片	粗：白色粒・石英・雲母	褐	良好	頸部隆線で画された口縁部文様帯。単列の角押文によるY字・U字・渦巻状意匠を配す	中期前葉
A		28	69	44	深鉢	表土	体部上半	破片	細：白色粒・石英・輝石	褐	良好	横位細隆線下に波状沈線を施す。破片下端にも波状沈線を見る	中期前葉
A	東壁下	29	69	44	深鉢	黒色上層1	底部	2/3	粗：白色粒・石英	橙	良好	底：13.2cm。張り出し底部。無文	前期後葉未か
A		30	69	44	深鉢	表土	底部	1/3	細：白色粒・輝石	明黄褐	良好	底：(12.9)cm。張り出し底部。体部は無文。内面煤付着	諸磯c式
A		31	69	44	表土	表土	底部	1/2	細：白色粒・褐色粒	鈍い褐	良好	底：1.9cm。深鉢ミニチュアか。体部は薄手の器厚。下半に横位沈線を施す	諸磯c式
A	遺構確認面	32	69	44	須恵器羽釜	表土	口縁部	破片	細：	灰	良好	口縁部上部に弱い沈線のある平坦面。膨らみのない体部。体部外面まで	10世紀中葉
C	遺構確認面	33	69	44	深鉢	表土	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	灰褐	良好	横位平行沈線後連続凹形文を加え、その間に斜位短沈線が矢羽状に埋める。地文横位RL	諸磯b式
D		34	69	44	深鉢	表土	体部	破片	細：白色粒・石英・輝石	鈍い褐	良好	縦位平行沈線後施文後凹形刺突文を重なる。斜位平行沈線と連続した助骨文構成	諸磯a式
D		35	69	44	深鉢	表土	体部	破片	粗：白色粒・輝石	暗褐	良好	横位平行沈線後施文後連続凹形文を施す。斜位短沈線に沿う	諸磯b式
D	14	36	69	44	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	粗：白色粒・片岩・輝石	明赤褐	良好	口唇部肥厚。横位内皮平行沈線を設け、下位に凹形突起を重なる	中期前葉か
D	14	37	69	44	深鉢	埋没土中	口縁部	小片	細：白色粒・片岩	鈍い褐	良好	無筋横位施文、口唇部にも施す	中期前葉か
D	15	38	69	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・石英	鈍い黄褐	良好	結節RL横位施文	諸磯b式
E	9	39	68	44	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：小礫・石英・繊維	灰褐	良好	口縁部外反。平行沈線による横位・斜位施文	黒浜式
E	9	40	68	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：小礫・石英・繊維	鈍い赤褐	良好	平行沈線による斜位施文	黒浜式
E	4	41	68	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・輝石・片岩	鈍い褐	良好	幅狭の角押文による縦位・斜位・波状文が配される	中期前葉
E	4	42	68	44	深鉢	埋没土中	口頸部	破片	粗：白色粒・輝石・片岩	鈍い橙	良好	口縁部屈曲部。三角連続刺突文を斜位に充填する	中期前葉
E	3	43	68	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：白色粒・片岩	鈍い赤褐	良好	斜位沈線を施す	中期前葉?
E	4	44	68	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	鈍い赤褐	良好	斜位平行沈線を施す。縦位結節部施文の下端部を見る	中期前葉?
E	4	45	68	44	深鉢	埋没土中	口頸部	破片	粗：石英・雲母	黒褐	良好	単独施文の結節沈線による弧状・渦巻状意匠を配す	阿玉台1b式
E	表土	46	68	44	深鉢	埋没土中	口縁部	破片	粗：石英・雲母	暗褐	良好	口縁部隆線による区画文構成か。単列の結節沈線による弧状意匠	阿玉台1b式
E	4	47	68	44	深鉢	埋没土中	頸部	破片	粗：石英・雲母多	暗褐	良好	頸部2条の横位隆線を設ける。側縁は波状結節沈線1条	阿玉台1b式
E	3	48	68	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・雲母多	鈍い褐	良好	垂下隆線及び縦位波状沈線による懸垂文構成・内面煤付着	阿玉台1b式
E	4	49	68	44	深鉢	埋没土中	体部	破片	粗：石英・片岩	灰褐	良好	無文ながら、弱い斜位帯で痕を見る	阿玉台1b式
E	5	50	68	44	深鉢	埋没土中	頸部～底部	1/1	粗：白色粒・輝石	鈍い赤褐	良好	底：7.5cm。体部下半に横位隆線を設ける。体部は一帯構成で小型の双環状突起と弧状隆線による曲隆線文構成。側縁は沈線、凹形区画内は列点状刺突文の充填。内面底部に煤付着	「焼町類型」

第8表 米山遺跡石器類一覽表

区	遺構番号	遺物番号	図番号	P.L番号	器種	細分	出土位置	石材	長さcm	幅cm	重量g	点数	形態の特徴	整理番号	
A	2	土坑	3	13	29	削器	横長剥片	埋没土中	珧質頁岩	13.2	6.2	138.1		裏面下端でパルプ除去、刃部は上端側。	010074
A	2	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	1.5	2.6	1.9		剥片端部に浅い加工。	010075
A	2	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石				10.0	9		
A	3	土坑	15	13	29	石匙	横型	埋没土中	黒色安山岩	4.4	6.3	17.1		浅い剥離を加え刃部を作出。刃部再生?	010077
A	3	土坑	16	13	29	加工痕ある剥片	中央部底面上25cm	珧質頁岩	3.0	4.1	10.6		右辺を粗く加工、左辺は刃こぼれ様?	010080	
A	3	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	2.7	1.9	2.2		剥片端部に粗い加工。	010078
A	3	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	1.8	2.2	2.1		両側縁に粗い加工。	010079
A	3	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	2.6	2.3	2.8		右側縁に粗い加工。	010081
A	3	土坑	17	13	29	打製石斧	短冊形	西壁沿い底面上26cm	緑色片岩	10.8	4.7	8.8		刃部は石英脈から破損。刃部再生?	010076
A	3	土坑	18	13	29	凹石	楕円偏平	中央部やや北寄り底面上20cm	デイサイト凝灰岩	10.7	6.6	296.0		表裏面にロート状の凹部2、被熱。	010082
A	3	土坑				剥片	西壁沿い底面上24cm	硬質泥岩			56.4	2			
A	3	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			27.5	20			
A	3	土坑				剥片	埋没土中	チャート			10.8	1			
A	3	土坑				礫・礫片	埋没土中	珧質頁岩			72.4	1			
A	3	土坑				礫・礫片	西壁沿い底面上22cm	変玄武岩			15.8	1			
A	4	土坑	4	14	29	打製石斧	短冊形?	埋没土中	砂岩	7.4	5.5	64.7		裏面側は潜在打撃痕から剥落。刃部磨耗。	010085
A	4	土坑	5	14	29	台石	偏平礫	南西隅底面上3cm	粗粒輝石安山岩	17.8	24.7	3670.0		背面側に打痕。裏面は被熱剥落。	010086
A	4	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			2.0	1			
A	4	土坑				礫・礫片	埋没土中	かこう岩片砕岩			21.1	1			
A	4	土坑				礫・礫片	埋没土中	デイサイト凝灰岩	1.6	1.1	1.5	1			
A	5	土坑	2	14	29	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石			0.4		表裏面とも周辺加工。先端欠。未製品?	010087
A	5	土坑				剥片	中央部底面上3cm	硬質泥岩			75.3	1			
A	5	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			12.6	7			
A	6	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			4.2	1			
A	7	土坑				石核	糞子状	埋没土中	黒曜石	2	1.9	3.7		打面転移を行い、小形剥片を剥離。	010088
A	7	土坑	3	14	29	凹石	楕円偏平	南部底面上15cm	変質安山岩	13.6	7.2	500.3		小口部の打痕は見られない。被熱。	010089
A	7	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			8.0	7			
A	9	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			0.5	1			
A	11	土坑	4	14	29	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	7.7	4.9	122.5		刃部は部分的に磨耗。右辺を再生?	010090
A	12	土坑				礫・礫片	埋没土中	チャート			25.6	1			
A	17	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	1	2	0.6		表裏面の周辺を浅く剥離。	010092
A	17	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	3	1.9	2.5		剥片端部を浅く加工。	010093
A	17	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			4.9	6			
A	19	土坑				礫・礫片	埋没土中	デイサイト凝灰岩			3.6	1			
A	20	土坑	5	14	29	加工痕ある剥片	埋没土中	チャート	2.6	3.3	5.5		裏面左辺・背面端部に浅い剥離を施す	010094	
A	20	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			12.9	17			
A	20	土坑				剥片	埋没土中	チャート			9.0	3			
A	21	土坑	8	15	30	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	2.0	1.3	0.4		無色透明の黒曜石使用。完成状態。	010096
A	21	土坑	9	15	30	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	5.1	3.9	31.6		上端・側縁に磨耗がある。刃部破片?	010095
A	21	土坑	10	15	30	打製石斧	短冊形	埋没土中	細粒輝石安山岩	8.4	4.4	61.2		刃部磨耗・捲轉痕あり。再生使用。	010097

遺構一覧・遺物観察表

区	出土遺構 遺構番号	遺物 番号	図 番号	P.L 番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理 番号	
A	21	土坑			打製石斧	短冊形	埋没土中	頁岩	7.4	4.1	44.5		剥離面は新鮮。製作時に破損?	010098	
A	21	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			4.6	10			
A	21	土坑			剥片		埋没土中	チャート			2.4	1			
A	22	土坑	2	15	30	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	7.9	4.8	47.0		下半部が欠損後、器体を再生。未製品。	010099
A	25	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			6.5	11			
A	25	土坑			剥片		埋没土中	チャート			6.4	3			
A	25	土坑			礫・礫片		北壁際底面上19cm	かこう岩圧砕岩			76.6	1			
A	11	ピット			剥片		埋没土中	チャート			2.2	1			
A	2	ピット			剥片		埋没土中	珪質頁岩			7.8	1			
A	2	ピット			礫・礫片		埋没土中	赤碧玉			19.7	1			
B	6	トレンチ	1	18	30	剥片	YP混ローム層	チャート	2.7	0.8	0.8	1	両側縁の並行する小剥片。背面側は風化剥離面。	010001	
B	4	土坑	5	19	30	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	9.4	4.9	135.0		上下両端は打痕で刃部が潰れる。転用?	010083
B	4	土坑			石核	板状	埋没土中	黒曜石	3	2.4	10.7		上面の平坦面から小形剥片を剥離。	010084	
B	5	土坑	6	19	30	加工痕ある剥片		埋没土中	黒曜石	2.6	1.7	1.3		残存部が大きい。石器の未製品?	010102
B	5	土坑	7	19	30	加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	珪質頁岩	7.5	8.1	146.1		上下両端の剥離は丁寧、部分的に磨耗?	010101
B	5	土坑	8	19	30	凹石	円礫偏平	埋没土中	デイサイト	9.8	9.6	478.7		各面とも良く使い込んでいる。被熱。	010103
B	5	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			7.9	3			
C	1 a	住居	122	28	34	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	2.0	2.0	0.6		先端は調査時に欠損。完成状態。	010017
C	1 a	住居	123	28	34	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	3.0	1.3	1.0		右辺は調査時に欠損。完成状態。	010018
C	1 a	住居	124	28	34	石匙	縦型	埋没土中	珪質頁岩	6.8	5.2	30.1		抓み部は錯向剥離により作出。未製品?	010004
C	1 a	住居	125	28	34	石鏃		埋没土中	硬質泥岩	4.2	1.7	3.2		剥片打面側に機能部を作出。先端部磨耗。	010005
C	1 a	住居	126	28	34	楔形石器		埋没土中	黒曜石	6.0	4.0	4.4		裏面側に大きく流理面を残す。	010019
C	1 a	住居	127	28	34	石核	糞子状	埋没土中	黒曜石	3.1	2.7	13.7		打面転移を頻繁に行い、小形剥片を剥離。	010020
C	1 a	住居			石核	垂角礫	埋没土中	黒曜石	3	3	10.7		上面の平坦面から小形剥片を剥離。	010021	
C	1 a	住居	128	28	35	石核	板状	埋没土中	黒曜石	2.1	3.0	5.3		上端の平坦剥離面から小形剥片を剥離。	010022
C	1 a	住居			石核	垂角礫	埋没土中	黒曜石	2.8	4.1	13.7		上端の平坦剥離面から小形剥片を剥離。	010023	
C	1 a	住居	132	29	35	石核	板状	埋没土中	珪質頁岩	9.4	10.1	338.6		板状剥片の表裏両面で小形剥片を剥離。	010007
C	1 a	住居			石核	偏平礫	南周溝端床面直上	珪質頁岩	12.2	12.9	951.7		表裏面で幅広剥片を剥離。	010008	
C	1 a	住居	129	29	35	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	7.7	4.6	86.9		刃部は再生使用。刃部磨耗が著しい。	010014
C	1 a	住居			打製石斧	短冊形	埋没土中	珪質頁岩	6.4	5.3	85.1		剥離面は新鮮。未製品。	010016	
C	1 a	住居	130	29	35	削器		埋没土中	硬質泥岩	5.2	7.8	98.1		幅広剥片の端部に刃部を作出。	010015
C	1 a	住居	131	29	35	削器	中央部南寄り床面上2cm	硬質泥岩	6.2	7.8	86.3		直線的な剥片端部に刃部を作出。	010006	
C	1 a	住居			加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	黒色安山岩	3.2	3.9	13.7		裏面側打面部を粗く加工。	010024	
C	1 a	住居			加工痕ある剥片	不明	埋没土中	黒色安山岩	1.2	1.9	0.4		表裏面に浅く薄い剥離を面的に施す。	010025	
C	1 a	住居			加工痕ある剥片	幅広剥片	中央部南寄り床面直上	珪質頁岩	7.6	8.5	218.2		剥片端部を粗く加工。	010010	
C	1 a	住居			使用痕ある剥片	幅広剥片	中央部床面直上	黒曜石	3.1	5	15.4		剥片端部に小剥離痕が連続。	010011	
C	1 a	住居	133	29	35	石皿	盤状	西部床面上9cm	凝灰質砂岩	19.2	18	1693.2		磨耗面には凹凸がある。砥石?	010012
C	1 a	住居	134	29	35	凹石	楕円偏平	埋没土中	粗粒輝石安山岩	10.6	7.9	501.1		表裏両面・小口に打痕。被熱破損。	010026
C	1 a	住居	136	-	35	原石		埋没土中	黒曜石			23.9	1		
C	1 a	住居	135	29	35	原石		西隅周溝内底面上3cm	黒曜石			213.3	1		
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	赤碧玉			3.0	1			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	珪質頁岩			6.6	3			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	硬質泥岩			4.5	5			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	黒曜石			65.1	42			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	チャート			17.9	5			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	赤碧玉			3.1	1			
C	1 a	住居			剥片		ピット4要確認	珪質頁岩			53.7	1			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	珪質頁岩			22.0	1			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	硬質泥岩			23.0	2			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	硬質泥岩			147.0	10			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	黒色安山岩			2.9	1			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	黒曜石			18.3	16			
C	1 a	住居			剥片		埋没土中	チャート			34.0	8			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	赤碧玉			9.9	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	かこう岩圧砕岩?			55.0	5			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	凝灰質砂岩			34.3	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	珪質頁岩			2.4	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			264.2	14			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			8.4	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	黒色片岩			10.0	2			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	砂岩			134.8	6			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	蛇紋岩			25.8	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	石英斑岩圧砕岩			21.0	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			118.0	2			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			49.5	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	凝灰質砂岩			17.0	2			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	珪質準片岩			13.6	2			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			5.4	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			1.5	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	砂岩			119.4	6			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	蛇紋岩			16.2	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	石英斑岩圧砕岩			69.8	2			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			11.9	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	チャート			62.4	2			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	変玄武岩			2496.2	1			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	変質安山岩			59.6	5			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	流紋岩凝灰岩			3.0	6			
C	1 a	住居			礫・礫片		埋没土中	緑色片岩			12.2	2			
C	1 b	住居	3	29	35	磨製石斧		北西壁際床面上12cm	変質蛇紋岩	5.8	2.6	18.2		破片の端部を研磨。研磨後、側縁加工。	010052
C	1 b	住居	4	29	35	石皿	有縁	西壁際床面直上	粗粒輝石安山岩	25.0	21.4	3336.5		使用面上端・中央に敲打痕が残る。	010013
C	1 b	住居			剥片		埋没土中	黒色安山岩			19.1	1			
C	1 b	住居			剥片		北壁集溝内底面直上	黒曜石			12.7	1			
C	1 b	住居			剥片		1 b号住居-1浅鉢内	黒曜石			5.5	1			

第8表 米山遺跡石器類一覧表

出土遺構		遺物 番号	図 番号	P.L 番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理 番号	
区	遺構番号														
C	1b	住居			剥片		埋没土中	黒曜石			7.0	2			
C	1b	住居			剥片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			10.0	1			
C	1b	住居			剥片		埋没土中	変はんれい岩			19.1	1			
C	2	住居	15	32	35	石匙	横型 北西壁際床面上10cm	チャート	5.0	2.8	8.6		表裏両面とも面的に加工、略全面加工。	010027	
C	2	住居	16	32	35	削器	埋没土中	硬質泥岩	5.7	9.1	50.4		直線的な剥片端部に刃部を作出。	010028	
C	2	住居				石核	糞子状	埋没土中	黒曜石	2.3	2.4	7.8		打面転移を行い小型剥片を剥離。	010232
C	2	住居				石核	板状	埋没土中	黒曜石	2.5	2.5	8.7		小口で小形剥片を剥離。	010233
C	2	住居				石核	板状	埋没土中	チャート	2.5	3.5	7.6		背面側で小形剥片を剥離。	010235
C	2	住居				石核	板状	埋没土中	チャート	1.8	3.1	5.5		表裏面從小形剥片を剥離。	010236
C	2	住居				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	4.2	6.2	52.4		表裏面を粗く加工。	010030
C	2	住居				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	チャート	3.2	4.5	12.7		裏面側右辺を浅く加工。	010029
C	2	住居	17	32	35	凹石	棒状礫 南東壁際床面上5cm	デイサイト	13.9	6.4	621.3		磨石としての使用が顕著で、稜線が形成。	010032	
C	2	住居	18	32	35	敲石	楕円偏平 南隅P2最上層	硬質泥岩	8.0	6.5	166.4		小口・側縁で打撃、剥落。	010033	
C	2	住居	19	32	35	石皿	不明 南隅床面上11cm	緑色片岩	19.8	10.6	1194.6		剥落により使用面の上半を欠損。被熱。	010034	
C	2	住居	20	32	35	台石	偏平礫 北隅床面直上	緑色片岩	31.2	24.8	5740.3		縁辺が被熱して変色、ヒビ割れ。	010035	
C	2	住居				剥片		南西部床面上3cm	珪質頁岩	7.1	13.6	217.5			010031
C	2	住居				剥片		埋没土中	硬質泥岩			4.7	1		
C	2	住居				剥片		埋没土中	黒曜石	3	2.8	9.7			010234
C	2	住居				剥片		埋没土中	黒曜石			37.2	34		
C	2	住居				剥片		埋没土中	細粒輝石安山岩			2.5	1		
C	2	住居				剥片		埋没土中	チャート			77.1	18		
C	2	住居				剥片		北東壁際床面上15cm	変質安山岩			184.1	1		
C	2	住居				礫・礫片		炉内底面直上	凝灰質砂岩			110.3	1		
C	2	住居				礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			71.3	11		
C	2	住居				礫・礫片		北西部床面上4cm	砂岩			81.4	1		
C	2	住居				礫・礫片		P7上層床面上8cm	砂岩			374.9	1		
C	2	住居				礫・礫片		埋没土中	砂岩			72.4	2		
C	2	住居				礫・礫片		埋没土中	石英			5.4	1		
C	2	住居				礫・礫片		埋没土中	チャート			20.2	3		
C	2	住居				礫・礫片		埋没土中	デイサイト			44.5	2		
C	2	住居				礫・礫片		埋没土中	デイサイト凝灰岩			11.8	1		
C	2	住居				礫・礫片		北西部床面直上	変玄武岩			313.2	1		
C	3	住居	4	33	36	磨石	楕円偏平 北西部床面直上	デイサイト	16.9	7.0	369.2		側縁使用が顕著で、稜を複数形成。被熱。	010036	
C	3	住居				剥片		埋没土中	珪質頁岩			15.5	1		
C	3	住居				剥片		埋没土中	黒曜石			4.1	6		
C	3	住居				剥片		埋没土中	チャート			9.3	2		
C	3	住居				礫・礫片		埋没土中	砂岩			18.1	3		
C	3	住居				礫・礫片		埋没土中	石英斑岩庄砕岩			71.1	1		
C	3	住居				礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			11.1	2		
C	3	住居				礫・礫片		埋没土中	チャート			27.6	1		
C	4	住居	1	35	36	石核	分割礫 南西壁際床面上2cm	硬質泥岩	10.2	15.4	1037.3		表裏面で幅広剥片を剥離。	010039	
C	4	住居				石核	分割礫 埋没土中	硬質泥岩	10.9	8	470.1		上端の剥離面から幅広剥片を剥離。被熱。	010040	
C	4	住居				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	1.9	1.6	1.0		表裏面を浅く加工。	010037
C	4	住居				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	1.9	1.6	2.4		裏面側左辺を浅く加工。	010038
C	4	住居	2	35	36	石皿	無縁 南西壁際床面直上	砂岩	44.6	27.6	6530.5		表裏両面に広い磨耗面を形成。	010041	
C	4	住居	3	35	36	砥石	盤状 北部床面上2cm	砂岩	16.3	9.0	420.5		背面側に縦・溝状の研磨痕。	010042	
C	4	住居				剥片		南西壁際床面直上	砂岩			19.4	1	No.3と接合	
C	4	住居				剥片		南西壁際床面直上	砂岩			27.1	1	No.2と接合	
C	4	住居				剥片		埋没土中	チャート			0.9	1		
C	4	住居				礫・礫片		埋没土中	凝灰質砂岩			76.1	20		
C	4	住居				礫・礫片		西壁際床面直上	砂岩質準片岩			148.3	1		
C	5	住居	13	37	36	石匙	南西壁際床面上32cm	黒色安山岩	5.5	4.4	7.9			010044	
C	5	住居	14	37	36	打製石斧	短冊形 埋没土中	珪質頁岩	8.3	4.7	55.2		刃部磨耗あり。刃部から左側縁を再生。	010043	
C	5	住居	15	37	36	削器	縦長剥片 埋没土中	チャート	5.9	3.4	25.6		裏面側左側縁に粗い加工。	010045	
C	5	住居	16	37	36	削器	埋没土中	チャート	7.4	4.8	36.0			010047	
C	5	住居				削器	幅広剥片 埋没土中	硬質泥岩	7.3	4.2	29.1		裏面側左辺に刃部を作出。	010046	
C	5	住居	17	37	36	石核	分割礫 南東周溝線床面直上	硬質泥岩	9.0	10.4	362.2		表裏両面で幅広剥片を剥離。	010049	
C	5	住居	18	37	36	石核	板状 埋没土中	チャート	2.5	4.0	16.0		石核を転用、上端で粗い剥離を施す。	010048	
C	5	住居	19	37	36	凹石	楕円偏平 南西周溝線床面直上	デイサイト	12.0	8.8	755.4		小口の打痕が顕著。	010050	
C	5	住居				凹石	楕円礫 P5上層床面上7cm	粗粒輝石安山岩	9.6	6.4	396.4		表裏面に集合打痕、小口に打痕。被熱。	010051	
C	5	住居				剥片		床下	珪質頁岩			18.7	1		
C	5	住居				剥片		埋没土中	黒曜石			36.4	34		
C	5	住居				剥片		埋没土中	チャート			21.9	10		
C	5	住居				礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			23.4	1		
C	5	住居				礫・礫片		埋没土中	流紋岩凝灰岩			5.3	1		
C	1	土坑	4	39	36	石核	角礫 埋没土中	黒曜石	3.3	2.8	13.4		打面転移を行い、小形剥片を剥離。	00104	
C	1	土坑				剥片		埋没土中	黒曜石			4.3	4		
C	1	土坑				礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			3.6	1		
C	1	土坑				礫・礫片		埋没土中	デイサイト			12.7	1		
C	2	土坑	3	39	36	剥片	縦長剥片 埋没土中	珪質頁岩	12.4	5.1	94.5		稜線は新鮮。裏面左辺に粗い小剥離痕。	00105	
C	2	土坑				剥片		埋没土中	黒曜石			4.5	3		
C	2	土坑				剥片		埋没土中	チャート			5.8	2		
C	3	土坑	4	39	37	石匙	凹基無茎錐 埋没土中	黒曜石	2.1	2.0	0.8		左側縁の加工は粗い。返し部を欠。未製品。	00109	
C	3	土坑				加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	1.9	2.3	2.4		右辺を浅く加工。	00106
C	3	土坑	5	39	37	石皿	有縁 中央部底面上4cm	粗粒輝石安山岩	10.5	9.5	513.9		推定径15cm前後の円形石皿。	00107	
C	3	土坑				剥片		西壁際底面上28cm	硬質泥岩			48.4	1		
C	3	土坑				剥片		中央部底面上30cm	硬質泥岩			38.1	1		
C	3	土坑				剥片		埋没土中	硬質泥岩			8.1	1		
C	3	土坑				剥片		埋没土中	黒曜石			2.6	5		
C	4	土坑				剥片		埋没土中	珪質頁岩			1.2	1		
C	4	土坑				剥片		埋没土中	硬質泥岩			1.1	1		
C	5	土坑				剥片		埋没土中	チャート			1.7	1		
C	6	土坑				剥片		埋没土中	かこう岩庄砕岩			77.2	2		

遺構一覧・遺物観察表

出土遺構		遺物 番号	図 番号	P.L 番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理 番号	
区	遺構番号														
C	10	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			1.4	2			
C	10	土坑			剥片		埋没土中	チャート			18.4	2			
C	12	土坑	6	39	37	打製石斧	短冊形	埋没土中	緑色片岩	7.9	4.2	71.4	刃部磨耗が著しい。刃部再生。上半を欠く。	00108	
C	13	土坑			石核	分割礫	埋没土中	硬質泥岩	7.9	12.1	405.7	表裏面で幅広剥片を剥離。	00110		
C	13	土坑			加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	9.8	10.6	292.9	表裏面を粗く加工。	00111		
C	13	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			20.8	10			
C	13	土坑			礫・礫片		埋没土中	凝灰質砂岩			12.2	1			
C	14	土坑			石核	分割礫	北東壁際底面上86cm	珩質頁岩	12.2	15.6	1422.9	礫面から幅広剥片を剥離。	010009		
C	14	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			1.2	1			
C	14	土坑			剥片		埋没土中	チャート			5.2	2			
C	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			3.5	1			
C	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	珩質頁岩			11.9	1			
C	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			4.0	1			
C	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			4.8	1			
C	14	土坑			礫・礫片		北東壁際底面上87cm	チャート			175.1	1			
D	1	住居	6	41	37	加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	5.0	5.6	24.2	裏面側の剥片端部を粗く加工。	010054	
D	1	住居				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	3.4	6.5	25.3	打面側左辺を粗く加工。	010053	
D	1	住居	7	41	37	使用痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	8.0	4.9	48.0	左側縁に刃こぼれが連続する。	010055	
D	1	住居				使用痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	珩質頁岩	8.5	8.8	170.5	左辺・端部に小剥離痕が連続。	010056	
D	1	住居				剥片	2Pit	埋没土中	硬質泥岩			40.2	1		
D	1	住居				剥片	埋没土中	硬質泥岩			4.7	1			
D	1	住居				礫・礫片	埋没土中	かこう岩庄砕岩			17.2	1			
D	1	住居				礫・礫片	1Pit	埋没土中	輝緑岩			59.8	1		
D	1	住居				礫・礫片	埋没土中	珩質準片岩			35.2	1			
D	1	住居				礫・礫片	1Pit	埋没土中	硬質泥岩			12.9	1		
D	2	住居	21	43	38	石匙	横型	埋没土中	チャート	2.6	2.6	4.7	裏面側刃部は未加工。周辺加工。	010059	
D	2	住居	22	43	38	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	7.1	5.4	112.1	刃部磨耗あり。刃部再生以後、破損。	010057	
D	2	住居				打製石斧	短冊形	南東部床面直上	黒色頁岩	3.1	3	12.5	形態の特徴から頭部破片？	010058	
D	2	住居				加工痕ある剥片	板状	埋没土中	黒曜石	2	1.5	3.0	上端の平坦面から小形剥片を剥離。	010060	
D	2	住居				使用痕ある剥片	幅広剥片	南東部床面上12cm	硬質泥岩	6.9	6.5	76.8	剥片端部に小剥離痕が連続。	010061	
D	2	住居	23	43	38	凹石	楕円偏平	南東部床面上6cm	粗粒輝石安山岩	10.5	6.5	378.6	先端部が被熱して剥落。	010062	
D	2	住居				剥片	埋没土中	珩質頁岩			47.2	4			
D	2	住居				剥片	埋没土中	黒曜石			5.7	9			
D	2	住居				剥片	埋没土中	黒曜石			5.7	9			
D	2	住居				礫・礫片	埋没土中	凝灰質砂岩			132.2	1			
D	2	住居				礫・礫片	南壁際床面上19cm	珩質準片岩			138.2	1			
D	2	住居				礫・礫片	南東部床面直上	砂岩			64.1	1			
D	2	住居				礫・礫片	東壁寄り床面上5cm	粗粒輝石安山岩			216	1			
D	2	住居				礫・礫片	南東部床面直上	チャート			89.5	1			
D	2	住居				礫・礫片	埋没土中	チャート			8.8	1			
D	2	住居				礫・礫片	埋没土中	デイサイト			25.5	1			
D	2	住居				礫・礫片	埋没土中	緑色片岩			28.1	1			
D	3	住居	7	44	38	加工痕ある剥片	板状	埋没土中	チャート	3.5	2.9	15.8	上端の平坦面から両極剥離？	010063	
D	3	住居	8	44	38	加工痕ある剥片	板状	埋没土中	チャート	2.6	4.0	11.7	表裏両面で小形剥片を剥離。	010064	
D	3	住居				剥片	埋没土中	硬質泥岩			42.9	6			
D	3	住居				剥片	埋没土中	黒曜石			12.3	11			
D	3	住居				剥片	埋没土中	チャート			1.4	1			
D	3	住居				礫・礫片	埋没土中	チャート			24.2	2			
D	3	住居				礫・礫片	埋没土中	変玄武岩			5.8	1			
D	3	住居				礫・礫片	埋没土中	緑色片岩			2.7	1			
D	2	土坑	9	48	38	敲石	楕円偏平	南壁際底面上6cm	珩質準片岩	10.0	10.2	516.1	礫の小口部に打痕・打撃に伴う剥落痕あり。	010112	
D	2	土坑	10	48	38	砥石	盤状	中央やや東寄り底面上6cm	粗粒輝石安山岩	10.8	12.4	718.9	背面側に幅0.5～2mmの研磨痕。	010113	
D	2	土坑	11	48	38	石鎌	石鎌	南東壁際底面上6cm	デイサイト	11.4	10.3	466.6	明確な捲縛痕は未確認。側縁は潰れる。	010237	
D	2	土坑				剥片	中央やや南寄り底面上9cm	赤碧玉			12.7	1			
D	2	土坑				剥片	北部底面上5cm	赤碧玉			12.7	1			
D	2	土坑				剥片	中央やや西寄り底面上7cm	珩質頁岩			7.4	1			
D	2	土坑				剥片	埋没土中	珩質頁岩			3.5	1			
D	2	土坑				剥片	北壁際底面上4cm	硬質泥岩			15.4	1			
D	2	土坑				剥片	北部底面上4cm	硬質泥岩			7.7	1			
D	2	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			9.3	2			
D	2	土坑				剥片	中央やや西寄り底面上7cm	黒色安山岩			1.5	1			
D	2	土坑				剥片	埋没土中	黒色安山岩			11.0	2			
D	2	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			3.0	2			
D	2	土坑				剥片	埋没土中	チャート			13.4	1			
D	2	土坑				剥片	中央やや西寄り底面上7cm	緑色片岩			2.9	1			
D	2	土坑				剥片	埋没土中	緑色片岩			2.2	1			
D	2	土坑				礫・礫片	東壁際底面直上	珩質準片岩			121.7	1			
D	2	土坑				礫・礫片	北部底面上7cm	硬質泥岩			6.9	1			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	硬質泥岩			27.9	2			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	砂岩			466.9	2			
D	2	土坑				礫・礫片	中央部底面上7cm	蛇紋岩			33.8	1			
D	2	土坑				礫・礫片	中央やや西寄り底面上10cm	石英斑岩庄砕岩			10.7	1			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	石英斑岩庄砕岩			3.7	1			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	粗粒輝石安山岩			15.8	1			
D	2	土坑				礫・礫片	北部底面上5cm	デイサイト			35.1	1			
D	2	土坑				礫・礫片	中央やや南寄り底面直上	デイサイト			40.6	1			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	デイサイト			2.2	2			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	変輝緑岩			2.2	1			
D	2	土坑				礫・礫片	中央やや西寄り底面上11cm	変質安山岩			17.7	1			
D	2	土坑				礫・礫片	南西部底面上9cm	変質安山岩			122.8	1			
D	2	土坑				礫・礫片	埋没土中	変質安山岩			4.8	1			
D	3	土坑				礫・礫片	埋没土中	砂岩			2.6	1			
D	3	土坑				礫・礫片	埋没土中	デイサイト			7.8	1			

第8表 米山遺跡石器類一覧表

出土遺構		遺物 番号	図 番号	P.L 番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理 番号	
区	遺構番号														
D	4	土坑			石核	垂円礫	埋没土中	硬質泥岩	5.5	8.3	716.3		礫面から幅広剥片を剥離。	010115	
D	4	土坑			石核	賽子状	埋没土中	黒曜石	1.7	1.8	4.9		打面転移を行い、小形剥片を剥離。	010114	
D	4	土坑			石核	板状	埋没土中	チャート	3.4	4.3	25.7		背面側で小形剥片を剥離。	010149	
D	4	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			3.9	2			
D	4	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			9.3	2			
D	4	土坑			剥片		埋没土中	チャート			2.6	2			
D	4	土坑			礫・礫片		埋没土中	準片岩			16.1	2			
D	5	土坑	5	49	39	石核	分割礫	南西壁際底面上26cm	硬質泥岩	5.7	6.6	225.4		上端の礫面から幅広剥片を剥離。	010116
D	5	土坑			石核	板状	南壁際底面上12cm	硬質泥岩	6.2	8.1	148.6		上面の平坦面から幅広剥片を剥離。	010117	
D	5	土坑	6	49	39	凹石	楕円	南壁際底面上19cm	粗粒輝石安山岩	12.6	7.1	547.5		背面にロート状の凹部。被熱剥落が激しい。	010118
D	5	土坑	7	49	39	凹石	棒状	中央部底面上5cm	デイサイト	14.4	5.8	460		表裏面にロート状の凹部。被熱？	010119
D	5	土坑	8	49	39	扶杖耳飾り		北部底面上13cm	滑石	2.3	1.5	4.8		表裏面に粗い擦痕。外縁に整形痕を残す。	010120
D	5	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			46.9	3			
D	5	土坑			剥片		埋没土中	黒色安山岩			0.9	1			
D	5	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			35.3	1			
D	5	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			19.6	3			
D	7	土坑	3	49	39	打製石斧	偏平礫	中央部底面上4cm	変玄武岩	16.3	8.7	801.2		分割後、側縁加工。磨製石斧の未製品？	010121
D	7	土坑			礫・礫片		埋没土中	珩質変質岩			1.5	1			
D	8	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			41.2	1			
D	9	土坑	1	49	39	楕円礫	中央やや北寄り底面直上	粗粒輝石安山岩	8.4	5.6	340.8		小口部に打痕。背面側磨耗。	010122	
D	10	土坑			石核	分割礫	中央部底面直上	硬質泥岩	9.4	11.3	526.3		背面側で幅広剥片を求心的に剥離。	010124	
D	10	土坑			加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	赤碧玉	3	2.8	5.3		裏面側右辺を浅く加工。	010123	
D	10	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			1.0	1			
D	10	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			0.8	1			
D	10	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			32.9	2			
D	11	土坑	2	50	39	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	5.2	4.6	36.8		剥離面は新鮮。製作時に破損？	010125
D	12	土坑	4	50	39	石核	板状	埋没土中	硬質泥岩	8.2	6.8	20.5	1	表裏面で作業面を固定、小形剥片を剥離。	010126
D	12	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			67.0	5			
D	12	土坑			礫・礫片		埋没土中	チャート			6.5	1			
D	12	土坑			礫・礫片		埋没土中	変質安山岩			44.1	6			
D	12	土坑			礫・礫片		埋没土中	変はなれい岩			239.0	1			
D	13	土坑	2	50	39	削器	縦長剥片	埋没土中	チャート	5.4	1.8	5.5		両側縁を粗く加工。先端部を欠損。	010127
D	14	土坑	4	50	39	石鏃	短冊形？	埋没土中	変玄武岩	10.2	8.5	306.6		下半を欠損後、再生を試みる。未製品。	010128
D	14	土坑	5	50	39	石鏃	短冊形？	埋没土中	デイサイト	6.7	7.0	110.2		裏面側は風化剥離面。未製品。石鏃？	010129
D	14	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			30.8	4			
D	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			8.1	1			
D	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			8.9	1			
D	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩							
D	15	土坑			石核	板状	東壁際底面上7cm	硬質泥岩	7.8	6.1	154.6		表裏面で小形剥片を剥離。	010130	
D	15	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			99.5	2			
D	15	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			7.4	6			
D	15	土坑			剥片		埋没土中	チャート			12.9	2			
D	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			7.4	1			
D	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	チャート			24.2	1			
D	16	土坑			剥片		埋没土中	珩質頁岩			44.6	2			
D	16	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			7.0	3			
D	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			261.1	1			
D	17	土坑	13	51	39	石鏃	埋没土中	変質安山岩	4.9	8.0	67.8		捲縛痕は確認されない。未製品？	010131	
D	17	土坑			剥片		埋没土中	珩質頁岩			4.0	1			
D	17	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			22.7	3			
D	17	土坑			剥片		埋没土中	砂岩	2.8	5.2	15.8				010132
D	17	土坑			剥片		埋没土中	変玄武岩			9.1	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			3.2	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	珩質頁岩			5.8	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	珩質準片岩			17.2	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			4.1	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	黒色片岩			3.3	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	チャート			13.1	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			7.7	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	変質安山岩			1.2	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	流紋岩凝灰岩			3.0	1			
D	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	緑色片岩			5.6	1			
D	19	土坑			剥片		埋没土中	珩質頁岩			39.3	1			
D	20	土坑			石核		北西ピット内底面上7cm	チャート	7.8	5.2	167.0		上下両端で幅広剥片を剥離。	010133	
D	20	土坑	5	51	40	敲石	北西ピット内底面直上	砂質頁岩	7.8	2.9	47.8		小口部に打痕・磨耗痕。	010134	
D	20	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			2.9	2			
D	20	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			5.6	6			
D	20	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			0.7	1			
D	20	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			1.7	1			
D	21	土坑	10	51	40	石核	埋没土中	黒曜石	3.2	2.0	10.7		打面を頻りに移動、小形剥片を剥離。	010135	
D	21	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			77.2	5			
D	21	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			12.3	10			
D	21	土坑			剥片		埋没土中	チャート			1.4	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	輝緑凝灰岩			2.5	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	珩質準片岩			3.4	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	黒色安山岩			1.0	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	黒色片岩			1.0	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			20.5	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			2.4	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			24.8	1			
D	21	土坑			礫・礫片		埋没土中	ひん岩			5.3	1			
D	21	土坑			礫・礫片		西縁底面上32cm	変玄武岩			157.9	1			
D	22	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			30.7	2			

遺構一覧・遺物観察表

出土遺構		遺物番号	図番号	P.L.番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理番号	
区	遺構番号														
D	22	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			58.9	1			
D	22	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			1.5	1			
D	23	土坑			加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	珪質頁岩	14.1	8.1	166.9	1	両側縁で浅い加工。削器様刃部？	010137	
D	23	土坑	7	52	40	楕円礫	中央部底面直上	砂岩	10.6	8.8	662.9	1	表裏両面にロート状の凹部。被熱。	010138	
D	23	土坑	8	52	40	磨石	楕円偏平 中央やや東寄り底面上14cm	デイサイト	10.4	6.1	334.6	1	右側縁中央に打痕・剥落痕。	010139	
D	23	土坑				磨石	不明	埋没土中	粗粒輝石安山岩	5.6	5	130.3	1	表裏面に磨耗痕。小口に打痕。	010136
D	23	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			42.9	1			
D	23	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			4.5	1			
D	23	土坑				礫・礫片	埋没土中	珪質頁岩			19.6	1			
D	24	土坑	9	52	40	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	8.1	6.5	158.4	1	上下両端を欠損。未製品。	010140
D	24	土坑	10	52	40	凹石	楕円礫	北西壁際底面上48cm	粗粒輝石安山岩	10.5	8.2	610.5	1	表裏両面にロート状の凹部。被熱。	010141
D	24	土坑				磨石	円礫偏平	埋没土中	粗粒輝石安山岩	7.1	6.3	304.0	1	表裏面に磨耗痕。被熱。	010142
D	24	土坑	11	52	40	石皿		埋没土中	緑色片岩	8.5	4.6	103.2	1	背面側に打痕。未製品。	010143
D	24	土坑				剥片	埋没土中	珪質頁岩			31.3	1			
D	24	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			154.0	9			
D	24	土坑				礫・礫片	埋没土中	珪質頁岩			32.0	2			
D	24	土坑				礫・礫片	埋没土中	黒色片岩			7.1	1			
E	1	住居	9	54	41	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	1.8	1.2	0.5	1	石器基部を製作時に破損。未製品。	010065
E	1	住居	10	54	41	削器	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	8.8	5.1	117.2	1	左側縁を粗く加工。刃部ha石器端部。	010066
E	1	住居				石核	板状	埋没土中	黒曜石	2.2	1.9	4.0	1	上面の剥離面から小形剥片を剥離。	010067
E	1	住居	11	54	41	加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	チャート	2.6	3.9	12.3	1	板状石核を転用。上端を粗く加工。	010069
E	1	住居				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	チャート	1.8	1.8	0.9	1	剥片端部を加工。	010068
E	1	住居				剥片	埋没土中	硬質泥岩			8.4	1			
E	1	住居				剥片	西壁際・大型礫上床面直上	黒曜石			41.4	1			
E	1	住居				剥片	埋没土中	黒曜石			24.7	29			
E	2	住居	5	54	41	加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	黒曜石	2.0	1.4	0.9	1	裏面側両側縁に微細加工。	010070
E	2	住居				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	黒色安山岩	8.4	6.0	2.9	1	剥片端部を粗く加工。	010071
E	2	住居	6	54	41	块状耳飾り	埋没土中	滑石	1.7	2.0	3.1	1	補修孔を穿つ段階で破損。破損面研磨。	010072	
E	2	住居	7	54	41	凹石	楕円偏平	南東隅床面上3cm	粗粒輝石安山岩	13.0	7.8	545.5	1	上端小口は打痕・磨耗が著しい。被熱。	010073
E	2	住居				剥片	埋没土中	珪質頁岩			92.9	1			
E	2	住居				剥片	埋没土中	硬質泥岩			43.8	4			
E	2	住居				剥片	埋没土中	黒曜石			6.3	12			
E	2	住居				剥片	埋没土中	石英			11.9	1			
E	2	住居				剥片	埋没土中	チャート			1.6	1			
E	2	住居				礫・礫片	埋没土中	砂岩			0.8	1			
E	2	住居				礫・礫片	埋没土中	閃緑岩			5.0	1			
E	2	住居				礫・礫片	埋没土中	粗粒輝石安山岩			2.5	1			
E	2	住居				礫・礫片	埋没土中	チャート			19.1	1			
E	2	住居				礫・礫片	埋没土中	緑色片岩			0.6	1			
E	1	土坑	5	58	41	石皿	不明	北壁際底面上11cm	緑色片岩	17.3	7.6	474.3	1	裏面に孔1を穿つ特徴から器種認定。	010144
E	1	土坑				剥片	埋没土中	珪質頁岩			22.5	1			
E	1	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			14.9	1			
E	4	土坑	12	59	41	石鏃	凹基無茎鏃	中央やや東寄り底面直上	チャート	1.8	1.5	0.9	1	返し部の両端を欠損。完成状態。	010146
E	4	土坑	13	59	41	石鏃	不明	北壁際底面直上	チャート	3.2	2.1	3.2	1	下半を欠損。未製品。	010147
E	4	土坑	14	59	41	打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	10.9	5.2	119.8	1	側縁加工段階で破損。未製品。	010145
E	4	土坑	15	59	41	削器	横長剥片	埋没土中	珪質頁岩	2.8	4.7	12.7	1	背面側の剥片端部を厚く加工。	010148
E	4	土坑				石核	埋没土中	チャート	2.6	2.4	10.4	1		010150	
E	4	土坑				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	8.3	14.9	511.0	1	剥片端部を粗く加工。	010151
E	4	土坑				磨石	楕円偏平	南西部底面上12cm	閃緑岩	7.6	6.9	253.8	1	表裏面とも弱い磨耗。側縁に打痕。	010152
E	4	土坑				剥片	南西壁際底面直上	黒色安山岩			28.2	1			
E	4	土坑				礫・礫片	北壁際底面直上	雲母石英片岩			144.9	1			
E	4	土坑				礫・礫片	北部底面直上	粗粒輝石安山岩			50.0	1			
E	5	土坑	2	59	41	石核	板状	埋没土1層中	チャート	2.1	4.1	9.4	1	表裏両面で小形剥片を剥離。	010153
E	5	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			64.7	1			
E	6	土坑	1	60	41	石核	板状	埋没土1層中	黒曜石	2.1	3.0	7.4	1	表裏面で小形剥片を剥離。	010154
E	6	土坑				石核	板状	埋没土中	チャート	2.9	1.7	8.1	1	裏面側を除く各辺で小形剥片を剥離。	010155
E	6	土坑				剥片	埋没土中	珪質頁岩			3.3	1			
E	6	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			50.5	3			
E	6	土坑				剥片	埋没土中	黒色安山岩			5.0	1			
E	6	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			3.7	3			
E	6	土坑				礫・礫片	埋没土中	蛇紋岩			376.1	3			
E	7	土坑	7	59	41	磨石	楕円偏平	南西部底面上2cm	粗粒輝石安山岩	11.2	8.7	601.1	1	小口から右辺側縁に敲打。被熱。	010156
E	7	土坑				剥片	埋没土中	赤碧玉			1.1	1			
E	7	土坑				剥片	北西部底面上7cm	硬質泥岩			143.4	1			
E	7	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			63.8	4			
E	7	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			5.6	6			
E	7	土坑				礫・礫片	北壁際底面上2cm	砂岩			350.5	1			
E	8	土坑				石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	1.9	0.9	0.5	1	左辺・返し部の破片。	010240
E	8	土坑				剥片	埋没土中	珪質頁岩			0.5	1			
E	8	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			51.5	5			
E	8	土坑				剥片	埋没土中	黒色安山岩			1.0	1			
E	8	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			13.0	8			
E	8	土坑				剥片	埋没土中	チャート			11.2	3			
E	9	土坑	4	60	41	楔形石器	埋没土中	チャート	3.0	2.3	7.4	1	表裏面の上下両端に対向する剥離。	010157	
E	9	土坑				石核	埋没土中	黒曜石	3.2	2.5	11.5	1		010158	
E	9	土坑	5	60	41	凹石	楕円偏平	北壁際底面上3cm	デイサイト	12.5	6.5	415.8	1	左辺の敲打が著しい。被熱。	010160
E	9	土坑				凹石	楕円礫	南部底面上10cm	流紋岩凝灰岩	10.1	7.7	589.2	1	両側縁に敲打打痕・磨耗痕。下半を欠損。	010159
E	9	土坑				剥片	南部底面上10cm	雲母石英片岩			4.2	1			
E	9	土坑				剥片	南部底面上8cm	硬質泥岩			73.3	1			
E	9	土坑				剥片	南西壁際底面上10cm	硬質泥岩			4.8	1			
E	9	土坑				剥片	埋没土中	硬質泥岩			0.5	1			
E	9	土坑				剥片	埋没土中	黒曜石			1.6	2			
E	9	土坑				剥片	埋没土中	チャート			10.4	6			
E	9	土坑				礫・礫片	埋没土中	珪質片岩			38.9	1			

第8表 米山遺跡石器類一覧表

出土遺構		遺物番号	図番号	PL番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理番号	
区	遺構番号														
E	9	土坑			礫・礫片		北壁際底面上 6 cm	砂岩			38.5	1			
E	9	土坑			礫・礫片		北壁際底面上 9 cm	砂岩			348.6	1			
E	9	土坑			礫・礫片		北壁際底面上 6 cm	ひん岩			6.5	1			
E	10	土坑			剥片		埋没土中	雲母石英片岩			3.0	1			
E	10	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			5.5	1			
E	10	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			11.7	1			
E	10	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			7.2	4			
E	10	土坑			剥片		埋没土中	チャート			0.9	1			
E	10	土坑			剥片		埋没土中	緑色片岩			2.0	1			
E	10	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			17.6	1			
E	10	土坑			礫・礫片		埋没土中	流紋岩凝灰岩			22.4	2			
E	11	土坑			磨石	不明	北壁際底面上 16cm	デイサイト	4.9	4.5	93.8		裏面倒・側縁に磨耗痕。被熱。	010161	
E	12	土坑			礫・礫片		北東部底面上 2 cm	珪質頁岩			193.6	1			
E	13	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			58.5	3			
E	13	土坑			剥片		埋没土中	黒色安山岩			1.0	1			
E	13	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			5.0	5			
E	13	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			9.2	1			
E	14	土坑	4	60	42	石鏃	平基無茎鏃	埋没土中	2.6	2.0	2.6		基部加工が先行、側縁加工は粗い。再生？	010163	
E	14	土坑	5	60	42	打製石斧	短冊形	埋没土1層中	6.9	4.0	57.0		調査時に破損。剥離面は磨耗。完成状態。	010162	
E	14	土坑	6	60	42	削器	幅広剥片	埋没土中	6.0	8.2	48.9		剥片端部を浅く粗く加工。	010164	
E	14	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			6.6	1			
E	15	土坑			加工痕ある剥片		埋没土中	黒曜石	2.8	1.2	1.4		両側縁に浅い剥離を施す。削器様？	010165	
E	15	土坑			加工痕ある剥片		埋没土中	黒曜石	2.2	2	3.9		裏面倒右側縁に薄い剥離。	010166	
E	15	土坑			剥片		埋没土中	雲母石英片岩			34.0	1			
E	15	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			214.7	5			
E	15	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			88.0	6			
E	15	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			6.6	3			
E	15	土坑			剥片		埋没土中	チャート			17.3	3			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	かこう岩圧砕岩			162.2	2			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			3.5	1			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	黒色片岩			15.6	1			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			41.1	1			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			66.3	3			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	チャート			98.9	2			
E	15	土坑			礫・礫片		埋没土中	変質安山岩			60.4	4			
E	16	土坑	6	61	42	磨製石斧	胴部破片	埋没土1層中	4.7	2.5	12.2		側縁とするには歪み大。中央横位研磨。	010167	
E	16	土坑	7	61	42	石鏃		埋没土中	黒曜石	1.4	0.4	0.2		先端部に磨耗痕が生じている。	010168
E	16	土坑			加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	2.2	1.6	2.6		上下両端を加工。被熱。	010169	
E	16	土坑			原石		埋没土中	黒曜石			33.9	1			
E	16	土坑			剥片		埋没土中	赤碧玉			9.7	2			
E	16	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			9.3	6			
E	16	土坑			剥片		埋没土中	チャート			7.3	1			
E	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			30.5	1			
E	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			69.7	3			
E	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			85.4	2			
E	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト			5.9	1			
E	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	変質安山岩			6.8	1			
E	16	土坑			礫・礫片		埋没土中	流紋岩凝灰岩			5.4	1			
E	17	土坑	4	61	42	扶杖耳飾り		南東壁際底面上 8 cm	滑石	3.4	2.2	7.5		全面に研磨痕が顕著。	010170
E	17	土坑			剥片		南西壁際底面上 13cm	珪質頁岩			51.0	1			
E	17	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			1.6	1			
E	17	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			12.8	3			
E	17	土坑			剥片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			5.7	1			
E	17	土坑			剥片		埋没土中	チャート			1.1	1			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			1.3	1			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	珪質頁岩			9.4	1			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			1.5	1			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			112.1	1			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト凝灰岩			8.3	2			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	変質安山岩			12.1	1			
E	17	土坑			礫・礫片		埋没土中	緑色片岩			45.4	2			
E	18	土坑			礫・礫片		中央部底面上 9 cm	粗粒輝石安山岩			51.0	1			
E	19	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			14.5	1			
E	19	土坑			礫・礫片		西部底面上 2 cm	デイサイト			412.4	1			
E	20	土坑			剥片		埋没土中	赤碧玉			7.0	1			
E	20	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			108.6	4			
E	20	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			10.6	4			
E	20	土坑			剥片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			36.9	1			
E	20	土坑			剥片		埋没土中	チャート			11.5	1			
E	20	土坑			礫・礫片		埋没土中	かこう岩圧砕岩			39.6	1			
E	21	土坑	1	61	42	磨石	楕円偏平	埋没土中	11.6	9.2	567.2		表裏面・右側面に磨耗・打痕。被熱。	010171	
E	22	土坑			石核	板状	埋没土中	黒曜石	2.1	3.3	9.8		上面・裏面は流理面。他は風化剥離面。	010172	
E	22	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩	2.6	2.2	15.3	1			
E	22	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			69.3	5			
E	22	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			12.4	11			
E	22	土坑			剥片		埋没土中	チャート			16.5	6			
E	22	土坑			礫・礫片		埋没土中	頁岩			3.4	1			
E	22	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			4.6	1			
E	22	土坑			礫・礫片		埋没土中	デイサイト凝灰岩			1.8	1			
E	22	土坑			礫・礫片		埋没土中	溶結凝灰岩			12.9	1			
E	23	土坑	2	61	42	石核	囊子状	埋没土中	2.4	2.4	10.4		打面転移を頻繁に行い、小形剥片剥離。	010174	
E	23	土坑			石核	角礫	埋没土中	黒曜石			6.5			上面の平坦面から小形剥片を剥離。	010173
E	23	土坑	3	61	42	磨石	円礫偏平	南東部底面上 8 cm	9.0	8.0	372.4		裏面倒は被熱して剥落。被熱破損。	010175	
E	23	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			4.0	1			

遺構一覧・遺物観察表

出土遺構		遺物 番号	図 番号	P.L 番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理 番号	
区	遺構番号														
E	23	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			11.2	1			
E	23	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			2.2	1			
E	24	土坑			石核	偏平礫	中央部底面上 3cm	デイサイト	9.2	10	524.4		表裏面で幅広剥片を求心的に剥離。	010176	
E	24	土坑	1	62	42	台石	盤状	砂岩	13.6	9.5	708.2		磨耗面が広く、石皿・砥石として使用?	010177	
E	24	土坑			剥片		埋没土中	赤碧玉			4.9	1			
E	24	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			1.6	1			
E	24	土坑			礫・礫片		埋没土中	蛇紋岩			12.7	1			
E	24	土坑			礫・礫片		中央やや北寄り底面上13cm	粗粒輝石安山岩			56.7	1			
E	25	土坑			剥片		北部底面上	硬質泥岩			11.8	1			
E	25	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			0.7	1			
E	25	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			5.3	7			
E	25	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			1.8	1			
E	26	土坑			礫・礫片		埋没土中	珪質礫岩			4.3	1			
E	27	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			46.8	1			
E	27	土坑			礫・礫片		埋没土中	チャート			52.0	1			
E	28	土坑	6	62	43	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	11.6	5.3	148.7		側縁が若干磨耗。完成状態。	010178	
E	28	土坑			加工痕ある剥片	幅広剥片	中央やや南寄り底面上 5cm	硬質泥岩	7.3	6.8	147.1		表裏面を粗く加工。製作意図不明。	010179	
E	28	土坑			剥片		北西部底面上 8cm	硬質泥岩			40.4	1			
E	28	土坑			剥片		中央部底面上 7cm	硬質泥岩			9.3	1			
E	28	土坑			剥片		西部底面上 5cm	黒曜石			7.9	3			
E	28	土坑			礫・礫片		北部底面上 2cm	デイサイト凝灰岩			16.3	5			
E	28	土坑			礫・礫片		中央やや南寄り底面上	変質安山岩			60.6	1			
E	29	土坑			石核	板状	埋没土中	黒曜石	1.7	1.3	1.6		両極剥離により小形剥片剥離。	010180	
E	29	土坑			加工痕ある剥片	小形剥片	埋没土中	黒曜石	2.3	1.5	1.5		表裏面とも周辺を浅く剥離。	010181	
E	29	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			28.5	6			
E	29	土坑			剥片		埋没土中	チャート			1.0	1			
E	29	土坑			礫・礫片		埋没土中	砂岩			4.4	1			
E	29	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			31.6	1			
E	29	土坑			礫・礫片		埋没土中	流紋岩凝灰岩			32.3	1			
E	30	土坑	5	62	43	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	5.9	4.8	58.4		剥離面縁線は新鮮。未製品?	010182	
E	30	土坑			石核	分割礫	埋没土中	黒色安山岩	6.6	6	153.6		上面の平坦面から小形剥片を剥離。	010183	
E	30	土坑			剥片		埋没土中	珪質礫岩			1.3	1			
E	30	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			65.1	3			
E	30	土坑			剥片		埋没土中	黒色安山岩			29.1	1			
E	31	土坑	1	62	43	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	1.6	1.2	0.5		左辺の返し部を欠損。完成状態。	010184	
E	31	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			4.6	3			
E	31	土坑			剥片		埋没土中	チャート			0.3	1			
E	31	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			11.1	1			
E	31	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			2.6	2			
E	32	土坑	4	63	43	磨製石斧	乳房状	変玄武岩?	3.9	3.8	41.9		両側縁に研磨面形成。頭部破片。	010186	
E	32	土坑	5	63	43	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	10.8	4.7	108.9		刃部磨耗、捲縛痕あり。刃部再生。	010185	
E	32	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			315.4	7			
E	32	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			7.8	10			
E	32	土坑			剥片		埋没土中	チャート			1.4	2			
E	32	土坑			剥片		埋没土中	緑色片岩			1.1	1			
E	32	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			63.0	1			
E	34	土坑	4	63	43	打製石斧	短冊形	硬質泥岩	10.6	5.0	138.3		刃部磨耗、捲縛痕あり。	010187	
E	34	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			10.6	2			
E	34	土坑			礫・礫片		埋没土中	珪質礫岩			163.4	1			
E	35	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			1.7	1			
E	35	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			2.3	1			
E	35	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			14.7	7			
E	38	土坑	4	63	43	磨製石斧	乳房状	珪質頁岩	11.8	4.7	188.1		刃部左辺を欠損。	010188	
E	38	土坑			石核	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	6.3	7.5	117.2		表裏面で小形幅広剥片を剥離。	010190	
E	38	土坑			石核	養子状	埋没土中	黒曜石	2.7	3	14.4		打面転移を行い、小形剥片を剥離。被熱。	010189	
E	38	土坑	5	63	43	多孔石	偏平礫	西壁際底面上15cm	デイサイト	19.6	13.2	2072.8		表裏両面に孔1を穿つ。	010191
E	38	土坑			剥片		埋没土中	赤碧玉			3.8	1			
E	38	土坑			剥片		埋没土中	黒色安山岩			2.8	1			
E	38	土坑			剥片		埋没土中	黒曜石			9.5	8			
E	38	土坑			剥片		埋没土中	石英			17.2	1			
E	38	土坑			剥片		埋没土中	チャート			2.7	1			
E	38	土坑			礫・礫片		埋没土中	凝灰質砂岩			23.2	1			
E	38	土坑			礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			5.9	1			
E	39	土坑			剥片		埋没土中	チャート			4.8	1			
E	40	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			103.5	3			
E	40	土坑			礫・礫片		埋没土中	蛇紋岩			11.0	1			
E	41	土坑			剥片		埋没土中	硬質泥岩			27.9	3			
E	41	土坑			剥片		埋没土中	緑色片岩			24.9	3			
E	41	土坑			礫・礫片		埋没土中	粗粒輝石安山岩			8.6			010192	
E	42	土坑	8	63	43	石鏃	不明	西壁際底面上21cm	硬質泥岩	11.1	6.7	245.7		表裏面・両側縁に磨耗痕。再生後、破損。	010193
E	42	土坑			石核		中央やや北寄り底面上22cm	硬質泥岩	10	9.5	299.2		被熱。	010194	
E	42	土坑			剥片		埋没土中	珪質頁岩			44.4	2			
E	42	土坑			剥片		埋没土中	石英			3.0	1			
E	42	土坑			剥片		埋没土中	チャート			6.8	1			
E	42	土坑			礫・礫片		埋没土中	雲母石英片岩			6.4	1			
E	42	土坑			礫・礫片		埋没土中	珪質変質岩			39.0	1			
E	42	土坑			礫・礫片		西部底面上11cm	砂岩			359.6	1			
E	1	ビット			剥片		埋没土中	硬質泥岩			38.5	1			
A		確認面	51	70	44	ナイフ形石器	米山寺仮駐車場	黒曜石	4.2	1.8	4.5	1	縦長剥片の打面側を先端に用いる。基部欠損。	010003	
A		確認面	52	70	44	ナイフ形石器	埋没土中	黒曜石	1.2	0.7	0.3	1	背面に比べ裏面は平坦剥離状。先端部作出を意図。	010002	
E	3	溝	53	70	44	石碓	埋没土中	黒曜石	2.3	0.9	1.9		先端部に著しい回転磨耗痕あり。	010200	
E	4	溝			石碓	埋没土中	黒曜石	2.6	1.7	2.2		厚い先端部を作出、加工は粗い。被熱。	010202		
A		確認面			石鏃	表土		黒曜石	1.4	1.1	0.2		返し部の破片。完成状態。	010209	

第9表 米山遺跡陶磁器観察表

出土遺構		遺物番号	図番号	P.L番号	器種	細分	出土位置	石材	長さ cm	幅 cm	重量 g	点数	形態の特徴	整理番号
区	遺構番号													
C	確認面				石鏃	不明	表土	チャート	2	1.4	1.3		加工状態は粗く、厚い。未製品。	010221
D	確認面	54	70	44	石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	2.6	1.8	1.7		返し部・破損面に加工、再生意図あり。	010224
E	1 溝				石鏃	凹基無茎鏃	埋没土中	黒曜石	2.5	1.1	0.7		返し部を欠損。先端の作出しは甘い。未製品。	010197
E	1 溝				石鏃	不明	埋没土中	チャート	1.5	1	0.6		先端部破片。未製品。	010196
E	3 溝	55	70	44	石鏃	不明	埋没土中	チャート	3.5	3.3	12.0		加工状態は粗く、未製品。	010199
A	確認面				石匙		表土	チャート	2.6	2	2.7		側面にノッチ状の刻離。	010210
E	確認面	60	70	44	磨製石斧	乳房状	表土埋没土中	変玄武岩?	9.1	5.7	212.6		頭部付近から斜位破損。	010227
A	確認面				打製石斧		表土	珩質頁岩	9.1	4.8	93.4		上端を欠損。風化で磨耗痕等は不明。	010206
A	確認面	57	70	44	打製石斧		表土	硬質泥岩	10.1	4.4	69.8		刃部磨耗が顕著、再生使用が明らか。	010205
A	確認面				打製石斧		表土	硬質泥岩	7.2	5.1	69.0		背面側は磨耗、裏面側剥離面は新鮮。	010207
A	確認面	58	70	44	打製石斧		表土	硬質泥岩	12.8	5.7	102.7		節理で頭部を破損。剥離面の稜は新鮮。	010208
A	16 土坑	59	70	44	打製石斧	短冊形?	埋没土中	硬質泥岩	5.1	4.0	43.1		剥離面稜線は新鮮。未製品?	010091
B	確認面				打製石斧	短冊形	表土	硬質泥岩	4.7	5	49.3		刃部磨耗が激しい。調査時に破損。	010217
B	確認面				打製石斧	短冊形	表土	硬質泥岩	11.7	4.8	122.1		刃部磨耗。刃部再生が著しい。	010218
E	3 溝				打製石斧	短冊形	埋没土中	硬質泥岩	12.1	5.1	207.0		刃部磨耗が著しい。破損後に両側縁再生。	010198
E	確認面				打製石斧	短冊形	埋没土中	珩質頁岩	7.4	5	73.0		被熱剥片素材。上半部欠損。未製品。	010226
A	確認面	56	70	44	削器		表土	珩質頁岩	12.7	7.6	196.0		浅く薄い剥離が全週。剥離面は新鮮。	010211
E	1 溝				削器	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	6	8.1	152.0		両側縁を粗く錯向剥離。	010195
E	3 溝				削器	幅広剥片	埋没土中	硬質泥岩	5.4	5.6	43.5		右辺に形状修正的な・端部に粗く加工。	010201
A	確認面				石核		表土	黒曜石	2.5	4.2	10.6		表裏面で小型剥片を剥離。	010212
E	4 溝				石核	糞子状	埋没土中	チャート	2.1	3.3	8.5		表裏面で小形幅広剥片を剥離。	010203
E	4 溝				石核		埋没土中	チャート	2.1	3.4	8.3			010204
A	確認面				加工痕ある剥片		表土	珩質頁岩	1.5	1.9	1.2		調整剥片?	010213
A	確認面				加工痕ある剥片		表土	硬質泥岩	6.3	8	58.9		剥片端部に小剥離痕が連続。	010214
A	確認面				加工痕ある剥片		表土	硬質泥岩	5.6	8.8	20.3		縦位破損した剥片の左辺を粗く加工。	010215
A	確認面				加工痕ある剥片		表土	黒曜石	3.1	1.8	2.7			010219
A	確認面				加工痕ある剥片		表土	黒曜石	1.9	1.5	1.2		側縁を粗く加工。	010220
A	2 トレンチ				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	チャート	3.1	2.7	9.1		左辺に浅い加工。	010230
D	確認面				加工痕ある剥片	幅広剥片	埋没土中	黒曜石	2	1.8	1.1		裏面側右側縁に薄い剥離。	010225
E	確認面				加工痕ある剥片		埋没土中	硬質泥岩	7.5	9.5	282.3			010228
E	試掘トレンチ				加工痕ある剥片	幅広剥片	No. 10	硬質泥岩	5.8	6	59.0		左辺を粗く加工。	010231
A	確認面	61	70	44	凹石		表土	凝灰質砂岩	8.9	6.2	31.8		表裏面・右側面にロータ状の凹部。	010216
A	23 土坑	62	70	44	凹石	楕円偏平	埋没土中	デイサイト	7.8	8.7	381.8		被熱により、全面がヒビ割れる。	010100
C	確認面				凹石	楕円偏平	表土	ひん岩	16.5	7.3	501.6		被熱して破損。	010222
E	確認面				凹石	楕円偏平	埋没土中	粗粒輝石安山岩	10.2	8.1	443.7		右辺打痕・磨耗痕が顕著、稜を形成。	010229
C	確認面	63	70	44	多孔石		表土	変はんれい岩	10.6	8.9	162.5		被熱しては暗くした可能性あり。	010223
A	確認面				剥片		埋没土中	黒曜石			36.5	14		
A	確認面				剥片		埋没土中	チャート			7.5	4		
A	23 土坑				剥片		埋没土中	チャート			0.9	1		
A	トレンチ				剥片		埋没土中	珩質頁岩			3.3	1		
A	トレンチ				剥片		埋没土中	硬質泥岩			78.9	3		
C	確認面				剥片		埋没土中	黒色安山岩			6.1	1		
D	確認面				剥片		埋没土中	黒曜石			5.3	4		
E	1 溝				剥片		埋没土中	黒曜石			4.0	2		
E	1 溝				剥片		埋没土中	チャート			0.7	2		
E	1 溝				剥片		埋没土中	デイサイトガラス			3.2	1		
E	3 溝				剥片		埋没土中	珩質頁岩			22.3	1		
E	確認面				剥片		埋没土中	珩質頁岩			13.6	1		
E	3 溝				礫・礫片		埋没土中	硬質泥岩			62.4	2		
E	4 溝				礫・礫片		埋没土中	砂岩			12.1	1		
E	4 溝				礫・礫片		埋没土中	変玄武岩			64.7	1		

第9表 米山遺跡陶磁器観察表

出土遺構	遺物番号	図番号	P.L番号	種別	出土位置	残存	製作地	口径cm	器高cm	最大径cm	底径cm	時期および器面の特徴
E	4 溝	1	67	43	筒形碗	埋没土中	肥前陶器	7.5	6.0	7.8	4.1	外面菊花文。高台内渦福字銘。内面見込み五弁花手描き。18世紀後半～19世紀初め。
E	4 溝	2	67	43	皿	埋没土中	肥前陶器		1.5残		5.1	京焼風。内面鉄絵。高台の中に押印あり。銘は不明。17世紀後半。
E	4 溝	3	67	43	小碗	埋没土中	瀬戸美濃	5.9	3.5		3.5	内面～高台上施釉。18世紀中頃～後半。

第10表 米山遺跡金属製品観察表

出土遺構	遺物番号	図番号	P.L番号	種別	出土位置	残存	素材	遺物の大きさの特徴					
E	4 溝	4	67	43	不明鉄製品	埋没土中	体部1/2	鉄鉄か	器高4.1cm。器面は亀甲様の亀裂が入り、全体に錆びている。器形は縁に直線的な部分があり、口径が19cmほどの多角形あるいは円形の盤状になると推定される。縁部外面はやや肥厚する。				
E	4 溝	5	67	43	不明鉄製品	埋没土中	柄接合部破片	鉄鉄か	縦11cm、横9.4cm、厚さ0.9cm。緩やかに屈曲する柄部に扁平な鉄板が嵌められている。鉄の材質は不明。鉄板の形状は不明。全体に錆びて彫れも看られる。				
E	4 溝	6	67	43	銭貨	埋没土中	完形	銅	銭外径 A 23.40mm、B 23.18mm。銭内径 C 18.54mm、D 18.32mm。銭厚①0.88mm、②0.87mm、③0.86mm、④0.87mm。重さ2.08g。寛永通宝。小型で薄い。新寛永。擦れて小さな穿孔がある。				

銭貨の計測値のうち、銭径A・Cは方孔の左上～右下の対角線上で外径・内径を、銭径B・Dは右上～左下の対角線上で外径・内径をノギスで計測した。銭厚は①は方孔の上、②は右、③は下、④は左の位置で同じくノギスで計測した。

報告書抄録

書名ふりがな	べいさんいせき
書名	米山遺跡
副書名	県営農免農道整備事業馬山3期に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書
シリーズ番号	493
編著者名	小島敦子 山口逸弘 岩崎泰一 大西雅広
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20100319
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	べいさんいせき
遺跡名	米山遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんかんらぐんしもにたまちおおあざまやまあざたけのうえ
遺跡所在地	群馬県甘楽郡下仁田町大字馬山字竹ノ上
市町村コード	10382
遺跡番号	0010
北緯（日本測地系）	
東経（日本測地系）	
北緯（世界測地系）	361322
東経（世界測地系）	1384814
調査期間	20080201-20080331
調査面積	1800
調査原因	農道整備
種別	集落
主な時代	縄文／弥生
遺跡概要	集落－縄文－竪穴住居12＋土坑99＋ピット19－縄文土器＋縄文石器＋石製品－弥生－土坑5－弥生土器＋弥生石器／その他－中近世以降－溝4－陶磁器
特記事項	縄文時代の前期から中期にかけての集落遺跡。鑄川の右岸上位段丘上に立地する。検出された住居は関山Ⅱ式期2軒、黒浜式期3軒、諸磯a式期1軒、諸磯b式期古段階2軒、中期前葉1軒、不明3軒である。他に住居に対応する時期の土坑が検出されている。また、弥生時代前期末および中期前半の土坑5基が検出された。

写真図版



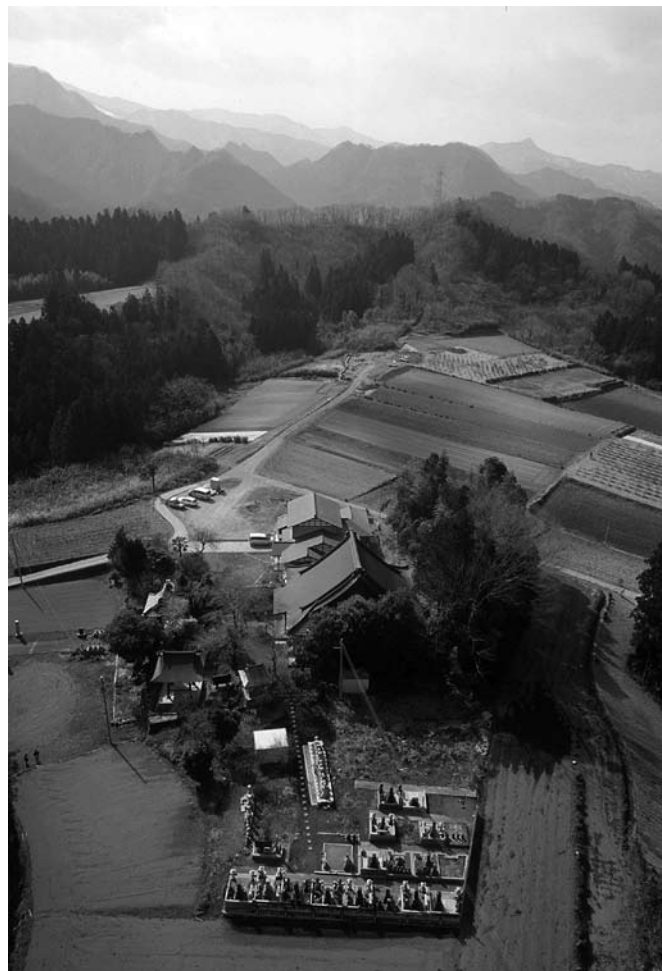
1. 米山遺跡のある鑄川右岸段丘(北西から)



2. 米山遺跡のある段丘遠景(北西から)



1. 米山遺跡のある段丘全景(南西から)



2. 米山遺跡のある段丘全景(北東から)



3. 段丘下から見上げた米山寺(東から)



4. 米山遺跡のある段丘西端(北東から)



5. A区全景(北東から)



6. A区旧石器試掘トレンチ全景(南西から)



1. A区1号土坑土層断面(南東から)



2. A区1号土坑全景(北西から)



3. A区2号土坑土層断面(南東から)



4. A区2号土坑全景(北西から)



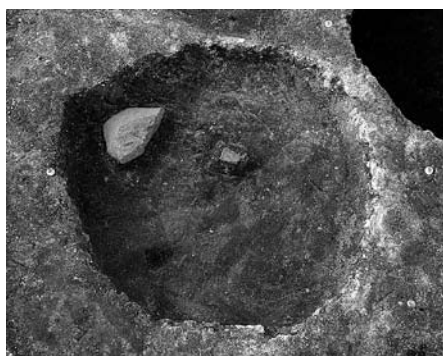
5. A区3号土坑土層断面(南東から)



6. A区3号土坑全景(南東から)



7. A区4号土坑土層断面(南東から)



8. A区4号土坑全景(南東から)



9. A区5号土坑土層断面(南東から)



10. A区5号土坑全景(南東から)



11. A区6号土坑土層断面(南東から)



12. A区6号土坑全景(南東から)



13. A区7号土坑土層断面(南東から)



14. A区7号土坑全景(北西から)



15. A区11号土坑土層断面(南東から)

PL.4



1. A区11号土坑全景(南東から)



2. A区12号土坑土層断面(南東から)



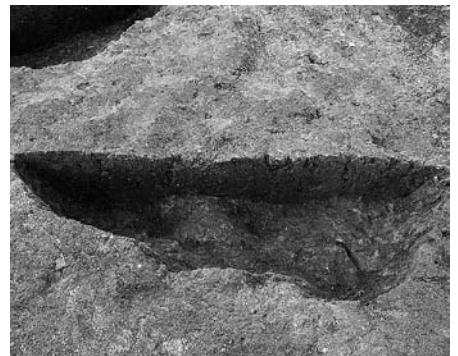
3. A区12号土坑全景(北西から)



4. A区13号土坑土層断面(東から)



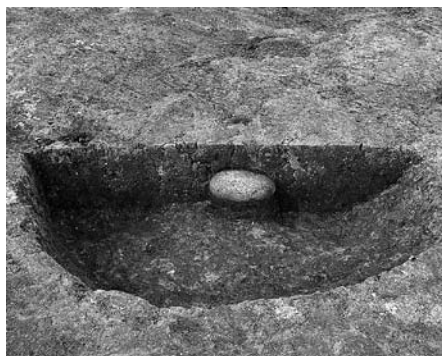
5. A区13号土坑全景(東から)



6. A区14号土坑土層断面(南東から)



7. A区14号土坑全景(南東から)



8. A区15号土坑土層断面(南東から)



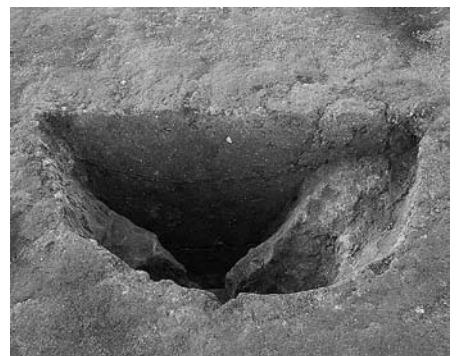
9. A区15号土坑全景(南東から)



10. A区17号土坑土層断面(南東から)



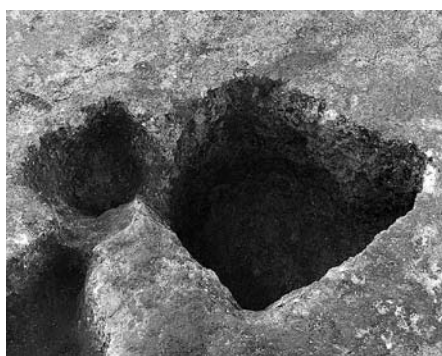
11. A区17号土坑全景(南から)



12. A区19号土坑土層断面(南東から)



13. A区20号土坑土層断面(南東から)



14. A区20号土坑・1号ピット全景(南東から)



15. A区21号土坑土層断面(北西から)



1. A区21号土坑全景(北西から)



2. A区22号土坑土層断面(南東から)



3. A区22号土坑全景(南から)



4. A区25号土坑土層断面(北西から)



5. A区25号土坑全景(北西から)



6. A区29号土坑土層断面(南東から)



7. A区30号土坑土層断面(南東から)



8. A区30号土坑全景(南から)



9. A区2号ピット土層断面(南東から)



10. A区3号ピット土層断面(南東から)



11. A区4号ピット土層断面(南東から)



12. A区5号ピット土層断面(南東から)



13. A区6号ピット土層断面(南東から)



14. A区7号ピット土層断面(南東から)



15. A区8号ピット土層断面(南東から)

PL.6



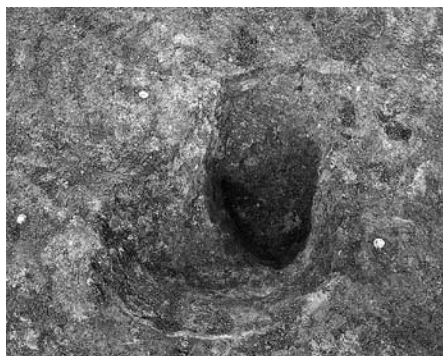
1. A区9号ピット土層断面(南東から)



2. A区10号ピット土層断面(南東から)



3. A区11号ピット土層断面(南東から)



4. A区11号ピット全景(南東から)



5. A区12号ピット土層断面(南東から)



6. A区13号ピット土層断面(南東から)



7. A区13号ピット全景(南東から)



8. A区14号ピット土層断面(南東から)



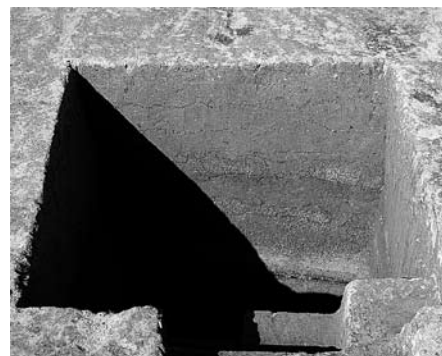
9. A区14号ピット全景(南東から)



10. A区ローム層の観察記載



11. A区旧石器試掘調査風景(南西から)



12. A区旧石器試掘1トレンチ土層断面(南東から)



13. A区旧石器試掘2トレンチ土層断面(南東から)



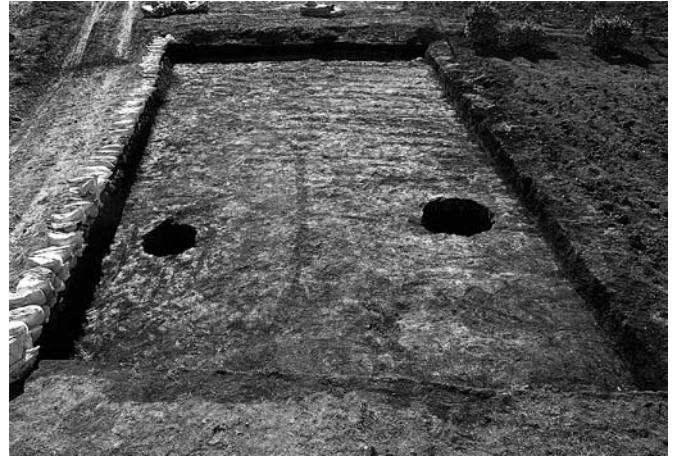
14. A区旧石器試掘3トレンチ土層断面(南東から)



15. A区旧石器試掘1トレンチ土層断面(南東から)



1. B-1区全景(北東から)



2. B-2区全景(北東から)



3. B-1区1号住居土層断面(北西から)



4. B-1区1号住居全景(西から)



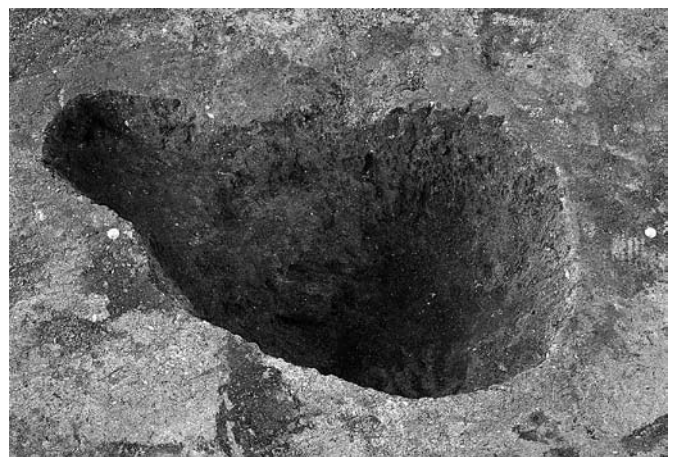
5. B-1区2号土坑土層断面(南東から)



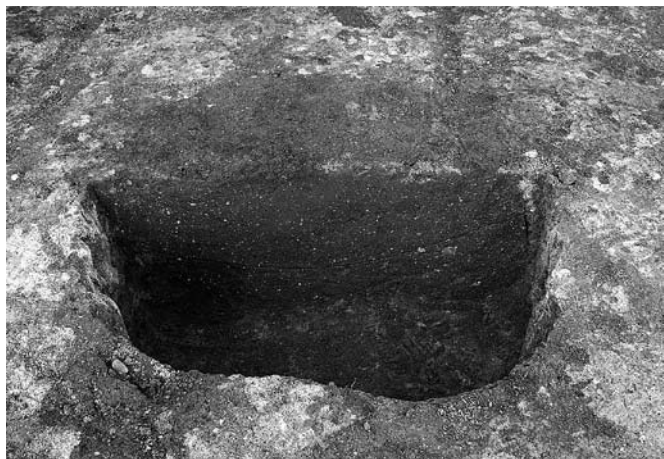
6. B-1区2号土坑全景(南東から)



7. B-1区3号土坑土層断面(南東から)



8. B-1区3号土坑全景(南東から)



1. B-2区4号土坑土層断面(南東から)



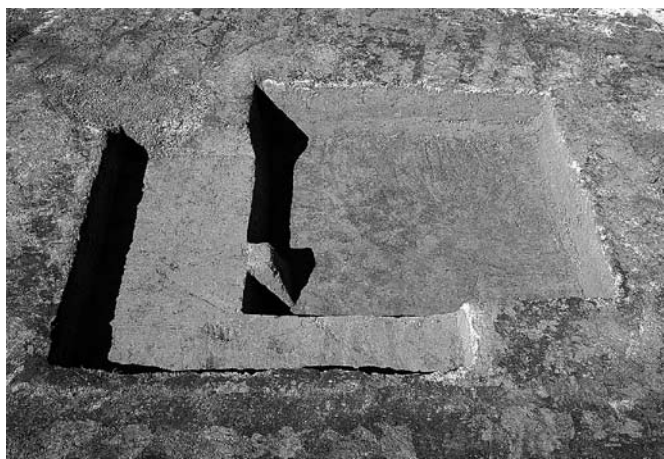
2. B-2区4号土坑全景(南東から)



3. B-2区5号土坑土層断面(南東から)



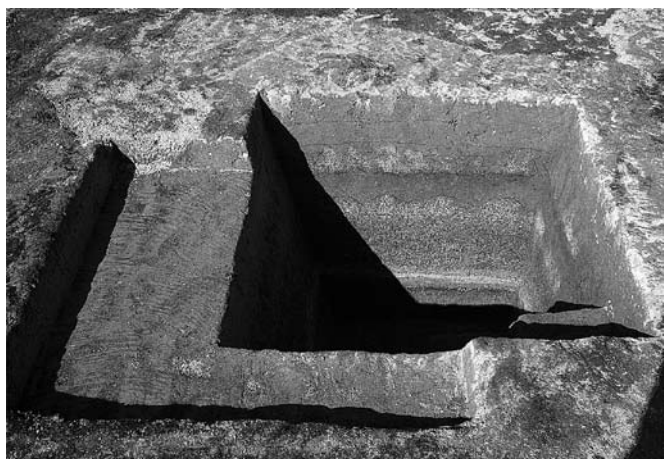
4. B-1区旧石器試掘トレンチ全景(南西から)



5. B-1区旧石器6号トレンチ遺物出土状況全景(南から)



6. B-1区旧石器6号トレンチ遺物出土状況(南から)



7. B-1区旧石器6号トレンチ土層断面(南から)



8. B-1区旧石器7号トレンチ土層断面(南から)



1. C区全景(南東から)



2. C区全景(北東から)



3. C区全景(北東から)



4. C区遺構検出作業状況(西から)



5. C区遺構掘り下げ作業状況(南西から)



6. C区1a・b号住居土層断面(東から)



7. C区1a・b号住居全景(北東から)



1. C区1a号住居床面遺物出土状況(北から)



2. C区1a号住居中央部遺物出土状況(北から)



3. C区1b号住居床面全景(北東から)



4. C区1b号住居遺物出土状況(南から)



5. C区1b号住居遺物出土状況(南から)



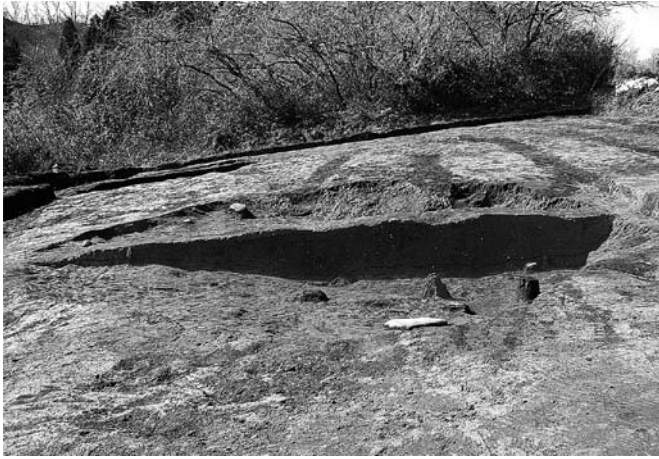
6. C区1a号住居柱穴検出状況(南から)



7. C区1b号住居柱穴検出状況(北東から)



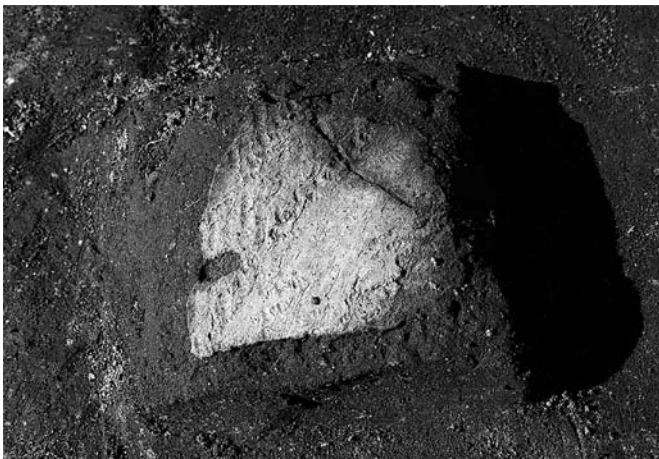
8. C区1b号住居柱穴検出状況(北東から)



1. C区2号住居土層断面(北東から)



2. C区2号住居床面全景(北東から)



3. C区2号住居遺物出土状況(北から)



4. C区2号住居遺物出土状況(北から)



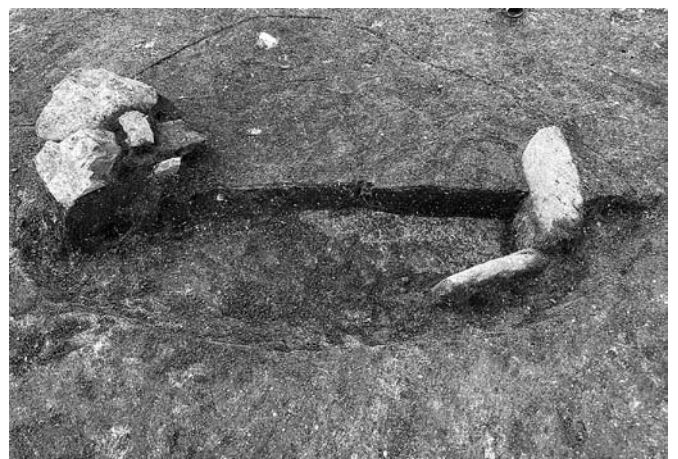
5. C区2号住居床面遺物出土状況(北東から)



6. C区2号住居遺物出土状況(南から)



7. C区2号住居炉検出状況(北東から)



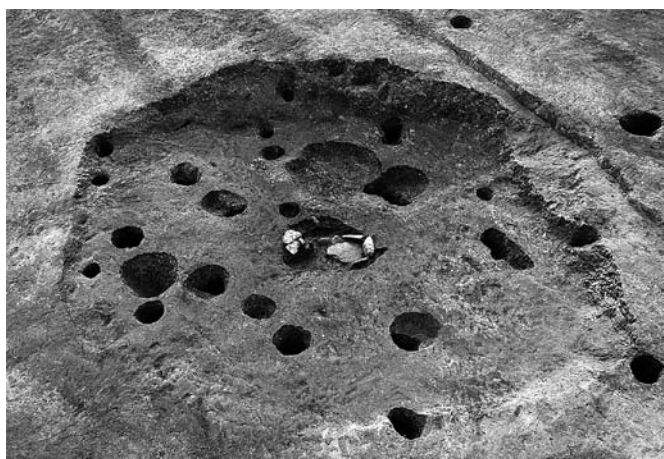
8. C区2号住居炉土層断面(北東から)



1. C区2号住居炉全景(北東から)



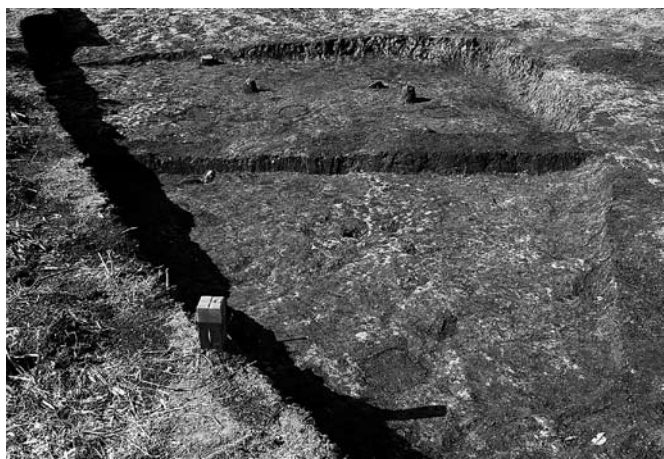
2. C区2号住居炉掘り方全景(北東から)



3. C区2号住居全景(北東から)



4. C区2号住居全景(南東から)



5. C区3号住居土層断面(北東から)



6. C区3号住居全景(南西から)



7. C区3号住居炉土層断面(北西から)



8. C区3号住居炉全景(南西から)



1. C区4号住居土層断面(南東から)



2. C区4号住居全景(北東から)



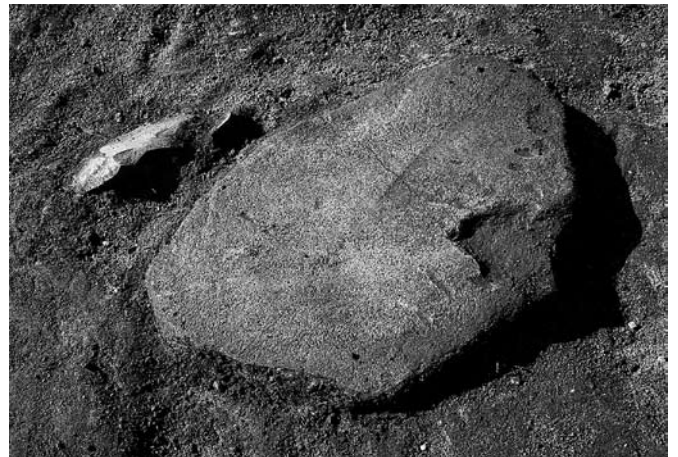
3. C区4号住居炉検出状況(北東から)



4. C区4号住居炉土層断面(北東から)



5. C区4号住居炉全景(北東から)



6. C区4号住居遺物出土状況(北東から)



7. C区5号住居土層断面(南東から)



8. C区5号住居全景(北東から)



1. C区1号土坑土層断面(北東から)



2. C区1号土坑全景(北東から)



3. C区2号土坑土層断面(南から)



4. C区2号土坑全景(西から)



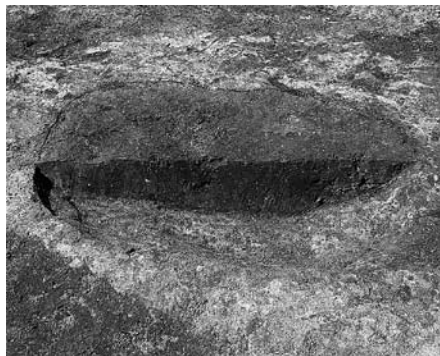
5. C区3号土坑土層断面(南から)



6. C区3号土坑遺物出土状況(北から)



7. C区3号土坑全景(南から)



8. C区4号土坑土層断面(東から)



9. C区4号土坑全景(東から)



10. C区5号土坑土層断面(南東から)



11. C区5号土坑全景(南東から)



12. C区6号土坑土層断面(南東から)



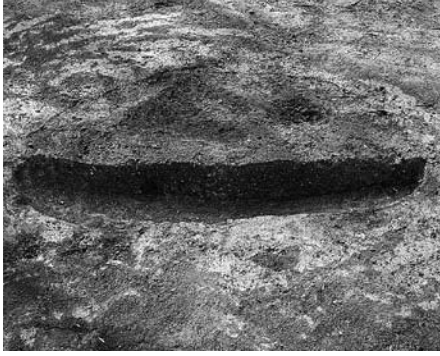
13. C区6号土坑全景(東から)



14. C区7号土坑土層断面(南東から)



15. C区7号土坑全景(北西から)



1. C区8号土坑土層断面(東から)



2. C区8号土坑全景(東から)



3. C区9号土坑土層断面(南東から)



4. C区9号土坑全景(南東から)



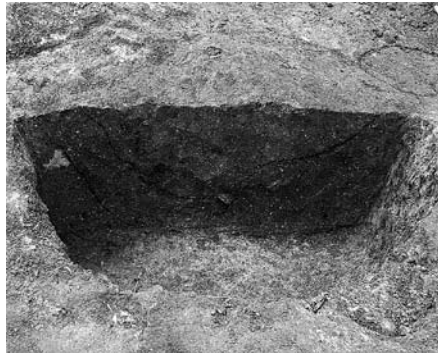
5. C区10号土坑土層断面(南西から)



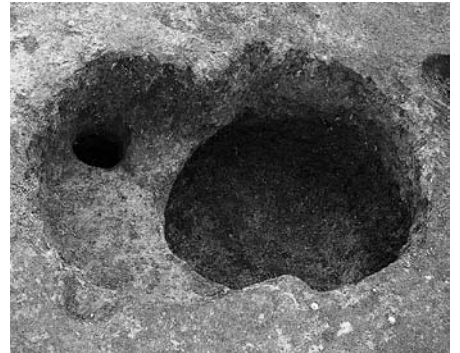
6. C区10号土坑全景(南西から)



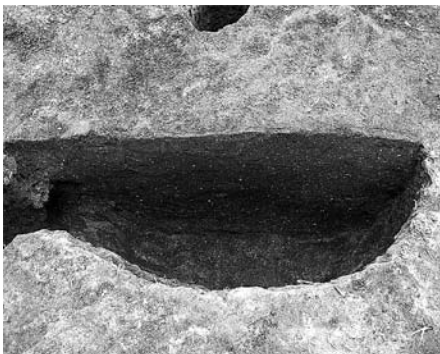
7. C区11号土坑全景(東から)



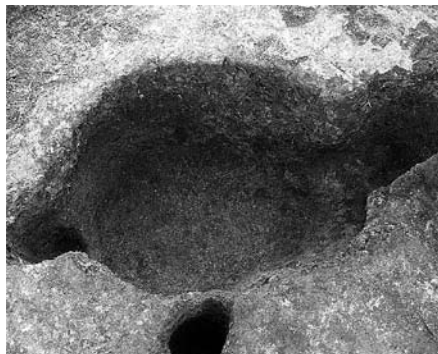
8. C区12号土坑土層断面(南西から)



9. C区12号土坑全景(北から)



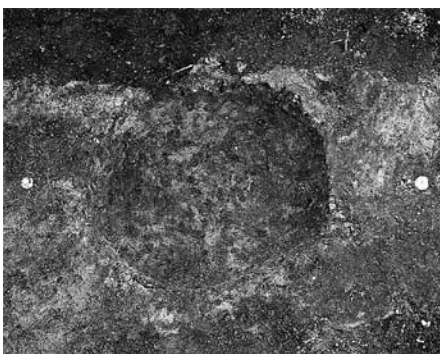
10. C区13号土坑土層断面(南から)



11. C区13号土坑全景(南から)



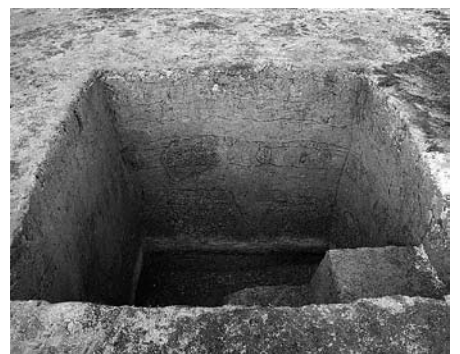
12. C区14号土坑土層断面(北東から)



13. C区1号ピット全景(北西から)



14. C区旧石器試掘トレンチ全景(北東から)



15. C区旧石器試掘10トレンチ全景(北東から)



1. D-1区全景(北東から)



2. D-1-1区全景(南西から)



3. D-1-2区全景(南西から)



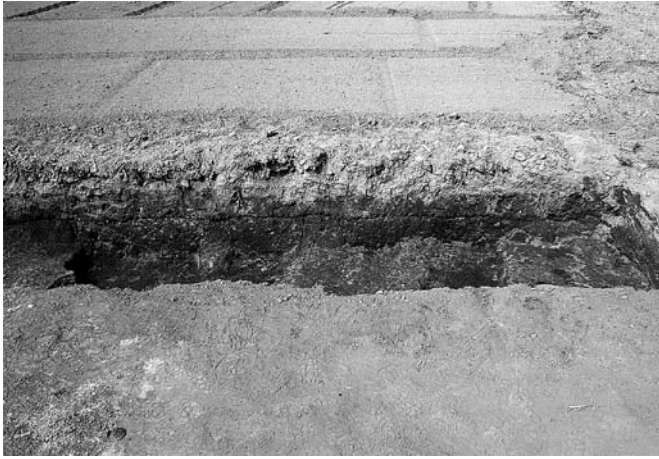
4. D-1-3区全景(南西から)



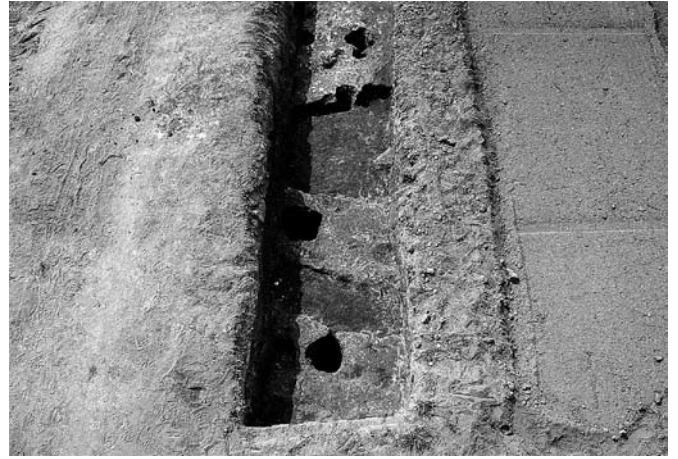
5. D-2区全景(南西から)



6. D-2区全景(北東から)



1. D-1-2区 1号住居土層断面(南東から)



2. D-1-2区 1号住居全景(東から)



3. D-1-2区 2号住居土層断面(南から)



4. D-1-2区 2号住居全景(東から)



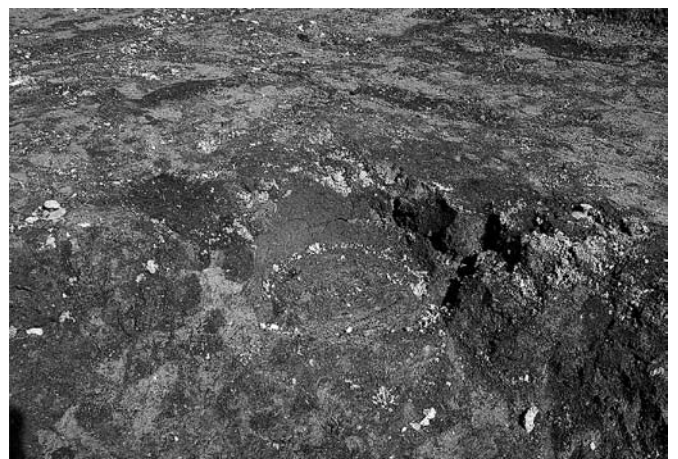
5. D-1-2区 2号住居遺物出土状況(東から)



6. D-1-2区 3号住居土層断面(南東から)



7. D-2区 3号住居全景(西から)



8. D-2区 3号住居炉全景(西から)



1. D区1号土坑土層断面(南東から)



2. D区1号土坑全景(南西から)



3. D区2号土坑土層断面(南東から)



4. D区2号土坑遺物出土状況全景(南東から)



5. D区2号土坑全景(南東から)



6. D区3号土坑土層断面(南西から)



7. D区3号土坑全景(南東から)



8. D区4号土坑土層断面(南東から)



9. D区4号土坑全景(南東から)



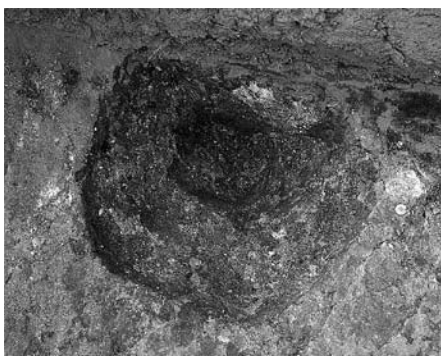
10. D区5号土坑土層断面(南東から)



11. D区5号土坑全景(南東から)



12. D区6号土坑土層断面(南東から)



13. D区6号土坑全景(南東から)



14. D区7号土坑土層断面(南東から)



15. D区7号土坑全景(南東から)



1. D区8号土坑土層断面(南東から)



2. D区9号土坑土層断面(南東から)



3. D区9号土坑全景(南東から)



4. D区10号土坑土層断面(南西から)



5. D区10号土坑全景(南東から)



6. D区11号土坑土層断面(南東から)



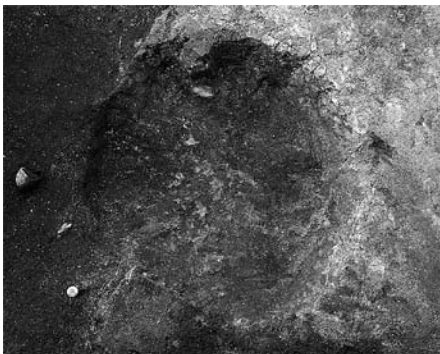
7. D区11号土坑全景(南東から)



8. D区12号土坑全景(南東から)



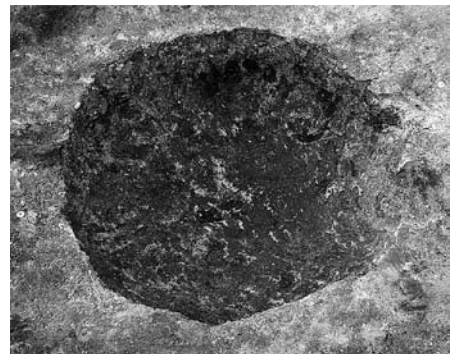
9. D区13号土坑土層断面(南東から)



10. D区13号土坑全景(東から)



11. D区14号土坑土層断面(東から)



12. D区14号土坑全景(東から)



13. D区15号土坑土層断面(南東から)



14. D区15号土坑全景(南東から)



15. D区16号土坑全景(南東から)



1. D区17号土坑土層断面(南東から)



2. D区17号土坑全景(南東から)



3. D区18号土坑土層断面(南西から)



4. D区18号土坑全景(南東から)



5. D区19号土坑土層断面(南東から)



6. D区19号土坑全景(南東から)



7. D区20号土坑土層断面(南東から)



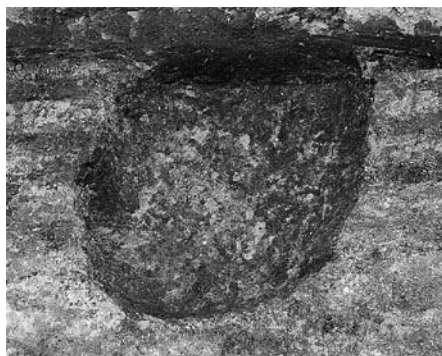
8. D区20号土坑全景(南東から)



9. D区21号土坑全景(南東から)



10. D区22号土坑土層断面(北西から)



11. D区22号土坑全景(北西から)



12. D区23号土坑土層断面(西から)



13. D区23号土坑全景(南東から)



14. D区24号土坑土層断面(南東から)



15. D区24号土坑全景(南西から)



1. E-2-1区全景(南東から)



2. E-2-1区全景(南西から)



3. E-1-1区・2-2区全景(南から)



4. E-2-2区全景(南東から)



5. E-2-3区全景(南西から)



6. E-2-4区全景(南西から)



7. E-2-5区全景(南東から)



1. E-2-1区調査風景(南東から)



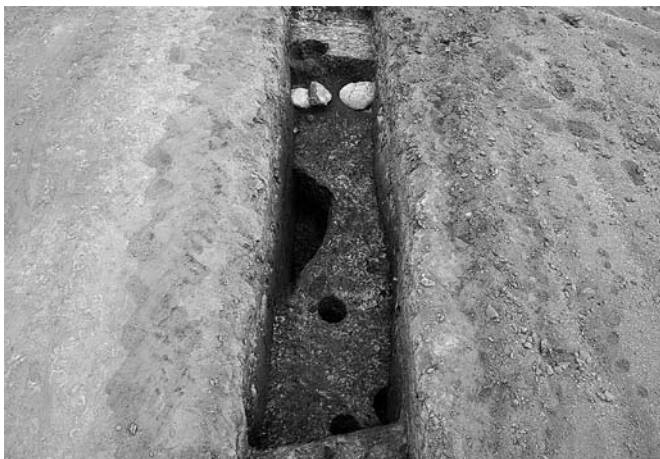
2. E-1-1区・2-2区調査風景(南から)



3. E-1-1区1号住居土層断面(南東から)



4. E-1-1区1号住居床面全景(南西から)



5. E-1-1区1号住居全景(南東から)



6. E-1-1区1号住居遺物出土状態(南東から)



7. E-2-1区2号住居全景(南から)



8. E-2-1区2号住居遺物出土状態(南東から)



1. E区1号土坑土層断面(南東から)



2. E区1号土坑全景(南東から)



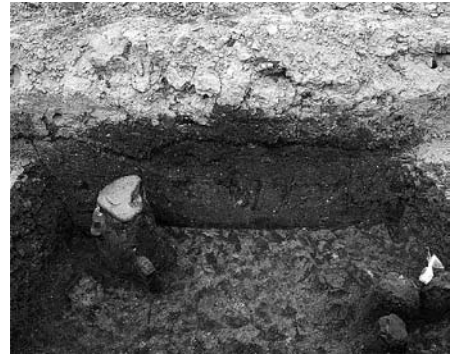
3. E区2号土坑土層断面(南東から)



4. E区2号土坑全景(南東から)



5. E区3号土坑全景(南東から)



6. E区4号土坑土層断面(南東から)



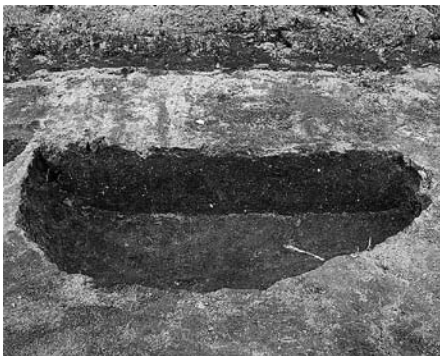
7. E区4号土坑全景(南東から)



8. E区5号土坑土層断面(南東から)



9. E区5号土坑全景(南東から)



10. E区6号土坑土層断面(南東から)



11. E区6号土坑全景(南東から)



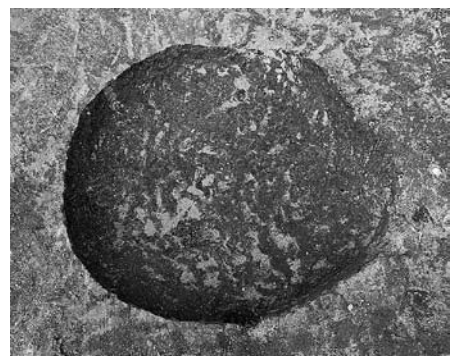
12. E区7号土坑土層断面(南東から)



13. E区7号土坑全景(南東から)



14. E区8号土坑土層断面(南東から)



15. E区8号土坑全景(南東から)



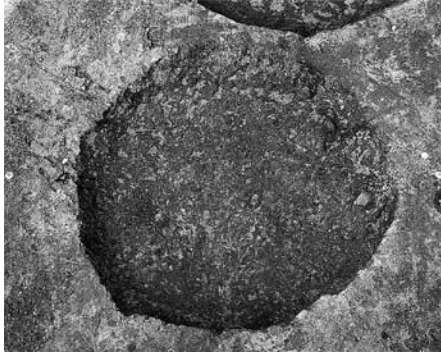
1. E区9号土坑土層断面(南東から)



2. E区9号土坑全景(南東から)



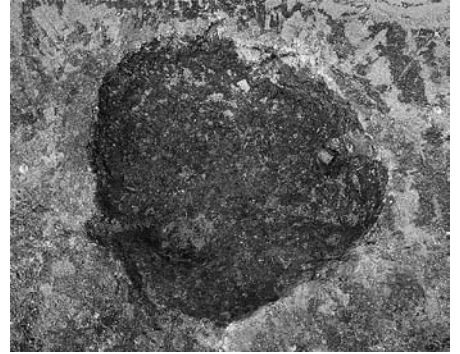
3. E区10号土坑土層断面(南東から)



4. E区10号土坑全景(南東から)



5. E区11号土坑土層断面(東から)



6. E区11号土坑全景(東から)



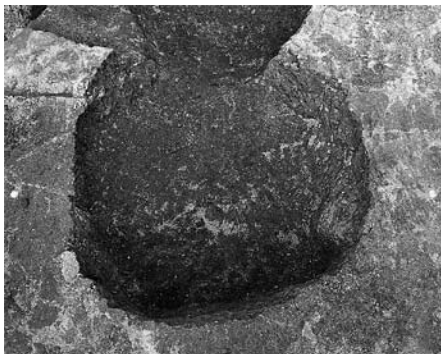
7. E区12号土坑土層断面(北西から)



8. E区12号土坑全景(南東から)



9. E区13号土坑土層断面(南東から)



10. E区13号土坑全景(南東から)



11. E区14号・15号土坑土層断面(南東から)



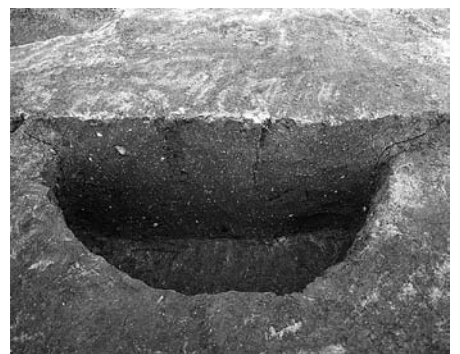
12. E区14号土坑全景(南東から)



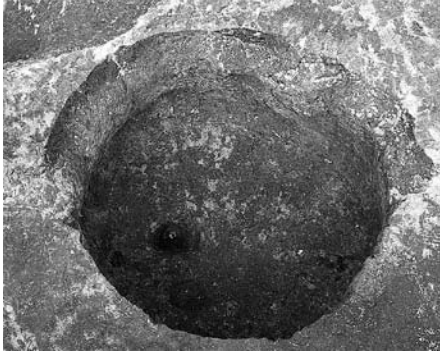
13. E区15号土坑土層断面(南東から)



14. E区15号土坑全景(南東から)



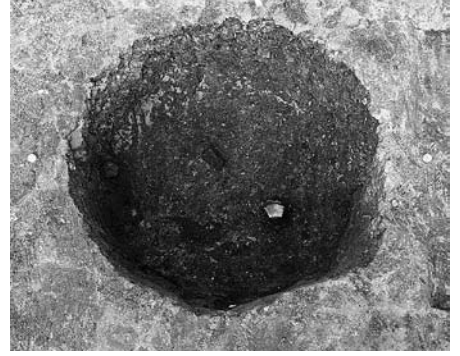
15. E区16号土坑土層断面(南東から)



1. E区16号土坑全景(南東から)



2. E区16号土坑遺物出土状況(底面)



3. E区17号土坑全景(南東から)



4. E区18号・19号土坑土層断面(南東から)



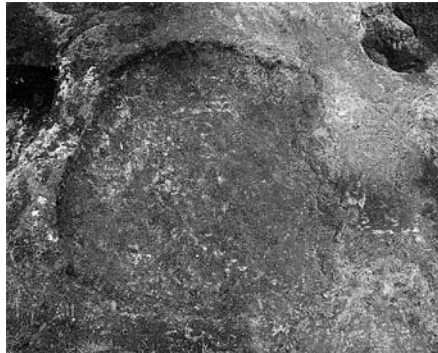
5. E区20号土坑土層断面(南東から)



6. E区20号土坑全景(南東から)



7. E区22号土坑土層断面(北東から)



8. E区22号土坑全景(南東から)



9. E区23号土坑全景(南東から)



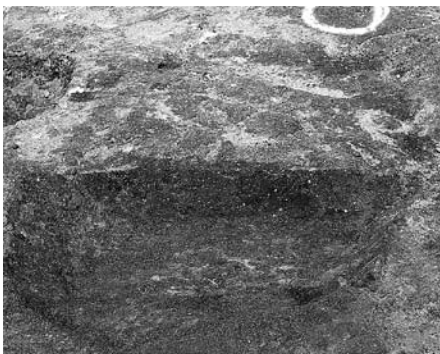
10. E区24号土坑全景(南東から)



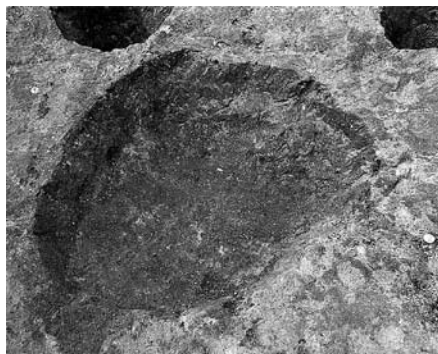
11. E区25号土坑土層断面(東から)



12. E区25号土坑全景(東から)



13. E区26号土坑土層断面(南東から)



14. E区26号土坑全景(東から)



15. E区27号土坑土層断面(東から)



1. E区27号土坑全景(東から)



2. E区28号土坑全景(南東から)



3. E区29号土坑土層断面(南東から)



4. E区29号土坑全景(南西から)



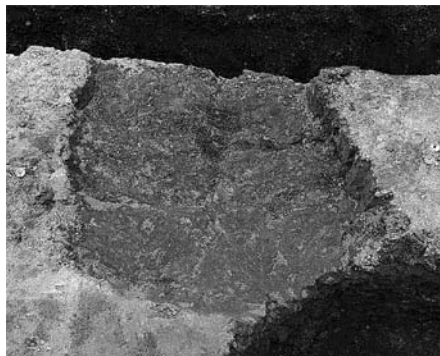
5. E区30号土坑土層断面(南東から)



6. E区30号土坑全景(南東から)



7. E区31号土坑土層断面(南西から)



8. E区31号土坑全景(南西から)



9. E区32号土坑土層断面(南東から)



10. E区32号土坑全景(南西から)



11. E区33号土坑土層断面(南西から)



12. E区33号土坑全景(南西から)



13. E区34号土坑土層断面(南西から)



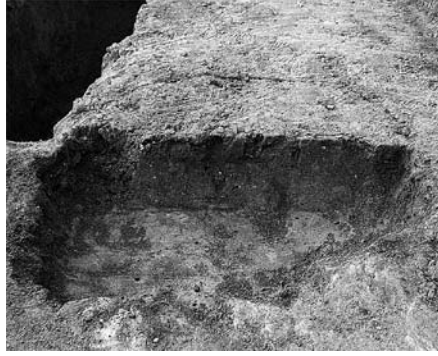
14. E区34号土坑全景(南西から)



15. E区35号土坑土層断面(南東から)



1. E区35号土坑全景(南西から)



2. E区36号土坑土層断面(南東から)



3. E区36号土坑全景(南西から)



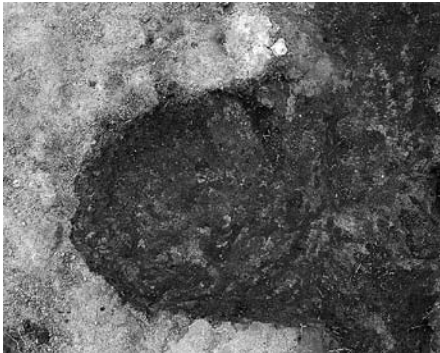
4. E区38号土坑土層断面(南東から)



5. E区38号土坑全景(南西から)



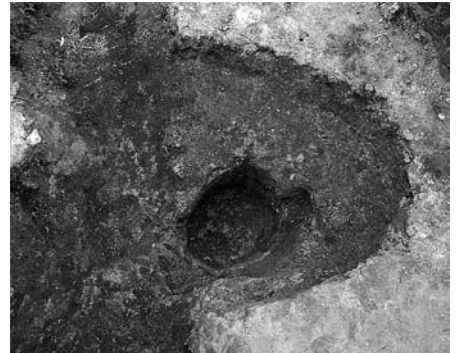
6. E区39号土坑土層断面(南東から)



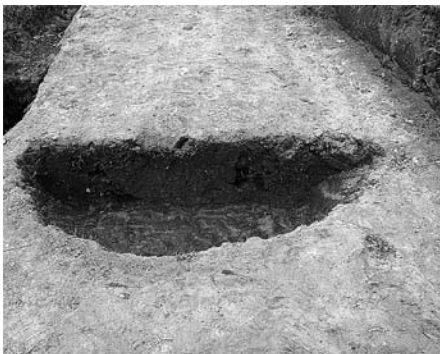
7. E区39号土坑全景(南東から)



8. E区40号土坑土層断面(南東から)



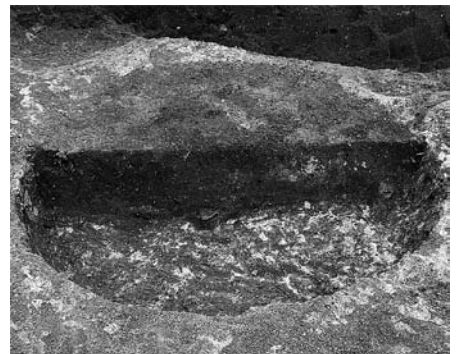
9. E区40号土坑全景(南東から)



10. E区41号土坑土層断面(南東から)



11. E区41号土坑全景(南東から)



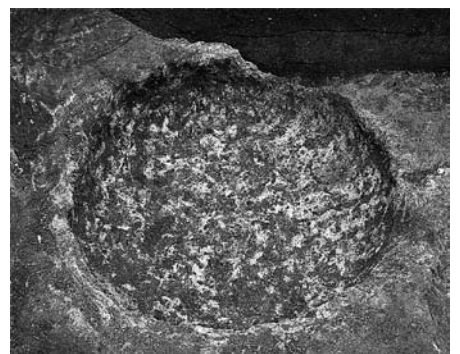
12. E区42号土坑土層断面(南東から)



13. E区42号土坑遺物出土状態全景(南東から)



14. E区42号土坑遺物出土状態(南東から)



15. E区42号土坑全景(南東から)



1. E区1号溝土層断面(南東から)



2. E区2号溝土層断面(南東から)



3. E区2号溝全景(南東から)



4. E区3号溝土層断面(南東から)



5. E区4号溝土層断面(南東から)



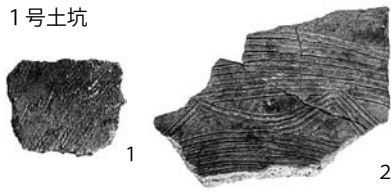
6. 埋め戻し作業



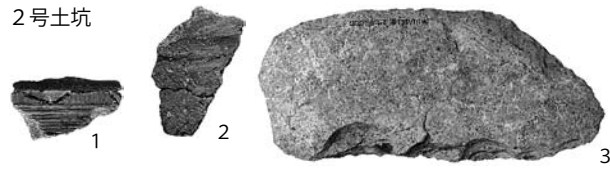
7. 埋め戻し完了状況

A区の出土遺物

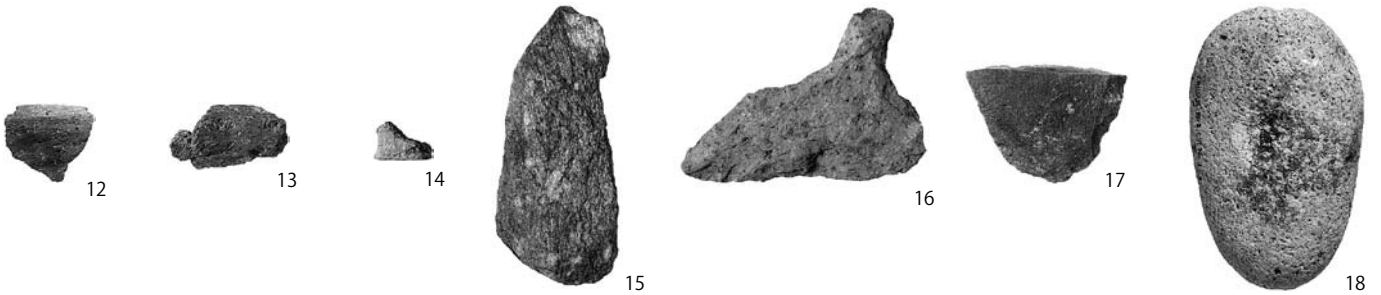
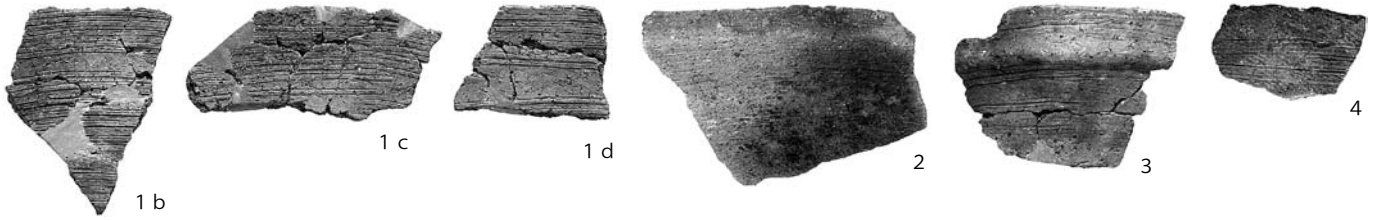
1号土坑



2号土坑



3号土坑



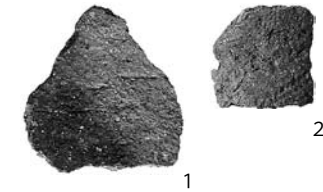
4号土坑



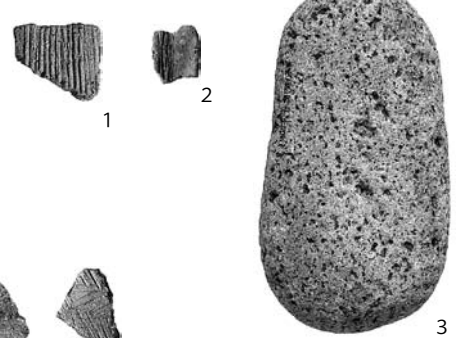
5号土坑



6号土坑



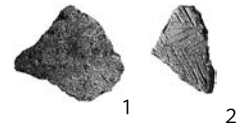
7号土坑



11号土坑



12号土坑



15号土坑



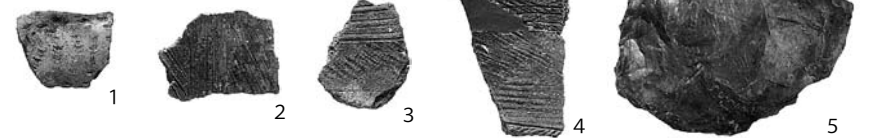
17号土坑



19号土坑



20号土坑



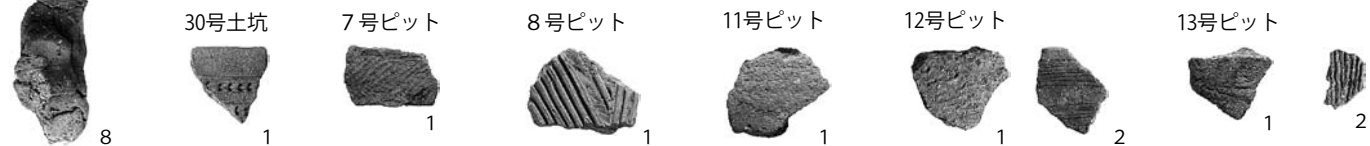
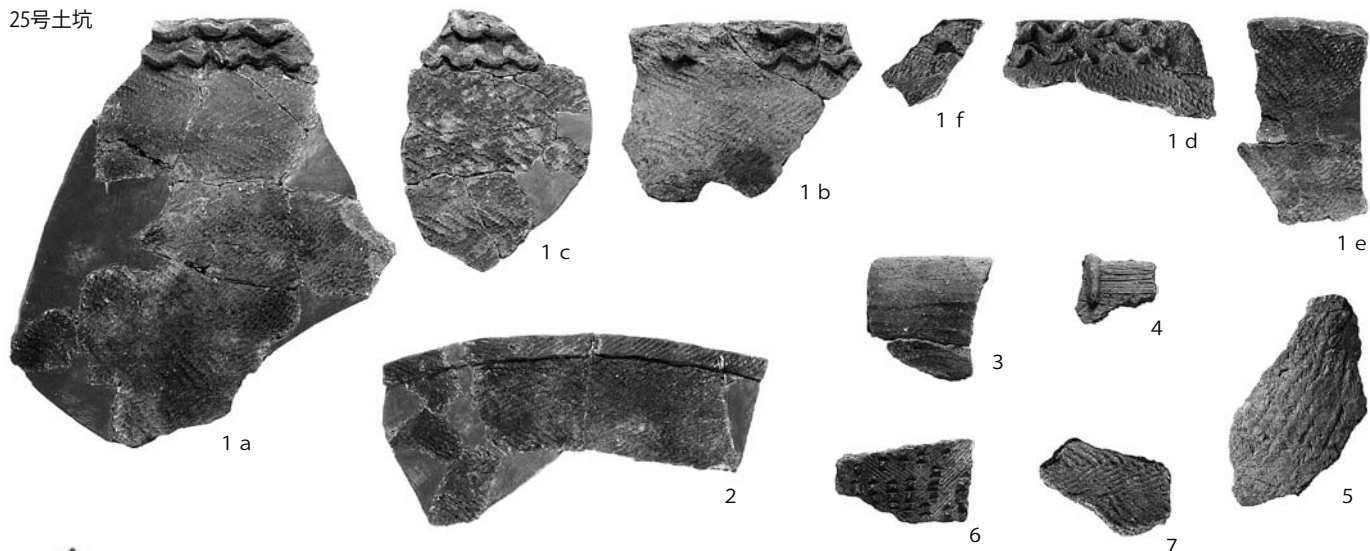
PL.30

A区の出土遺物

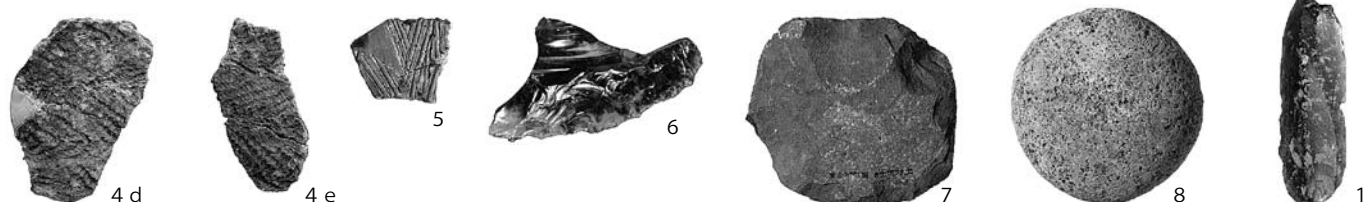
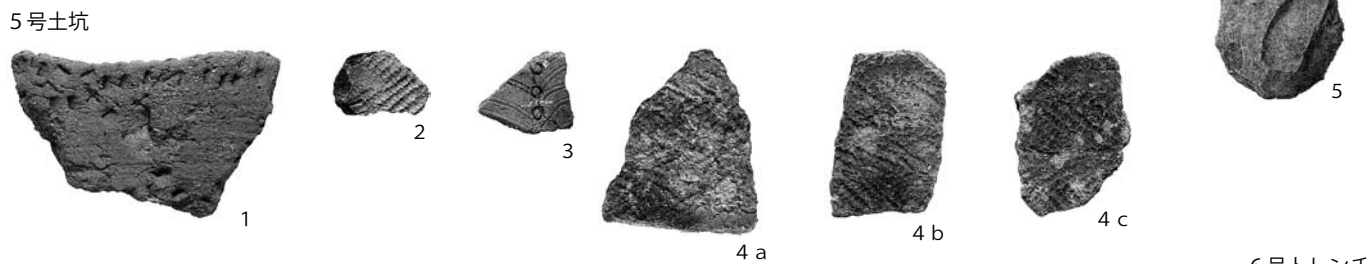
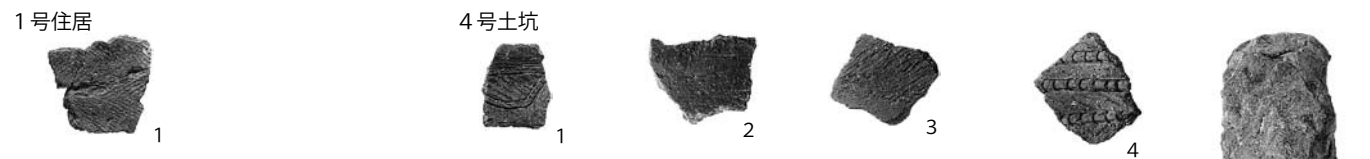
21号土坑



25号土坑

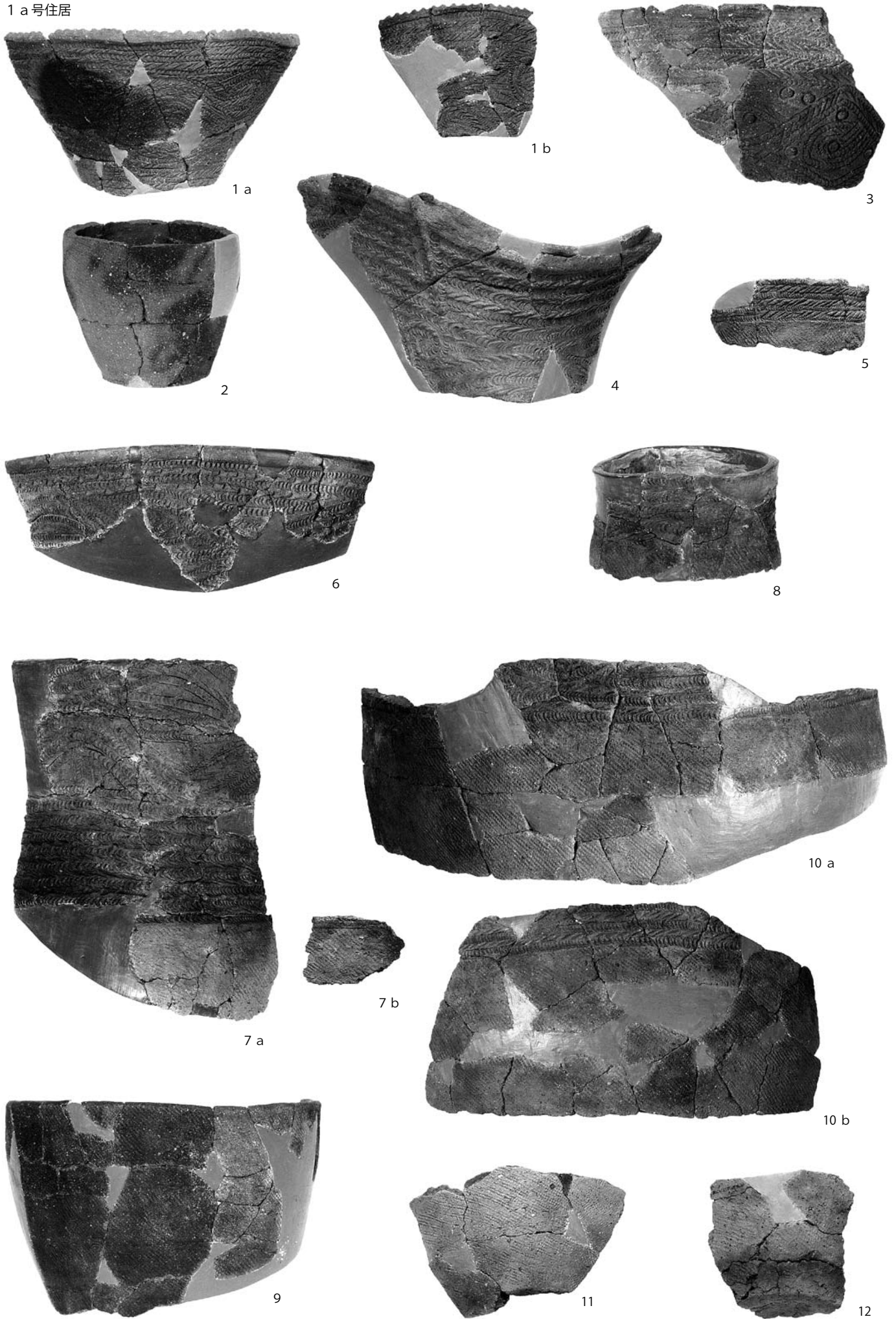


B区の出土遺物

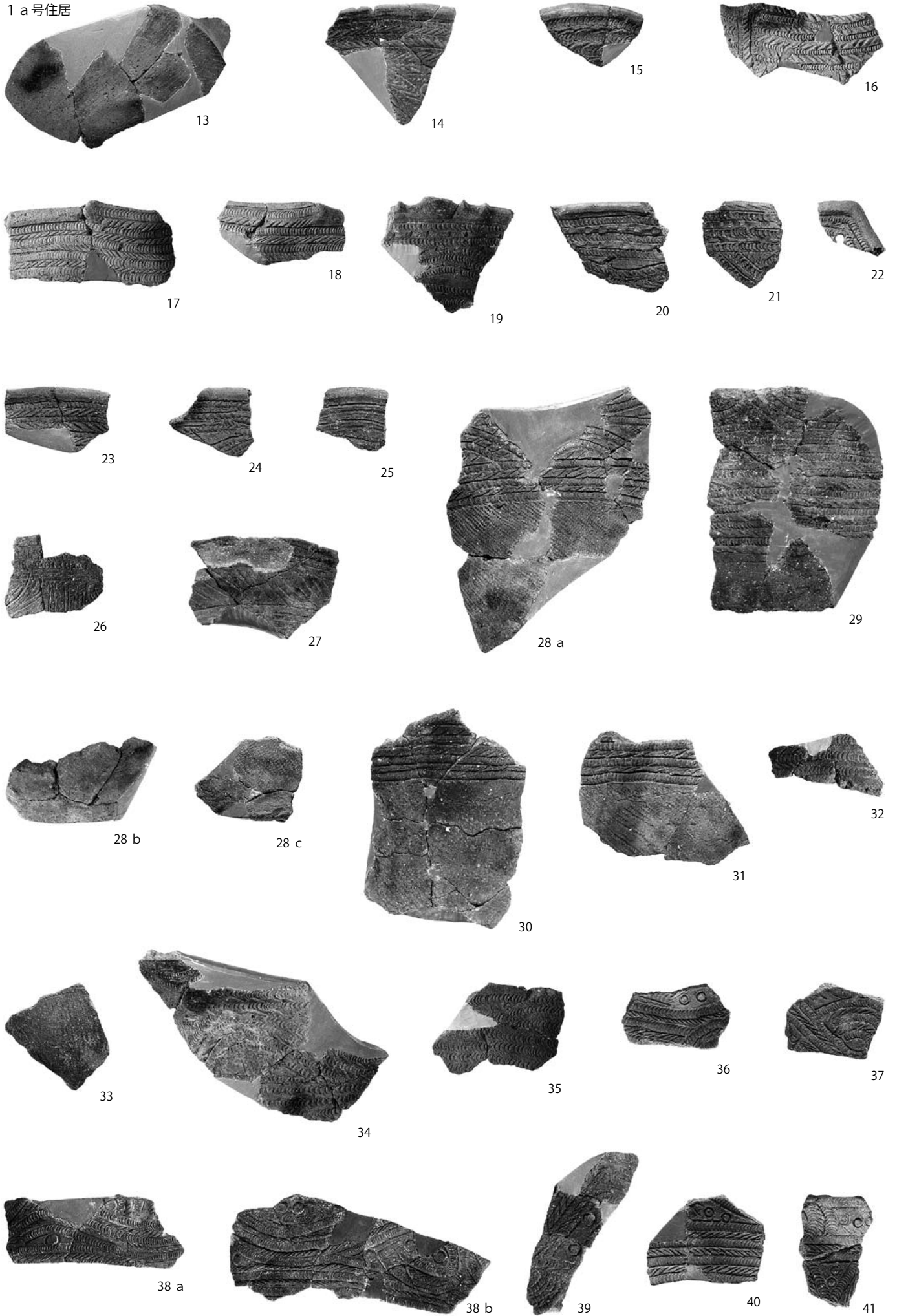


C区の出土遺物

1 a号住居

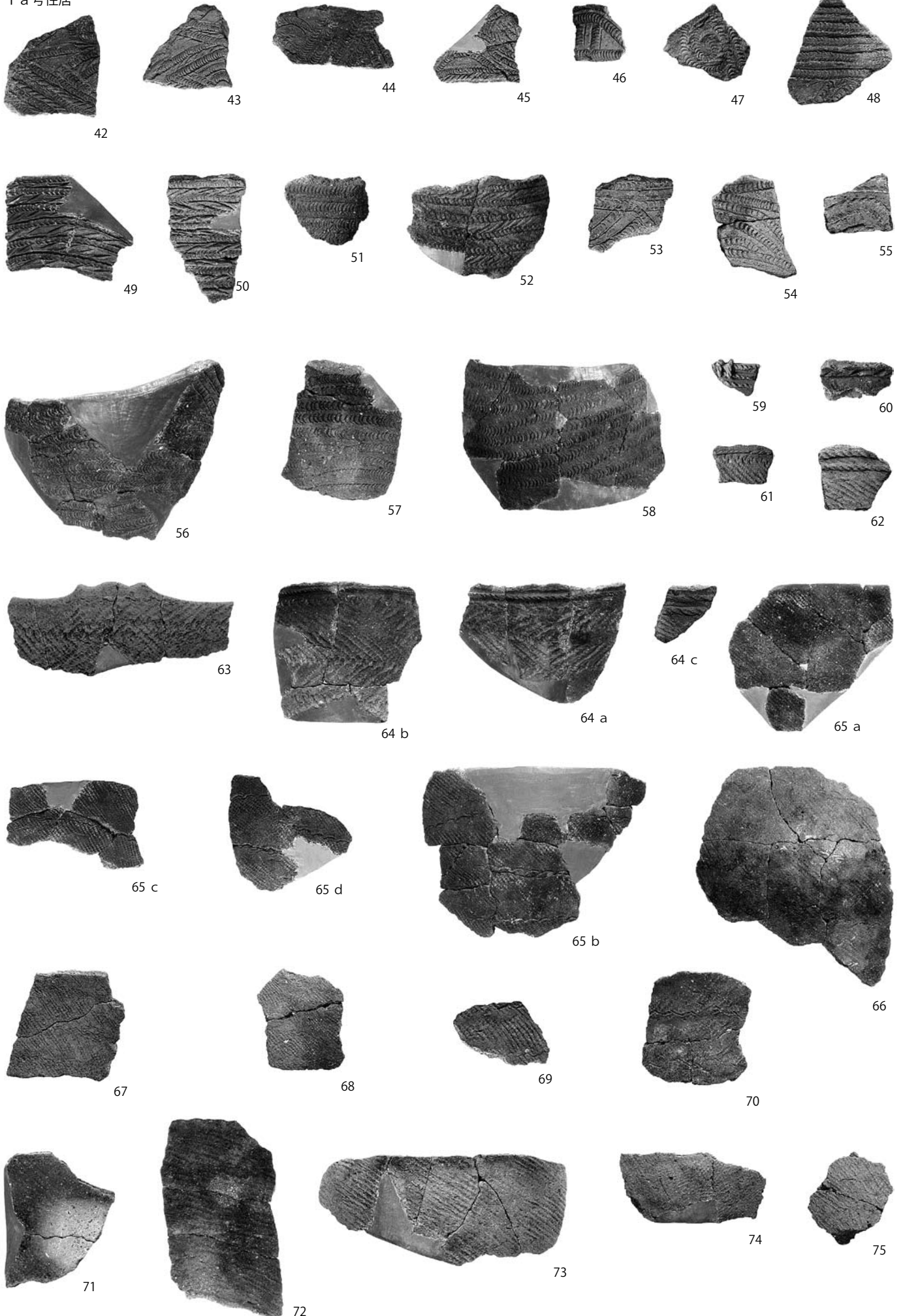


1 a号住居



C区の出土遺物

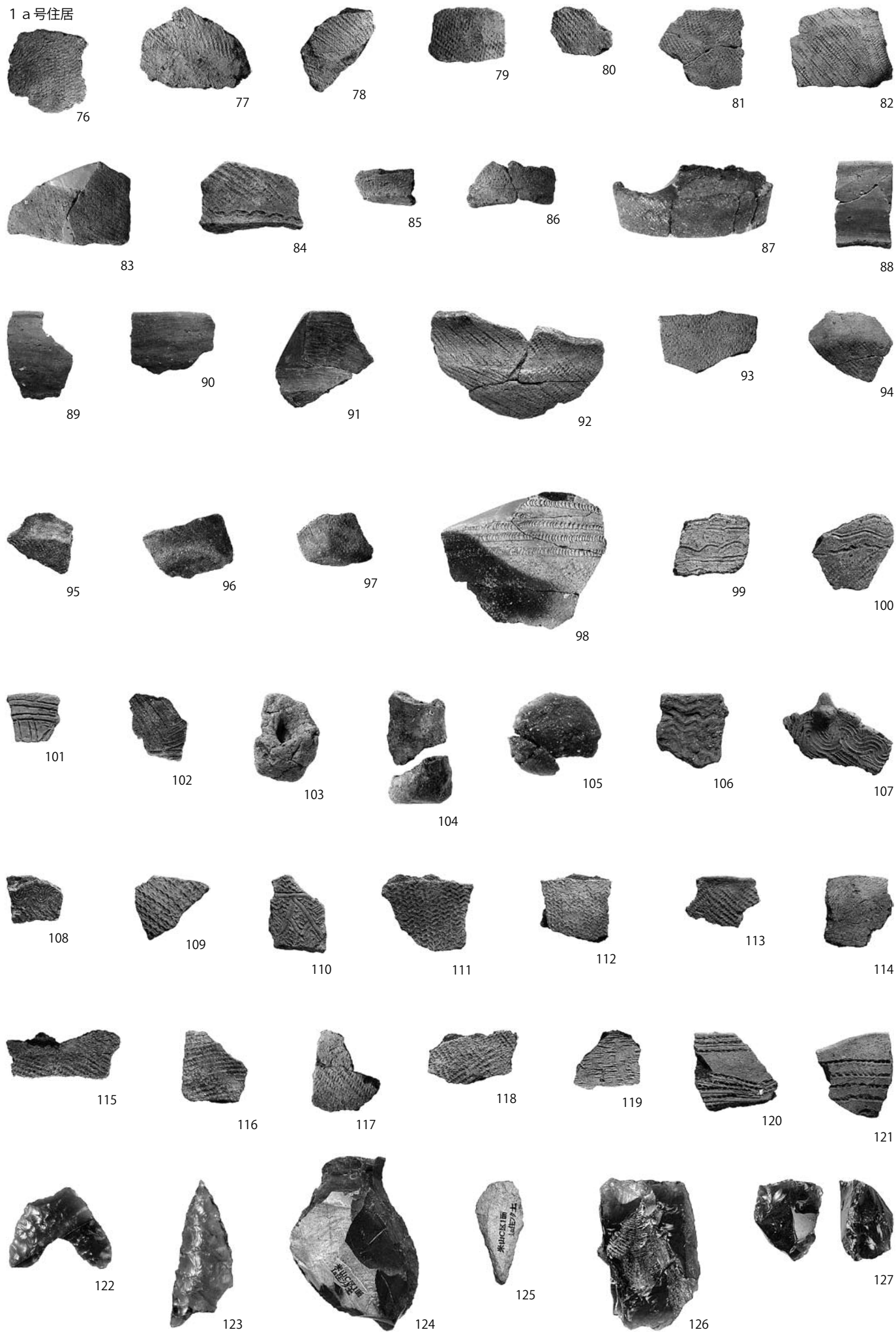
1 a号住居



PL.34

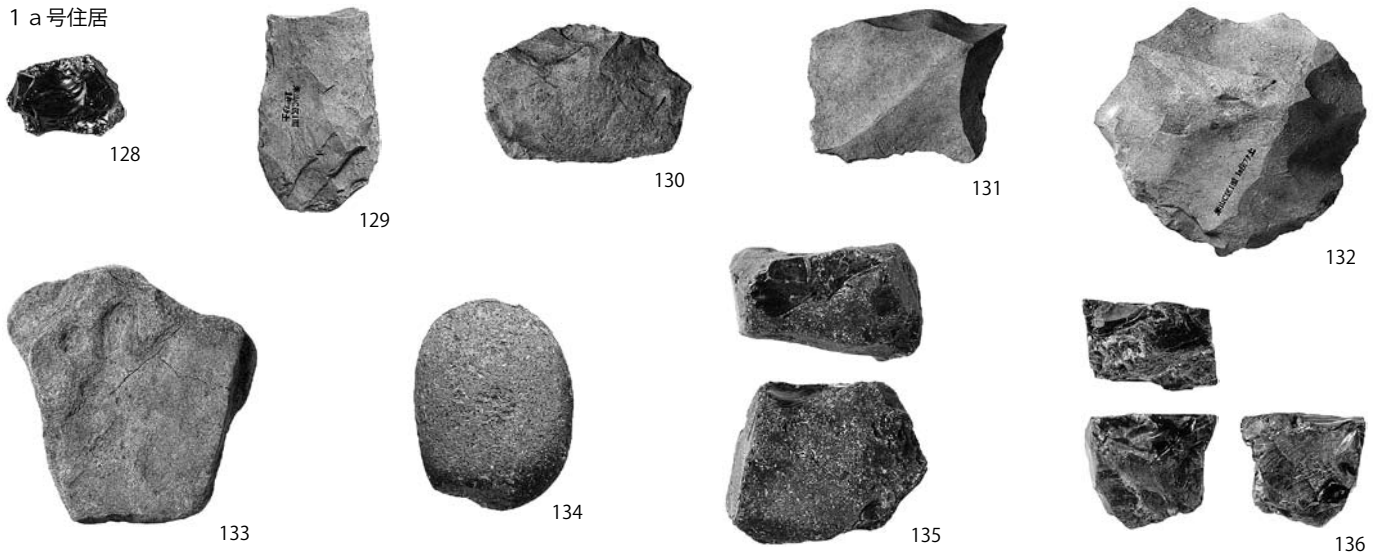
C区の出土遺物

1 a号住居



C区の出土遺物

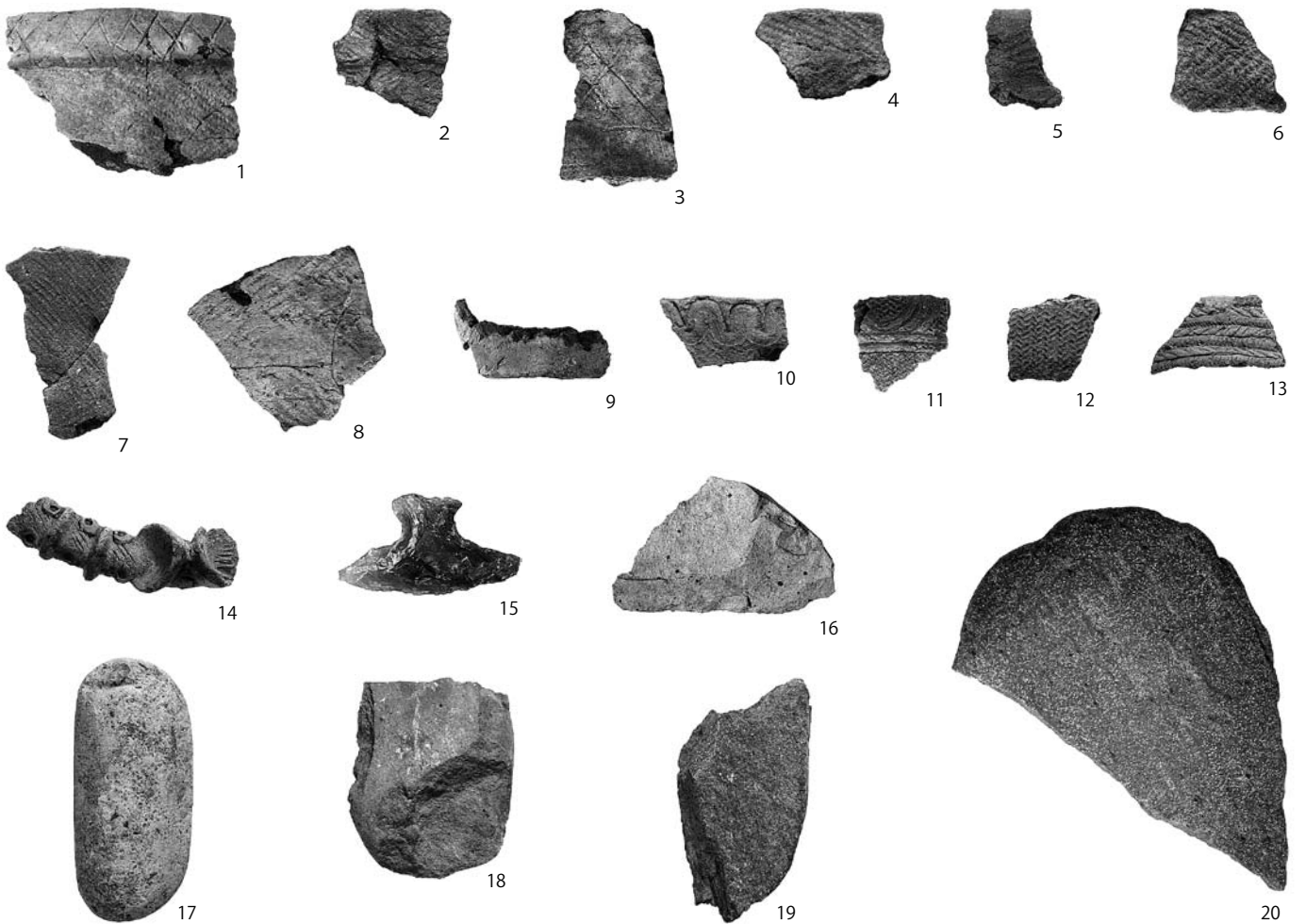
1 a号住居



1 b号住居



2号住居



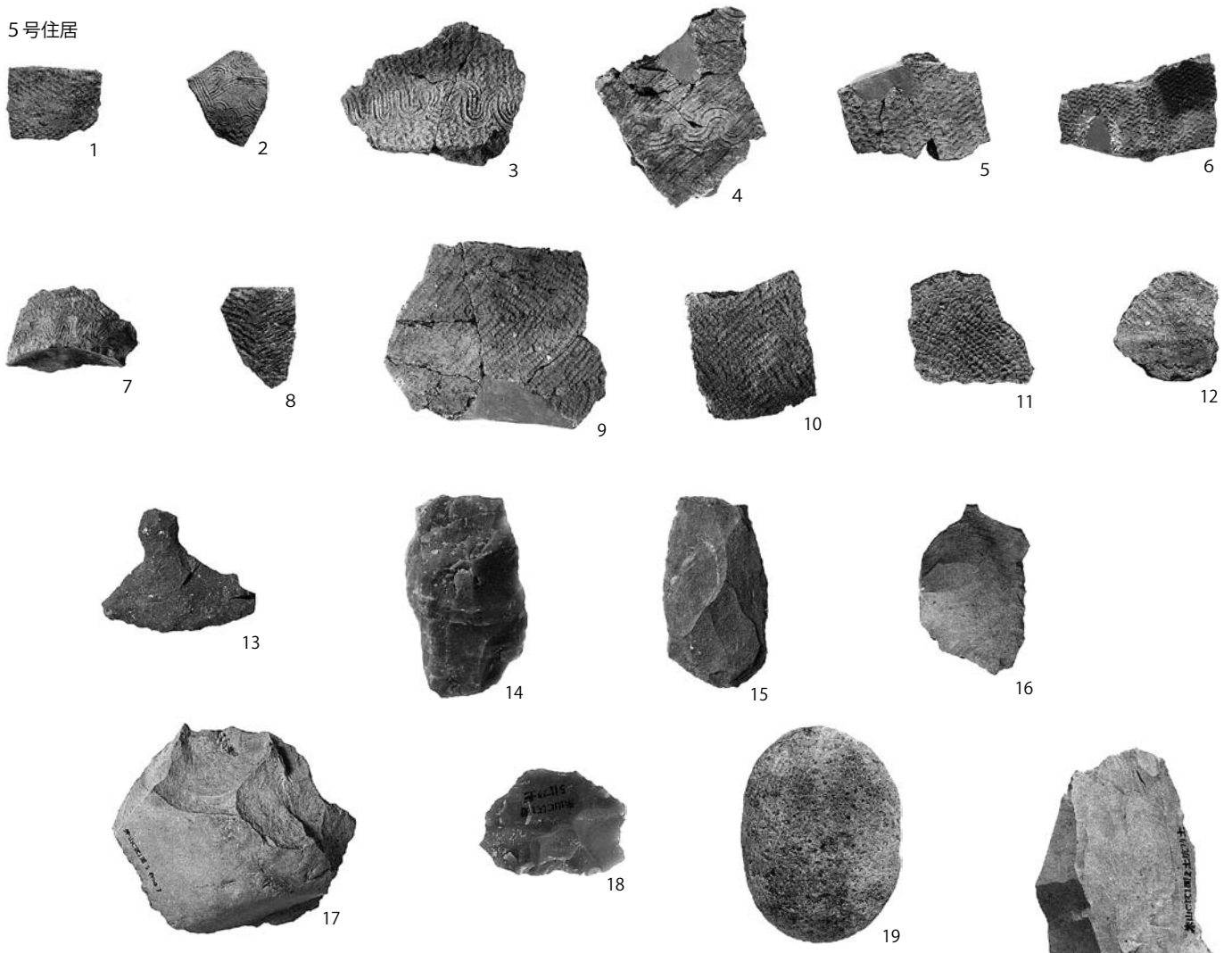
3号住居



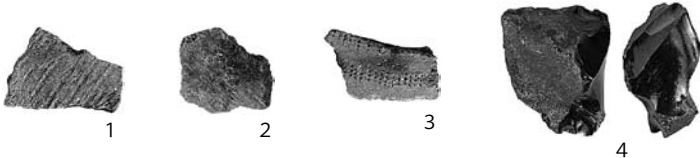
4号住居



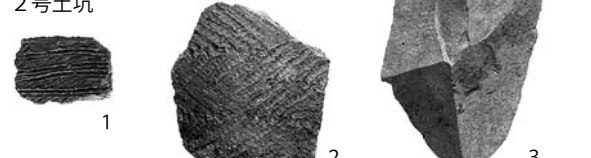
5号住居



1号土坑



2号土坑



C区の出土遺物

3号土坑



4号土坑



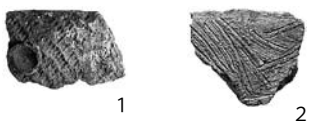
5号土坑



6号土坑



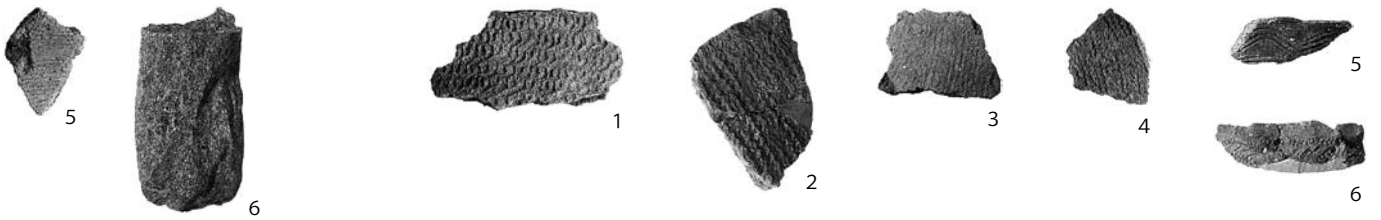
8号土坑



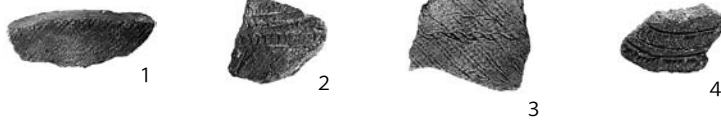
12号土坑



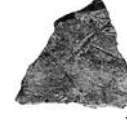
13号土坑



14号土坑

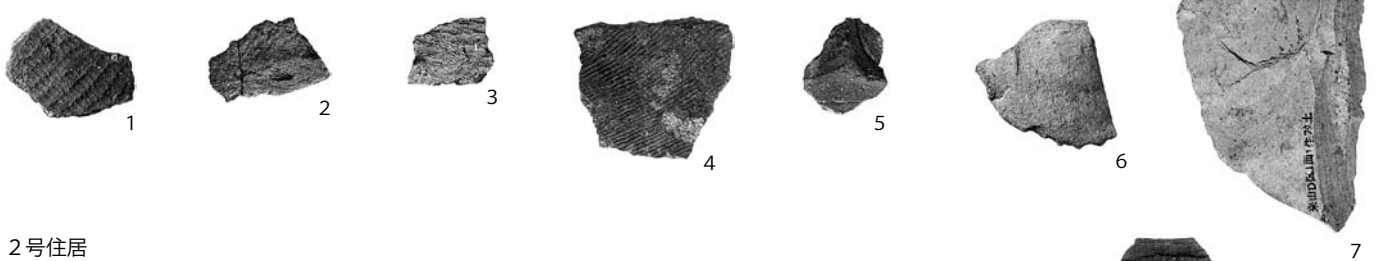


3号ピット

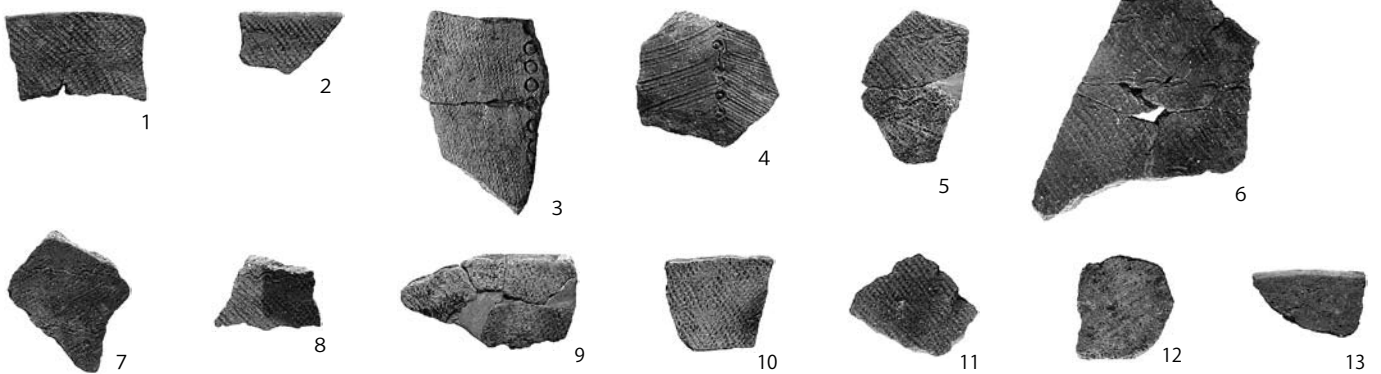


D区の出土遺物

1号住居



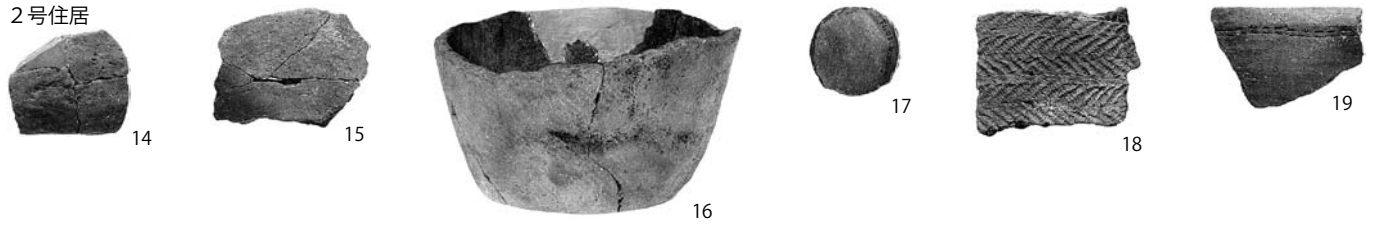
2号住居



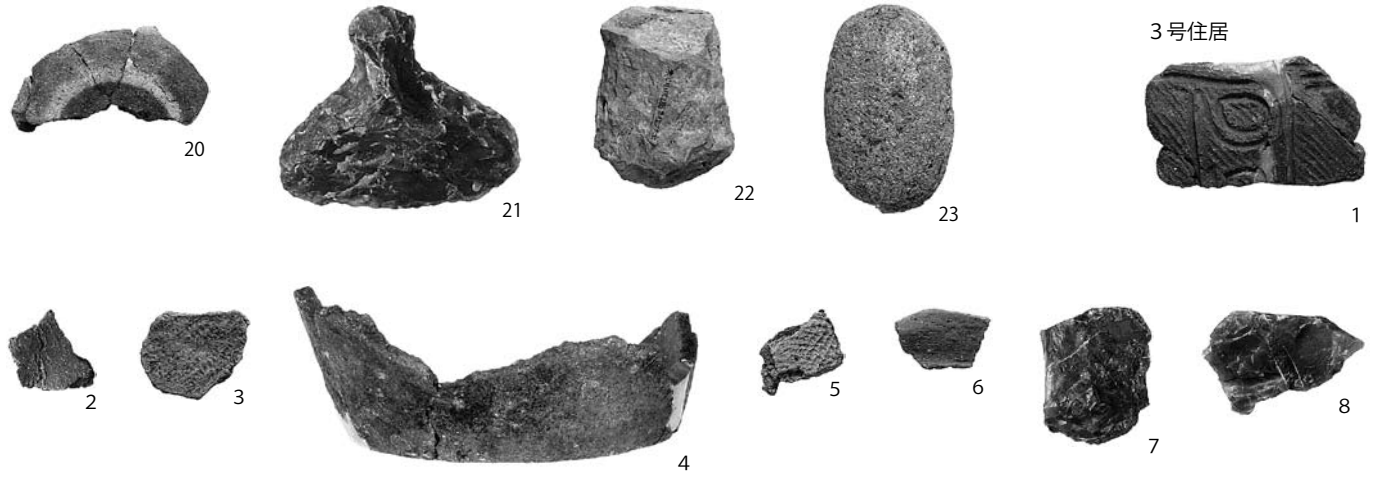
PL.38

D区の出土遺物

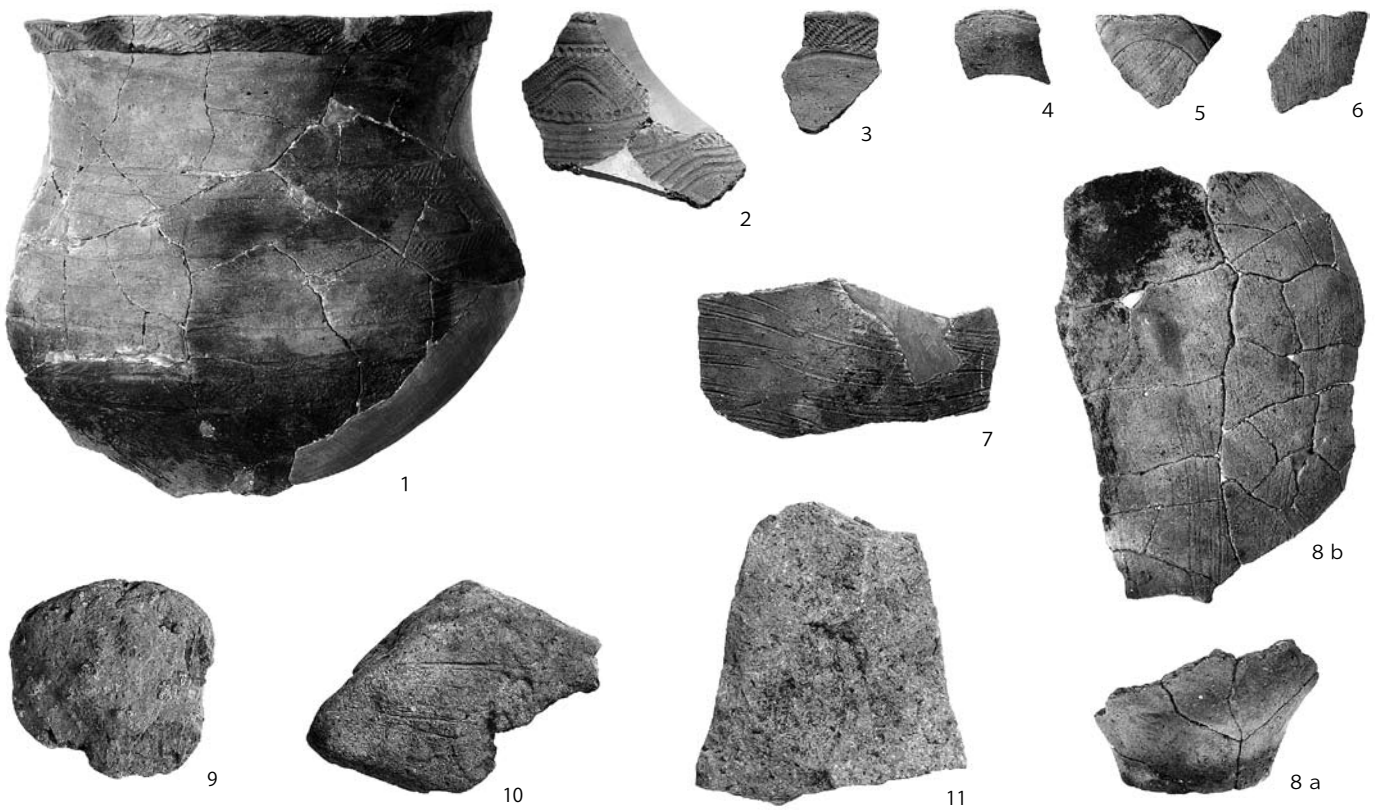
2号住居



3号住居



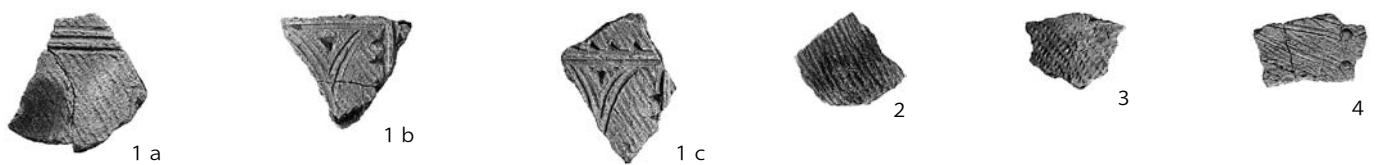
2号土坑



3号土坑

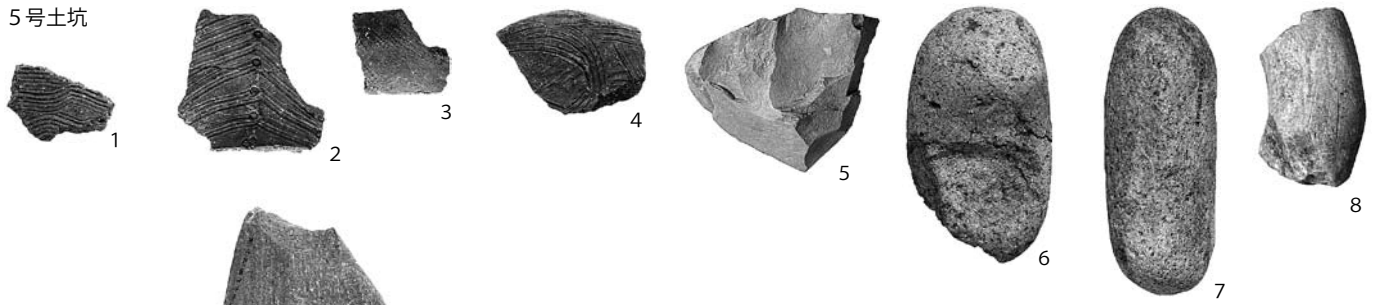


4号土坑

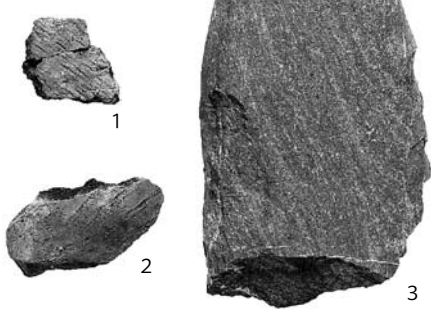


D区の出土遺物

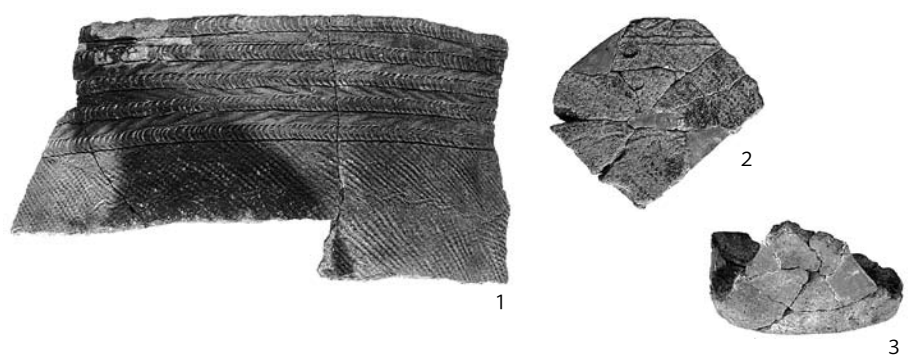
5号土坑



7号土坑



10号土坑



8号土坑



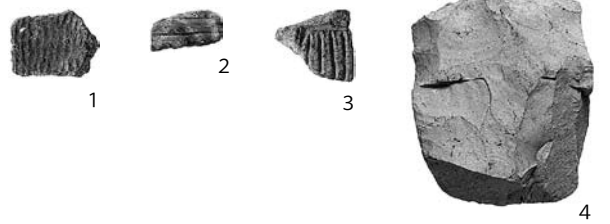
9号土坑



11号土坑



12号土坑



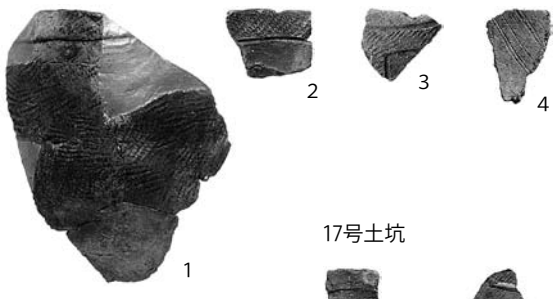
13号土坑



14号土坑



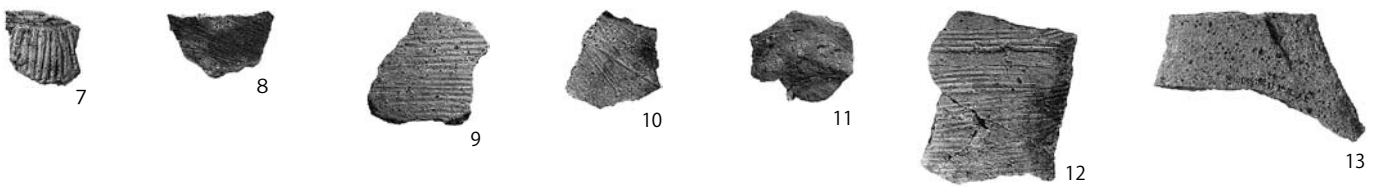
15号土坑



16号土坑



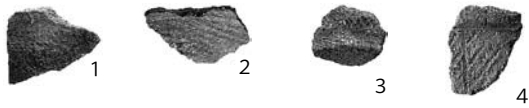
17号土坑



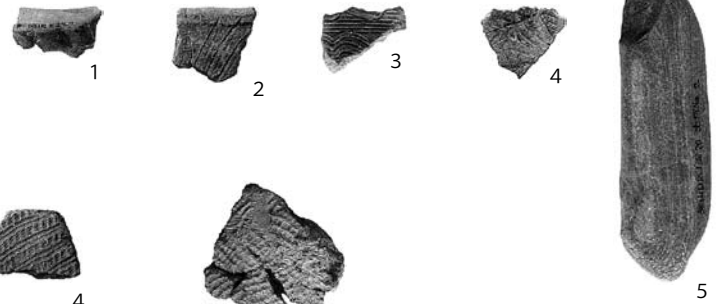
PL.40

D区の出土遺物

19号土坑



20号土坑



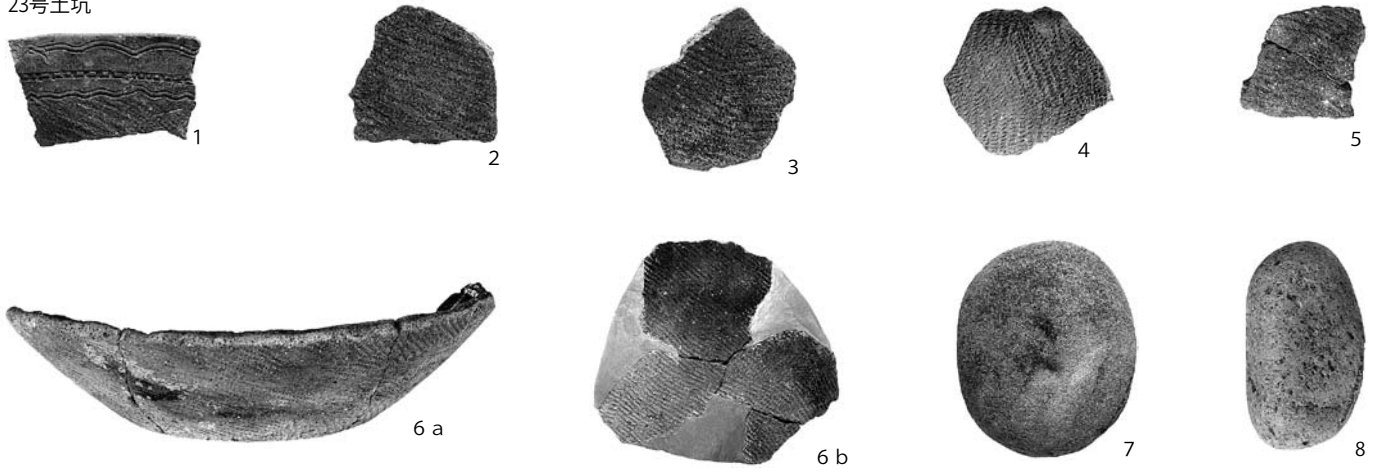
21号土坑



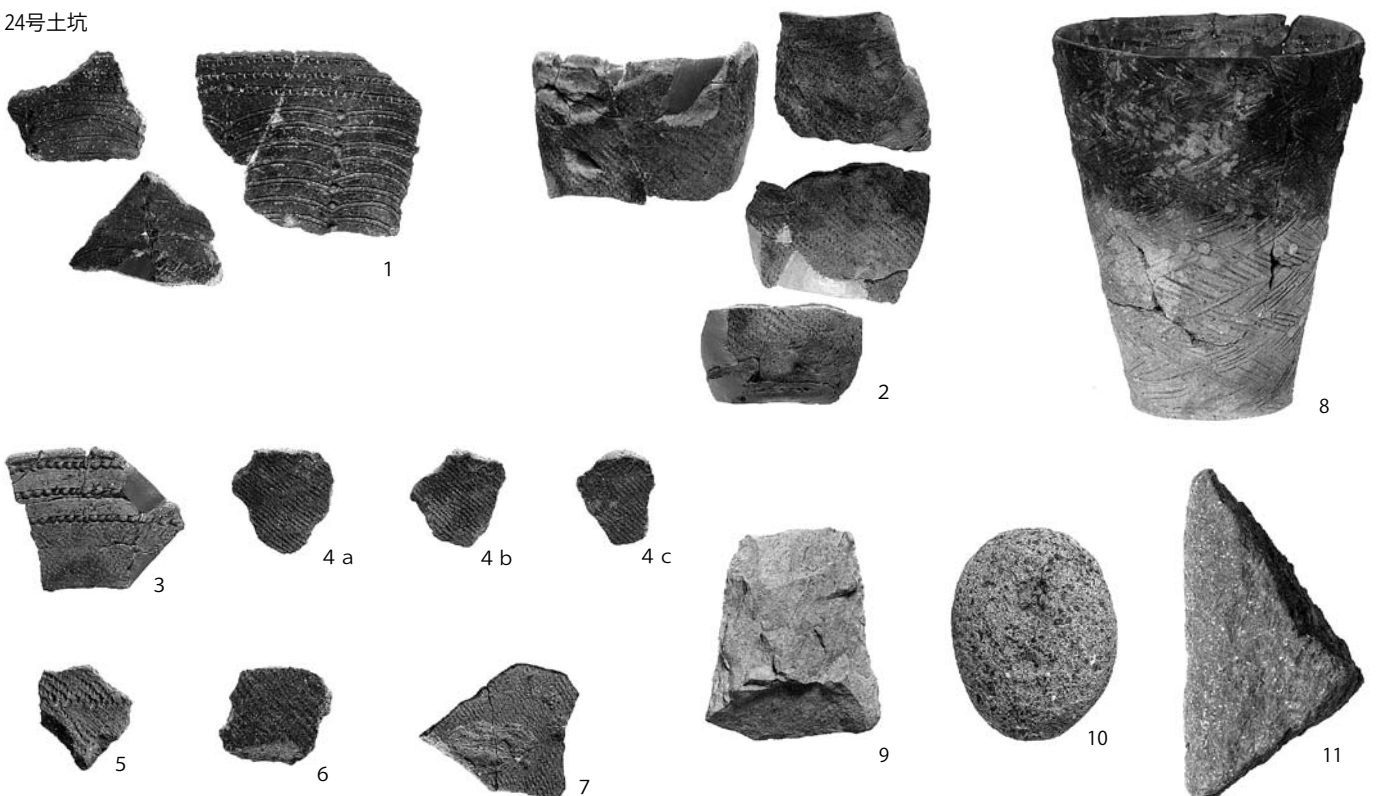
22号土坑



23号土坑



24号土坑



E区の出土遺物

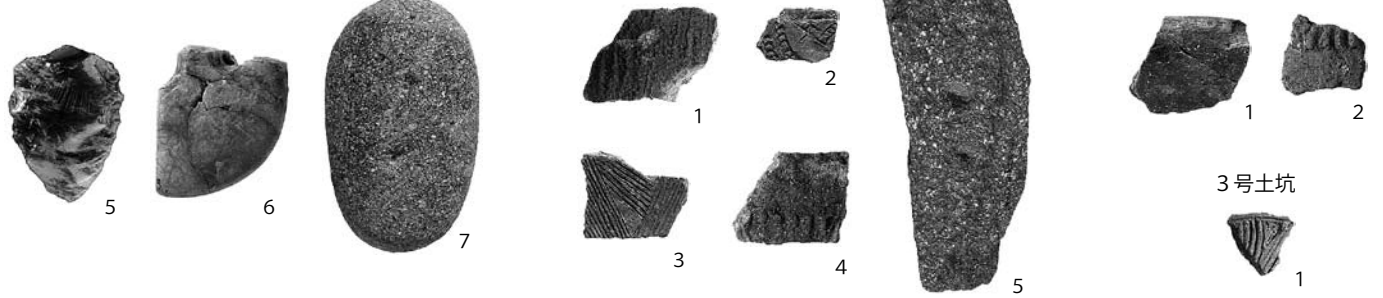
1号住居



2号住居



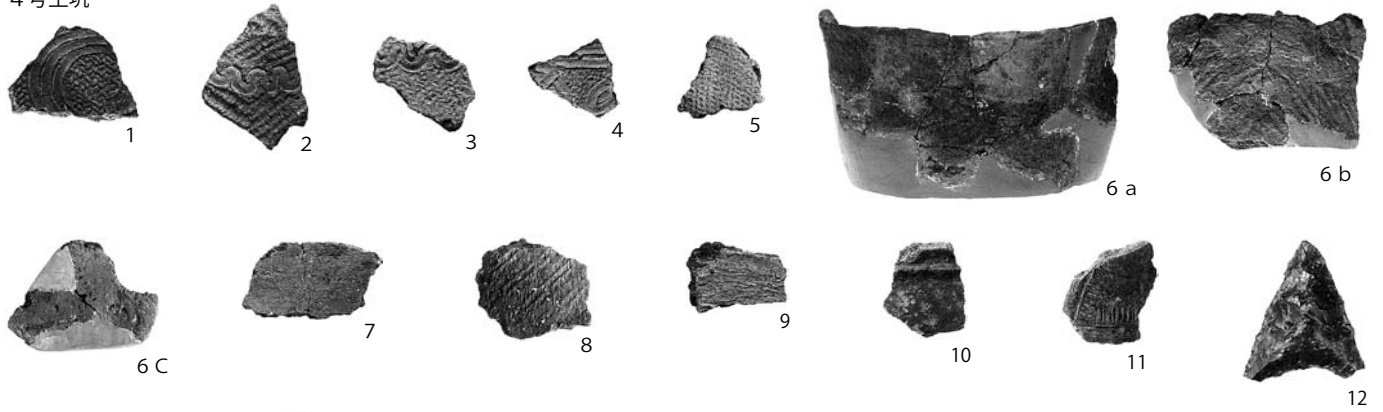
1号土坑



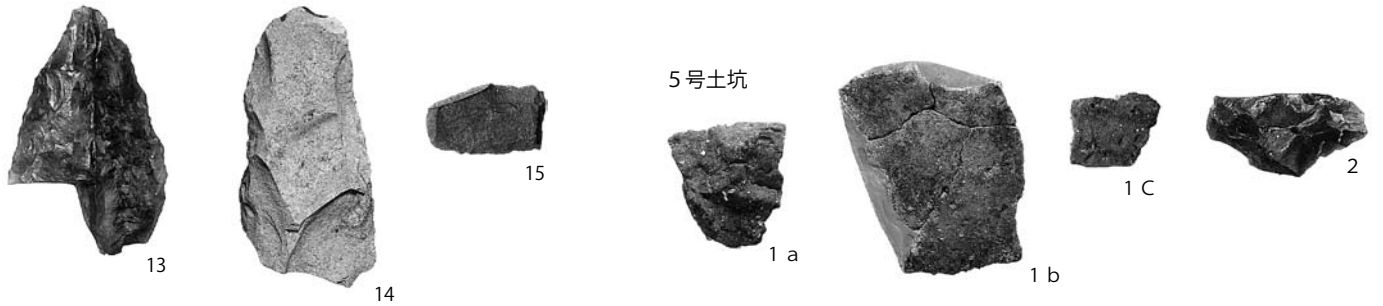
2号土坑

3号土坑

4号土坑



5号土坑



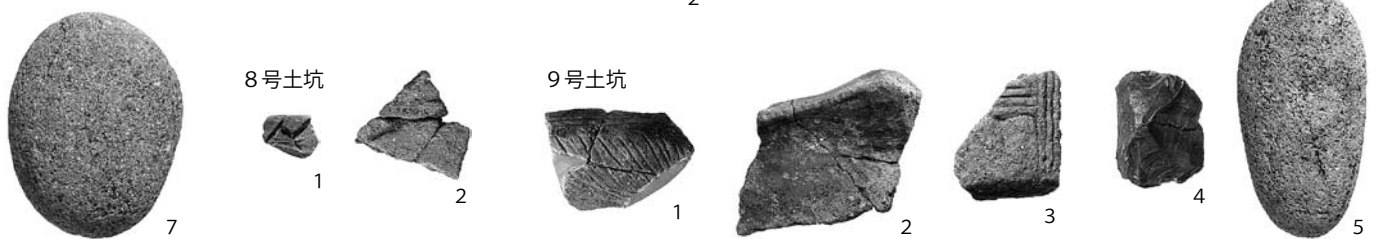
6号土坑

7号土坑



8号土坑

9号土坑



PL.42

E区の出土遺物

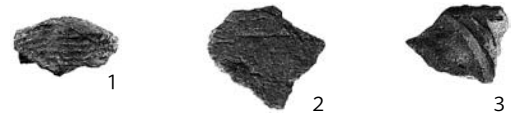
10号土坑



11号土坑



13号土坑



14号土坑



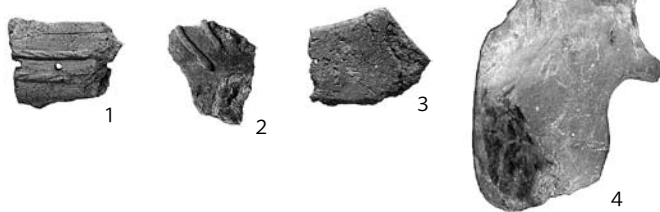
15号土坑



16号土坑



17号土坑



18号土坑



20号土坑



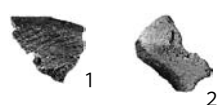
21号土坑



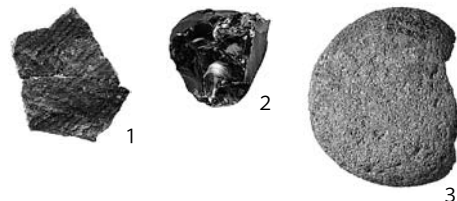
24号土坑



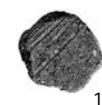
22号土坑



23号土坑



26号土坑



27号土坑

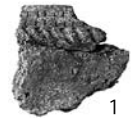


E区の出土遺物

28号土坑



29号土坑



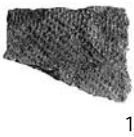
30号土坑



31号土坑



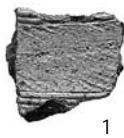
32号土坑



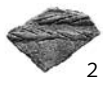
34号土坑



38号土坑



39号土坑



40号土坑



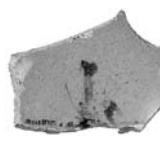
41号土坑

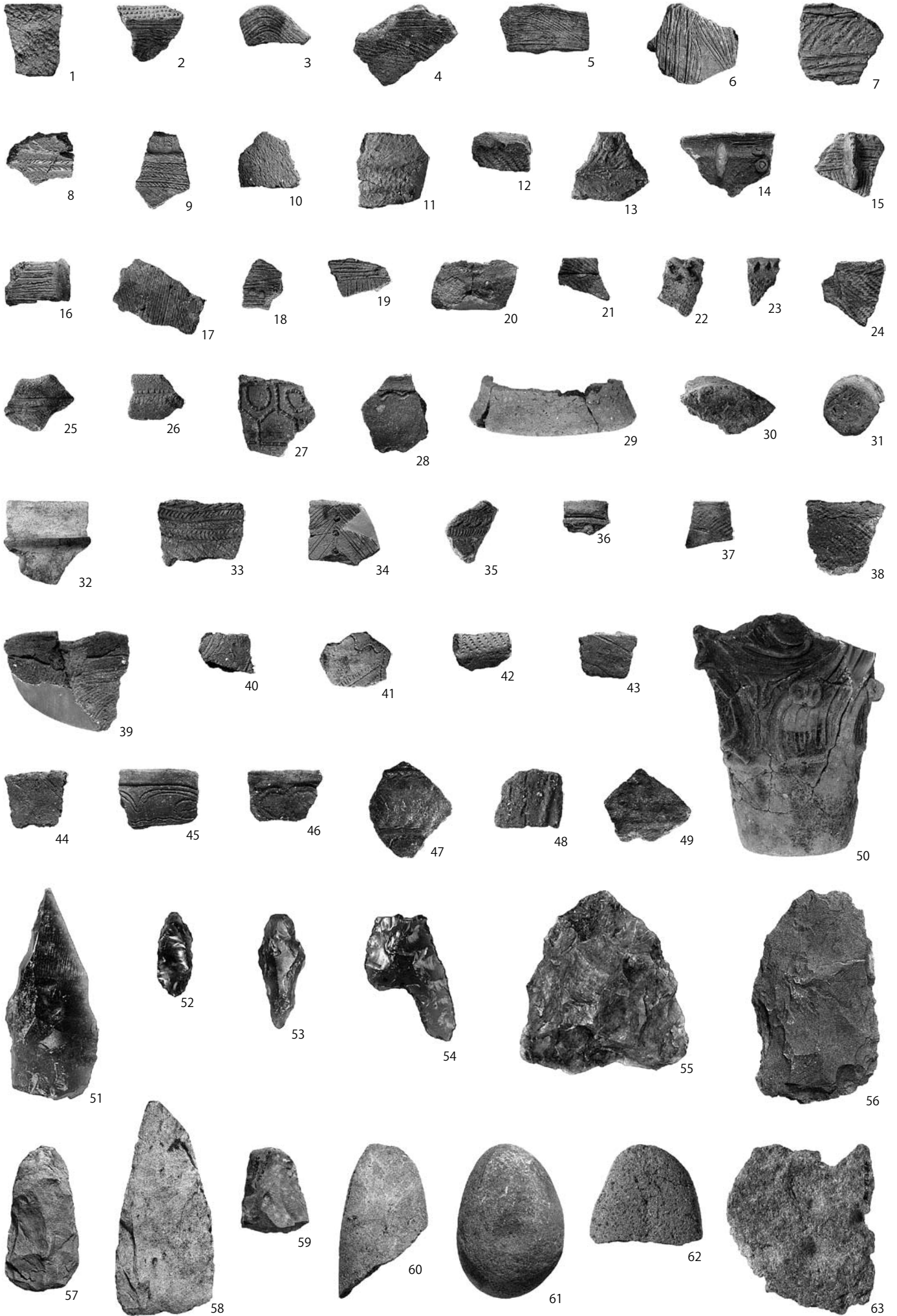


42号土坑



4号溝





財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第493集

米山遺跡 県営農免道路整備事業馬山3期に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
縄文時代集落・弥生時代土坑群の調査

平成22年3月17日 印刷
平成22年3月19日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社開文社印刷所
